

子ども・子育て支援等に関するニーズ調査報告書

令和6年3月
養 老 町

も く じ

調査の概要

1 調査の目的	2
2 調査方法、回収結果等	2
3 集計・分析にあたって	3

第1部 就学前児童保護者調査

第1 子どもと家族の状況

1 子どもの年齢と子どもの人数	6
2 小学校区	6
3 調査票の回答者	6
4 同居者	7
5 子育てを主に行っている人	7

第2 子どもの育ちをめぐる環境

1 子どもをみてくれる人はいるか	8
2 相談相手	9
(1) 子育ての相談相手はいるか／9	(2) 相談相手／10

第3 保護者の就労状況等

1 母親の就労状況	11
(1) 母親の就労状況・形態／11	(2) 母親の就労日数と就労時間数／12
(3) 母親の家を出る時刻と帰宅時刻／13	
2 父親の就労状況	14
(1) 父親の就労状況・形態／14	(2) 父親の就労日数と就労時間数／14
(3) 父親の家を出る時刻と帰宅時刻／15	
3 フルタイムへの転換希望	16
(1) 母親のフルタイムへの転換希望／16	(2) 父親のフルタイムへの転換希望／16
4 働いていない保護者の就労意向	17
(1) 働いていない保護者の就労意向／17	(2) 子どもが何歳になったら就労したいか（母親）／17
(3) 希望する就労形態・日数・時間／18	

第4 平日の定期的な教育・保育事業

1 定期的な教育・保育事業の利用の有無	19
2 利用している定期的な教育・保育事業の種類	20
3 定期的な教育・保育事業の利用状況	21
(1) 保育園／21	(2) 認定こども園／22

4	定期的な教育・保育事業の利用希望日数・時間	23
(1)	保育園／23	(2) 認定こども園／24
5	定期的な教育・保育事業を利用していない理由	25
6	利用したい定期的な教育・保育事業	26
(1)	利用したい定期的な教育・保育事業／26	(2) 幼稚園の利用を強く希望するか／27
(3)	定期的な教育・保育事業の利用状況と利用意向／27	
7	教育・保育事業を利用したい場所	28
第5 地域子育て支援事業		
1	地域子育て支援拠点事業の利用の有無	29
2	地域子育て支援拠点事業の利用回数	29
3	地域子育て支援拠点事業の利用意向	30
4	地域子育て支援拠点事業の利用希望回数	31
第6 休日の定期的な教育・保育事業の利用意向		
1	土曜日	32
2	日曜・祝日	33
3	土曜日または日曜・祝日に月に1～2回利用したい理由	34
4	1号認定で認定こども園または幼稚園の長期休暇期間中の利用	35
5	長期休暇期間中に週に数日利用したい理由	36
第7 子どもが病気の時の対応		
1	子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかったことの有無	37
2	子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかった時の対処方法	38
3	子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかった時の施設の利用意向	40
第8 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり		
1	不定期に利用している教育・保育事業	41
2	不定期の教育・保育事業の利用意向	42
(1)	不定期の教育・保育事業の利用意向／42	(2) 不定期の教育・保育事業の利用目的／43
3	短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向	44
(1)	子どもを泊まりがけで家族以外に預ける必要の有無／44	
(2)	短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用目的／45	
第9 子ども・子育て支援事業の評価等		
1	子ども・子育て支援の認知度・利用経験・利用意向・満足度	46
(1)	認知度／46	(2) 利用経験／49
(3)	利用意向／52	(4) 満足度／55
2	ファミリー・サポート・センターの認知度	58
3	改善してほしい・利用してよかったサービス	59
(1)	改善してほしいこと・利用してよかったこと／59	
(2)	改善してほしいこと・利用してよかったことの見解の件数／62	

4	養老町は子育てのしやすいまちか	63
5	子育て支援を感じたことがあるか	67
第10 子育ての状況		
1	子育てに関する不安感や負担感	69
2	子育てに関して悩んでいること	70
3	父親の1日の子育てや家事の時間	71
4	子どもへの暴力	72
	(1) 子どもに暴力をふるったことがあるか／72 (2) 子どもへの暴力の内容／73	
5	産後うつ	74
	(1) 産後うつを感じたことがあるか／74 (2) 産後うつの対処法／75	
6	仕事と子育ての両立	76
第11 育児休業制度等		
1	育児休業の取得	77
2	育児休業を取得していない理由	78
3	育児休業取得後の母親の職場復帰	80
	(1) 育児休業取得後の母親の職場復帰／80 (2) 母親の育児休業取得期間と取得希望期間／81	
	(3) 母親が希望の時期に職場復帰しなかった理由／82	
第12 暮らしの状況		
1	暮らしの状況	84
2	経済的な理由で断念したこと等があるか	85
3	幸福感	86
4	新型コロナウイルス感染症の流行の影響	87
5	重点的に取り組んでほしい子ども施策	88

第2部 小学生保護者調査

第1 子どもと家族の状況		
1	子どもの学年と子どもの人数	94
2	小学校区	94
3	調査票の回答者	94
4	同居者	95
5	子育てを主に行っている人	95
第2 子どもの育ちをめぐる環境		
1	子どもをみてる人はいるか	96
2	相談相手	97
	(1) 子育ての相談相手はいるか／97 (2) 相談相手／98	

第3 保護者の就労状況等

1	母親の就労状況	99
(1)	母親の就労状況・形態	99
(2)	母親の就労日数と就労時間数	100
(3)	母親の家を出る時刻と帰宅時刻	101
2	父親の就労状況	102
(1)	父親の就労状況・形態	102
(2)	父親の就労日数と就労時間数	102
(3)	父親の家を出る時刻と帰宅時刻	103
3	フルタイムへの転換希望	104
(1)	母親のフルタイムへの転換希望	104
(2)	父親のフルタイムへの転換希望	104
4	働いていない保護者の就労意向	105
(1)	働いていない保護者の就労意向	105
(2)	子どもが何歳になったら就労したいか（母親）	105
(3)	希望する就労形態・日数・時間	106

第4 放課後等の子どもの居場所

1	平日の放課後の過ごし方	107
(1)	1年生から3年生	107
(2)	4年生から6年生	108
2	土曜・休日の過ごし方	109
(1)	1年生から3年生	109
(2)	4年生から6年生	110

第5 留守家庭児童教室・放課後子ども教室

1	留守家庭児童教室の利用状況	111
(1)	留守家庭児童教室の利用の有無	111
(2)	留守家庭児童教室の利用日数	112
2	留守家庭児童教室の利用希望日数・時間等	112
(1)	留守家庭児童教室の利用希望日数	112
(2)	留守家庭児童教室の利用希望時間帯	113
(3)	留守家庭児童教室の利用児数と利用希望児数	115
(4)	留守家庭児童教室の利用希望学年	115
(5)	留守家庭児童教室の利用理由	116
3	放課後子ども教室	117
(1)	放課後子ども教室の利用意向	117
(2)	放課後子ども教室の利用希望日数	118

第6 子どもが病気の時の対応

1	子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無	119
2	子どもが病気等で学校を休んだ場合等の対処方法	120
3	子どもが病気等で学校を休んだ場合等の施設の利用意向	121

第7 不定期の事業や宿泊を伴う一時預かり

1	不定期に利用している事業	122
2	不定期の預かり等の事業の利用意向	123
(1)	不定期の預かり等の事業の利用意向	123
(2)	不定期の預かり等の事業の利用目的	124
3	短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向	125
(1)	子どもを泊まりがけで家族以外に預ける必要の有無	125
(2)	短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用目的	126

第8 子育て支援事業の評価等

1 ファミリー・サポート・センターの認知度	127
2 改善してほしいこと・利用してよかったこと	128
(1) 改善してほしいこと・利用してよかったこと／128	
(2) 改善してほしいこと・利用してよかったことの意見の件数／130	
3 養老町は子育てのしやすいまちか	131
4 子育て支援を感じたことがあるか	141

第9 子育ての状況

1 子育てに関する不安感や負担感	145
2 子育てに関して悩んでいること	146
3 父親の1日の子育てや家事の時間	148
4 子どもへの暴力	149
(1) 子どもに暴力をふるったことがあるか／149	
(2) 子どもへの暴力の内容／150	
5 仕事と子育ての両立	151

第10 子育ての状況

1 暮らしの状況	152
2 経済的な理由で断念したこと等があるか	153
3 幸福感	154
4 新型コロナウイルス感染症の流行の影響	155
5 重点的に取り組んでほしい子ども施策	157

第3部 若者（17・18歳）調査

第1 回答者と家族の状況

1 性別	166
2 年齢	166
3 結婚の有無	166
4 同居家族	167
5 就労・就学状況	167

第2 結婚や子どもをもつこと

1 将来希望する居住地	168
2 結婚願望	168
(1) 結婚願望／168	
(2) 結婚する理由／169	
(3) 結婚しない理由／169	
3 子どもを持ちたいか	170
(1) 子どもを持ちたいか／170	
(2) 子どもを持つことの負担／171	
4 少子高齢化についての危機感	172
5 少子化への対応として実施してほしい政策	173

第3 困りごと

1 暮らし向き	174
2 身近で困っていること	175
3 相談相手	176

第4 日常の過ごし方

1 放課後の過ごし方	177
2 情報通信機器の利用時間	177
3 インターネットの利用によるトラブル	178

第4部 意見・要望

第1 就学前児童保護者調査

1 子育て全般	180
2 保育園・幼稚園・こども園	182
3 預かりサービス	183
4 学校・教育	184
5 留守家庭児童教室	184
6 習い事	184
7 障がいのある子ども等への支援	185
8 経済的支援	185
9 医療	186
10 地域活動・行事	186
11 公園・遊び場	187
12 まちづくり	187
13 行政・役場	188
14 アンケート	188

第2 小学生保護者調査

1 子育て全般	189
2 学校・教育	193
3 留守家庭児童教室	195
4 保育園・幼稚園・こども園	196
5 その他の子育て支援事業	196
6 習い事	196
7 障がいのある子ども等への支援	197
8 多子世帯・ひとり親世帯への支援	197
9 経済的支援	198
10 地域活動・行事	199

11	公園・遊び場	202
12	まちづくり	202
13	情報提供・手続き	203
14	行政・役場	203
15	アンケート	204

第3 若者（17・18歳）調査

1	子ども・若者支援全般	205
2	学校・教育	205
3	経済的支援	205
4	就 労	206
5	まちづくり	206
6	移動・交通	207
7	情報提供	207
8	アンケート	207
9	その他	207

第5部 ま と め

1	就労している母親の増加	210
2	育児休業	210
3	子育て支援の評価	210
4	留守家庭児童教室・放課後子ども教室	211
5	公園等の野外の遊び場	211
6	児童虐待の防止	211
7	経済的支援	212
8	子ども会やPTA等の活動	212
9	広報・情報提供	212
10	少子化対策	213
11	子育てのしやすいまち	213

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、住民の子育て支援に関する状況や今後の利用希望等を把握することで、今後の子育て支援施策を進め、「第3期 養老町子ども・子育て支援事業計画」および「こども基本法」に基づく「こども計画」の策定のための基礎資料を得ることを目的とし、小学校6年生以下の児童を持つ保護者および17・18歳の住民を対象として実施しました。

就学前児童の保護者に対しては、保育サービス等の利用状況や利用意向、評価、子育てについての悩み、仕事と子育てなどについて、小学生の保護者に対しては、留守家庭児童教室の利用状況や利用意向、仕事と子育て、暮らしの状況などについて、若者（17・18歳）に対しては、結婚や子どもをもつことへの思い、困りごと、日常の過ごし方などについてお聞きしました。

2 調査方法、回収結果等

就学前児童保護者調査	調 査 対 象 者	就学前児童の保護者。ただし、就学前児童が2人以上いる世帯は1人（一番下の児童）を対象児童とした	
	調 査 方 法	就園児童は園にて配布・回収。未就園児童は郵送配布・郵送回収	
	調 査 基 準 日	令和5年12月1日	
	調 査 期 間	令和5年12月1日～12月15日	
	回 収 結 果	配布数	回収数（回収率）
569		413（72.6%）	
小学生保護者調査	調 査 対 象 者	小学生の保護者（就学前児童のいる世帯は除く）。ただし、小学生が2人以上いる世帯は1人（一番下の児童）を対象児童とした	
	調 査 方 法	小学校にて配布・回収	
	調 査 基 準 日	令和5年12月1日	
	調 査 期 間	令和5年12月1日～12月15日	
	回 収 結 果	配布数	回収数（回収率）
1,034		651（63.0%）	
若者（17・18歳）調査	調 査 対 象 者	町内在住の令和5年度に17～18歳になる若者（調査基準日時点で満17歳となっていない人を含む）	
	調 査 方 法	郵送配布・郵送回収またはWeb回答	
	調 査 基 準 日	令和5年12月1日	
	調 査 期 間	令和5年12月1日～12月22日	
	回 収 結 果	配布数	回収数（回収率）
497		159（32.0%） うちWeb回答は40（8.0%）	

（注）回収数は無効票（回答が不十分のもの）を含みます。

3 集計・分析にあたって

- ① 回答の比率は、その設問の回答数を基数（n）として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。
- ② 回答率（%）は、小数点第2位以下を四捨五入しました。したがって、単数回答の場合であっても比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ③ 就学前児童保護者調査および小学生保護者調査には、子どもの年齢・学年、保育状況、地区等について、下表の不詳数があります。そのため、全体の回答数と属性別の回答数が一致しない場合があります。

区 分	地 区	子どもの年齢・学年	子どもの人数	保育状況
就学前児童	8	5	0	5
小 学 生	9	3	3	-

- ④ 調査項目によっては、過去に行った調査と比較分析を行いました。「平成25年」とあるのは平成25年度に実施した「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」、「平成30年」とあるのは平成30年度に実施した「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」、「令和5年」とあるのは今回の調査です。

第 1 部

就学前児童保護者調査

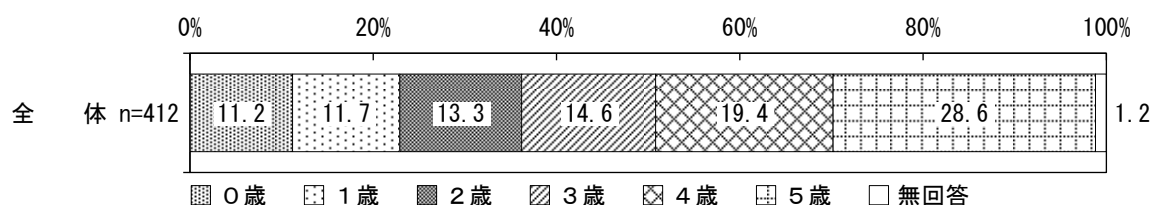
第1 子どもと家族の状況

1 子どもの年齢と子どもの人数

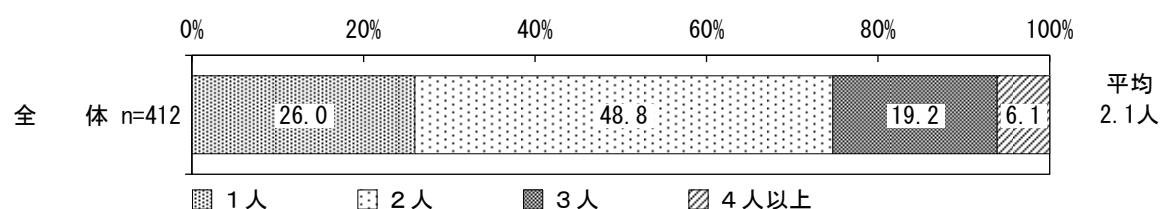
対象となった子どもの年齢は、図表1-1のとおりです。

子どもの人数は、「2人」が48.8%を占めており、平均は2.1人です（図表1-2）。

図表1-1 子どもの年齢



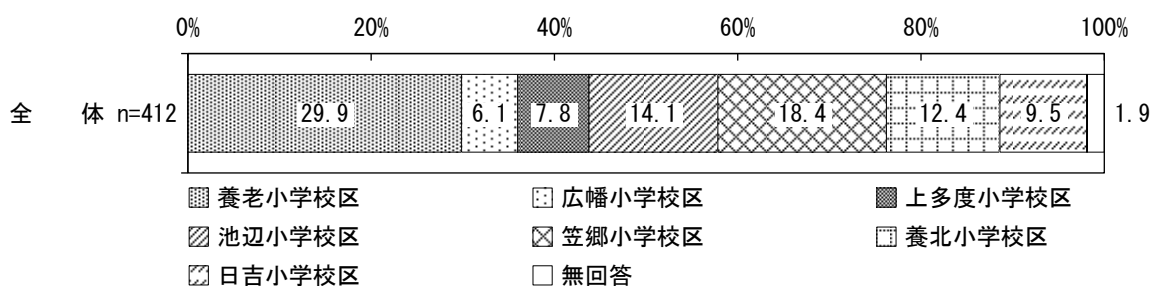
図表1-2 子どもの人数



2 小学校区

小学校区は、「養老小学校区」(29.9%)が多く、「広幡小学校区」(6.1%)が少なくなっています。

図表1-3 小学校区

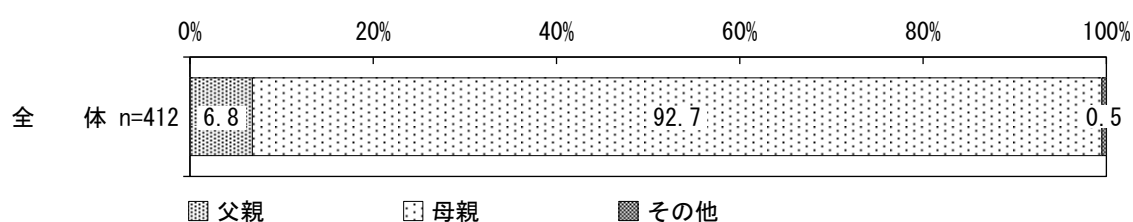


3 調査票の回答者

調査票の回答者は、「母親」が92.7%を占めています。

「その他」として「祖母」(2件)という記載がありました。

図表1-4 回答者

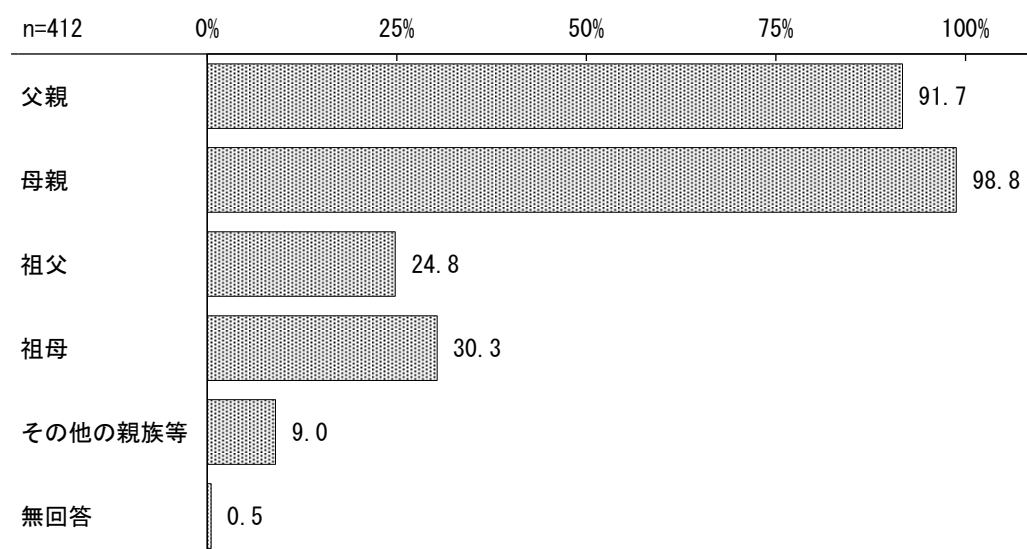


4 同居者

同居者は、「母親」（98.8％）および「父親」（91.7％）が非常に高い率となっています。

「その他」として、「曾祖母」（9件）、「おば」（7件）、「曾祖父」「おじ」（各5件）、「いとこ」という記載がありました。

図表 1－5 同居者（複数回答）

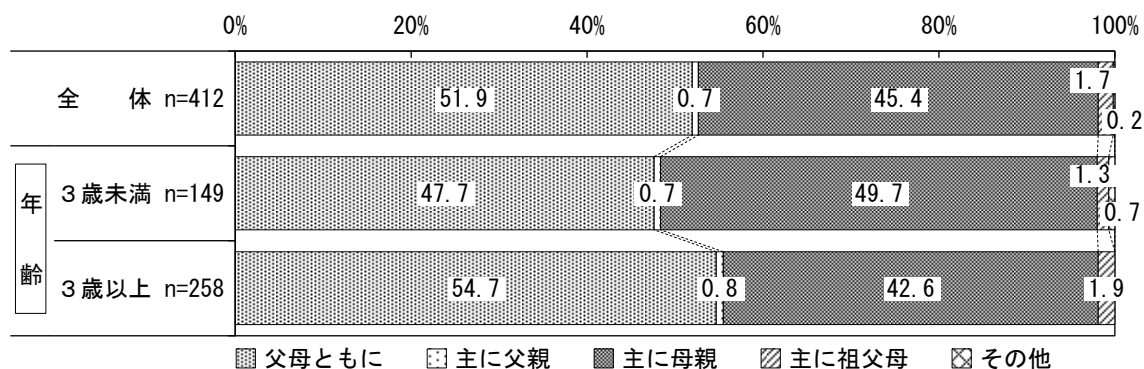


5 子育てを主に行っている人

子育て（教育を含む）を主に行っているのは、「父母ともに」（51.9％）と「主に母親」（45.4％）で97.3％を占めています。3歳未満は「主に母親」が「父母ともに」を上回っている一方、3歳以上は「父母ともに」が「主に母親」を上回っています。

「その他」として、「近所の方」という記載がありました。

図表 1－6 子育てを主に行っている人



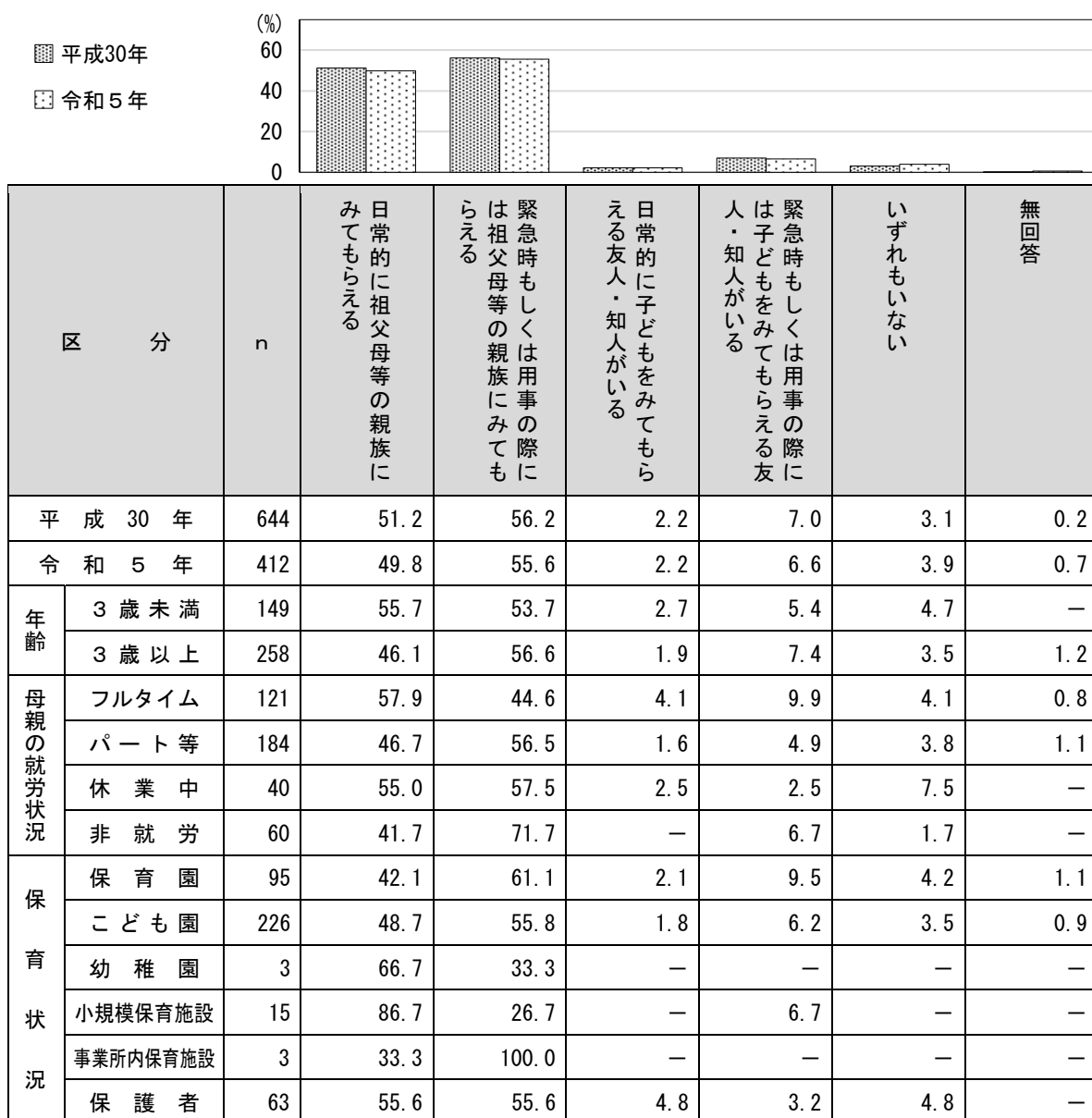
第2 子どもの育ちをめぐる環境

1 子どもをみてくれる人はいるか

日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人がいるかたずねたところ、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が55.6%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が49.8%となっています。「いずれもない」は3.9%（16人）です。平成30年と比べると、「いずれもない」が0.8ポイントとやや上昇しています。

図表1-7 子どもをみてくれる人はいるか（複数回答）

単位：nは人、他は%



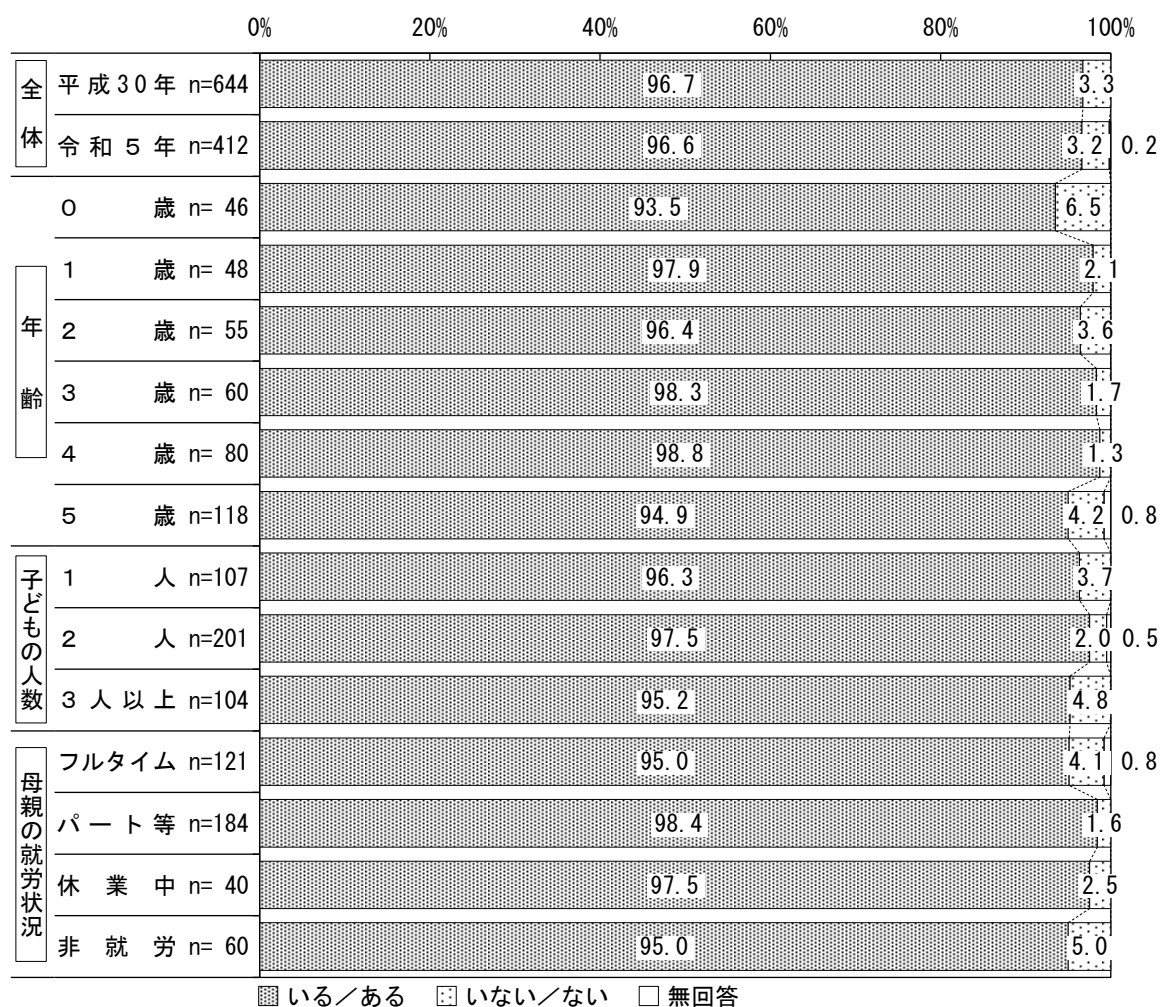
2 相談相手

(1) 子育ての相談相手はいるか

子育ての相談を気軽にできる相手がいるかたずねたところ、「いる／ある」が96.6%を占め、「いない／ない」が3.2%（13人）となっています。平成30年と比べて大きな変化はありません。

「いない／ない」が比較的高いのは、年齢別では0歳、子どもの人数別では3人以上、母親の就労状況別では非就労です。

図表 1－8 子育ての相談相手の有無

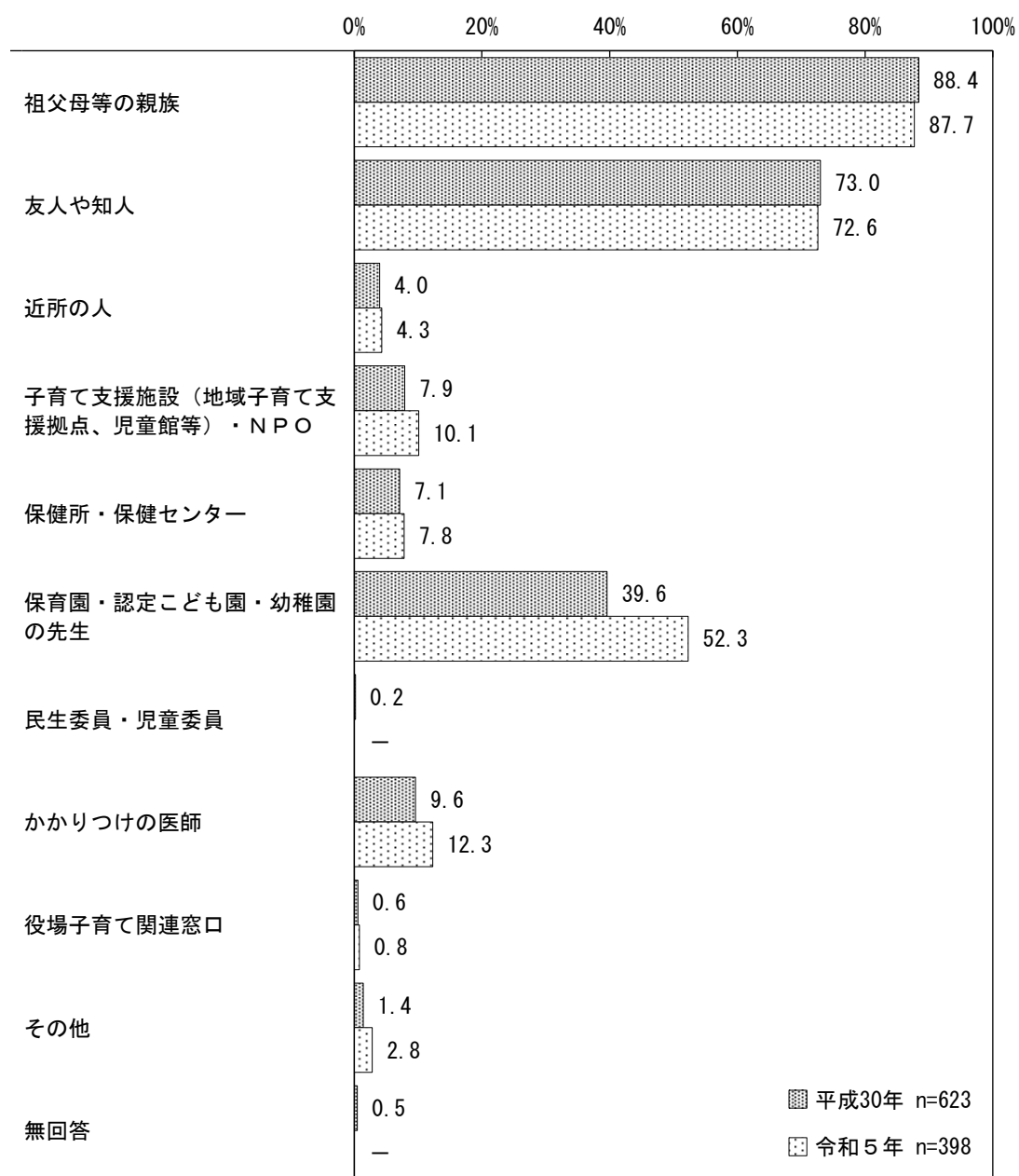


(2) 相談相手

前問で子育てに関する相談相手が「いる／ある」と答えた人の相談相手は、「祖父母等の親族」が87.7%と最も高く、次いで「友人や知人」が72.6%、「保育園・認定こども園・幼稚園の先生」が52.3%などとなっています。平成30年と比べると、「保育園・認定こども園・幼稚園の先生」が12.7ポイントと大幅に上昇しています。

「その他」として、「そよかぜ教室の先生」「療育施設」という記載がありました。

図表 1－9 子育てに関する相談相手（複数回答）



第3 保護者の就労状況等

1 母親の就労状況

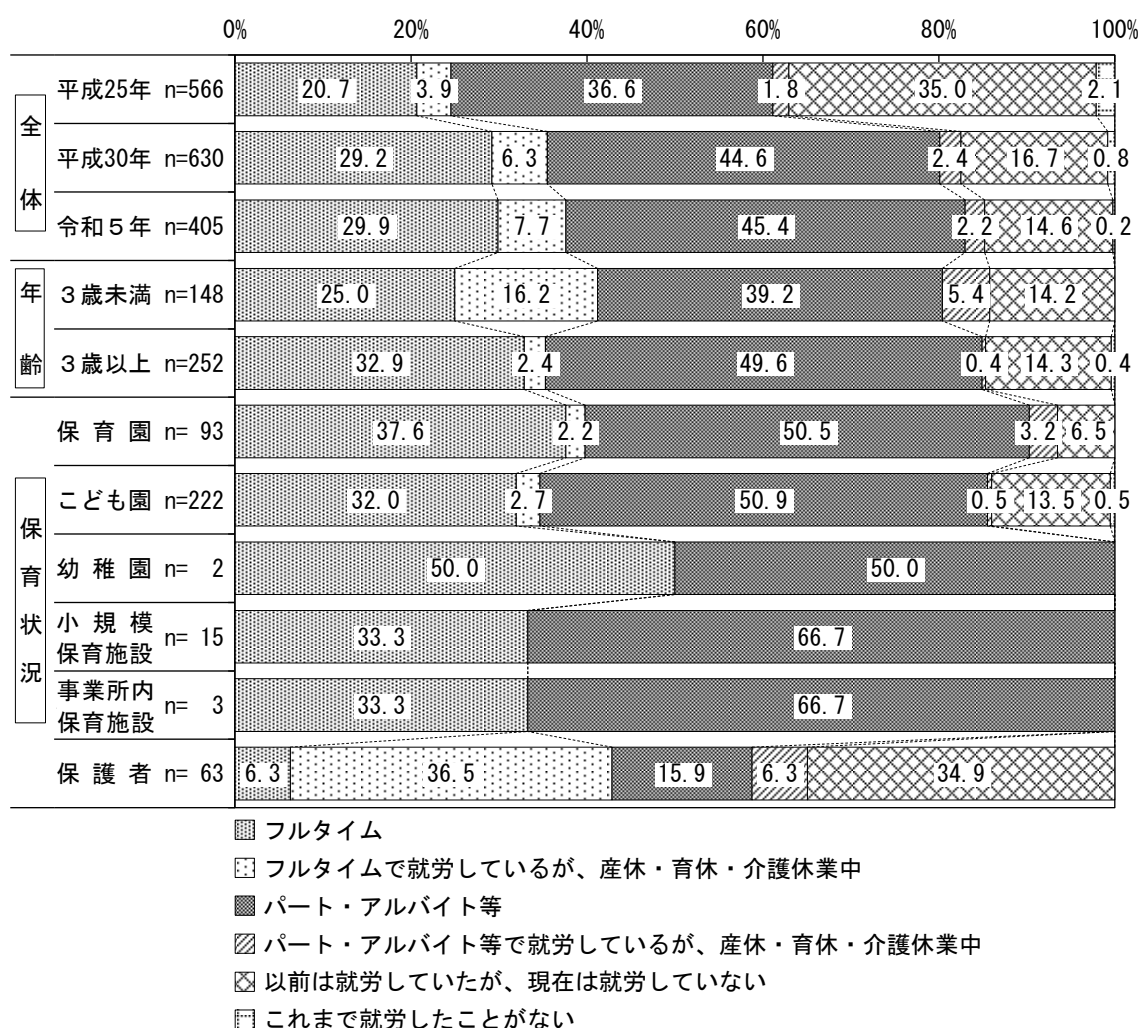
(1) 母親の就労状況・形態

母親の就労状況は、「パート・アルバイト等」が45.4%と最も高く、次いで「フルタイム」が29.9%などとなっています。産休・育休・介護休業中は、フルタイムとパート・アルバイト等を合わせると9.9%になります。平成25年および平成30年と比べると、フルタイム、パート・アルバイト等および産休・育休・介護休業中は高くなっています。

子どもの年齢別にみると、3歳未満は「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中」「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中」が高くなっています。

保育状況別にみると、保育サービス等を利用していない保護者は「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中」（36.5%）および「以前は就労していたが、現在は就労していない」（34.9%）が高くなっています。

図表 1-10 母親の就労状況・形態



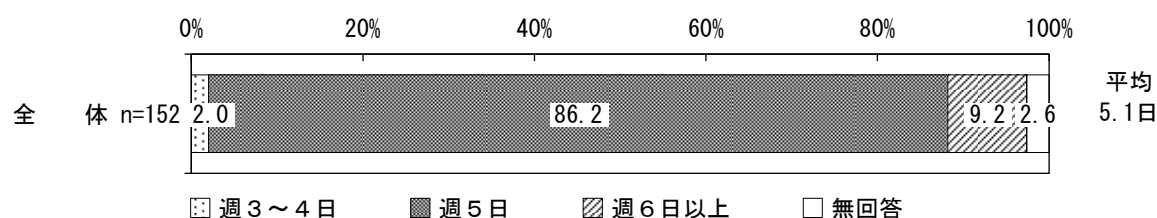
(2) 母親の就労日数と就労時間数

図表 1－11および図表 1－12は、前問で就労していると答えた人に、1週当たりの就労日数および1日当たりの就労時間数（産休・育休・介護休業中の人は休業に入る前の状況）をたずねた結果です。フルタイムは、1週当たりの平均就労日数が5.1日、1日当たりの平均就労時間数が8.0時間です。

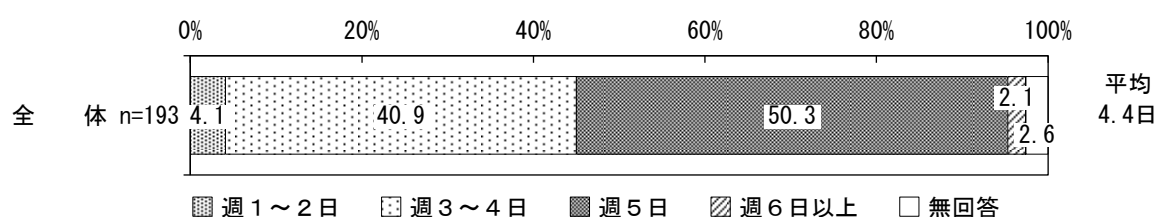
パート・アルバイト等は、1週当たりの平均就労日数が4.4日、1日当たりの平均就労時間数が5.4時間となっています。

図表 1－11 母親の就労日数

【フルタイム（休業中を含む）】

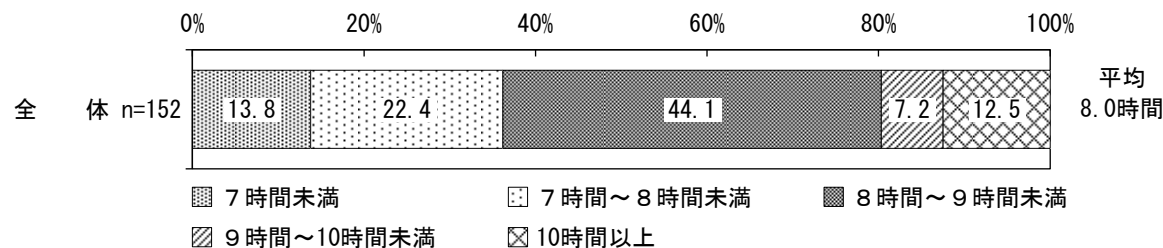


【パート・アルバイト等（休業中を含む）】

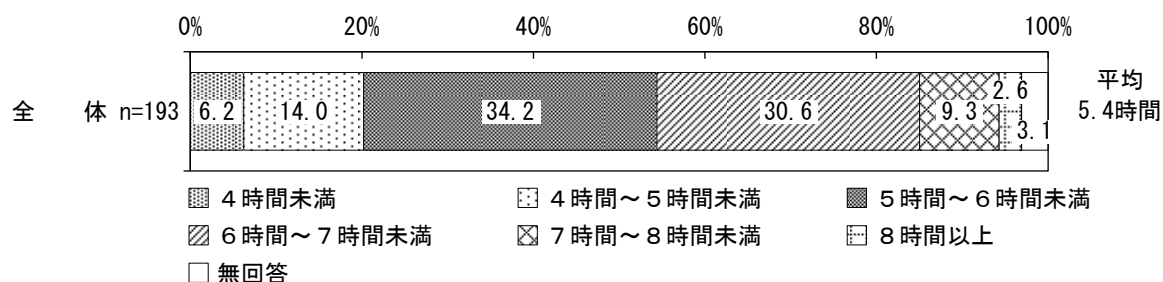


図表 1－12 母親の就労時間数

【フルタイム（休業中を含む）】



【パート・アルバイト等（休業中を含む）】



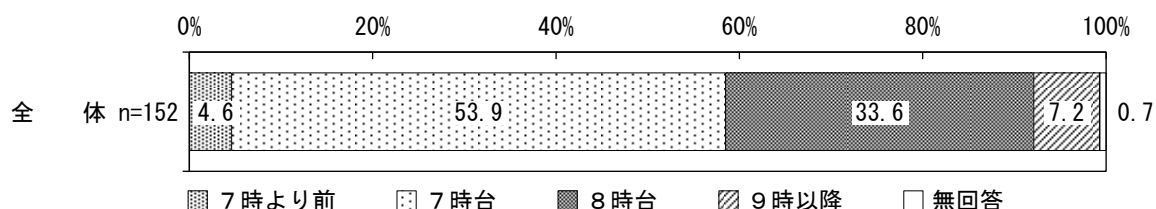
(3) 母親の家を出る時刻と帰宅時刻

図表 1－13、図表 1－14は、図表 1－10で就労していると答えた人に、家を出る時刻と帰宅時刻（産休・育休・介護休業中の人は休業に入る前の状況）をたずねた結果です。フルタイムは、家を出る時刻が「7時台」（53.9%）と「8時台」（33.6%）で大半を占めており、帰宅時刻は「18時台」（42.1%）が最も高く、18時以降に帰宅する割合が過半数を占めます。

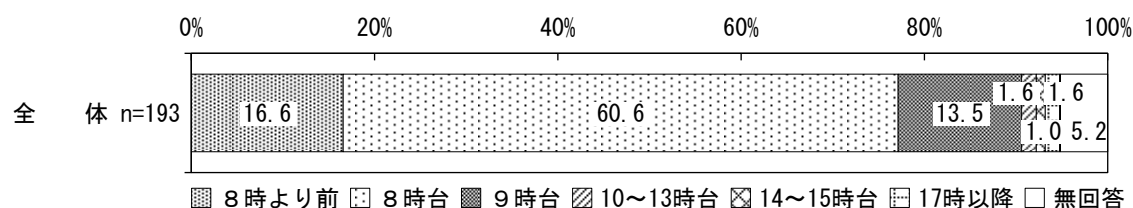
パート・アルバイト等が高いのは、家を出る時刻が「8時台」（60.6%）、帰宅時刻が「15時台」（28.0%）と「16時台」（23.8%）です。

図表 1－13 母親の家を出る時刻

【フルタイム（休業中を含む）】

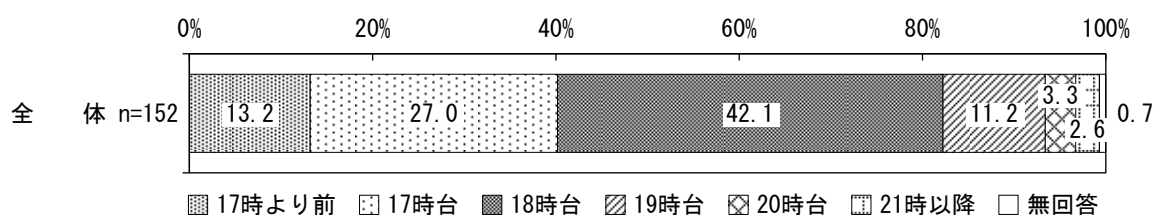


【パート・アルバイト等（休業中を含む）】

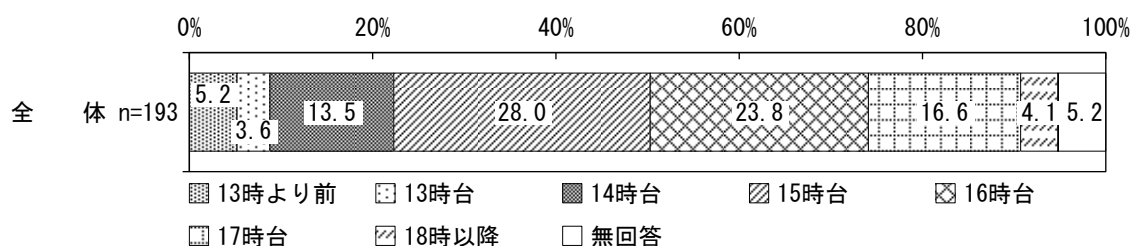


図表 1－14 母親の帰宅時刻

【フルタイム（休業中を含む）】



【パート・アルバイト等（休業中を含む）】

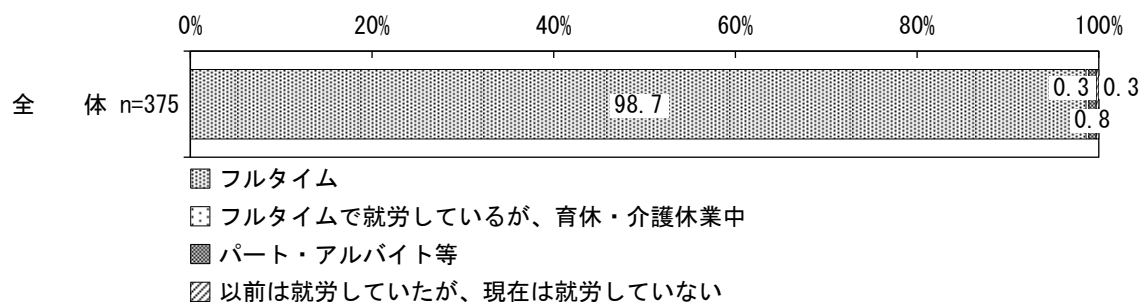


2 父親の就労状況

(1) 父親の就労状況・形態

父親は、「フルタイム」が98.7%を占め、「パート・アルバイト等」が0.8%（3人）、「フルタイムで就労しているが、育休・介護休業中」および「以前は就労していたが、現在は就労していない」がそれぞれ0.3%（1人）となっています。

図表 1-15 父親の就労状況・形態



(注)「パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中」「これまで就労したことがない」という選択肢には該当がなかった。

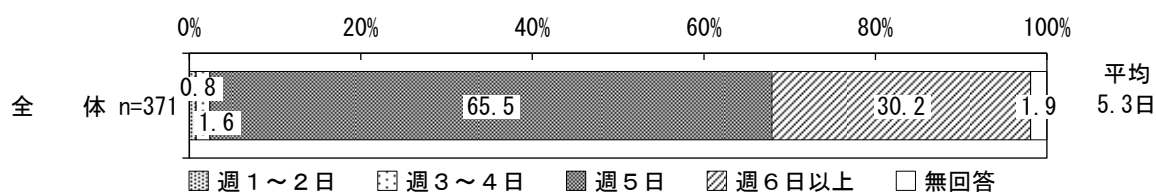
(2) 父親の就労日数と就労時間数

図表 1-16、図表 1-17は、前問で就労していると答えた人に、1週当たりの就労日数および1日当たりの就労時間数をたずねた結果です。フルタイムで働いている父親の1週当たりの平均就労日数は5.3日、1日当たりの平均就労時間数は9.7時間です。

パート・アルバイト等で働いている父親の就労日数は、「週3日」「週4日」および無回答がそれぞれ1人、1週当たりの平均就労日数は3.5日です。就労時間数は、「8時間」「9時間」および無回答がそれぞれ1人、1日当たりの平均就労時間数は8.5時間です。

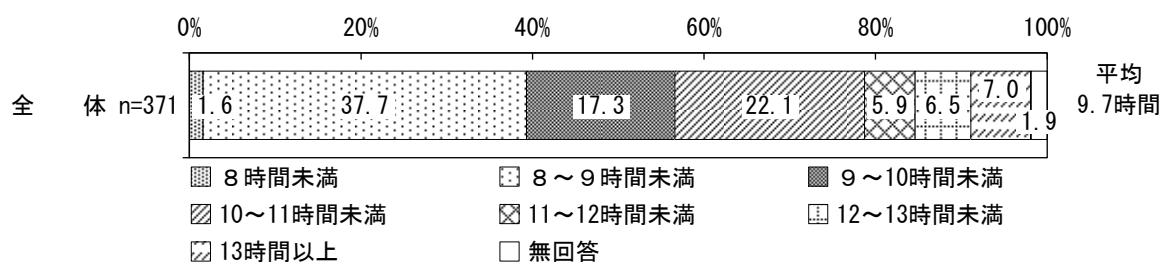
図表 1-16 父親の就労日数

【フルタイム（休業中を含む）】



図表 1-17 父親の就労時間数

【フルタイム（休業中を含む）】



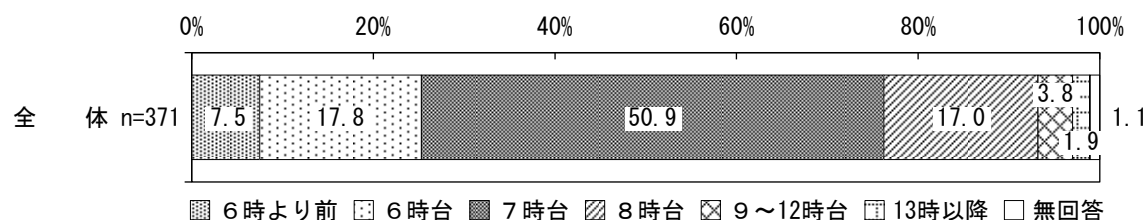
(3) 父親の家を出る時刻と帰宅時刻

図表 1－18、図表 1－19は、図表 1－15で就労していると答えた人に、家を出る時刻と帰宅時刻をたずねた結果です。フルタイムで働いている父親の家を出る時刻は、「7 時台」(50.9%) が最も高く、8 時より前に家を出るのが76.2%となっています。帰宅時刻は「18 時台」(24.8%) が最も高く、18 時以降に帰宅するのが78.7%となっています。

パート・アルバイト等で働いている父親の家を出る時刻は、「7 時台」「8 時台」および無回答がそれぞれ 1 人となっています。帰宅時刻は「17 時台」「18 時台」および無回答がそれぞれ 1 人となっています。

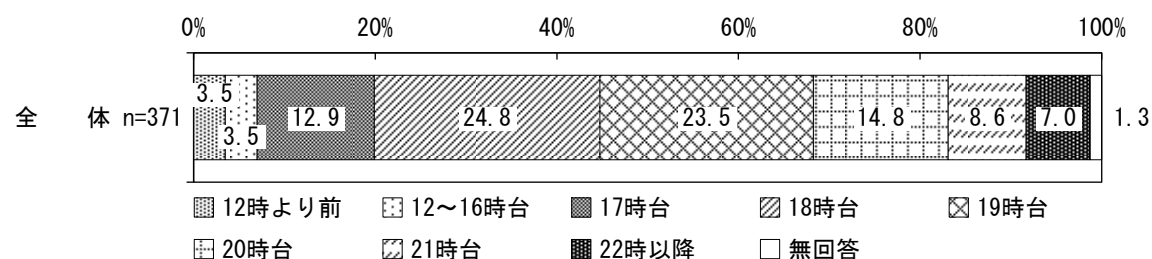
図表 1－18 父親の家を出る時刻

【フルタイム（休業中を含む）】



図表 1－19 父親の帰宅時刻

【フルタイム（休業中を含む）】



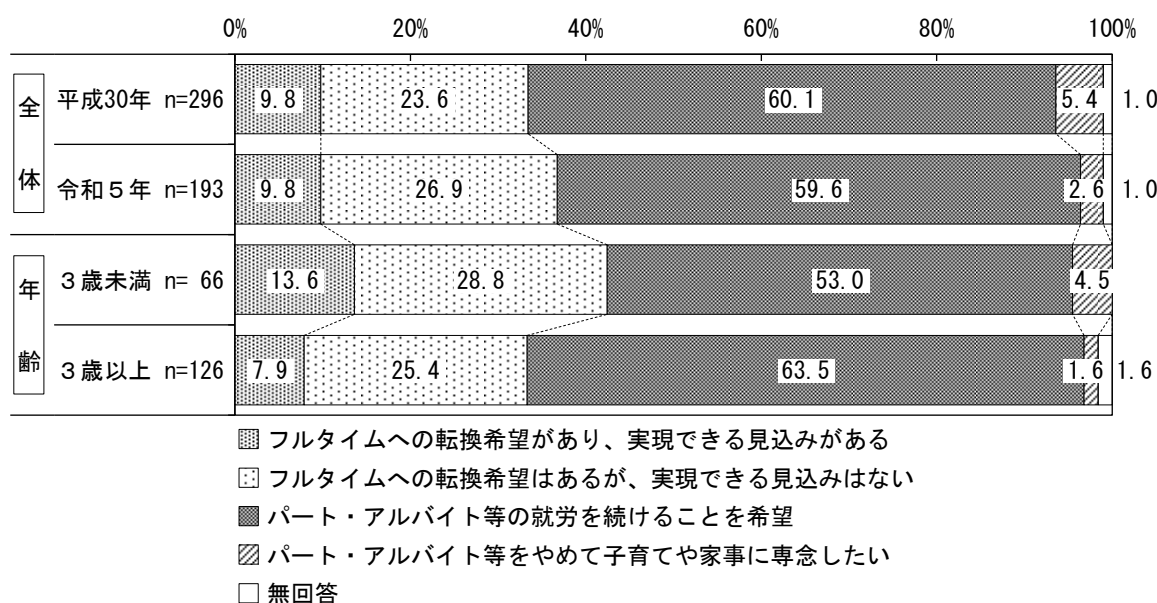
3 フルタイムへの転換希望

(1) 母親のフルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等と答えた母親のフルタイムへの転換希望をたずねたところ、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」を合計した＜転換希望がある＞は36.7%です。平成30年と比べると、＜転換希望がある＞は3.3ポイント高くなっています。

子どもの年齢別にみると、3歳未満は＜転換希望がある＞が、3歳以上は「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が高くなっています。

図表 1-20 母親のフルタイムへの転換希望



(2) 父親のフルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等と答えた父親のフルタイムへの転換希望をたずねたところ、3人のうち2人が「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」、1人が「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」と回答しています。

4 働いていない保護者の就労意向

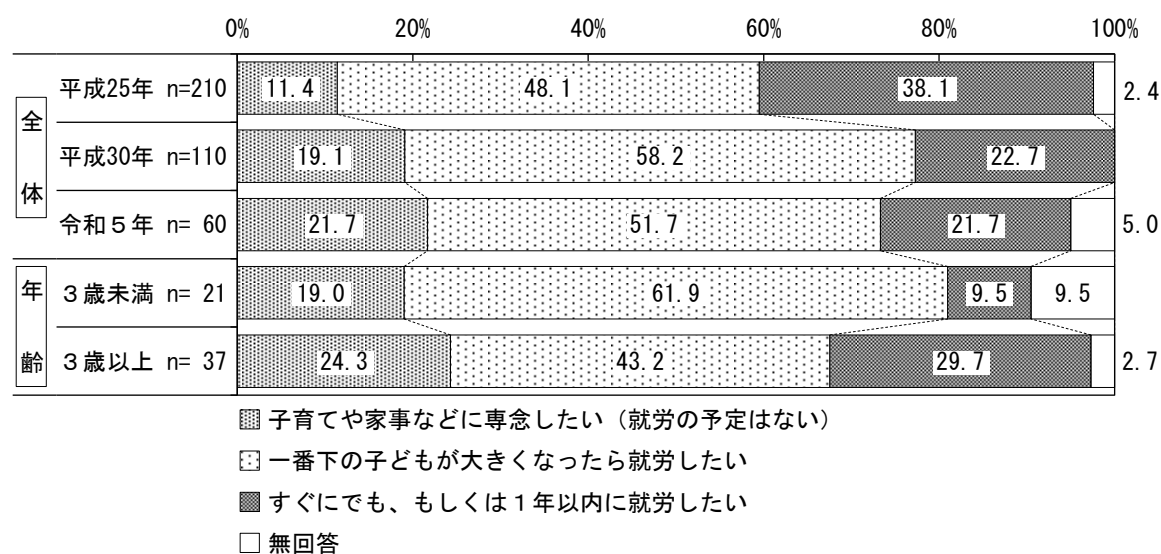
(1) 働いていない保護者の就労意向

現在、仕事をしていない母親の就労意向は、「一番下の子どもが大きくなったら就労したい」が51.7%と最も高く、次いで「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」および「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が21.7%となっています。平成25年および平成30年と比べると、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が高くなり続けています。

子どもの年齢別にみると、3歳以上は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が29.7%と高くなっています。

また、働いていない父親（1人）は、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」と回答しています。

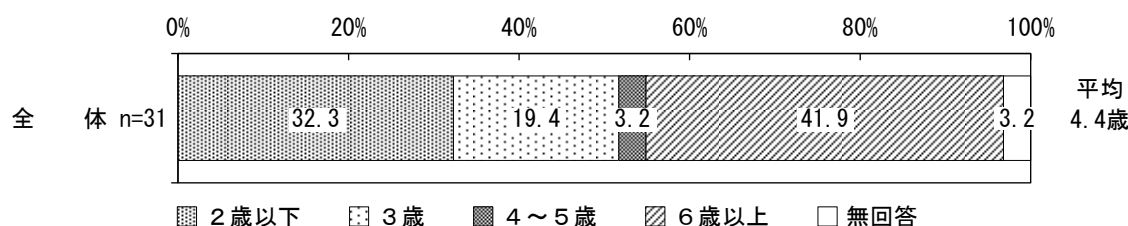
図表 1-21 働いていない母親の就労意向



(2) 子どもが何歳になったら就労したいか（母親）

図表 1-21で「一番下の子どもが大きくなったら就労したい」と答えた母親に、子どもが何歳になったら就労したいかたずねたところ、「6歳以上」が41.9%と最も高く、次いで「2歳以下」が32.3%となっており、平均は4.4歳です。

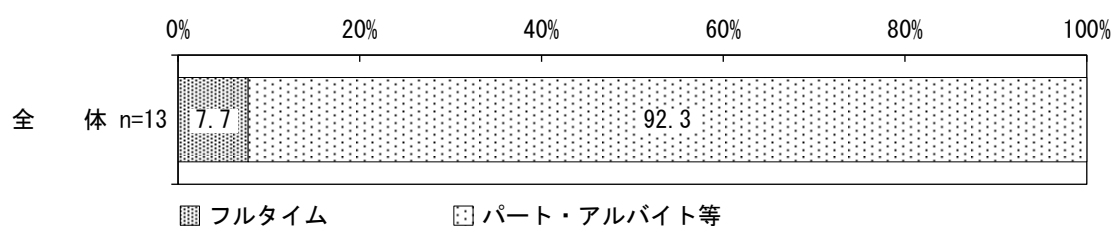
図表 1-22 子どもが何歳になったら就労したいか（母親）



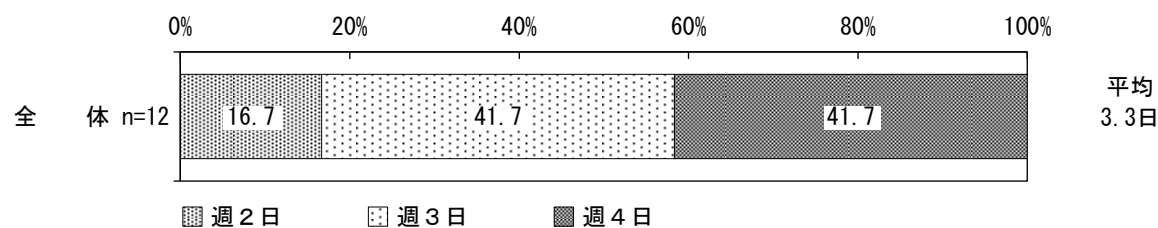
(3) 希望する就労形態・日数・時間

図表 1-21で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えた母親の希望する就労形態は、92.3%が「パート・アルバイト等」です（図表 1-23）。また、パート・アルバイト等と答えた人の1週当たりの就労希望日数は、「週3日」「週4日」がそれぞれ41.7%を占めており、1週当たりの平均就労希望日数は3.3日です（図表 1-24）。1日当たりの就労希望時間は、「3～5時間未満」が41.7%と最も高く、1日当たりの平均就労希望時間は4.9時間です（図表 1-25）。

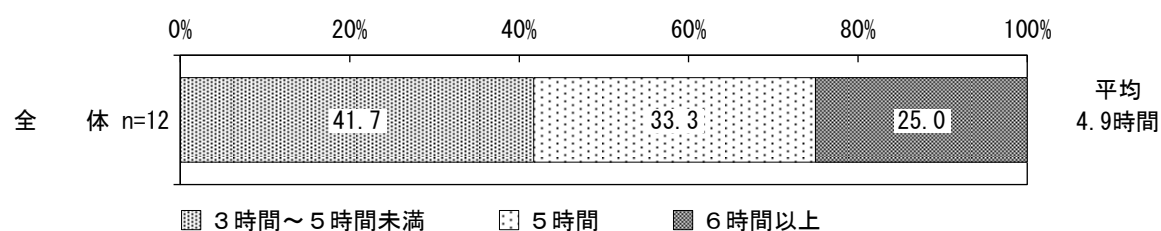
図表 1-23 希望する就労形態



図表 1-24 パート・アルバイト等の就労希望日数



図表 1-25 パート・アルバイト等の就労希望時間



第4 平日の定期的な教育・保育事業

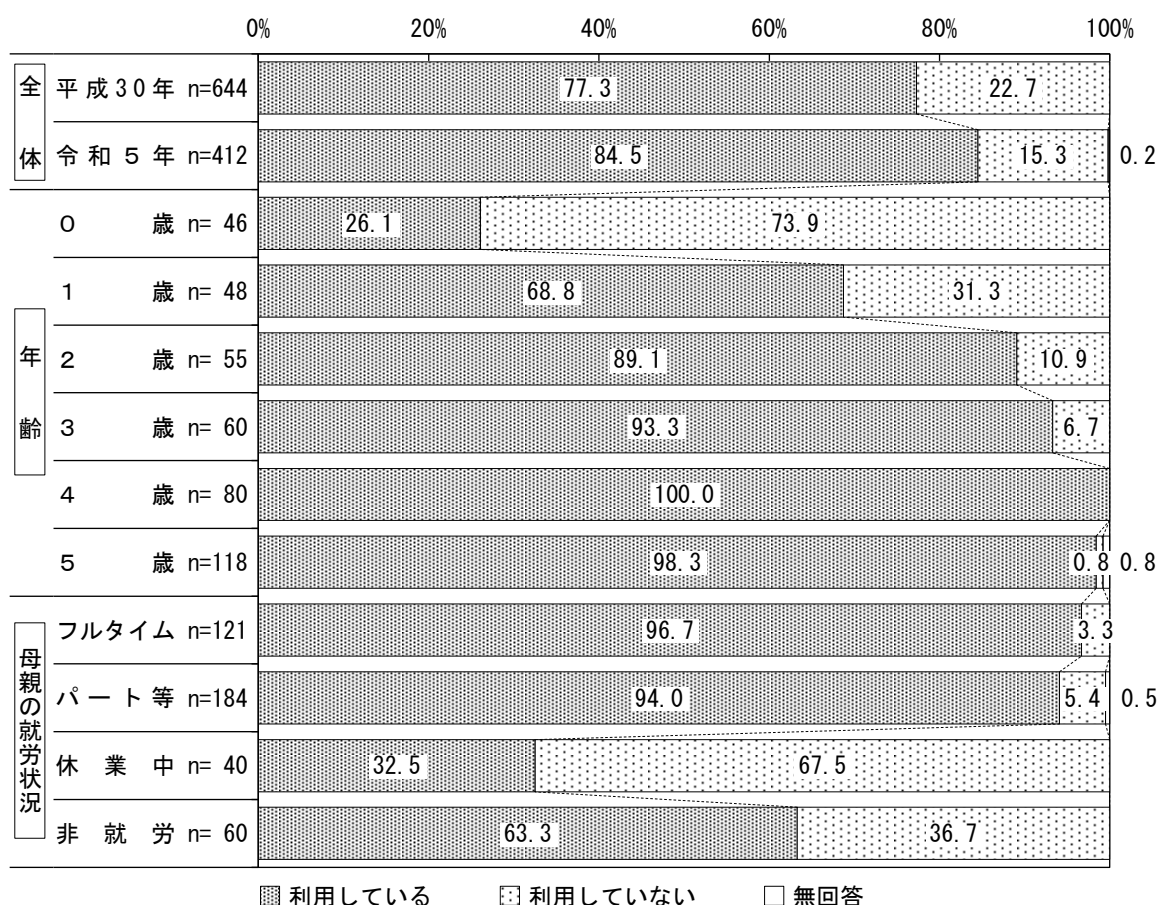
1 定期的な教育・保育事業の利用の有無

「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用しているサービスをいい、保育園、認定こども園、幼稚園などが該当します。定期的な教育・保育事業は、調査対象である子どもの84.5%が利用しており、平成30年と比べて7.2ポイント高くなっています。

子どもの年齢別では、3歳までは年齢が上がるにつれて「利用している」が高くなり、3歳以上では90%以上の子どもが利用しています。

母親の就労状況別に利用率をみると、フルタイムおよびパート・アルバイト等が90%台となっています。

図表1-26 定期的な教育・保育事業の利用の有無



2 利用している定期的な教育・保育事業の種類

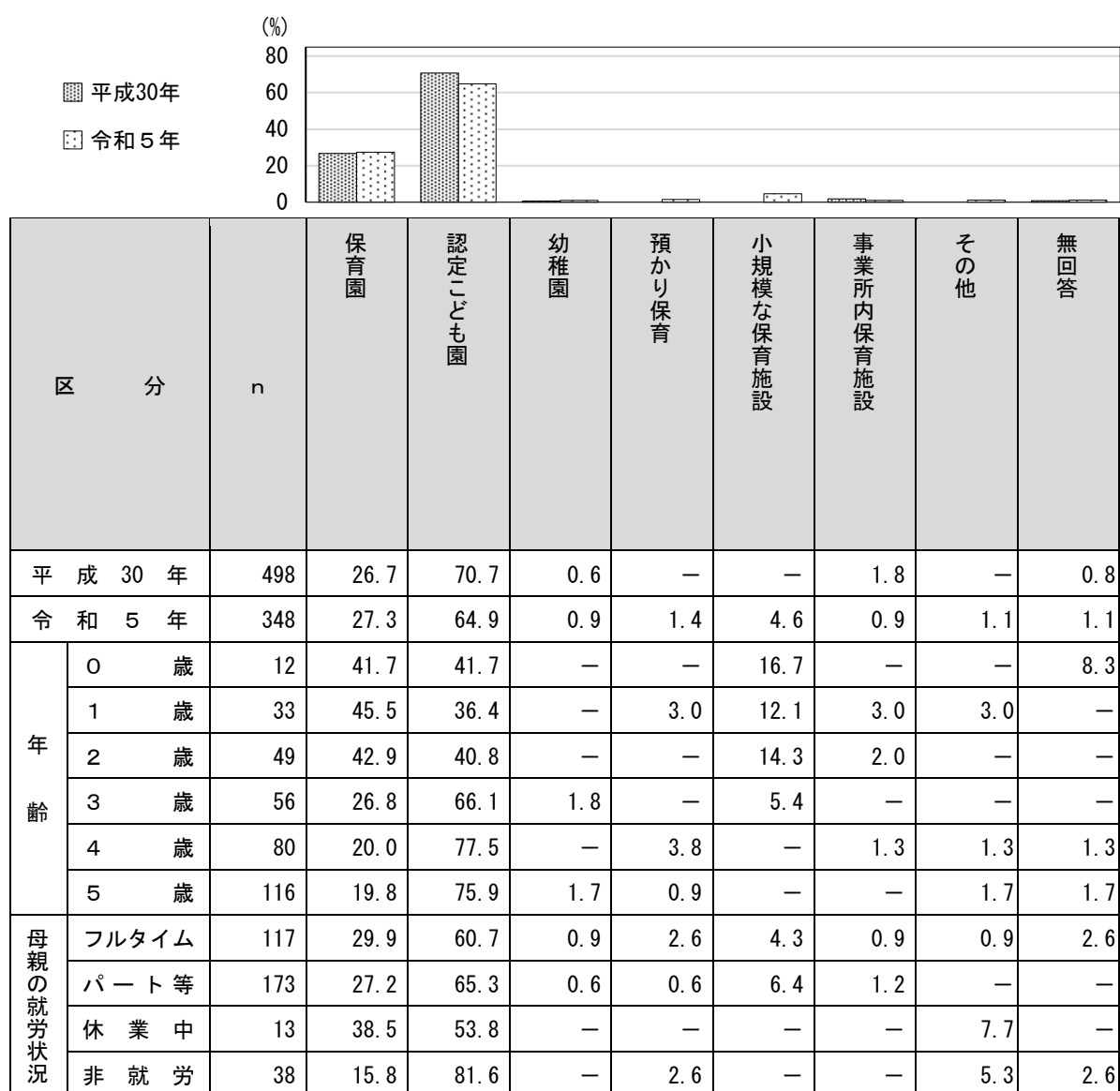
利用している定期的な教育・保育事業の種類は、「認定こども園」が64.9%と最も高く、次いで「保育園」が27.3%となっています。平成30年と比べて「認定こども園」が5.8ポイント低下し、平成30年には利用のなかった「小規模な保育施設」が4.6ポイント上昇しています。

子どもの年齢別にみると、0～2歳は「保育園」が最も高くなっています。また、「認定こども園」は3歳で60%以上、4～5歳で70%以上となっています。

「その他」として、「児童発達支援」という記載がありました。

図表 1-27 利用している定期的な教育・保育事業の種類（複数回答）

単位：nは人、他は%



（注）「家庭的保育」「その他の認可外の保育施設」「居宅訪問型保育」「ファミリー・サポート・センター」という選択肢には該当がなかった。

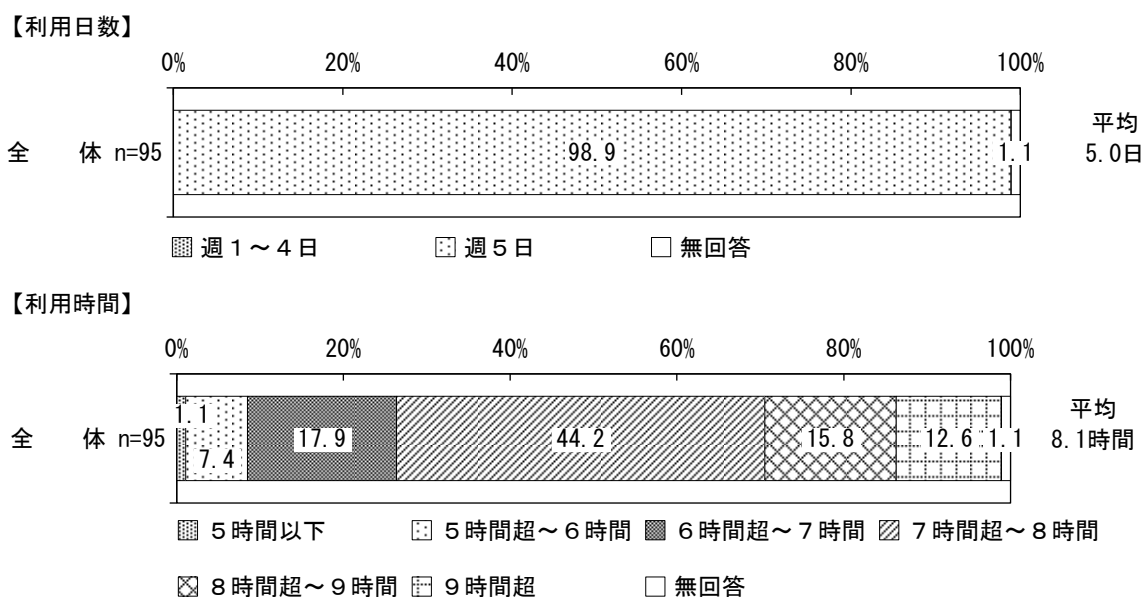
3 定期的な教育・保育事業の利用状況

(1) 保育園

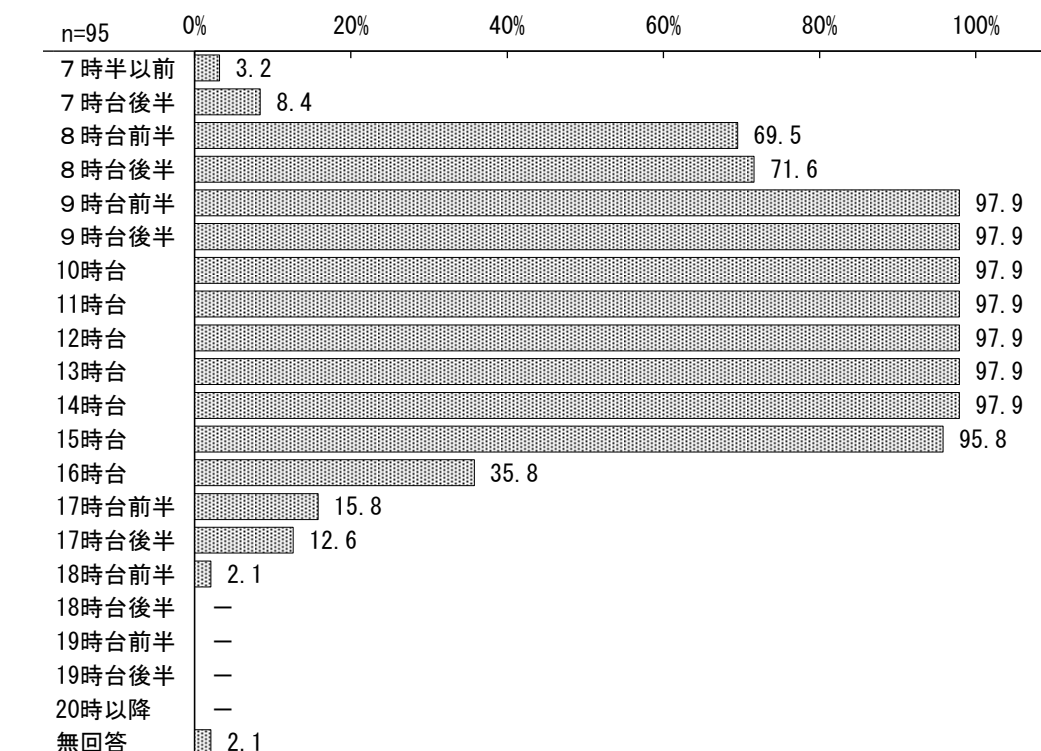
保育園を利用している子どもの1週間の利用日数は、「週5日」が98.9%を占めています。

1日の利用時間は「7時間超～8時間」が44.2%と最も高く、1日当たり平均利用時間は8.1時間となっています（図表1-28）。また、利用時間帯は、9時台前半から15時台が高くなっています（図表1-29）。

図表1-28 保育園の利用日数・利用時間



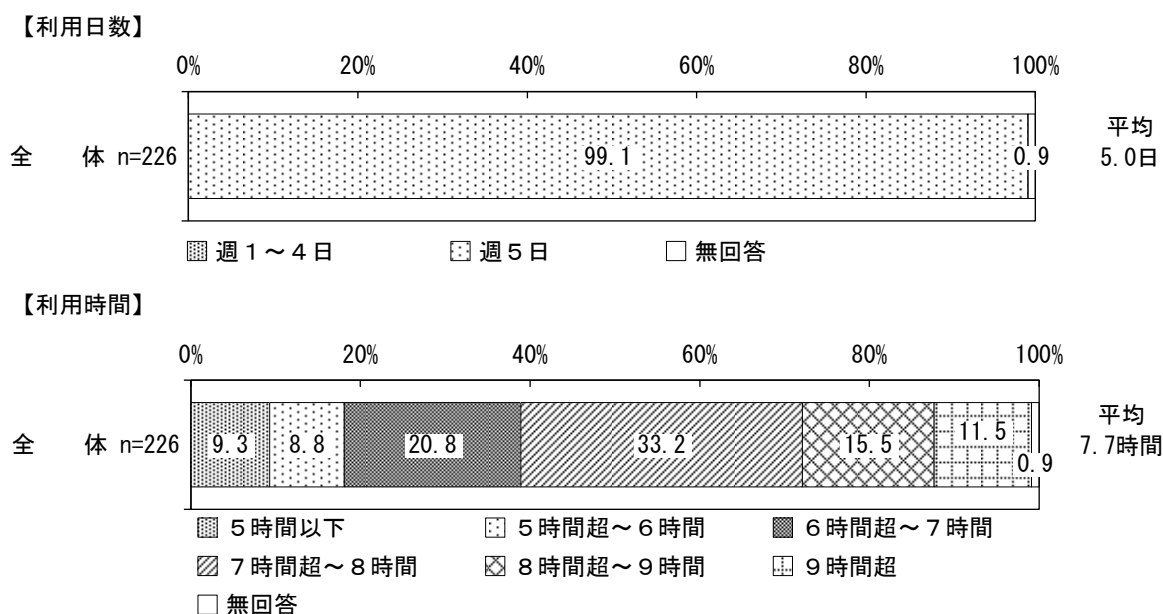
図表1-29 保育園の利用時間帯



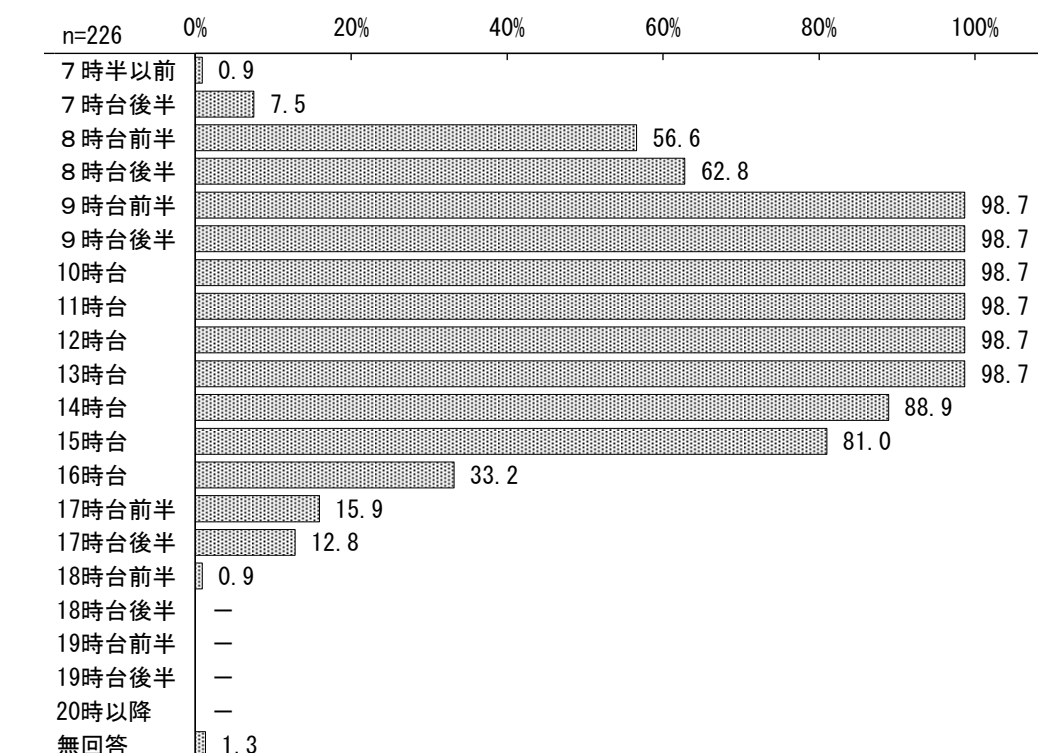
(2) 認定こども園

認定こども園を利用している子どもの1週間の利用日数は、「週5日」が99.1%を占めています。1日の利用時間は「7時間超～8時間」が33.2%と最も高く、1日当たり平均利用時間は7.7時間となっています（図表1-30）。また、利用時間帯は、9時台前半から13時台が高く、14時台、15時台と徐々に低下しています（図表1-31）。

図表1-30 認定こども園の利用日数・利用時間



図表1-31 認定こども園の利用時間帯



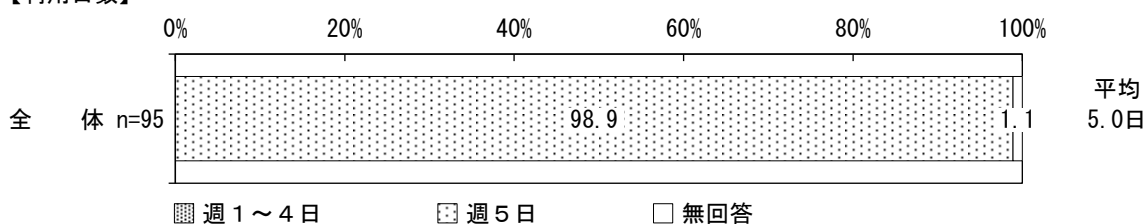
4 定期的な教育・保育事業の利用希望日数・時間

(1) 保育園

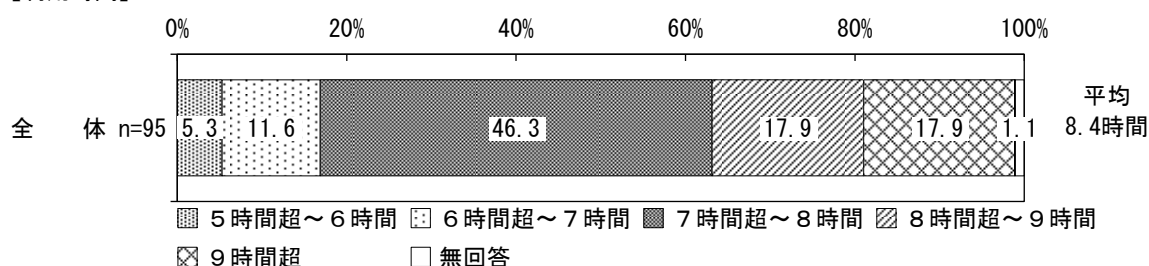
保育園の1週間の利用希望日数は、「週5日」が98.9%を占めています。現在の利用日数と同様です。1日の利用希望時間は、現在の利用時間と比べて「9時間超」が5.3ポイント高くなり、1日当たり平均利用時間は8.4時間と、現在の平均利用時間より0.3時間長くなっています（図表1-32）。また、利用希望時間帯は、9時台前半から15時台が高く、16時台は現在に比べて14.7ポイント高くなっています（図表1-33）。

図表1-32 保育園の利用希望日数・利用希望時間

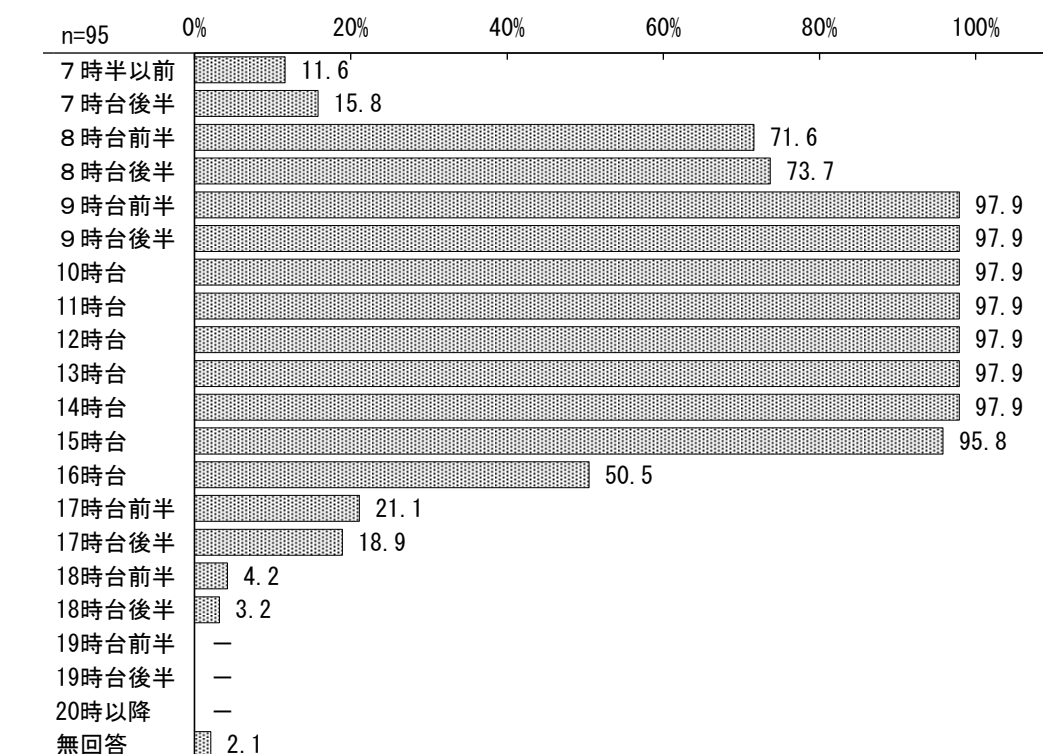
【利用日数】



【利用時間】



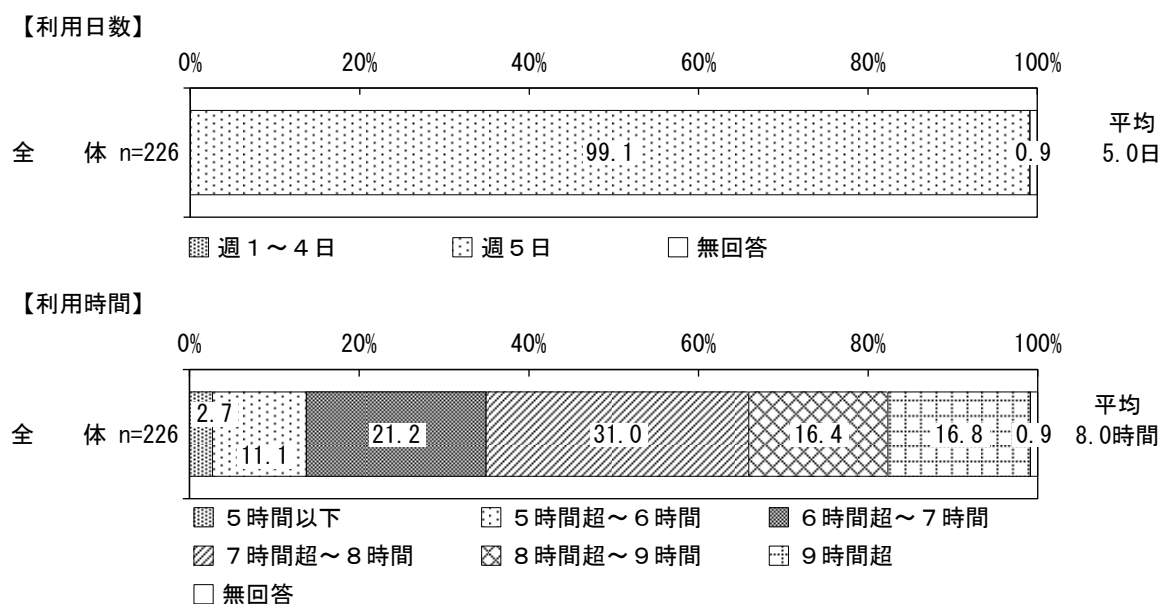
図表1-33 保育園の利用希望時間帯



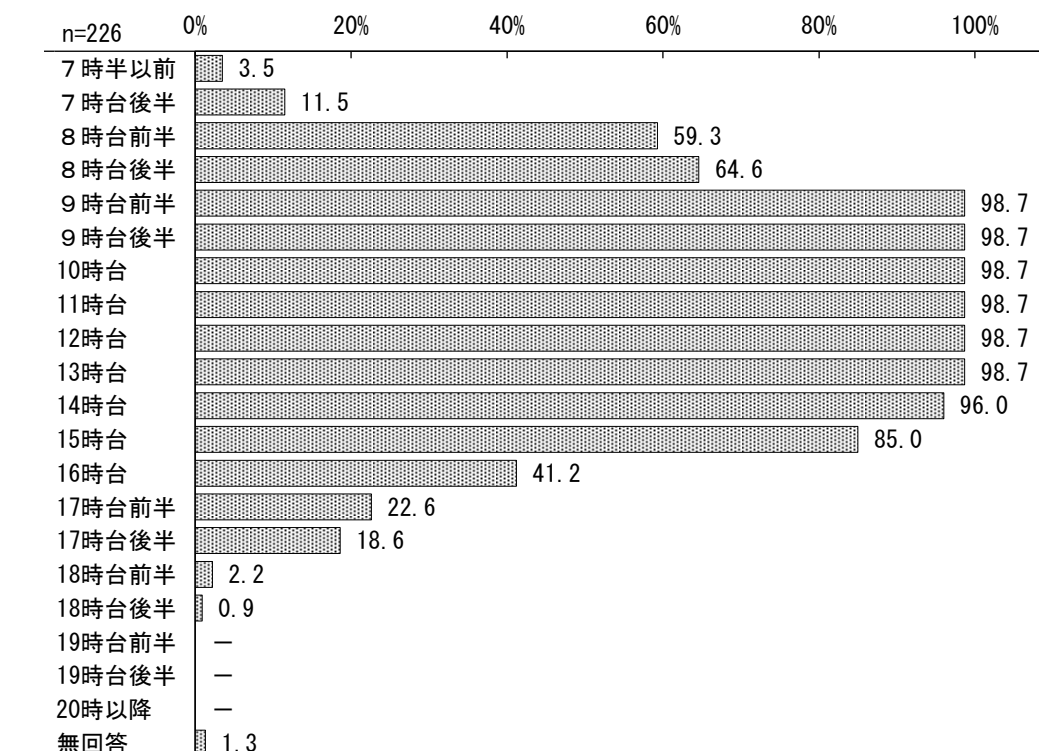
(2) 認定こども園

認定こども園の1週間の利用希望日数は、「週5日」が99.1%を占めています。現在の利用日数と同様です。1日の利用希望時間は、現在の利用時間と比べて「9時間超」が5.3ポイント高くなり、1日当たり平均利用時間は8.0時間と、現在の平均利用時間より0.3時間長くなっています（図表1-34）。また、利用希望時間帯は、9時台前半から14時台が高く、16時台から17時台後半は現在に比べて5ポイント以上高くなっています（図表1-35）。

図表1-34 認定こども園の利用希望日数・利用希望時間



図表1-35 認定こども園の利用希望時間帯



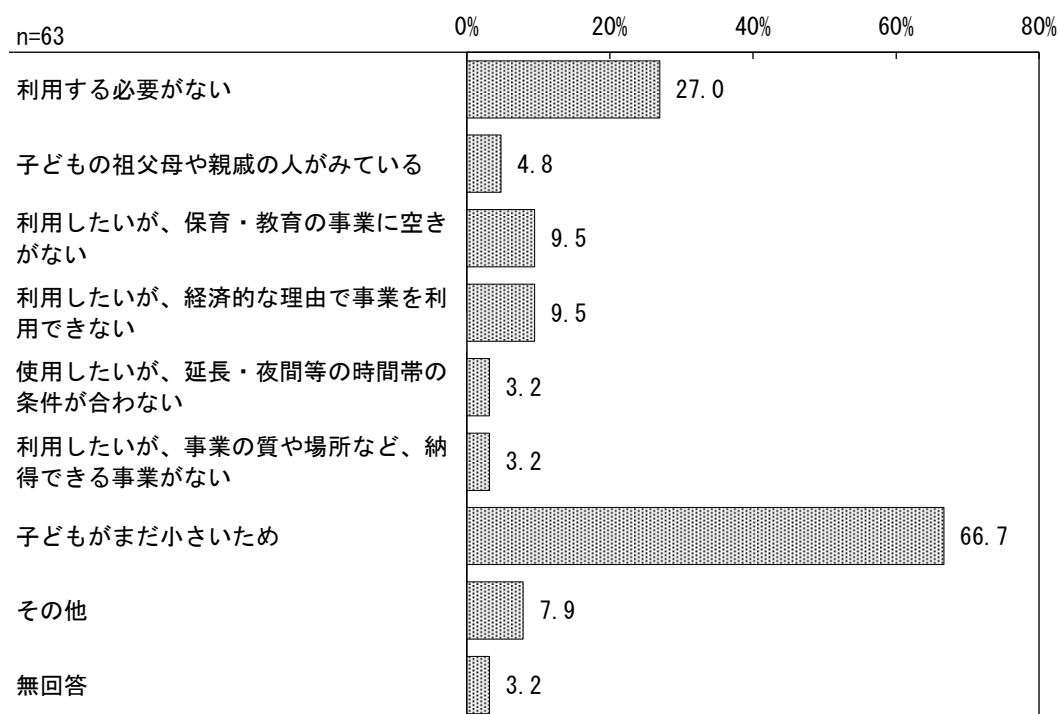
5 定期的な教育・保育事業を利用していない理由

定期的な教育・保育事業を利用していない人の利用していない理由としては、「子どもがまだ小さいため」が66.7%と最も高く、次いで「利用する必要がない」が27.0%などとなっています（図表1－36）。

「その他」として、図表1－37の内容が記載されていました。

「子どもがまだ小さいため」と答えた人に何歳くらいになったら利用しようと考えているかたずねたところ、「3歳」が35.7%と最も高く、利用しようと考えている平均年齢は2.2歳です（図表1－38）。

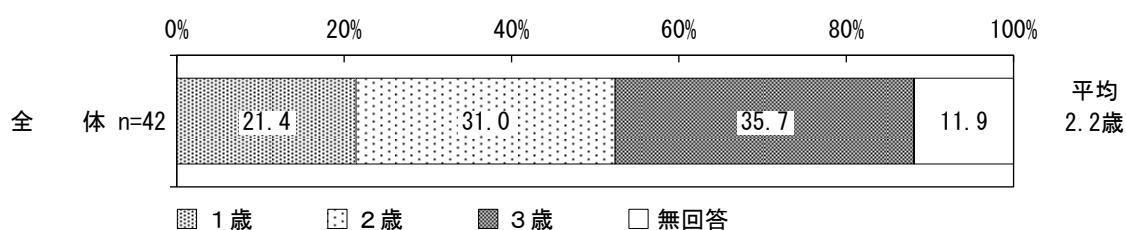
図表1－36 定期的な教育・保育事業を利用していない人の利用していない理由（複数回答）



図表1－37 定期的な教育・保育事業を利用していない人の利用していない理由（その他）

・ 育休中のため ・ 第3子妊娠をしたら、産前産後の保育からそのまま利用しようと考えている	・ 近々働こうと思っていましたが、妊娠がわかったため働けないし、利用することができないから ・ 就労していないため利用できない
--	--

図表1－38 定期的な教育・保育事業を子どもが何歳くらいになったら利用したいか（「子どもがまだ小さいため」と答えた人）



6 利用したい定期的な教育・保育事業

(1) 利用したい定期的な教育・保育事業

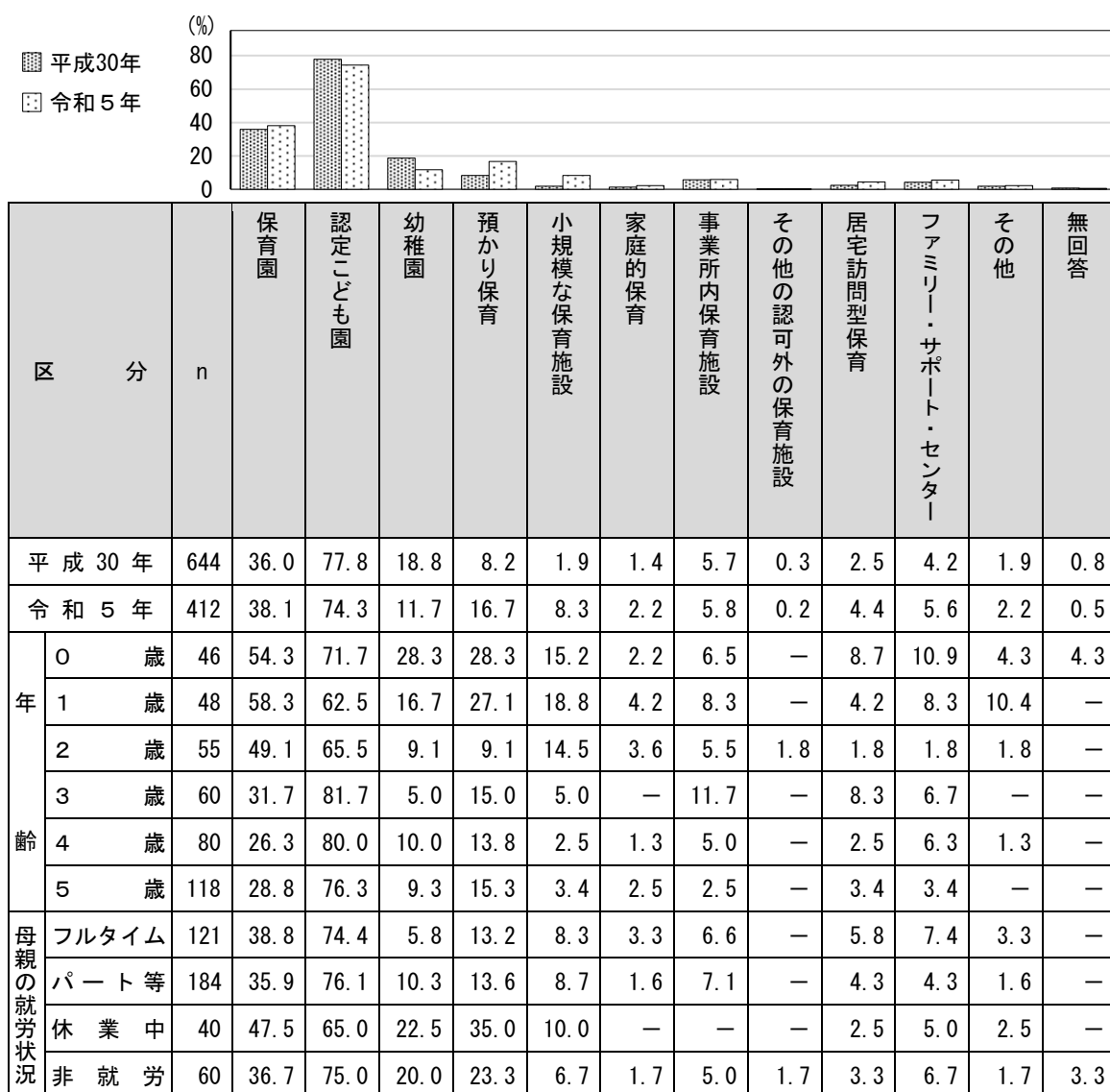
現在、利用している、利用していないにかかわらず、平日の教育・保育事業として、定期的に利用したい事業は、「認定こども園」が74.3%と最も高く、次いで「保育園」が38.1%などとなっています。平成30年に比べて「預かり保育」および「小規模な保育施設」が5ポイント以上高くなっています。

子どもの年齢別にみると、0～1歳は他の年齢に比べて「預かり保育」が高く、さらに0歳は「幼稚園」も高くなっています。母親の就労状況別にみると、休業中は「預かり保育」が35.0%と比較的高くなっています。

「その他」として、「子どもの急な体調不良時に預けられる施設」（3件）、「支援センターなどの遊ぶ場所でよい」という記載がありました。

図表 1-39 利用したい定期的な教育・保育事業（複数回答）

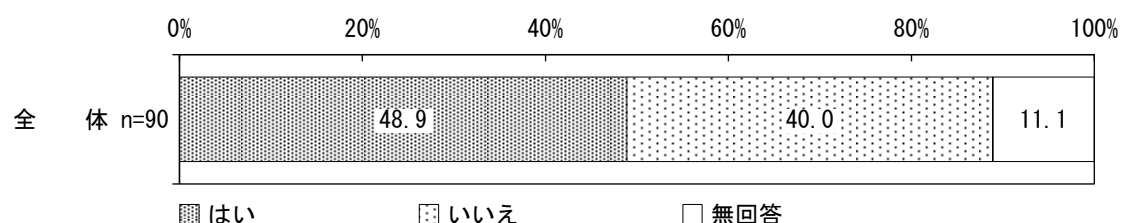
単位：nは人、他は%



(2) 幼稚園の利用を強く希望するか

幼稚園利用について、正確にニーズを把握することを目的として、図表1-39で「幼稚園」または「預かり保育」の利用を希望し、かつそのほかのサービスも希望した人に、特に幼稚園の利用を強く希望するかたずねたところ、48.9%が「はい」と回答しています。

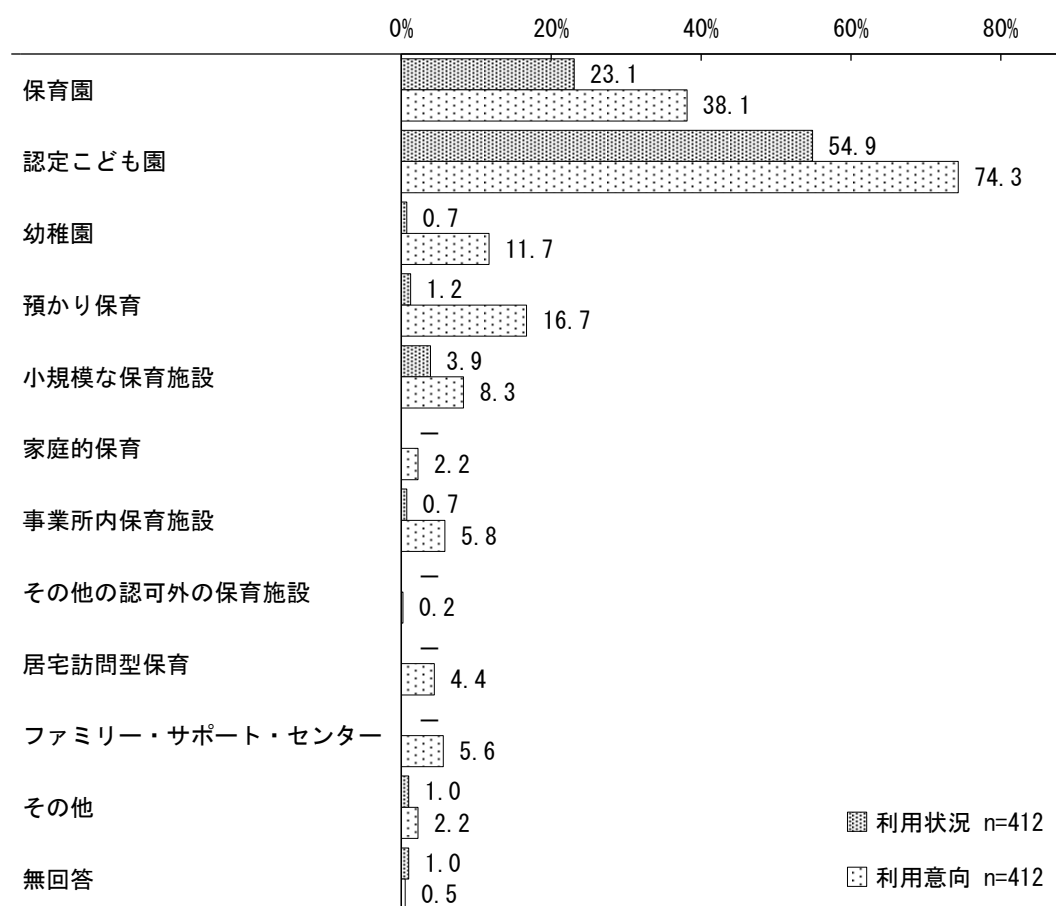
図表1-40 幼稚園の利用を強く希望するか



(3) 定期的な教育・保育事業の利用状況と利用意向

平日の定期的な教育・保育事業は、すべての事業において利用状況より利用意向が上回っています。特に「保育園」「認定こども園」「預かり保育」は15ポイント以上高くなっています。

図表1-41 定期的な教育・保育事業の利用状況と利用意向（複数回答）



(注) 20頁の図表1-27は、定期的な教育・保育事業を利用している人を分母としているが、本表においては利用していない人を含めた全数を分母として計算した。

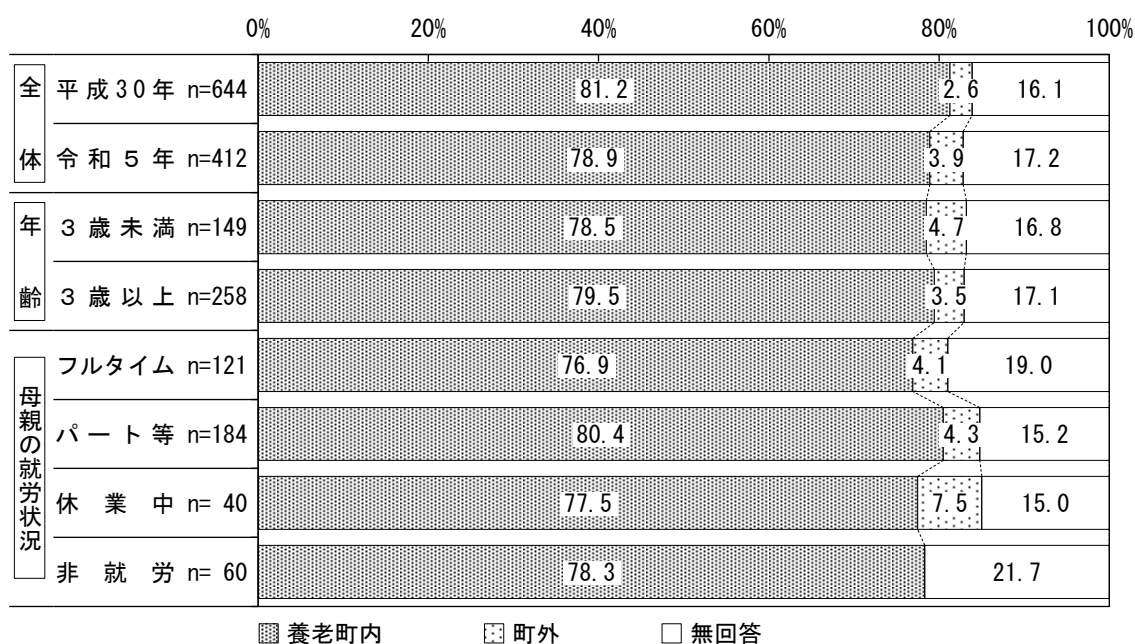
7 教育・保育事業を利用したい場所

教育・保育事業を利用したい場所としては、「養老町内」が78.9%を占めています。平成30年と比べて「養老町内」が2.3ポイント低下しています。

町外の利用したい場所としては、「大垣市」（2件）、「垂井町」「愛知県」という記載がありました。

町外を利用している理由としては、図表1－43の内容が記載されていました。

図表1－42 教育・保育事業を利用したい場所



図表1－43 町外を利用している理由

・職場の近くが良かったため（2件） ・転出するため（2件） ・岐阜市に就労しているため。方向が違うから ・通勤の便利さ ・養老町に希望するところがなかった	・種類が豊富だから。養老町に希望の施設があるなら、それに越したことはない ・英語やその他のカリキュラムがある ・施設の充実 ・垂井町に住んでいるから
---	---

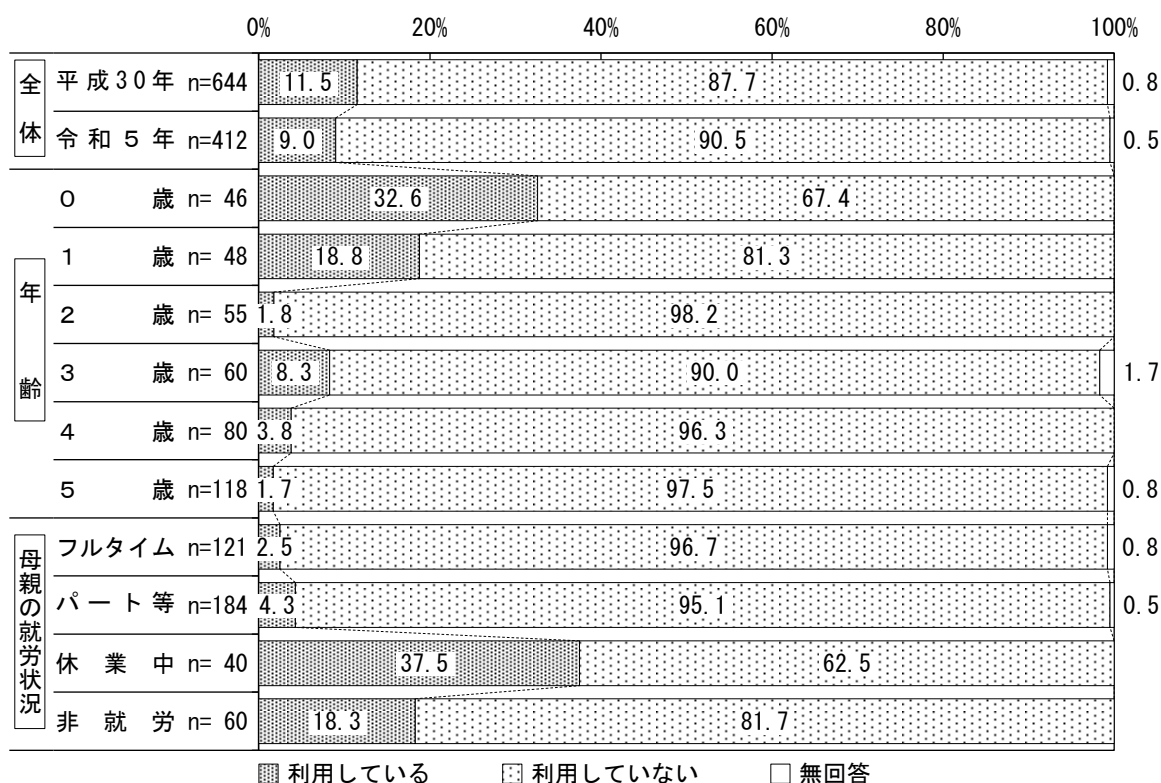
第5 地域子育て支援事業

1 地域子育て支援拠点事業の利用の有無

地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「子育て支援センター」などが含まれます）を利用しているかたずねたところ、「利用している」は9.0%で、平成30年に比べて2.5ポイント低下しています。

子どもの年齢別にみると、「利用している」は0歳が32.6%と高く、年齢が上がるほど低下傾向にあり、2歳以上では10%未満と低くなっています。母親の就労状況別にみると、「利用している」は休業中の母親が高くなっています。

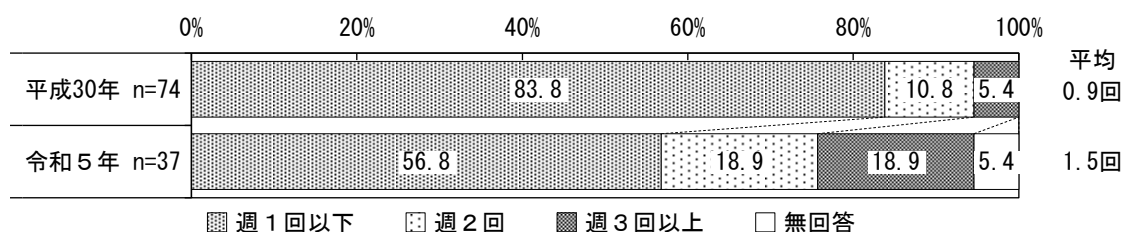
図表1-44 地域子育て支援拠点事業の利用の有無



2 地域子育て支援拠点事業の利用回数

図表1-44で「利用している」と回答した人に利用回数をたずねたところ、「週1回以下」が56.8%を占めていますが、1週当たりの平均利用回数は1.5回と、平成30年に比べて0.6回増加しています。

図表1-45 地域子育て支援拠点事業の利用回数



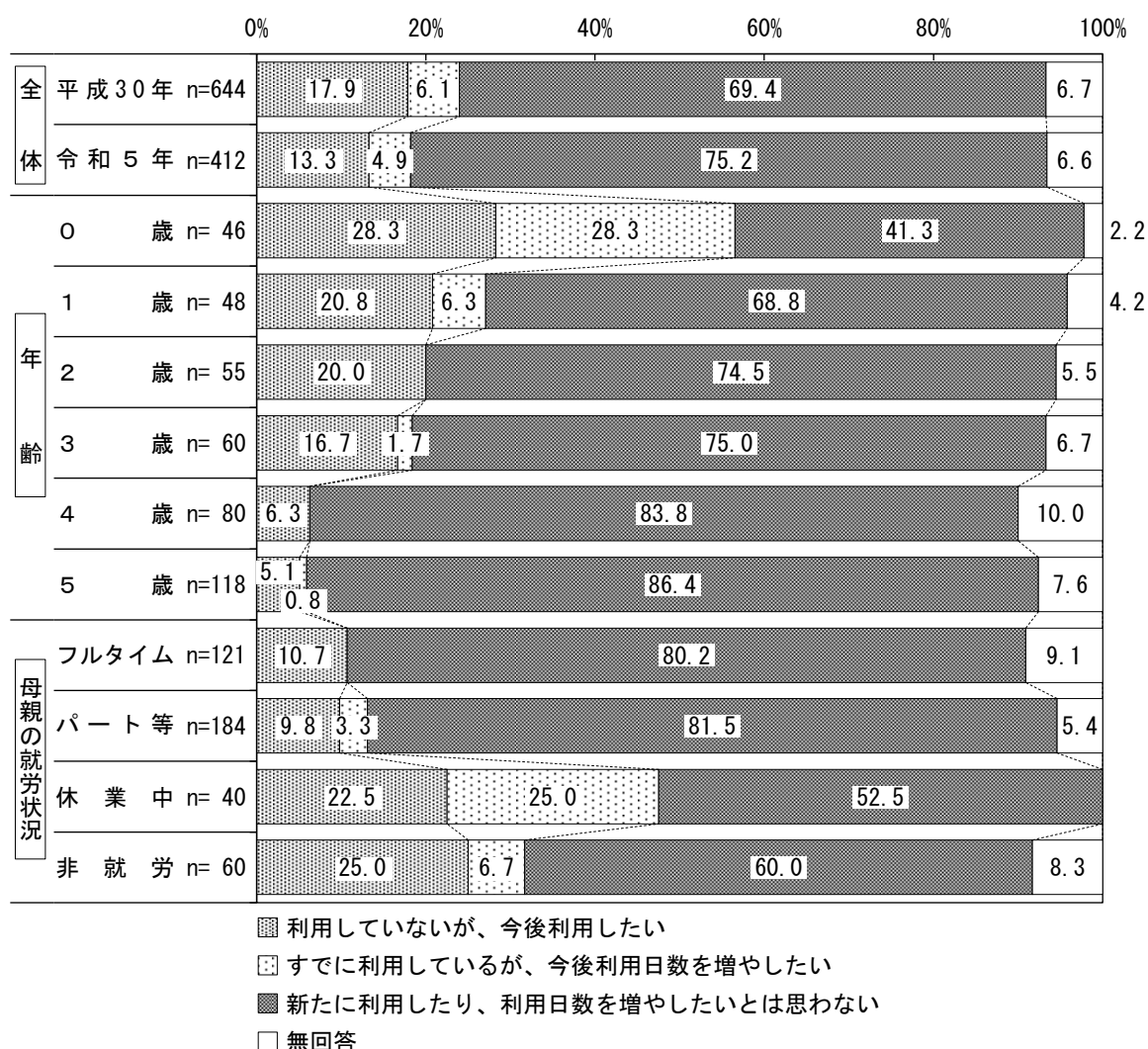
3 地域子育て支援拠点事業の利用意向

地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思うかたずねたところ、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が75.2%を占め、次いで「利用していないが、今後利用したい」が13.3%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が4.9%となっています。平成30年に比べて「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が5.8ポイント上昇しています。

子どもの年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「利用していないが、今後利用したい」が低下しています。また、0歳は「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が28.3%と高くなっています。

母親の就業状況別にみると、休業中および非就労の母親は「利用していないが、今後利用したい」が20%以上と高く、さらに休業中は「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」も高くなっています。

図表 1-46 地域子育て支援拠点事業の利用意向



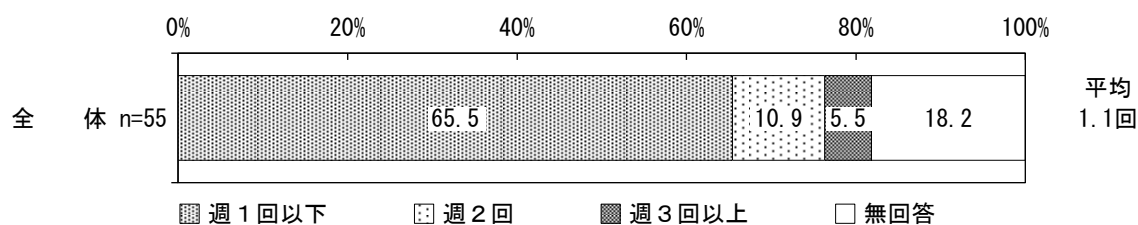
4 地域子育て支援拠点事業の利用希望回数

図表 1－46で「利用していないが、今後利用したい」または「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と回答した人に利用希望回数をたずねたところ、「利用していないが、今後利用したい」と回答した人は、「週 1 回以下」が65.5%を占め、1 週当たりの平均利用希望回数は1.1回です。

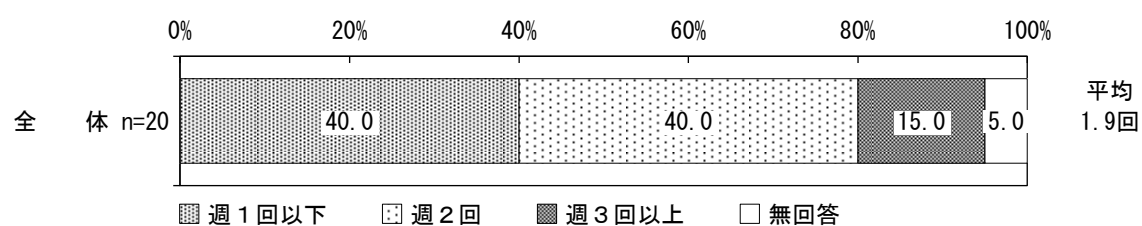
「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と回答した人は、「週 1 回以下」および「週 2 回」が40.0%を占めており、1 週当たりの平均利用希望回数は1.9回です。

図表 1－47 地域子育て支援拠点事業の利用希望回数

【利用していないが、今後利用したい人の利用希望回数】



【すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい人の利用希望回数】



第6 休日の定期的な教育・保育事業の利用意向

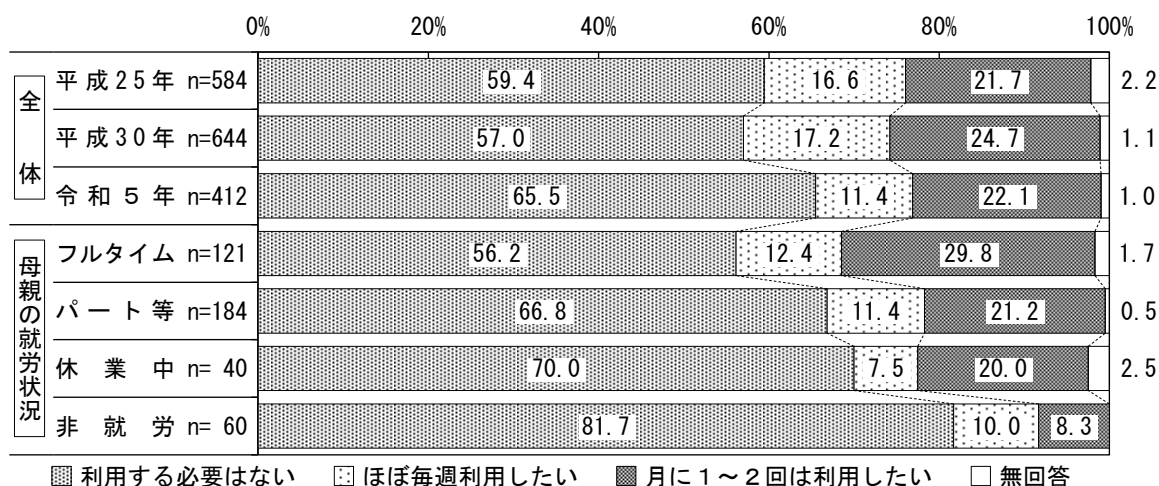
1 土曜日

土曜日の定期的な教育・保育事業については、「利用する必要はない」が65.5%を占めていますが、「月に1～2回は利用したい」が22.1%、「ほぼ毎週利用したい」が11.4%と、合わせて33.5%の利用希望があります。平成25年および平成30年と比べると、「ほぼ毎週利用したい」が5ポイント以上低下しています。

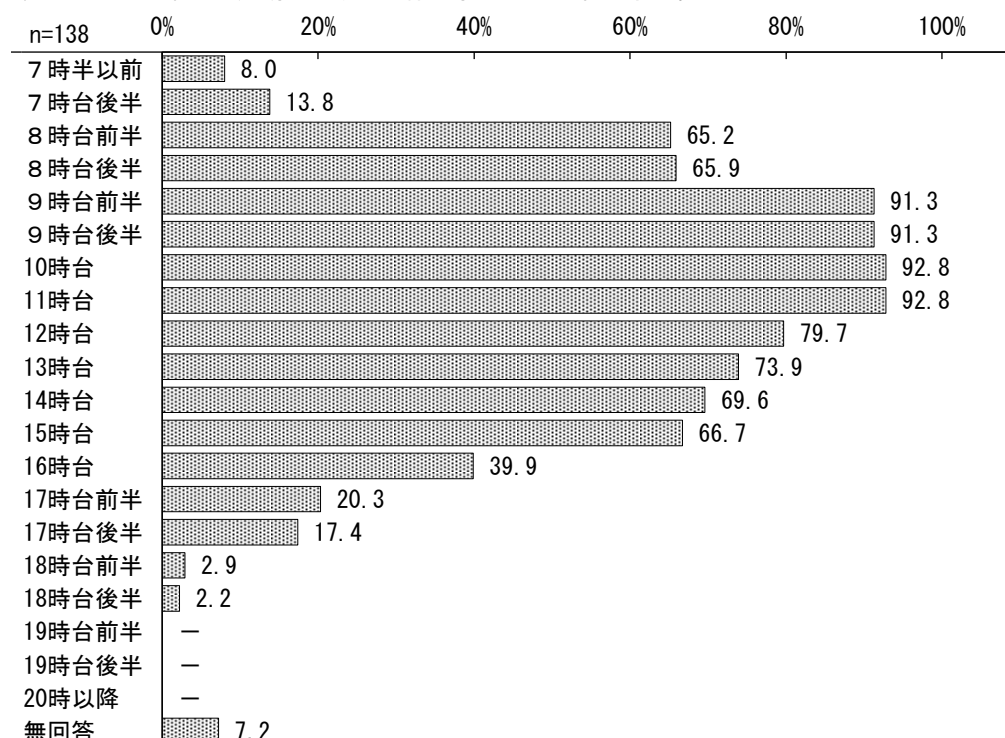
母親の就労状況別にみると、フルタイムの利用希望は42.2%と比較的高くなっています（図表1-48）。

利用希望時間帯をみると、9時台前半から11時台が高くなっています（図表1-49）。

図表1-48 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向



図表1-49 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望時間帯



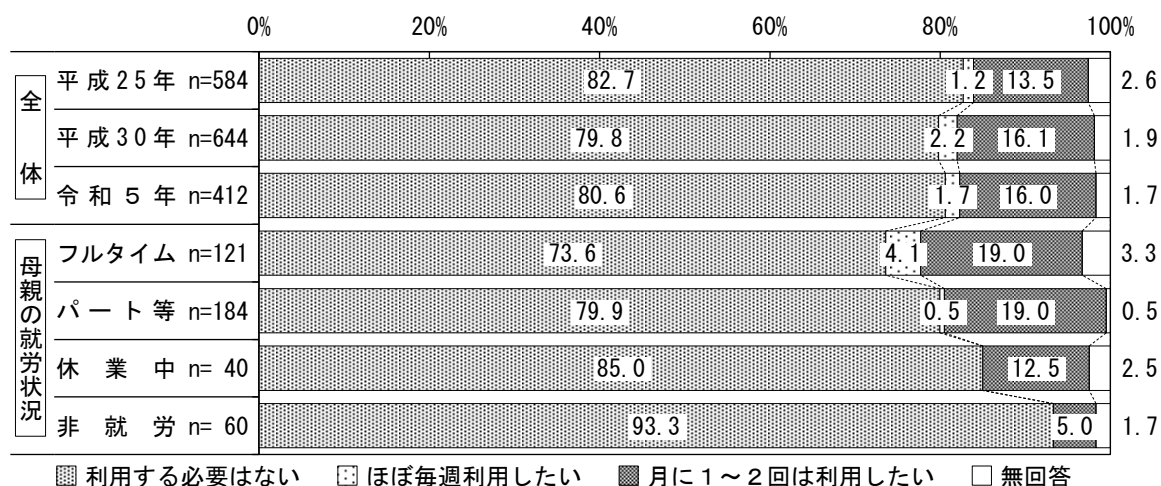
2 日曜・祝日

日曜・祝日の定期的な教育・保育事業については、「利用する必要はない」が80.6%を占めています。「月に1～2回は利用したい」（16.0%）、「ほぼ毎週利用したい」（1.7%）を合計した利用希望は17.7%です。平成30年と比べて大きな変化はありません。

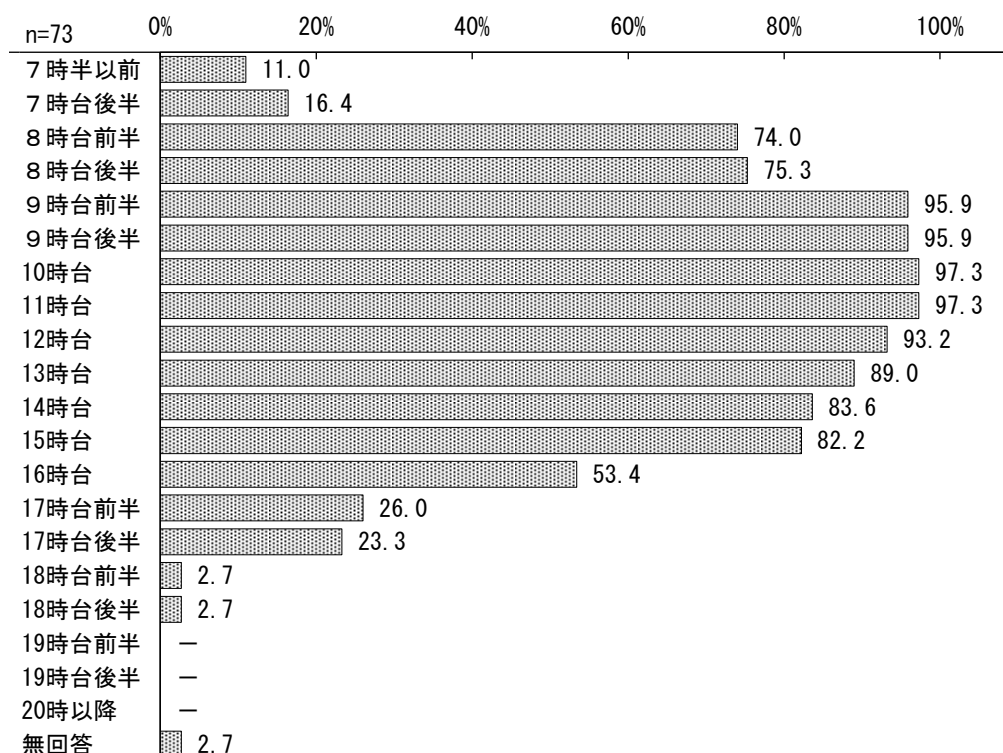
母親の就労状況別にみると、フルタイムの利用希望は23.1%と比較的高くなっています（図表1－50）。

利用希望時間帯をみると、9時台前半から12時台が高く、その後徐々に低下していきませんが、15時台でも80%を上回っています（図表1－51）。

図表1－50 日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向



図表1－51 日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望時間帯

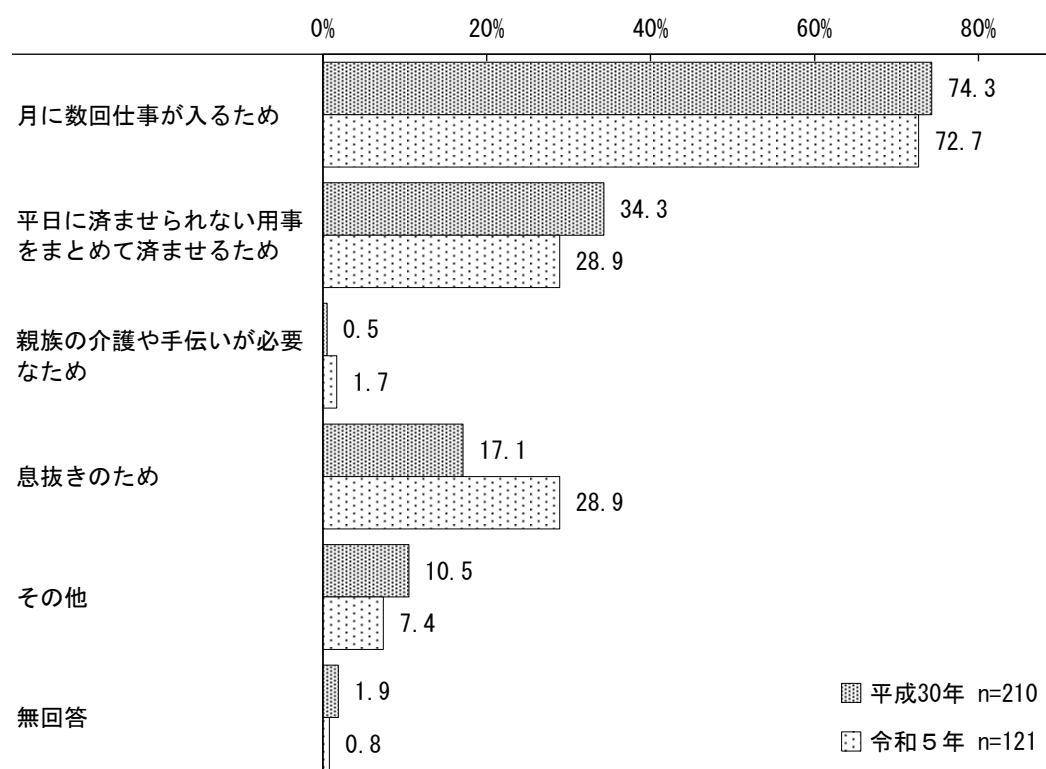


3 土曜日または日曜・祝日に月に1～2回利用したい理由

土曜日または日曜・祝日に月に1～2回は定期的な教育・保育事業を利用したいと答えた人の、毎週ではなくたまに利用したい理由としては、「月に数回仕事が入るため」が72.7%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」および「息抜きのため」が28.9%となっています。平成30年と比べると、「息抜きのため」が11.8ポイント高くなっています。

「その他」として、図表1－53の内容が記載されていました。

図表1－52 土曜日または日曜・祝日に月に1～2回利用したい理由（複数回答）



図表1－53 土曜日または日曜・祝日に月に1～2回利用したい理由（その他）

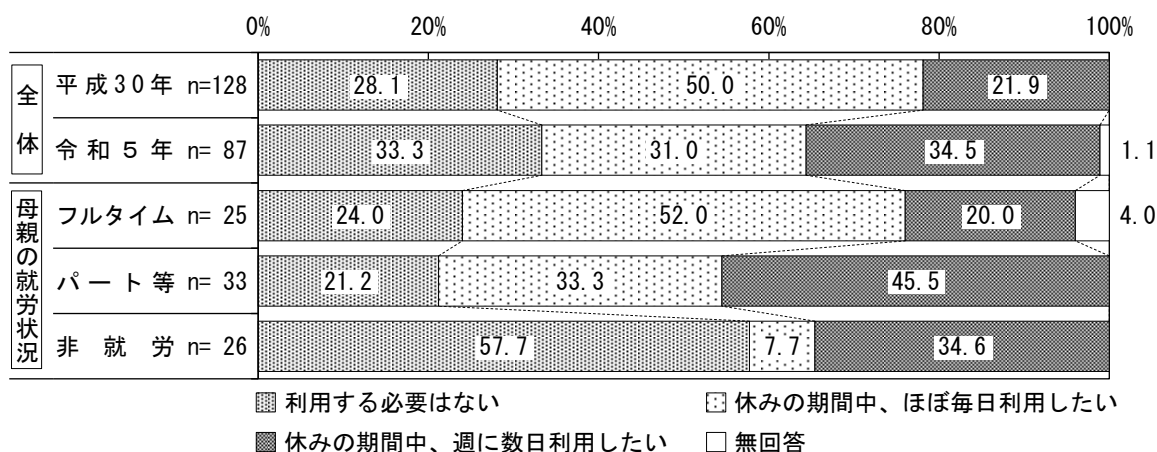
・仕事があるため（2件） ・仕事のため、片親しかいない ・年に数回土曜日の仕事があるため ・祝日は本来仕事があるが休みをもらっているため	・上の子が陸上をしていて役員の仕事があるため ・上の子の習い事があるため ・実家の親の様子を見にいきたいので ・身体が自由に動かないため
---	---

4 1号認定で認定こども園または幼稚園の長期休暇期間中の利用

図表1-54は、1号認定で認定こども園または幼稚園を利用している人に、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用意向をたずねた結果です。「休みの期間中、週に数日利用したい」が34.5%と最も高く、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」（31.0%）と合わせて65.5%の利用希望があります。平成30年に比べて、利用希望は6.4ポイント低下していますが、「休みの期間中、週に数日利用したい」は12.6ポイント上昇しています。

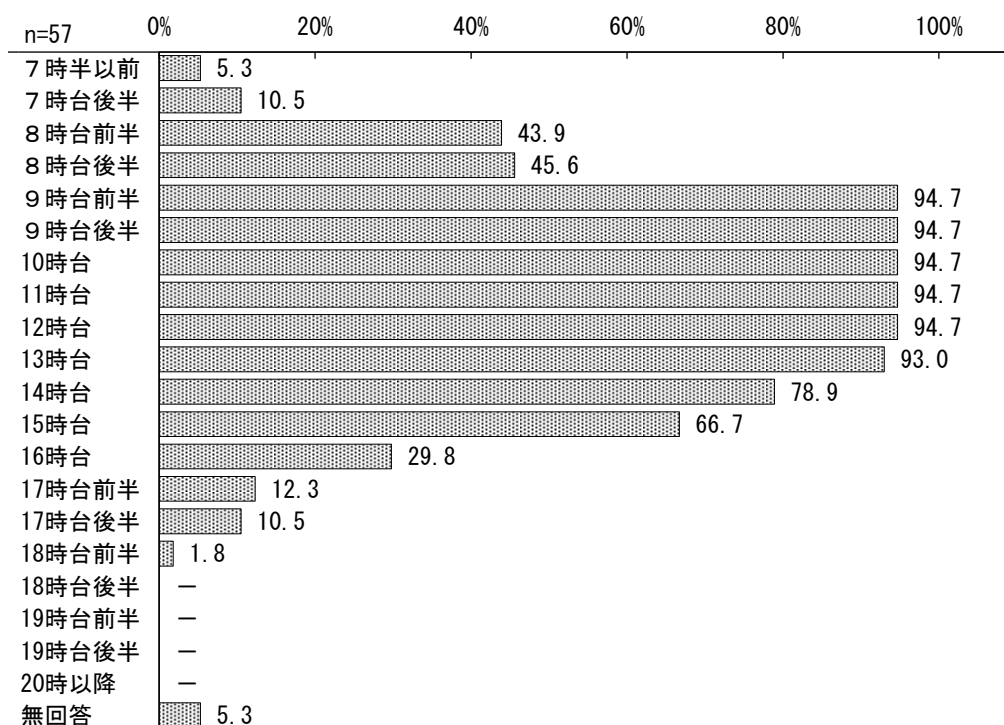
利用希望時間帯をみると、9時台前半から13時台が高くなっていますが、15時台も60%を上回っています（図表1-55）。

図表1-54 長期休暇期間中の認定こども園または幼稚園の利用意向



（注）母親の就労状況別のうち、休業中の母親については回答がなかった。

図表1-55 長期休暇期間中の認定こども園または幼稚園の利用希望時間帯

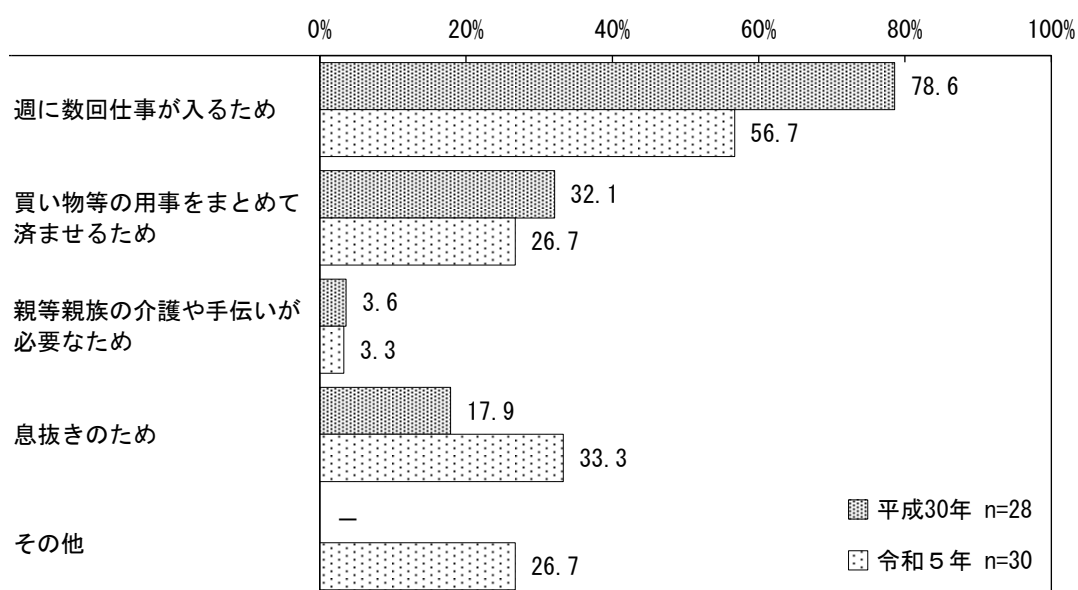


5 長期休暇期間中に週に数日利用したい理由

長期休暇期間中に週に数日は認定こども園または幼稚園を利用したいと答えた人の、毎日ではなくたまに利用したい理由としては、「週に数回仕事が入るため」が56.7%と最も高く、次いで「息抜きのため」が33.3%などとなっています。平成30年に比べて「息抜きのため」が15.4ポイント高くなっています。

「その他」として、図表1-57の内容が記載されていました。

図表1-56 長期休暇期間中に週に数日利用したい理由（複数回答）



図表1-57 長期休暇期間中に週に数日利用したい理由（その他）

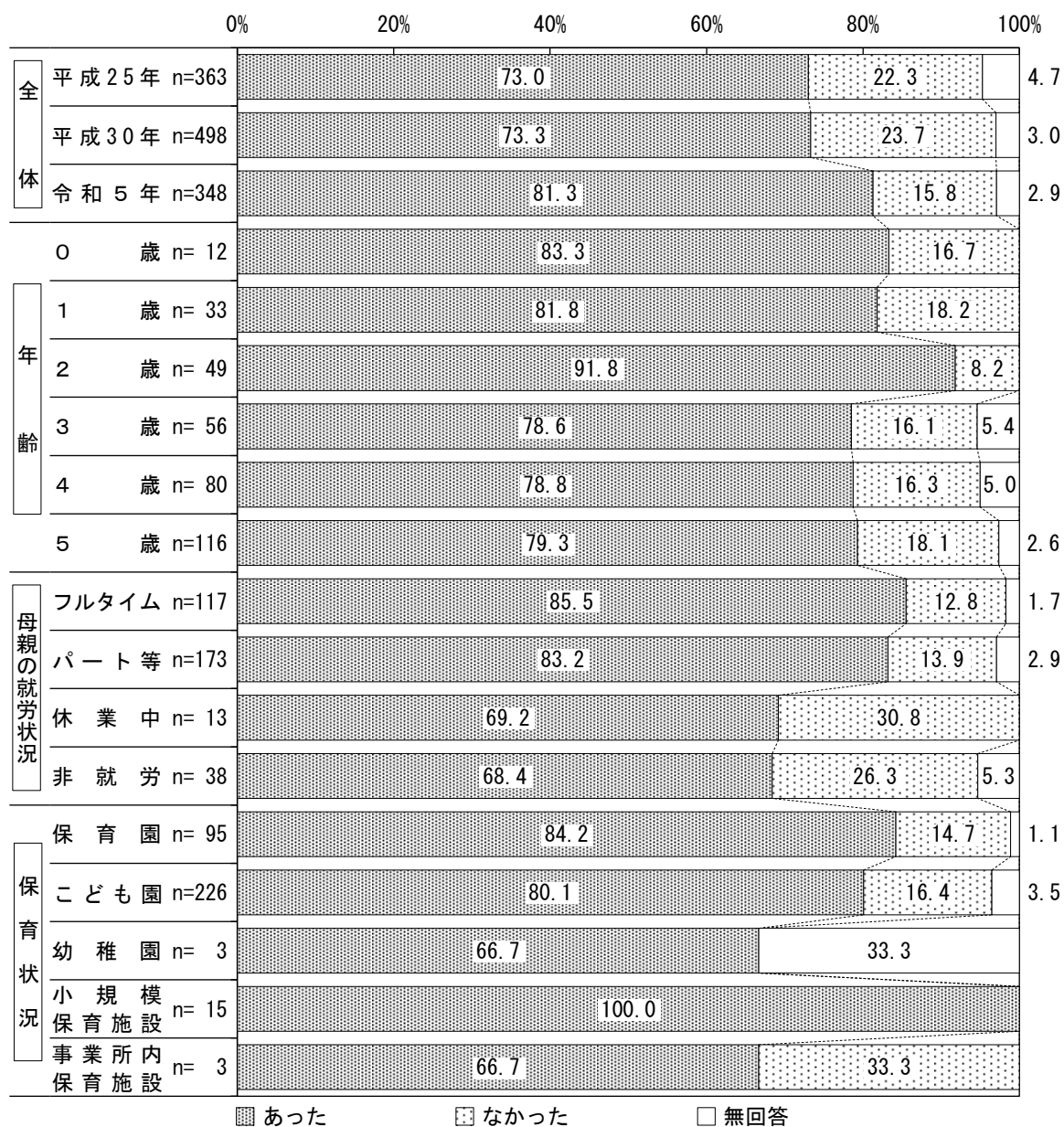
・ 2号認定のクラスの友達に登園しているので、数人しかいない。1号認定の子だけ輪から離れたり、体験の差などを感じるため。特に夏は、プール活動が夏休みに入ってからの方が本格的になる ・ 子どもを園に馴染めさせるため	・ 子どもが通園したがるため。毎日だと金額が多くなるので、時々であれば ・ 在宅勤務ではなく出社する日があるため ・ 毎日祖父母に子どもを預けるのが不可能なため ・ きょうだいとの時間も大切にしたいため
---	--

第7 子どもが病気の時の対応

1 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかったことの有無

定期的な教育・保育事業を利用している子どもが病気やケガで通常の定期的な教育・保育事業が利用できなかったことの有無については、「あった」が81.3%、「なかった」が15.8%です。平成25年および平成30年と比べると、「あった」が大きく上昇しています。

図表1-58 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかったことの有無

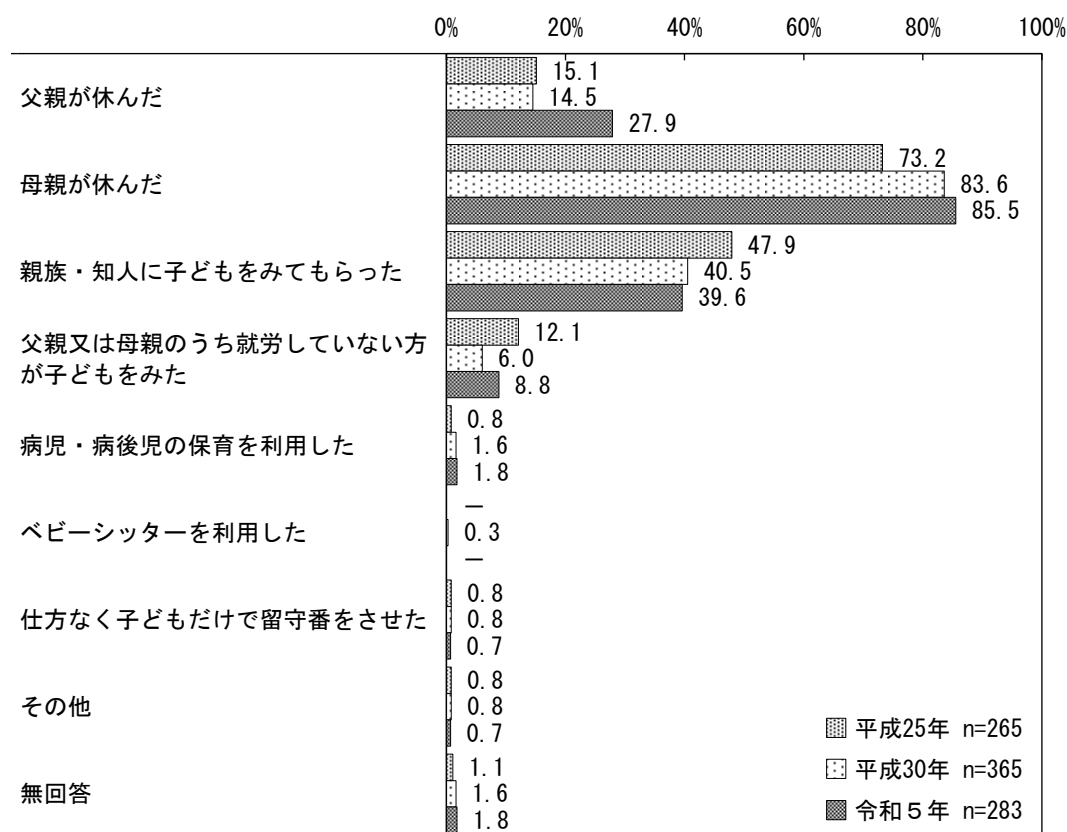


2 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかった時の対処方法

定期的な教育・保育事業を利用している子どもが病気等で事業が利用できなかった時の、この1年間に行った対処方法については、「母親が休んだ」が85.5%と最も高く、次いで「親族・知人に子どもをみてもらった（同居者を含む）」が39.6%、「父親が休んだ」が27.9%などの順となっています。「病児・病後児の保育を利用した」は1.8%（5人）です。平成25年および平成30年と比べると、「母親が休んだ」は高くなり続けています。また、「父親が休んだ」が大幅に上昇しています（図表1－59）。

「その他」として、「在宅勤務で対処した」（2件）という記載がありました。

図表1－59 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかった時の対処方法（複数回答）



（注）「ファミリー・サポート・センターを利用した」という選択肢には該当がなかった。

1年間に対処が必要だった日数の平均を対処方法別にみると、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」日数が12.1日と最も多く、次いで「母親が休んだ」日数が10.1日などとなっています。平成30年と比べると、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が7.9日増加しています（図表1－60）。

図表1－60 1年間に対処が必要だった平均日数

単位：日／年

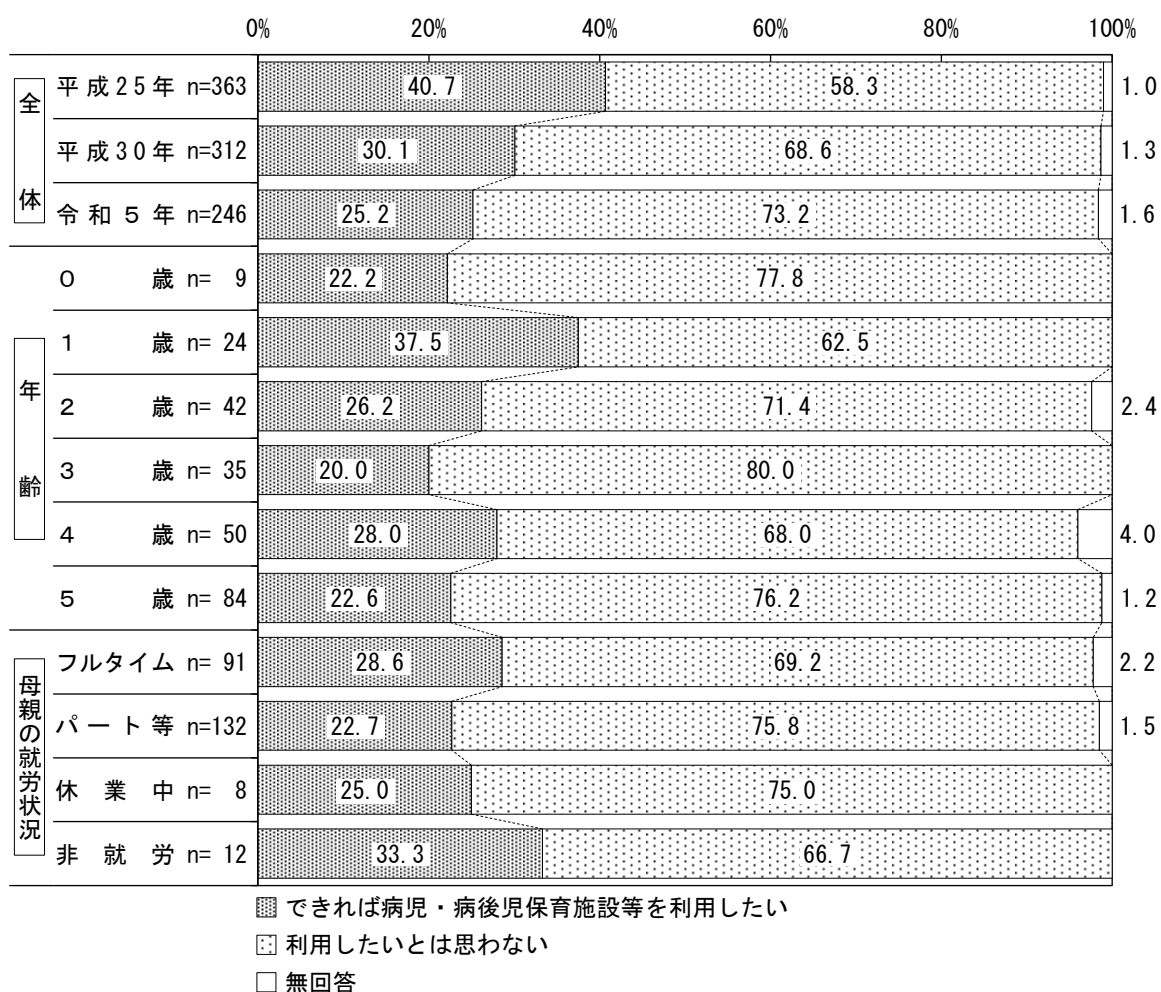
区 分	父親が休んだ	母親が休んだ	親族・知人に子どもをみてもらった	父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	病児・病後児の保育を利用した	ベビーシッターを利用した	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	その他
平成30年	3.1	7.4	6.0	4.2	2.0	3.0	4.3	18.0
令和5年	4.0	10.1	6.1	12.1	4.4	—	1.5	5.0

3 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できなかった時の施設の利用意向

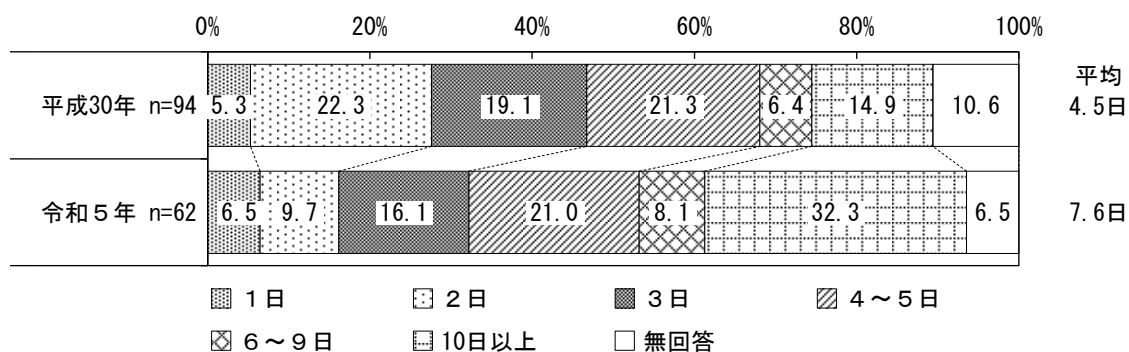
子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できず、親が仕事を休んで対処した人のうち、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と答えた人は25.2%です。平成25年および平成30年に比べて、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は低下を続けています（図表1－61）。

1年間で預けたいと思った日数の平均は7.6日です。平成30年に比べて3.1日増加しています（図表1－62）。

図表1－61 子どもが病気等で定期的な教育・保育事業が利用できず、親が仕事を休んだ人の施設の利用意向



図表1－62 施設に預けたいと思った日数



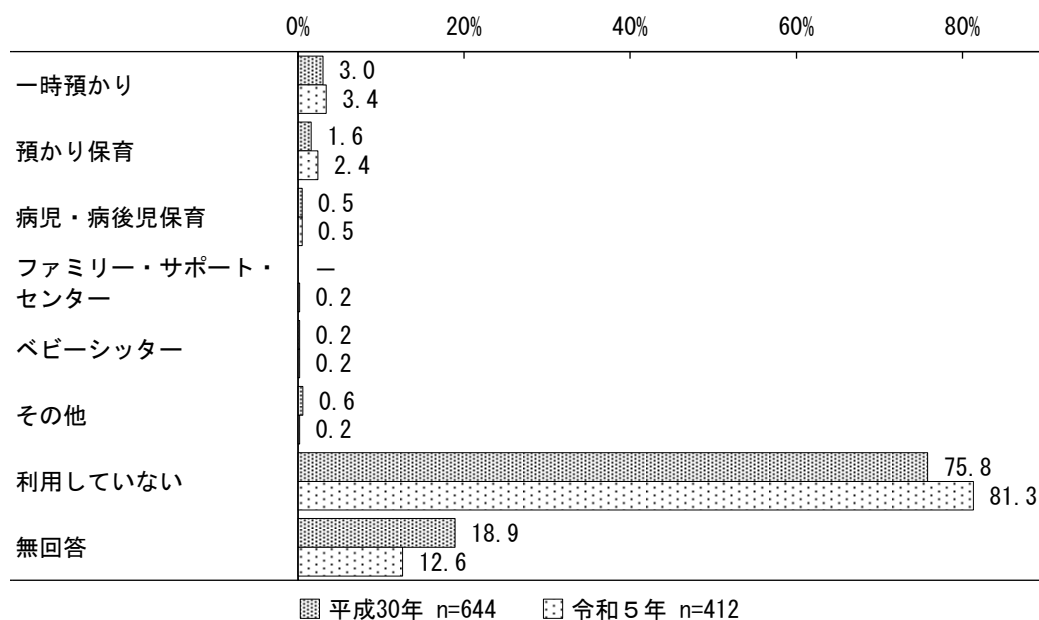
第8 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり

1 不定期に利用している教育・保育事業

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、不定期に利用している事業としては、「一時預かり」(3.4%)、「預かり保育」(2.4%)、「病児・病後児保育」(0.5%)、「ファミリー・サポート・センター」(0.2%)、「ベビーシッター」(0.2%)などがありました。平成30年と比べると、大きな変化はありませんが、「預かり保育」が0.8ポイント高くなっています(図表1-63)。

また、1年間の平均利用日数は、平成30年と比べて「ベビーシッター」「病児・病後児保育」などが高くなっています(図表1-64)。

図表1-63 不定期に利用している教育・保育事業(複数回答)



(注)「夜間養護等事業(トワイライトステイ)」という選択肢には該当がなかった。

図表1-64 1年間で不定期の教育・保育事業を利用した平均利用日数

単位: 日/年

区 分	一時預かり	預かり保育	病児・病後児保育	ファミリー・サポート・センター	ベビーシッター	その他
平成30年	7.6	18.6	2.3	—	—	32.7
令和5年	7.9	8.5	6.0	1.0	10.0	3.0

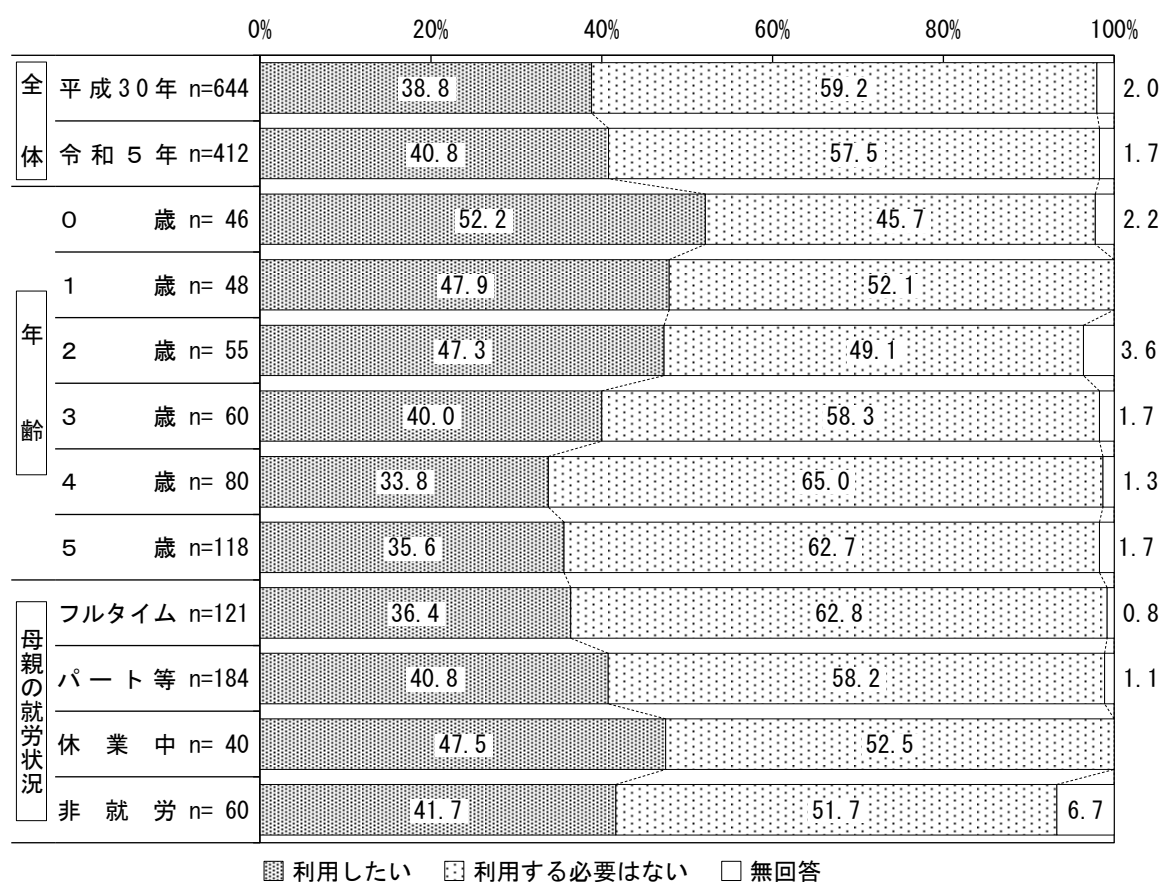
2 不定期の教育・保育事業の利用意向

(1) 不定期の教育・保育事業の利用意向

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期の教育・保育事業を「利用したい」と答えているのは40.8%です。平成30年と比べると、「利用したい」が2ポイント高くなっています。

「利用したい」が高いのは、子どもの年齢別にみると0～2歳、母親の就労状況別にみると休業中です。

図表 1－65 不定期の教育・保育事業の利用意向



(2) 不定期の教育・保育事業の利用目的

図表 1－66は、図表 1－65で「利用したい」と答えた人の利用目的をたずねた結果です。

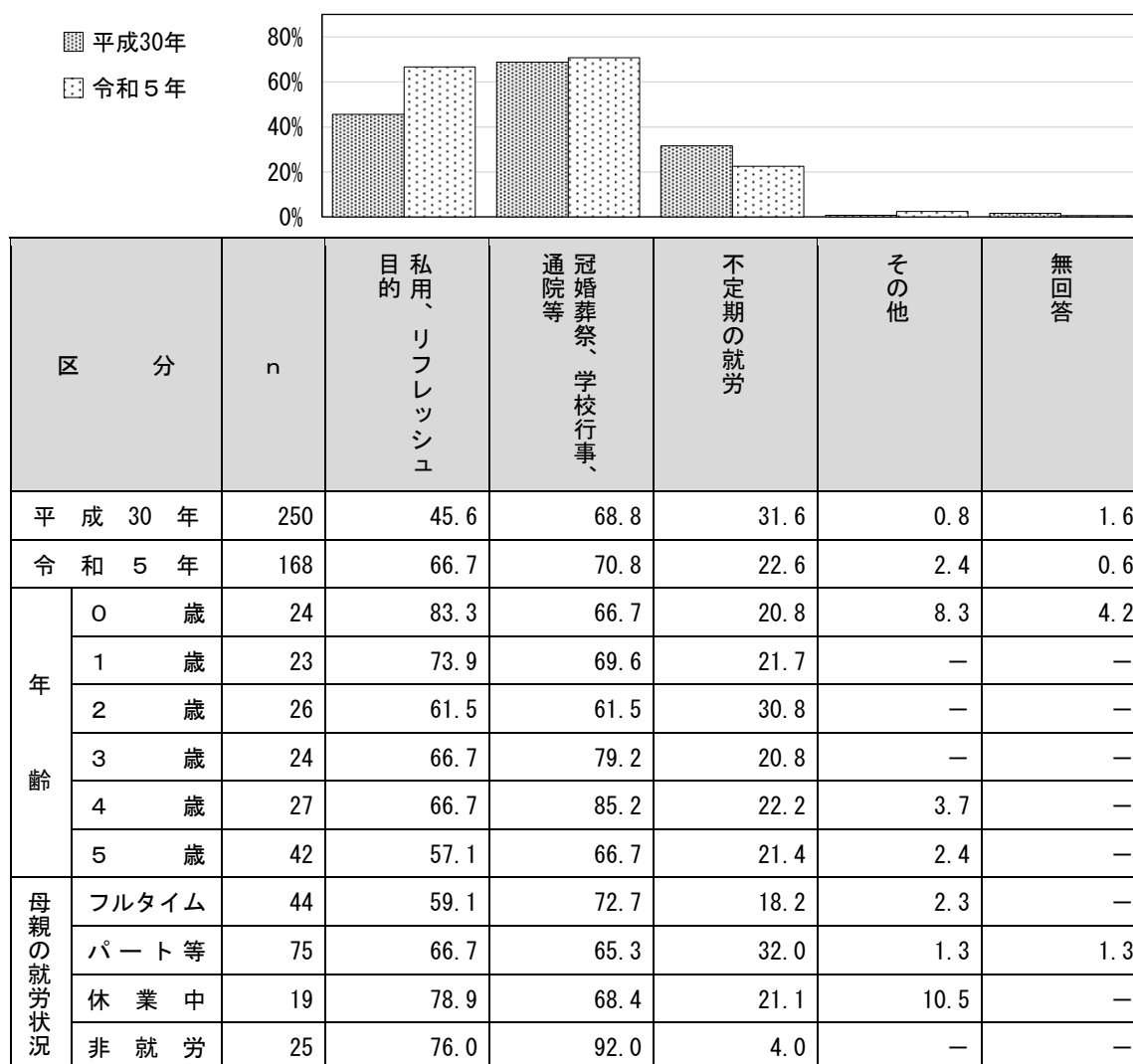
「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が70.8%と最も高く、次いで「私用、リフレッシュ目的」が66.7%、「不定期の就労」が22.6%となっています。平成30年と比べると、「私用、リフレッシュ目的」が21.1ポイント高くなっています。

図表 1－67で各目的別の1年間の利用希望日数をみると、「不定期の就労」の16.7日が最も多くなっています。平成30年と比べると、すべての選択肢において増加しています。

「その他」として、「保護者の体調不良、つわりなど」「出産時、出産後」という記載がありました。

図表 1－66 目的別の不定期の教育・保育事業の利用希望（複数回答）

単位：nは人、他は%



図表 1-67 不定期的に利用している教育・保育事業の平均利用希望日数

単位：日／年

区 分	私用、リフレックス目的	冠婚葬祭、学校行事、通院等	不定期の就労	その他
平成 30 年	10.2	7.3	15.6	10.5
令和 5 年	13.5	8.3	16.7	22.3

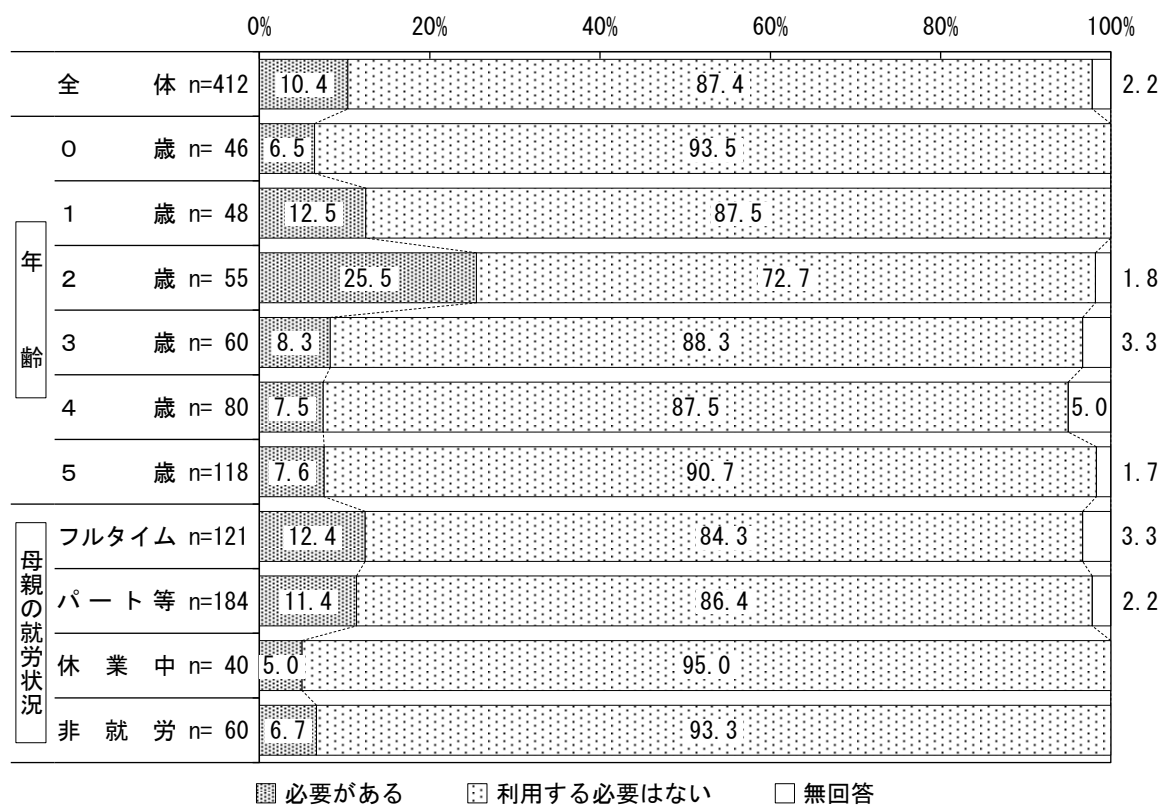
3 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向

(1) 子どもを泊まりがけで家族以外に預ける必要の有無

保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（きょうだい含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、子どもを泊まりがけで家族以外に預ける必要があると思うかたずねたところ、「利用する必要はない」が87.4%を占めており、「必要がある」は10.4%となっています。

「必要がある」は、子どもの年齢別では2歳、母親の就労状況別ではフルタイムおよびパート・アルバイト等が比較的高くなっています。

図表 1-68 子どもを泊まりがけで家族以外に預ける必要の有無

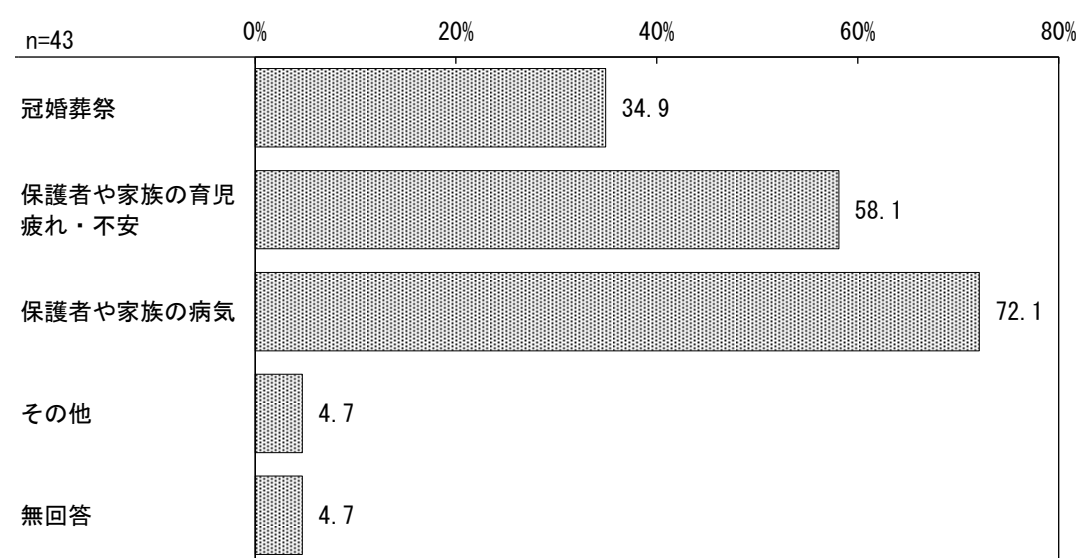


(2) 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用目的

図表 1－68で「必要がある」と回答している人に、短期入所生活援助事業（ショートステイ）（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）の利用目的をたずねたところ、「保護者や家族の病気」が72.1%と最も高く、次いで「保護者や家族の育児疲れ・不安」が58.1%、「冠婚葬祭」が34.9%となっています（図表 1－69）。

図表 1－70で各目的別の1年間の必要泊数をみると、「保護者や家族の育児疲れ・不安」の4.8泊が最も多くなっています。

図表 1－69 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用目的（複数回答）



図表 1－70 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の平均必要泊数

単位：泊／年

区 分	冠 婚 葬 祭	保 護 者 や 家 族 の 育 児 疲 れ ・ 不 安	病 気 保 護 者 や 家 族 の	そ の 他
平均必要泊数	3.6	4.8	4.6	2.5

第9 子ども・子育て支援事業の評価等

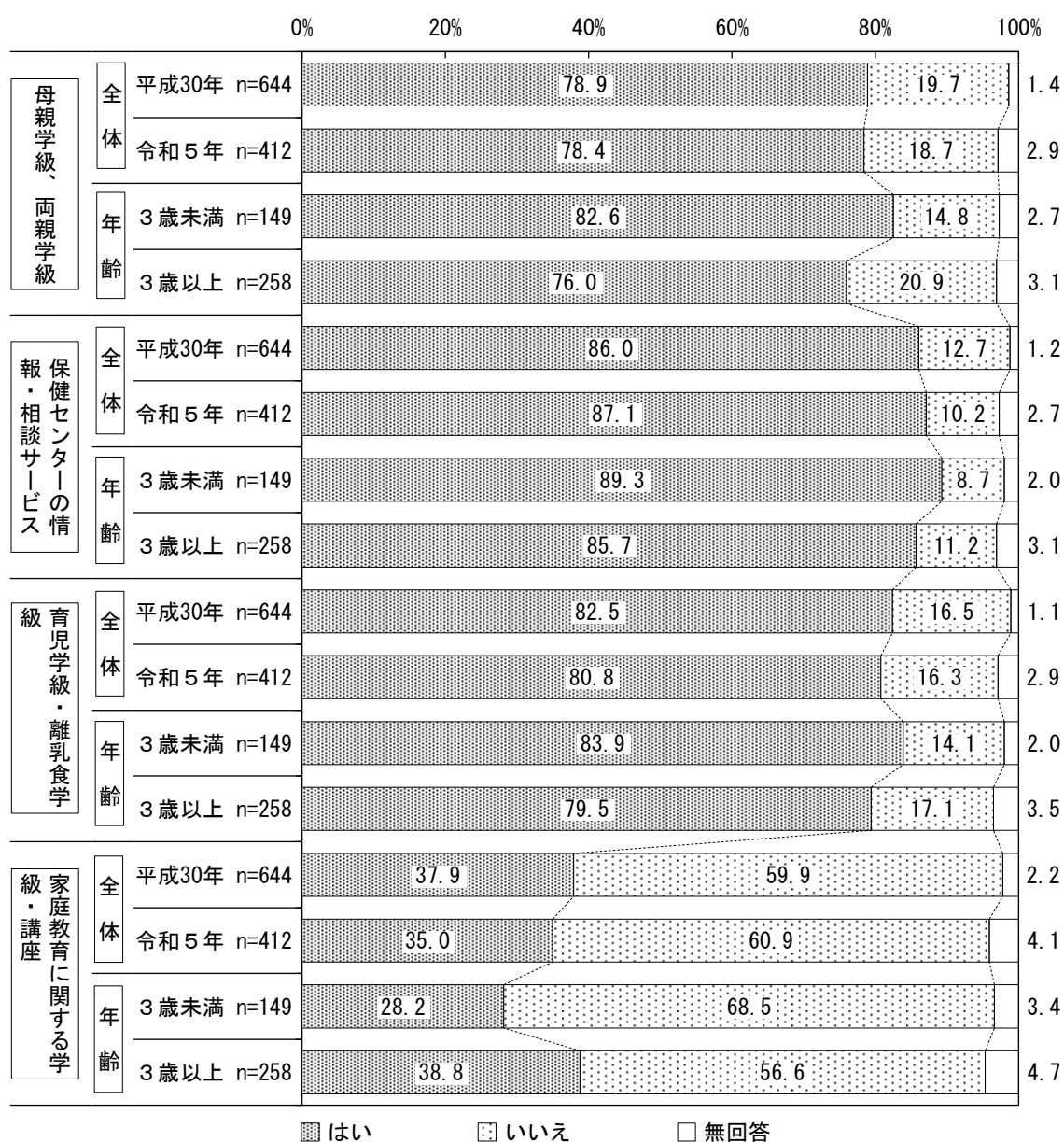
1 子ども・子育て支援の認知度・利用経験・利用意向・満足度

(1) 認知度

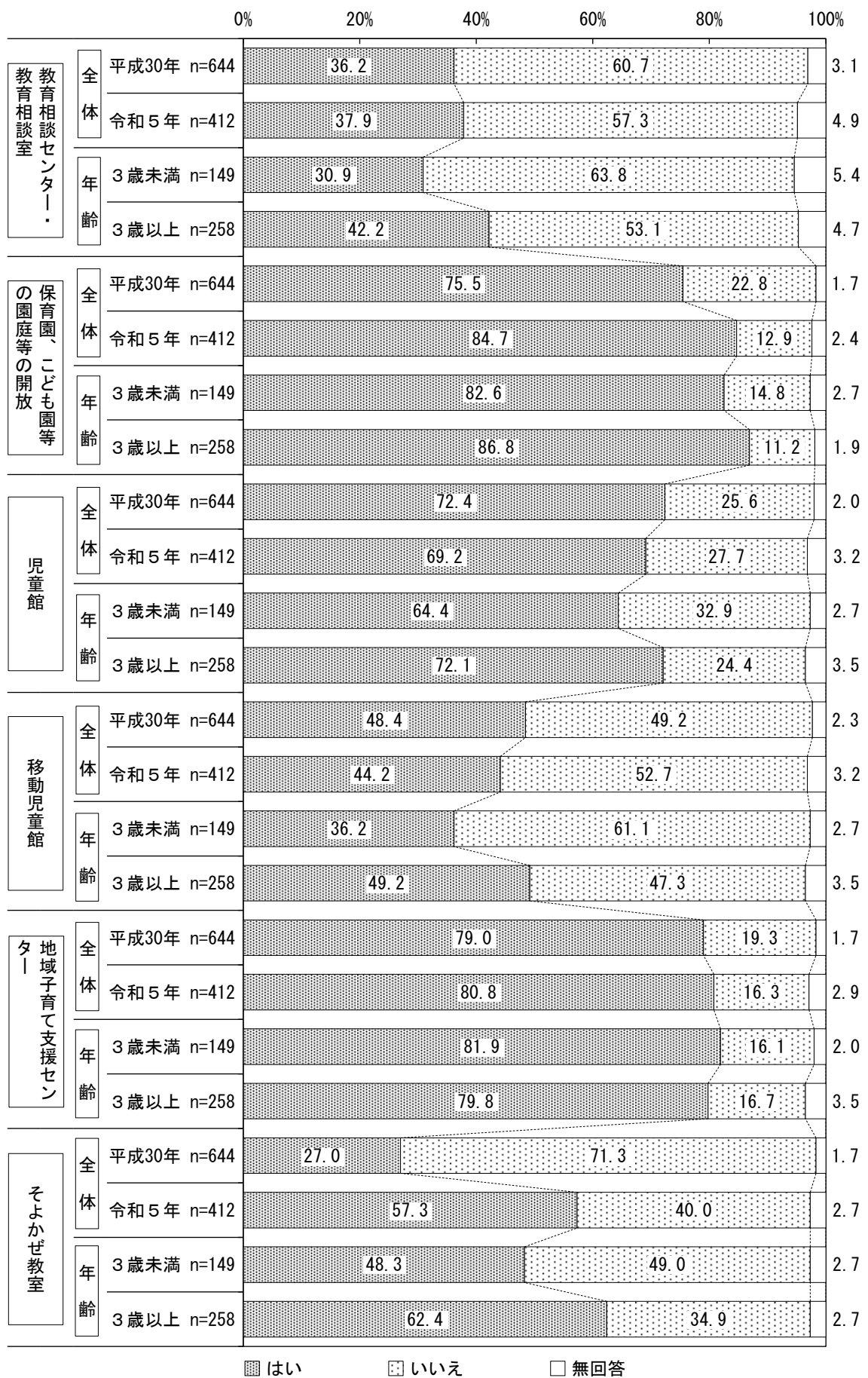
子育て支援に関連する16の施設・事業の認知度は、「保健センターの情報・相談サービス」(87.1%)、「保育園、こども園等の園庭等の開放」(84.7%) などが高い一方、「スイミング教室」(22.6%)、「子育て勉強室」(15.3%) などが低くなっています。平成30年に比べて「そよかぜ教室」が大幅に上昇し、「スイミング教室」が大幅に低下しています。

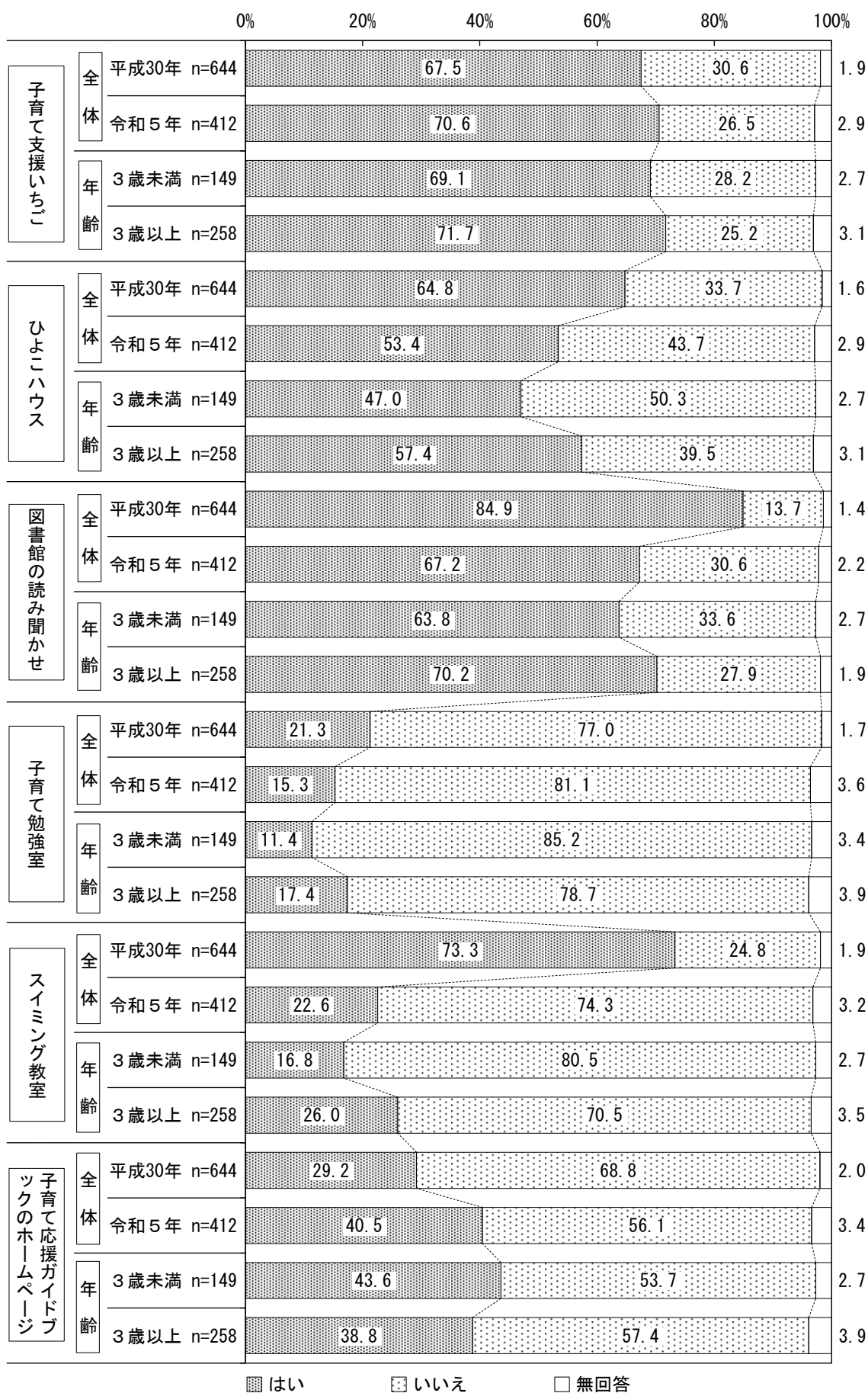
年齢別にみると、3歳以上に比べて3歳未満が高いのは、「母親学級、両親学級」「子育て応援ガイドブックのホームページ」などで、3歳未満に比べて3歳以上が高いのは「そよかぜ教室」「移動児童館」などです。

図表1-71 子ども・子育て支援事業等の認知度



■ はい ■ いいえ □ 無回答



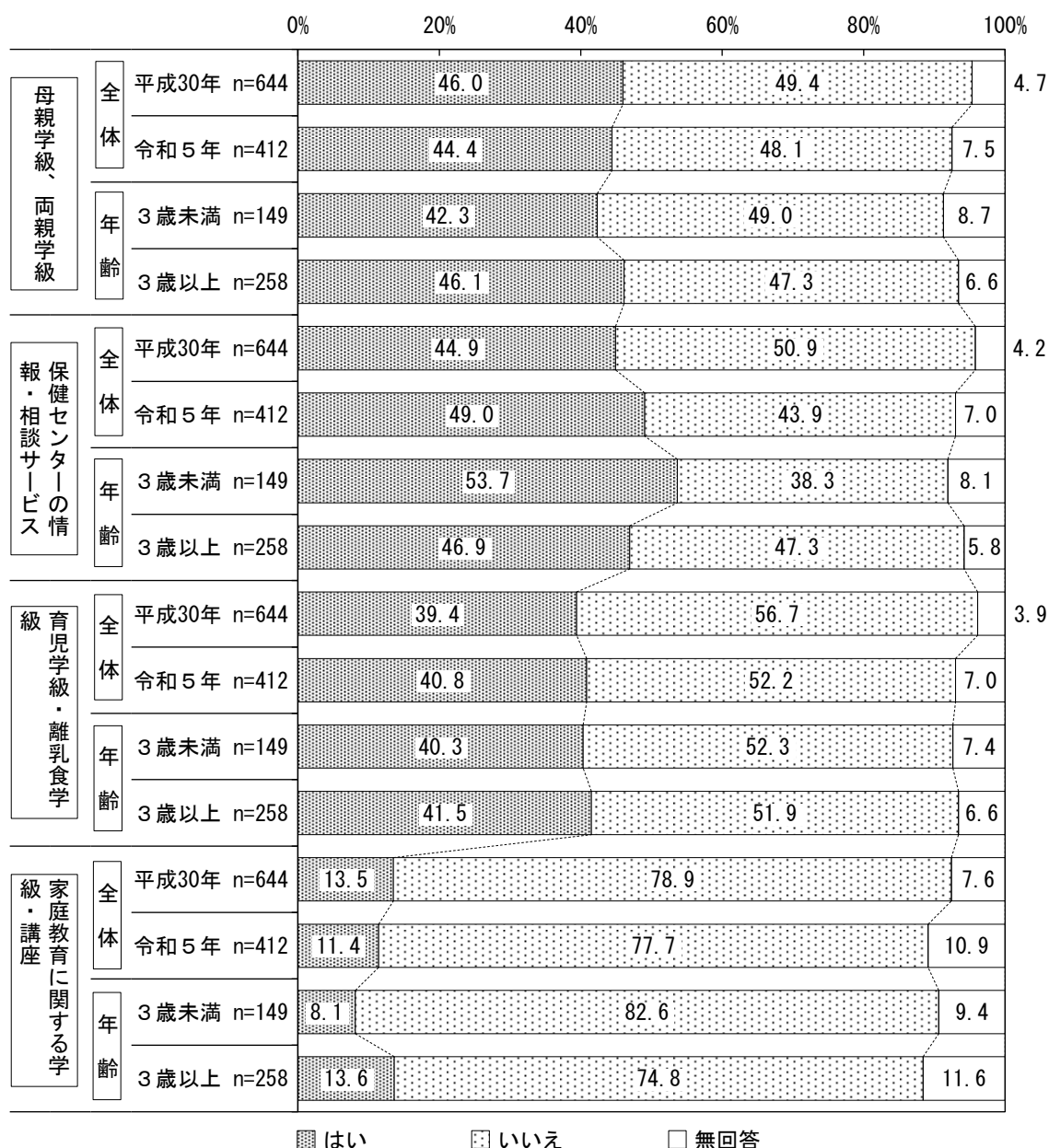


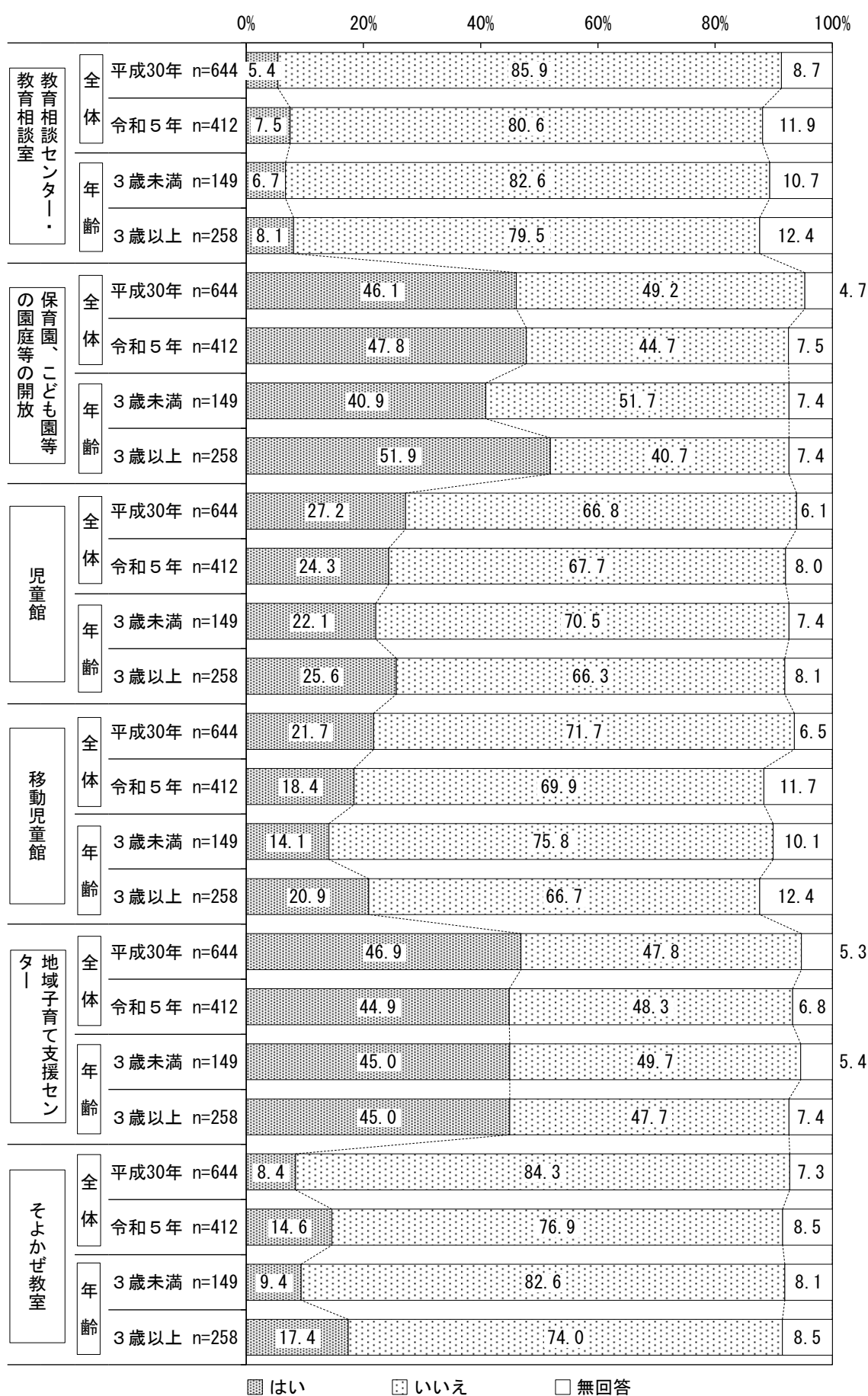
(2) 利用経験

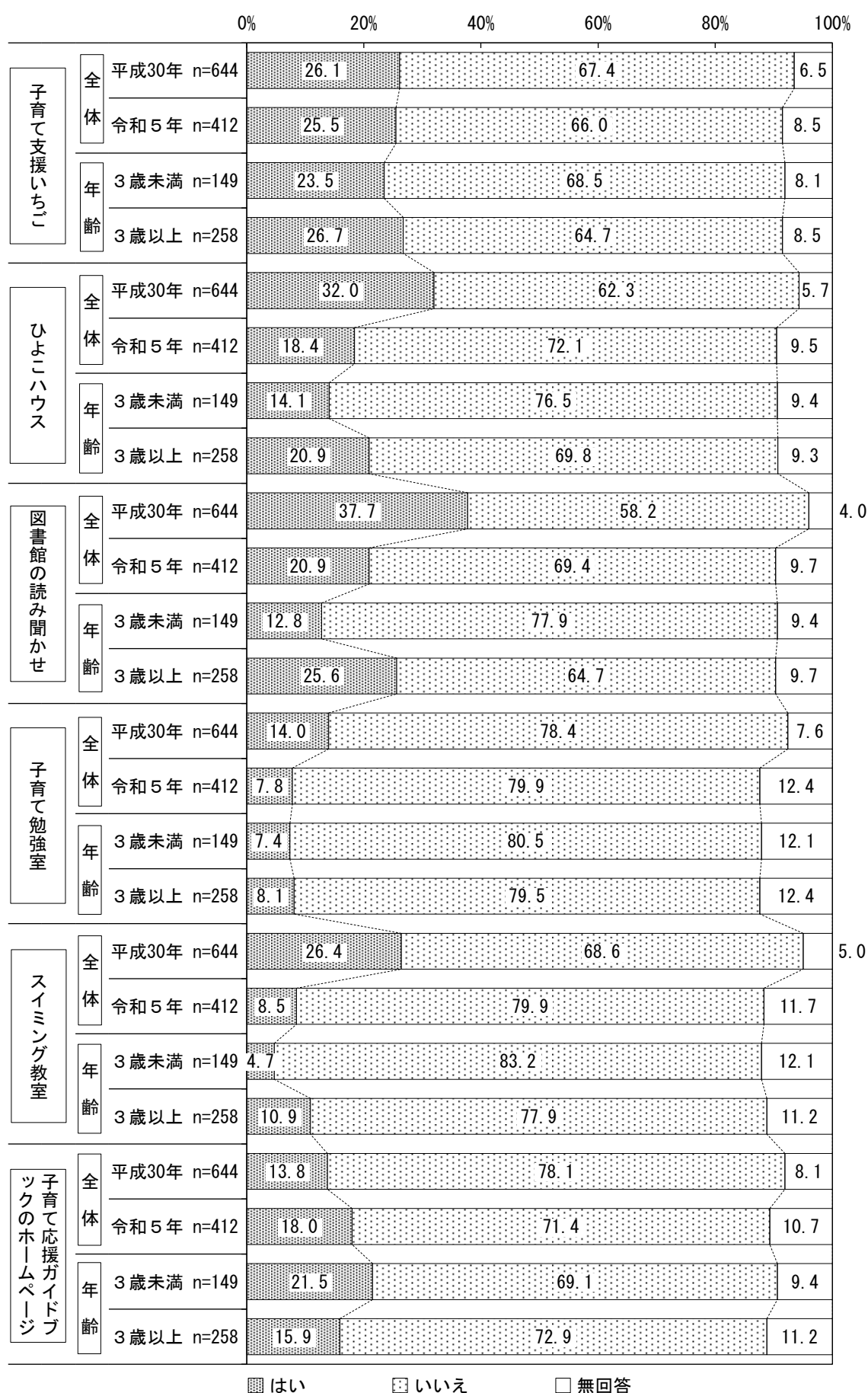
利用経験が高いのは、「保健センターの情報・相談サービス」(49.0%)、「保育園、こども園等の園庭等の開放」(47.8%)などで、低いのは「スイミング教室」(8.5%)、「子育て勉強室」(7.8%)、「教育相談センター・教育相談室」(7.5%)などです。平成30年に比べて「そよかぜ教室」が6.2ポイント上昇している一方、「スイミング教室」「図書館の読み聞かせ」「ひよこハウス」が10ポイント以上低下しています。

年齢別にみると、3歳以上に比べて3歳未満が高いのは、「保健センターの情報・相談サービス」「子育て応援ガイドブックのホームページ」で、3歳以上が高いのは「図書館の読み聞かせ」「保育園、こども園等の園庭等の開放」などです。

図表 1-72 子ども・子育て支援事業等の利用経験





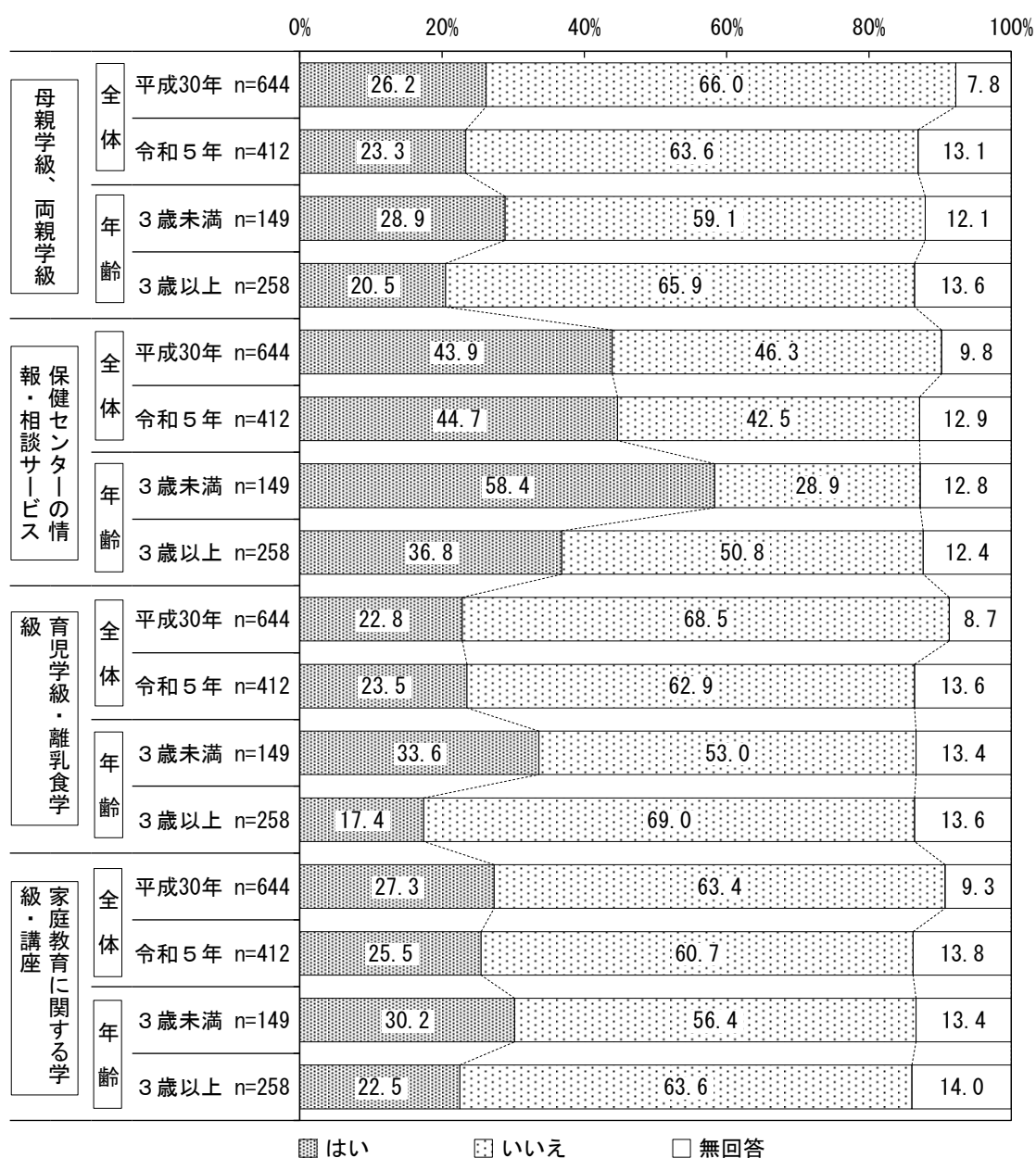


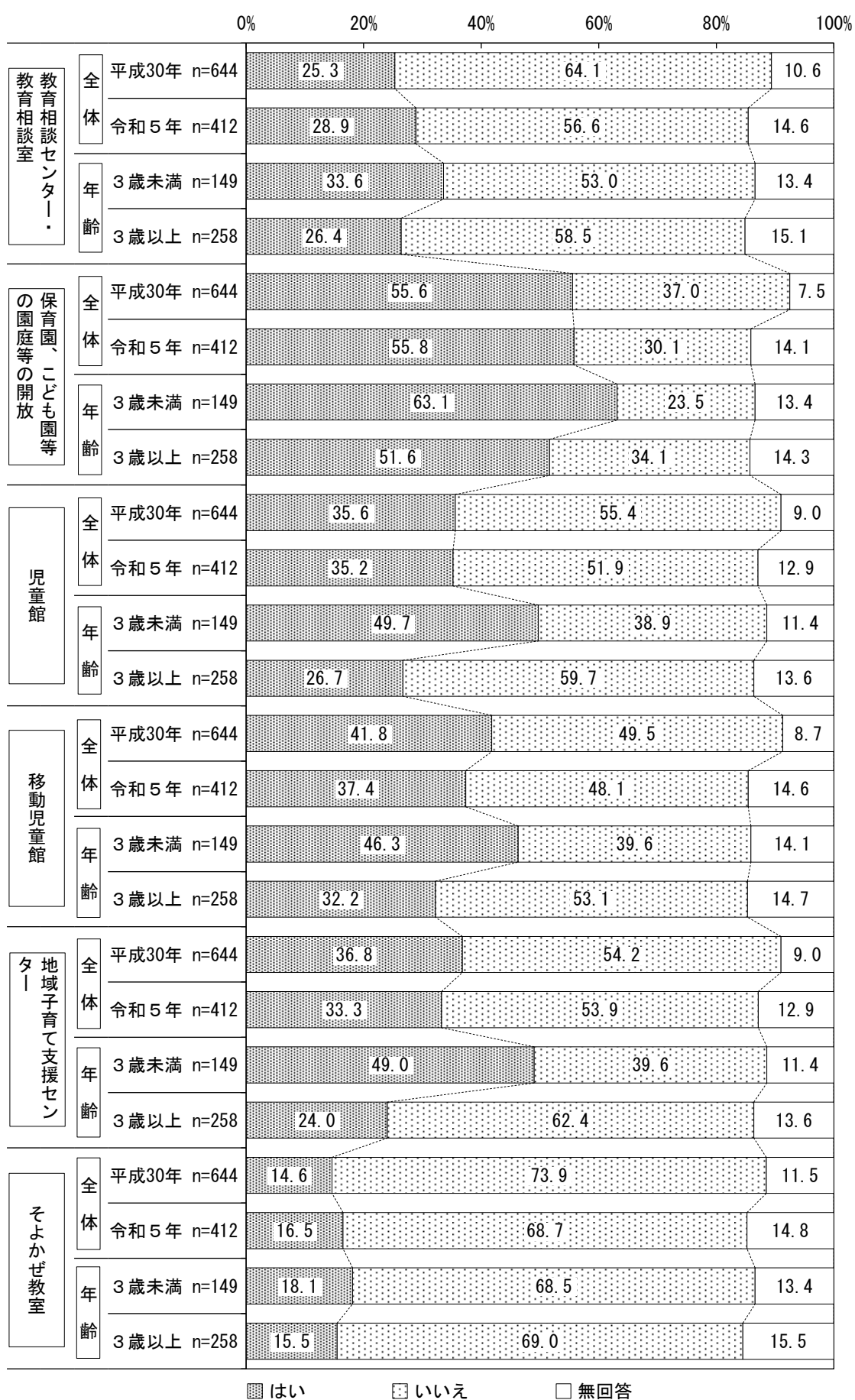
(3) 利用意向

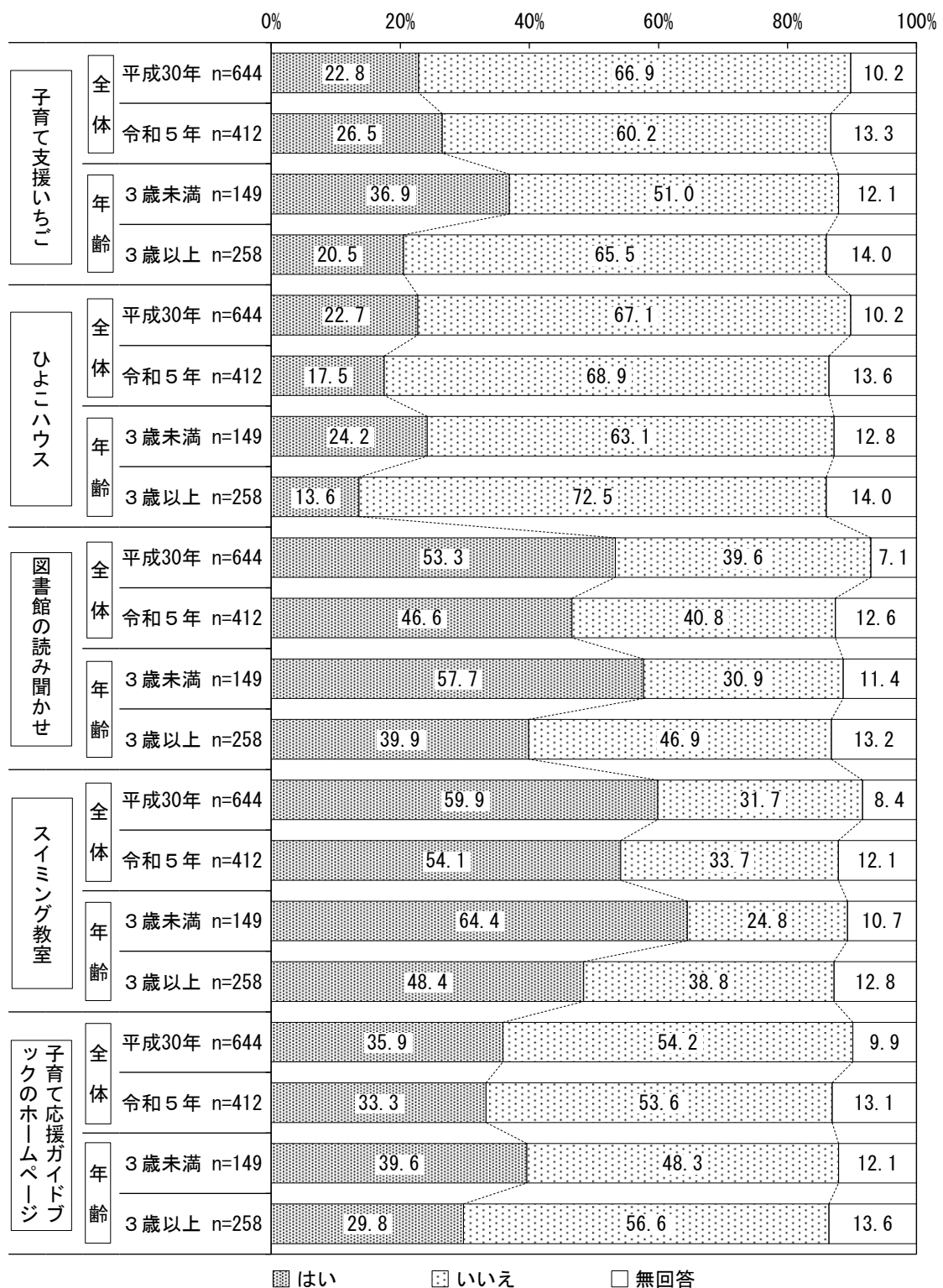
利用意向が高いのは、「保育園、こども園等の園庭等の開放」(55.8%)、「スイミング教室」(54.1%)などで、低いのは「ひよこハウス」(17.5%)、「そよかぜ教室」(16.5%)などです。平成30年に比べて「子育て支援いちご」「教育相談センター・教育相談室」などが上昇し、「図書館の読み聞かせ」「スイミング教室」「ひよこハウス」などが低下しています。

年齢別にみると、全ての施設・事業で3歳以上より3歳未満が高く、「スイミング教室」「保育園、こども園等の園庭等の開放」は60%を上回っています。また、「保健センターの情報・相談サービス」「図書館の読み聞かせ」も50%以上です。

図表 1-73 子ども・子育て支援事業等の利用意向







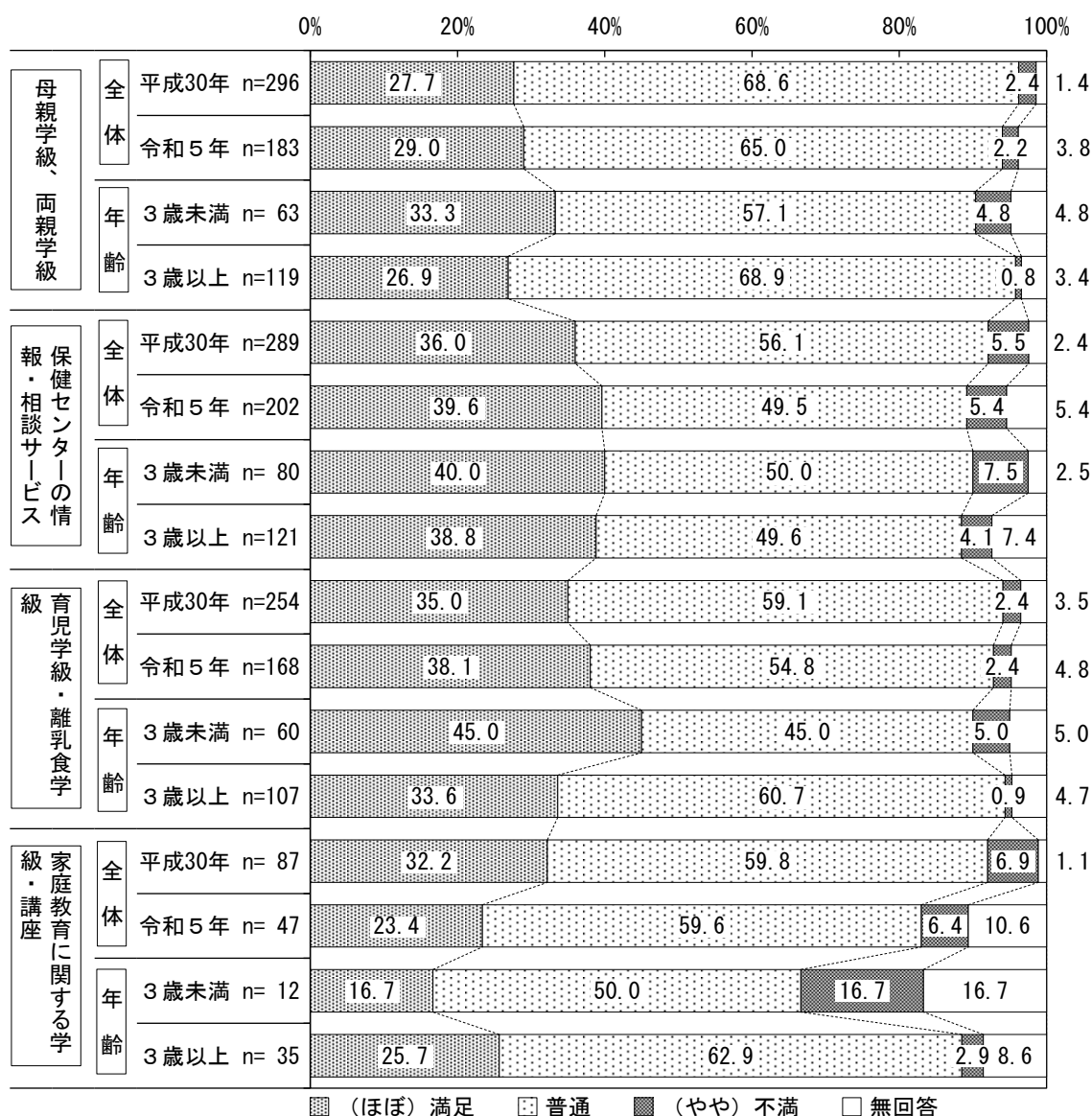
(注)「子育て勉強室」については令和4年度まで実施していた事業のため、利用意向をたずねていない。

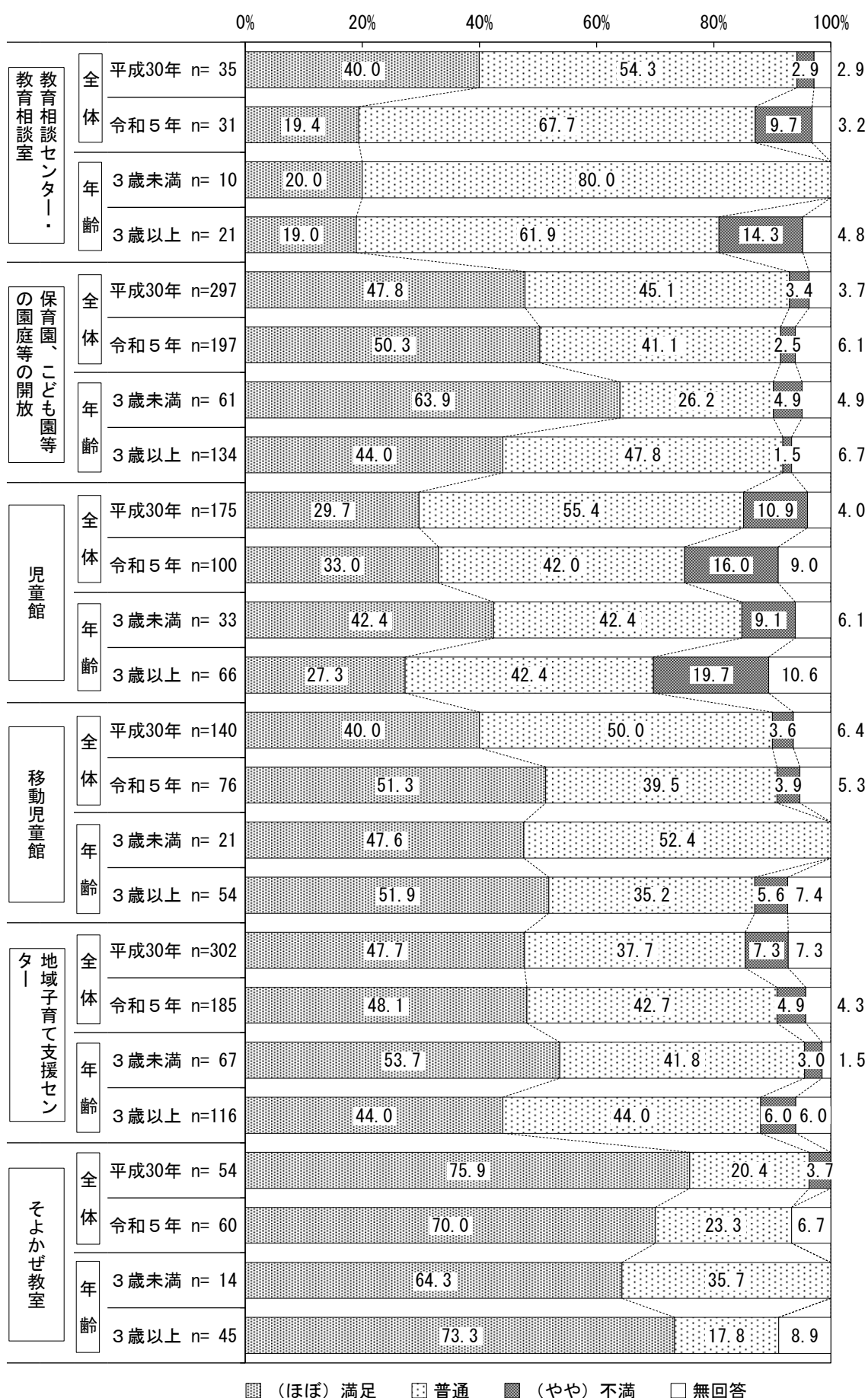
(4) 満足度

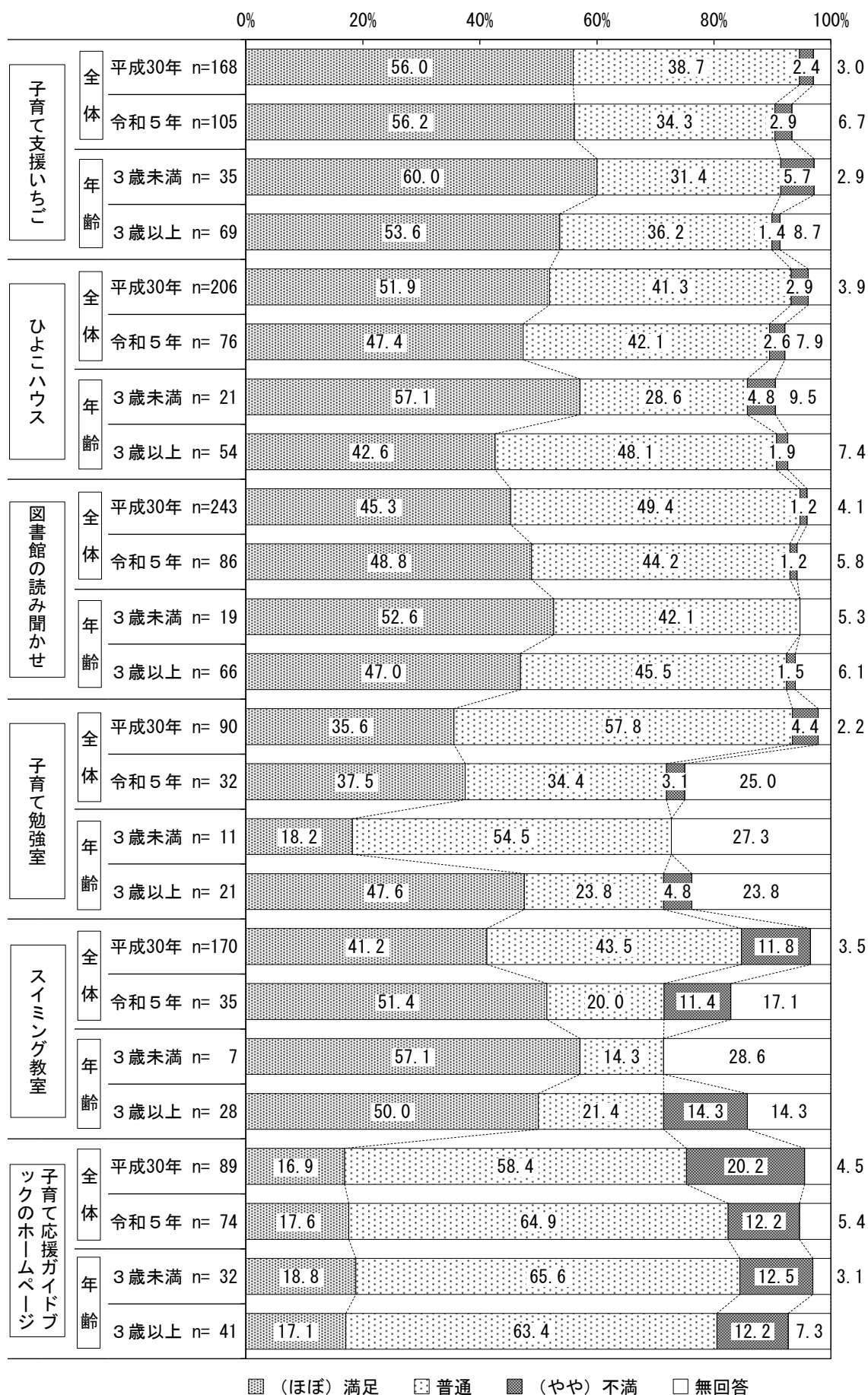
施設・事業を利用したことがある人の満足度については、「そよかぜ教室」の「(ほぼ) 満足」が70.0%と突出して高く、「子育て支援いちご」「スイミング教室」「移動児童館」「保育園、こども園等の園庭等の開放」も「(ほぼ) 満足」が過半数を占めます。「(やや) 不満」が10%以上となっているのは、「児童館」「子育て応援ガイドブックのホームページ」「スイミング教室」です。平成30年に比べて「移動児童館」「スイミング教室」の「(ほぼ) 満足」が10ポイント以上高くなっている一方で、「教育相談センター・教育相談室」「児童館」は「(やや) 不満」が5ポイント以上高くなっています。

「(ほぼ) 満足」を年齢別にみると、3歳以上に比べて3歳未満が高いのは、「保育園、こども園等の園庭等の開放」「児童館」「ひよこハウス」などで、3歳以上が高いのは「子育て勉強室」「家庭教育に関する学級・講座」「そよかぜ教室」などです。

図表 1-74 子ども・子育て支援事業等の満足度（利用経験者のみ）







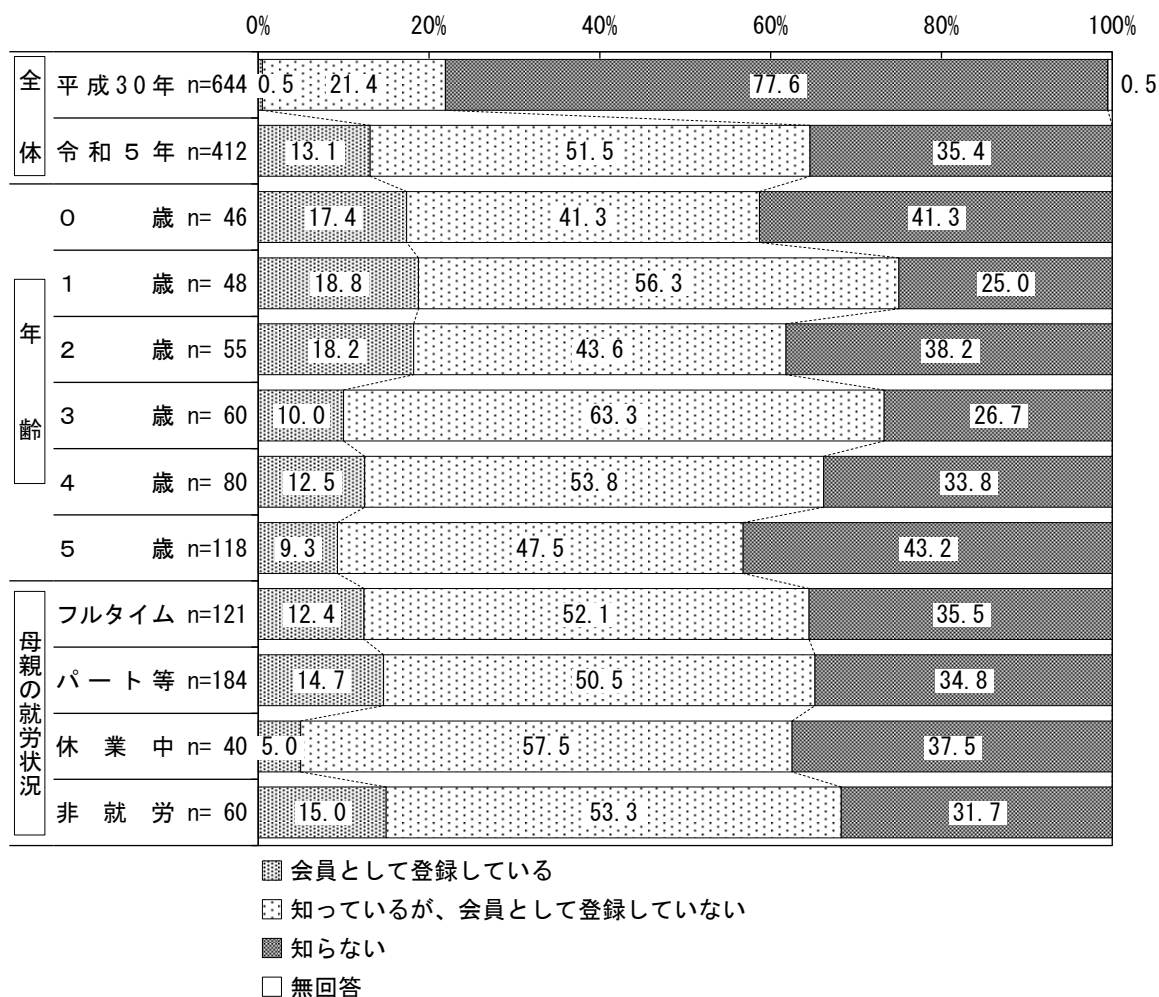
2 ファミリー・サポート・センターの認知度

ファミリー・サポート・センターについては、「会員として登録している」(13.1%)と「知っているが、会員として登録していない」(51.5%)とを合計した<知っている>は64.6%です。平成30年と比べると、「知っているが、会員として登録していない」が30.1ポイント、「会員として登録している」が12.6ポイント上昇しています。

子どもの年齢別にみると、3歳未満は3歳以上に比べて「会員として登録している」が高くなっています。また、1歳および3歳は<知っている>が70%以上を占めています。

母親の就労状況別にみると、休業中は「会員として登録している」が低くなっています。

図表1-75 ファミリー・サポート・センターの認知度



3 改善してほしい・利用してよかったサービス

(1) 改善してほしいこと・利用してよかったこと

図表 1-76は、「現在利用している保育園、認定こども園などの子育て支援サービスについて、改善してほしいこと、利用してよかったサービスがあればご記入ください」という設問に記述されていたことをまとめたものです。

図表 1-76 改善してほしいこと・利用してよかったこと

【保育園】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
・ 駐車場が遠い ・ 園の水はけが悪い ・ 今は仮の施設なので送迎が大変。できるだけ早く近いところに建ててほしい ・ 土曜保育を毎週お願いしたい。日曜保育もしてほしい。土曜も通園バスがあるとよい ・ 給食の白米を持参すること ・ 園庭開放、好きな時間に行けたらよい	・ アプリ上で園の様子がわかる写真を載せてくれているので安心だし嬉しい。連絡帳にいていねいにその日の様子を書いてくれる（3件） ・ アプリで連絡できる ・ 通園バスがある ・ バス通園で送迎をしなくなり時間に余裕ができた ・ 子同士の触れ合い ・ 詳しく内容が知れた ・ 全てにおいて助かっています

【認定こども園】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
・ 延長保育の拡充（2件） ・ 延長時の補食があるとよい ・ 午前中の参観や行事後に給食がなく、午後の預かりをしてもらえないのは、日数が多くなればなるほど有給がなくなり、参観や行事を精選しないといけなくなって、子どもに不安を与える ・ 土曜日も就労以外の理由で預けられるようにしてほしい ・ 土曜、希望保育時のお弁当 ・ 1号認定の時間を14時から16時にしてほしい ・ 1号の場合、夏休みに預けたくても1日の料金が高いのでなかなか預けにくい ・ 利用料金がもう少し安いと嬉しい ・ 町として、月途中からの就労の場合に当月から利用できず、翌月からの対象となってしまったこと ・ 外遊びが少ないこと ・ スイミングや体操など、課外活動の充実 ・ 忘れ物をしたら黒板に名前を書かれたり、ちょっとしたことで泣くと廊下に立たされたりがある ・ お便りなどがカラーではなく、写真がまったく見えない。経費削減だとは思いますが見えなくて意味がない。子どもの様子がみたい ・ 紙ベースのお知らせをすべてデータ化してほしい ・ 駐車場が混む	・ 安心して任せられる（2件） ・ 親身になってくれる ・ のびのび育ててくれている ・ 保育士さんがたくさんいて、子どもをちゃんと見ていてくれて安心する ・ 楽しく遊び、生活面を学べる ・ いろんなことに挑戦させてくれて、認めてくれるので色々な面で成長できる ・ 子どもが喜んで通園している ・ 一生懸命やってくれますし、親身になって話を聞いてくれます ・ 延長保育 ・ 年末年始、春、お盆の希望保育 ・ 1号認定の時の預かり ・ 割と急な申請でも受け入れてもらえること ・ 季節の行事をたくさん取り入れてくれて子ども達も楽しそうです。工作遊びも家ではなかなかできないので、これからもやっていただきたいです ・ 園庭開放 ・ 他の家族のイベントなどでどうしても子どもを見れない時間があるので助かる ・ 子どもに障がいがあり、加配の先生を付けながら保育してもらえ、日々色々な調整を話し合いながらしてもらえる。子どももかなり発達してくれた

・建物が古く、保護者用トイレが1つしかない。子ども用トイレもかなり古いため改修してほしい ・遊戯室を保育室として使用していること ・そよかぜ教室とこども園との連携ファイルがありますが、年に4回程度のやり取りしかないので、先生方もお忙しいとは思いますが、もう少し子どもの今の状況を園、そよかぜ、親で把握したり、相談できる機会があればいいなと思います	・入園前に慣らし保育に行けて、親子で様子を見られてよかったです ・毎日ありがとうございます
---	--

【ファミリー・サポート・センター】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
・突発的な依頼への対応 ・親の了承があれば夕食の提供他、対応してほしい ・病院受け入れ ・少し高い ・保健センターなどで直接支援サービスについて説明があったらよいと思う。わざわざ問い合わせないといけないと思うと、行くのにおっくうになる ・中央公民館での実施ばかりなので、色んな園での実施をしてほしい	・日祝日でも利用できる ・温かい人ばかりです

【病児・病後児保育】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
・病児受け入れの拡充 ・病院への書類の受け入れ他、手続きが対応者によりまちまち。最低限対応は一貫してほしい ・毎回おっしゃることが違う ・養老町にほしい	

【子育て支援センター】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
・以前利用したら、おもちゃなどはそろっていてよいが、外の遊具で遊んだらいけないと子どもに言うのは酷 ・外遊びもできるようにしてほしい ・遊具を増やして、遊べるとよい ・土日もやってほしい ・現状人数が増えてあふれていて、本当にサポートが必要な子が支援を受けられない状況となっています。早急に改善していただきたいです ・手のかかる子のサポートをもっとしてほしい ・授乳のパーテーションなどがあるとよい ・男性が利用している時、授乳に困る ・開催場所の中央公民館で、オムツ替えの台があるベビールームが常に開放されていなくて不便	・子ども一人ひとりにとてもいいで、きめ細かい指導をしてくださる。教材なども充実していて、先生方の工夫も素晴らしいと思う（2件） ・先生方が相談相手になってくれたり、安心して子どもを遊ばせられる場がある（2件） ・親同士の交流の場になったり、地域の情報がわかる（2件） ・親子ともにリラックスして楽しめる行事も季節に合わせてあるので、親が助かる（2件） ・1対1で子どもを見てもらえて、こちらがやってほしいことも話し合ってもらえた。入園前に色々教えてもらったので、入園後もスムーズだった。子どもも楽しみながら通えて、先生方にはとても感謝しています

・ こども園内にあれば、通わせる時に慣れるし一石二鳥なのに ・ 職員が利用していた親子の話を他の利用者に話したり、地域柄仕方ないかもしれないが、プライバシーがない ・ 情報発信をしてほしい	・ 先生たちが勉強熱心 ・ 先生方が気さくに話してもらえる ・ アットホームな雰囲気ですぐに利用しやすい ・ ママ友ができた。先輩からたくさんの情報をもらえた。いいリフレッシュになった ・ 制作は楽しかった ・ 「手形スタンプで遊ぼう」が思い出になった ・ 定期的にイベントをやってくれるし園の外でも遊ばせてくれるので、子どもが満足そうでいつも帰宅できます ・ いろいろな工作があったり、読み聞かせがあったり、スイーツなども盛りだくさん ・ たくさん子どもと触れ合える ・ 同級生と知り合えた ・ できることが増え、本人も少しずつ自信を持って生活できるようになった ・ おたんじょうびの冠プレゼント、とても嬉しかったです ・ 牛乳がもらえるのは嬉しい ・ 育児の相談が気軽にできた ・ ウォーターサーバーがあり、ミルクを作るのに役立った ・ 子ども食堂
--	---

【その他】

サービス名	改善してほしいこと	利用してよかったこと
家庭教育学級	・ 毎月同じことを聞いている時もある	・ 親子で楽しむ、はぐくむ。外部の方のお話やワークショップなどすごくよいです
児童館	・ 職員同士の関係があまりよくなさそう。若い職員へのあたりが強いのが見ていてつらい ・ 児童館の建物がほしい。園ではなく新しい遊具などもつくってほしい	・ 先生たちがとても親切でよくお話を聞いてくださる
図書館	・ 参加人数が少なく、せっかく開催していただいているのに残念 ・ イメージが暗い。せっかくあるのに利用しにくい	・ 子ども用の本がとても充実していて嬉しい。ジャンルも様々で子ども達もいつも楽しみにしている。読み聞かせは時間が合えば参加している（2件） ・ 子ども達が喜んでいる（2件）
保健センター	・ 電話でなければ問い合わせができない。用事がある場合、フルタイムで働いているのに、17時までに電話でしか連絡をとることができなくて不便。せめてメールやSNSでの問い合わせができるようにするか、18時半までは電話がつながるようにしてほしい	
延長保育		・ 兄弟の学校行事だと申請で無料になる
一時預かり	・ そもそも先生不足で利用できない。0歳から活用できるようにしてほしい	

長期休暇の保育	・ 冬季休暇時のお弁当をなくしてほしい。 子どもが冷たいご飯を食べないので、お弁当なしが、温かい昼食を食べられる工夫がほしい	・ 仕事の日に預けられるので大変助かっています
園庭開放	・ 笠郷小近くに公園が無いので園庭開放してほしい。子どもの遊べる場所が少なすぎる	
通園バス	・ 園のバスを17時台まで運行してほしい ・ 定員を増やしてほしい	・ 仕事がある日に送ってもらえること
給食	・ 現代においてスキムミルクを飲む必要があるのか	
(サービス名記載なし)	・ 役場に置いてある支援サービスのチラシが古くて行きづらい ・ 離乳食、ミルクの時間があるとイベントに参加しづらい ・ 現在利用している園に提出する書類に書きづらいのではないかと思います	

(2) 改善してほしいこと・利用してよかったことの見解の件数

図表1-77は、子育て支援サービスについて、改善してほしいこと、利用してよかった点について記述していただいた件数をまとめたものです。認定こども園、子育て支援センターについて、多くの要望や感謝の記述がありました。

図表1-77 意見の件数

単位：件

サービス名	改善してほしいこと	利用してよかったこと
保育園	6	9
認定こども園	19	19
ファミリー・サポート・センター	6	2
病児・病後児保育	4	0
子育て支援センター	12	25
その他	15	9

4 養老町は子育てのしやすいまちか

図表 1－78は、「養老町は子育てのしやすいまちだと思いますか。(子育てしやすいと思う点・子育てしづらいと思う点を自由にお書きください)」という設問に記述されていたことをまとめたものです。

図表 1－78 子育てしやすい理由と子育てしづらい理由

【子育てしやすい理由（88件）】

【子育て支援全般】 ・子育てしやすい（8件） ・子どもの数が少なく、手厚い支援を受けられてよいと思う（2件） ・子どもが少ない分、担任の目が行き届きやすいし、地域の方からも温かく見守っていただける ・自分が育った町だから子育てしやすい ・両親ともに近くに住んでいるので、子育てしづらいということはあまりないです ・以前よりとても改善され、過ごしやすくなりました 【保育園・こども園】 ・保育園に比較的入りやすい（6件） ・園の先生がとても温かく過ごしやすい（3件） ・土曜保育がありがたい（2件） ・保育園からこども園への優先入園がある ・0歳児から保育園、こども園に入園でき職場に復帰しやすいこと ・園の先生方は子どもが少ない人数でもできることをいろいろ工夫して日々保育してくださる ・子どもの数も少ないせいか、先生たちにもとても一生懸命やっていただき申し訳ないくらいです ・子どもが少なくコミュニティがせまい分、先生や他の親さん達とのコミュニケーションがとりやすい ・子どもが通っているこども園に関しては、いつも融通を聞かせていただいてとても助けられている ・今通っている保育園がとてもよいところなので助かっています ・通っている園に信頼がおける。我が子に合っている 【子育ての環境】 ・自然が多い環境なので子育てしやすい（13件） ・子どもが自然に触れ合える環境が多い（3件） ・小学校、こども園、保育園が割と近くにある ・保健センターと図書館が近いため利用しやすい 【公園・遊び場】 ・養老公園が充実している（7件） ・町の規模に対して、子育て支援センターや児童館など未就園児の子ども達が遊べる場所が多い（2件） ・園庭開放など通っていなくても利用ができ、子育てしやすい町だと思う ・公園や児童館があり、子育てしやすい	【町の支援】 ・保健センターの保健師、栄養士さんが親身に相談に乗ってくださる。話を傾聴してくださる方が多い（4件） ・支援センターなどもあってよいと思います（2件） ・子どもが保育園、こども園に入っていない時は子育て支援センターには大変お世話になりました。希望するこども園にはすぐには入れませんでしたが、子どもと2人きりの時間が多かったため、支援センターで人と話したり他のママさん達の状況や情報交換もできて心のよりどころでした。子育てがしづらいたと感じたことはあまりないです ・子ども向けの本は短く、読むのもあっという間なので、一人10冊も貸してもらえる図書館はとてありがたい ・子育てイベントが色々なところで開催されたり、普段から気軽に利用できる施設などもあり、ありがたいです 【病院・医療】 ・医療費が高校生まで無料なのが助かる（5件） ・かかりつけ医が信頼できる ・子どもの人数が多すぎないので、検診などはスムーズでゆっくりアドバイスも聞けて毎回とても気持ち楽です 【地域の支援】 ・近所の方が全体で子ども達を見守ってくれているので、本当に助かる。育児の相談や日頃のストレスなども親身になって聞いてくださる（3件） ・地区の皆さんに温かく見守っていただける（3件） ・近所の方々によい方が多い ・スーパーでも公園でもみんな子どもに優しいと思う ・お店の店員さんがとても親切な方が多くて助けられています ・どこに行ってもお子さんのいるファミリー層が多いように思うので、子連れでも色々なお店や場所に行きやすいです
--	--

【子育てしづらい理由（399件）】

【子育て支援全般】 ・子育てしづらい（38件） ・子どもが少なすぎて育てにくい（12件） ・養老町はお年寄りには優しくて、若者や子どもには優しくない（5件） ・子育て支援が少ない（3件） ・壁にぶつかった時に立ち直れるか不安（2件） ・私は他町の保育士として働いているが、支援がまったく違う。よいなと思うところもあるが、もっとしてほしいなと思うことも多い。もっと子育て世帯を助ける手立てを考えてほしい ・大垣市の方が手厚い ・施設や内容など池田町と比べると劣る ・子育て対策が他県、他市より少ない ・都会に比べて子どもに対する衣食住への安心安全を考える人が圧倒的に少なすぎる。昔と比べてアレルギーや自閉症などの人数が増えているその原因をもっと考えてほしい。子どもをもっと大切にしてほしいと心から思う ・町のシステムや環境は子育てに優しくない ・養老町で子育てをする利点がない ・不便 ・子どもを産んでもフォローが少ない ・子どもが少なく、一緒に遊ぶ子が自分の時代の半分以下である ・新参者には馴染みにくく、子育てがしやすいとは思えない ・仕事をしているふりをして2号認定にしている人がいるので、不平等だと思う ・いつも選択肢がない ・町民憲章を行事のたびに言うことがよく理解できない。内容が子育てではなく老人中心なのが疑問 【保育園・こども園】 ・子どもが少ない園や小学校は統合（8件） ・きょうだいで同じ保育園に入れない（3件） ・保育施設が少ない（2件） ・途中入園でこども園に入れない（2件） ・未満児から入園して、年長まで継続して入れる園が少ない（2件） ・上の子の学年が上がるにつれて下の子が第1子扱いになり、料金も変わる（2件） ・こども園でも通園バスがあるとよい（2件） ・保育施設を増やしてほしい ・近所から保育園などがなくなり、遠くの園に送迎しなければならない ・こども園、保育園の1歳児の入園人数を増やしてほしい ・年長になったら通わせる小学校の地区の保育園に入れないといけないので、通わせたい保育園に通えるようにしてほしい ・育児休業中だと上の子を保育園に入れられない ・高田地区の保育園で、一か所で乳児から幼児まで見てもらえない ・こども園の施設内の修復	・子どもが少ないので、こども園に送迎バスがない、アルバムが手作りになってしまうなど。サービスの縮小、選択ができないこともあるのかな、と思う ・園の様子がまったくわからない。もっと情報を発信してほしい ・保育士は手厚いのか人はいるけど、みられていない。加配の園児しかみていない ・他の市から転居してきたが、こども園に問い合わせた際の職員の対応が悪かった ・毎日水筒を準備するのは大変 ・こども園や保育の預かり時間が短い ・こども園での受け入れが7時半からと遅い ・保育時間について、19時まで可能であってほしい。他市町村よりも短い。延長保育の制度見直しが難しいのであれば、ファミリー・サポート・センターなど変わりのサービスの拡充に努めてほしい。勤めを続ける上で、補えるものがなければ現在の環境での子育てには限度がある ・こども園の延長保育の時間を、朝夕ともに ・延長を利用している子どもが少ない。フルタイムで働きやすい環境をつくってほしい ・土曜保育をしてほしい ・土曜保育を各園で実施していないことは不便 ・一か月に数回は土曜日も、働いていない人の子どもも園で預かってみてもらいたい ・土曜保育や希望保育の際にお弁当が必要なのは、働く親にとって負担でしかない ・お盆や年末年始、夜間に預けられる場所がなく仕事を休まなければならない。ファミリー・サポート・センターは単価が高いため、仕事のたびに依頼するとお金がかかる 【子育て支援センター】 ・支援センターが少ない ・支援センターの充実 ・支援センターの規模が小さい ・支援センターがいくつかあるためか、行っても他に子どもが来なかったり、あまり交流ができなかった ・子育て支援センターができたが、平日10～15時では利用する人が少ない。土日まで利用可にしてほしい 【その他の子育て支援】 ・病児保育を頼めるところが近くにない（11件） ・留守家庭児童の料金が安い（2件） ・保健センターが17時までしか連絡つかない ・町でしている講座の時間が学校の時間や園の時間に合わず、通わせられない ・イベントを増やしてほしい 【障がいのある子ども等への支援】 ・上の子がそよかぜ教室を利用させてもらい大変助かりましたが、就学後の支援は養老町では受けられません。放課後等デイサービスの施設も一か所もなく、自宅から遠いところに行っているの、本人の負担にもなっていると思う
--	---

・医療的ケア児を預かれる園が少ない ・障害者施設が全ていまいち 【経済的支援】 ・給付金などが少ない（7件） ・金銭面の援助を増やしてほしい ・町独自の子育て支援金などがあるとよい ・子どもを預けるのに費用がかかりすぎる ・経済的に子育ての支援が乏しく感じる。大垣市と合併していたらもう少しよかったのではないかと思いますところが多くさんなので、知り合いはみんな町外、大垣市に転出している。せめて同様並みにしてもらおうが一番ではないかと思う ・3歳未満の保育料も無償化してほしい ・出産祝い金の金額を上げてほしい ・インフルエンザなどの助成金アップ ・オムツクーポンやごみ袋を配布などしてほしい ・税金や保育料など他町より高い 【公園・遊び場】 ・公園が少ない（74件） ・子どもがのびのび遊べる施設がもう少しあるとよい（16件） ・公園はあるが遊具が少なく古い（6件） ・養老公園はとてよいと思うが、遠いので車でしか行けない（2件） ・子ども達が安全に遊べるスペースがほしい ・自転車の練習ができる安全なスペースがほしい ・3年程前に引っ越してきたが、子育て支援センターや公園が少ない。閉園になった園を平日夕方だけでも開放し園庭で遊ばせてほしい ・近くに小さい子どもが遊べる遊具や砂場がないので、支援センターなどの時間の決まりがあるところを利用しないといけなくなってしまう ・養老公園が17時までしか開いていない点。夏場は暑くて夕方しか公園で遊べない ・こども園のような屋外で楽しめる施設は充実しているが、雨でも風が強い日でも使いやすい室内遊び場をもっと充実させてほしい 【病院・医療】 ・小児科があまりないので困る（6件） ・耳鼻科、皮膚科がない（5件） ・産婦人科がない（5件） ・医療機関が少なすぎる（5件） ・大きな病院というと大垣市民病院になってしまう（2件） ・小児専門病院がない ・子育てしやすくはないです。小児科が少し遠いかなと思います ・西美濃厚生病院もサービスが縮小し、頼れる病院が少ないことは子育て不安要素 【まちづくり】 ・交通が不便（5件） ・お散歩するような遊歩道があると便利（4件） ・施設の建物が古い（3件）	・施設が古いので預けるのをためらう。きれいなところを増やしてほしい（3件） ・子ども向けの衣料店がないのでほしい（3件） ・ショッピングモールがほしい（2件） ・買い物が不便 ・スーパーなど歩いて行けない ・子ども向けのレストランがない ・子ども連れで気兼ねなく話せるお店があるとよい ・駅やバスが使いづらい ・なぜバスに子どもを乗せられないのですか ・施設を増やしてほしい ・図書館や児童館など高田地区に集中し、東部地区にはない ・下笠区域に気軽に行ける図書館がほしい ・スポーツセンターなどの施設が少ない ・インターナショナルスクールのような英語で日常を過ごす施設がほしい ・公共施設に子どもを想定したトイレがない 【防犯対策】 ・危険な道路が多く、小中学生の登下校が危なく見える。自分の子どもが就学したら心配になると思う ・人通りが少ない場所が多く、怖い ・車で近づいてくる人が怖い時がある ・近隣のナンバーの車が釣りをしに来るので、とても危なく感じる 【学校】 ・学校の人数も少ないので、近くの学校が合併してくれたらよい ・上の子が小学生に上がって楽になった反面、早く帰ってくる日が多い ・高校に通いにくい 【習い事・校外学習】 ・習い事や校外学習の選択肢があまりない（16件） ・プールの習い事ができない（3件） ・養老町内にプールがなくなったため、近隣市町村に行かなければならなくなった（2件） ・子育てしにくい。プールがなくなり、子どもの習い事場の場が減り、町外に出る必要があるため、習い事ができない。他の町は16時以降、園で習い事をできるが養老町の園にはない ・習い事ができる施設がほしい 【交流・人間関係】 ・年の近い子が少なく同年代との関わりがない（6件） ・子ども達の同世代があまり近所にいないので、地域の情報や何か聞きたい、相談したい時に聞ける人があまりいない（5件） ・親同士繋がりを作る機会が少ない（2件） ・田舎ならではの人間関係が窮屈に感じる（2件） ・町内のパパママの交流会だったイベントがもう少し多いと楽しいと思います（2件） ・コミュニケーションが取りづらい ・コミュニティが少ない。あるにはあるが自分には合わない
--	---

・人が少ないのでギスギスは少し避けられないかな ・お年寄りばかりを大切にしている印象。お年寄り子どもが触れ合える機会があってもよい ・地元の繋がりが強い印象があり、外から来た母としては横の繋がりができづらく、相談相手が増えない ・あちこちで物を燃やしている人がいて、子どもが咳き込んでいる 【地域活動・支援】 ・子どもが少ないのに子ども会の活動をしていて、親も休日に参加するのは大変だし、役員の業務も大変なのでなくしたほうがいい（12件） ・地区などにもよると思うが、未就学児の子ども会参加がないので、小学校へ上がる子どもの情報収集源が少なく困っている ・慣例で続いている役が多く、少子化とともに負担が大きくなっている ・地域の役割がありすぎて家を不在にすることが多くなり、家に残った人への負担が大きい ・町民運動会など、一日予定が埋まってしまう行事が多い ・下の子を連れての行事参加等の負担が大きい ・サロン、教室など集いの場が少ない 【情報提供】 ・どんなサービスがあるのかわからない。町のホームページも役に立たなかった	・子育てに関する情報が届いていないように思える ・令和3年に転入してきたが、子育て事業に関して「問41」のほとんどを知る機会がなかったので、これだけやっても利用することができなかった ・校庭や園庭に土日は行っていないのかわからない 【相談】 ・子育てに関して気楽に相談できる場所がない ・子育ての悩みに対して的確なアドバイスをしてもらえないと思う。専門的な立場からアドバイスやサポートがあると助かると思う ・以前、子育て相談を利用していた時、子どもがすごく偏食で悩んでいました。助言はしてくださったのですが、親が努力や工夫してもあまり変化はなかったのを覚えていて、それが半年くらい続いていました。偏食の変化はなかなか簡単なことではないと思いますし、ストレスになったりします。今はこども園で少しずつ解消しつつある悩みですが、できれば見届けという経過を気にしてくださると嬉しかったなと感じます 【行政について】 ・役場の人達に保育園の利用など様々なことを聞いてもよい話がない。相談する意味がわからない ・役場の雰囲気が暗く、行くたびに子どもが怖がって泣く
---	--

【どちらともいえない、その他（13件）】

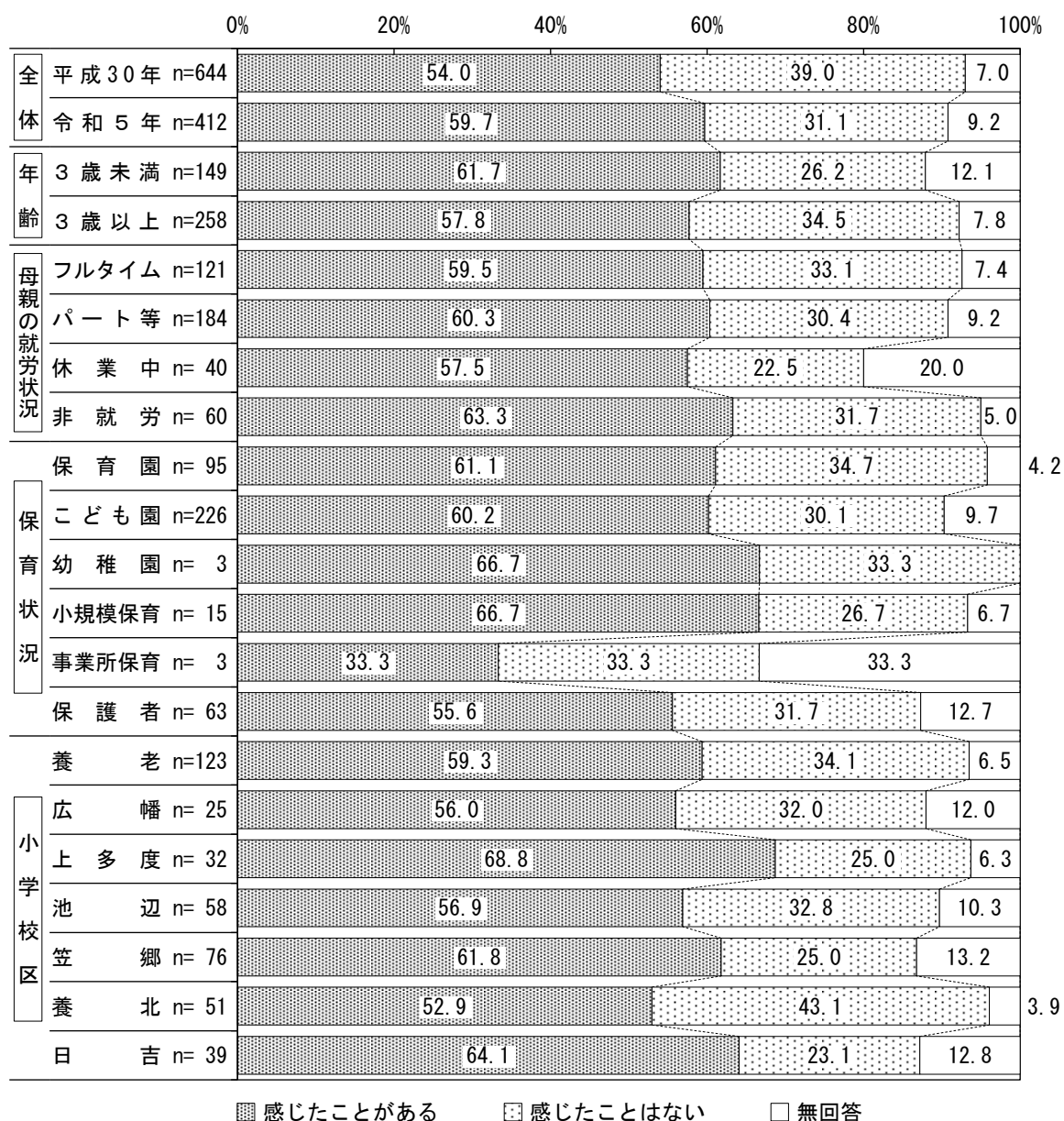
・どちらともいえない（5件） ・他の町で子育てをしたことがなく、比べようがないのでわからない（2件） ・他市から引っ越してきたが養老町はどことなく閉鎖的な町だと思う ・義実家が隣地にあること	・他を知らないが不満は特にない ・特に不便はない ・現状判断できません ・上の子が今年こども園に入園したばかりで、教育施設や学校のことかわかっていないので判断ができない
--	---

5 子育て支援を感じたことがあるか

地域、園、学校、職場、行政の関係施設などにおいて、子育て支援をしてもらっていると「感じたことがある」と答えているのは59.7%です。平成30年と比べると、「感じたことがある」は5.7ポイント高くなっています。

「感じたことがある」は、子どもの年齢別では3歳未満、母親の就労状況別では非就労、保育状況別では幼稚園および小規模保育施設、小学校区別では上多度が高くなっています。

図表 1－79 子育て支援を感じたことがあるか



「支援してもらっていると感じたこと」の内容は、図表 1－80のとおりです。

図表 1-80 子育て支援を感じたことの内容

【保育園・こども園】 ・子どもを保育してもらえる（19件） ・子育ての不安や相談を聞いてもらえたこと（13件） ・子どもの成長をともに支えてくれる（6件） ・トイレやお箸の使い方など園で教えてくれる（3件） ・こども園を利用させてもらっている（2件） ・今通っている保育園がとてもよい（2件） ・保育園でいろいろな体験をしてくれる（2件） ・長い時間園で子どもを見てもらえる（2件） ・土曜保育がありがたい（2件） ・園には親だけではできないことを助けてもらえる ・先生がきょうだいの名前を把握してくれており、何かあった時も説明しやすい ・園の先生たちが子ども一人ひとりをしっかり見て、園の様子を伝えてくださること ・定期的な面談があったり、日々の様子を教えてもらえること ・一時保育で、突然のお願いにも関わらず対応してもらえた ・長期休暇にも見てもらえる ・日常生活や人間関係の教育 ・障がいのある娘の病院に行くことが多いため、バスの送迎時間の融通を利いてもらったり色々配慮をしてもらえる ・園のバスの送迎がありがたい 【町の子育て支援】 ・子育ての不安や相談を聞いてもらえたこと（13件） ・そよかぜ教室の利用ができたこと（6件） ・子育てイベント（3件） ・子育て支援センターを利用してよかった（2件） ・児童館など利用してみて、小さい子向けの制作や遊びを教えてもらえて楽しめたこと ・ファミリー・サポート・センターを通じて 【学校】 ・学校に相談に乗ってもらえた（11件） ・子どもの成長をともに支えてくれる（6件） ・先生がきょうだいの名前を把握してくれており、何かあった時も説明しやすい	【職場】 ・子どもが体調不良の際、早く仕事を休ませてもらえた（16件） ・子ども優先で仕事の働き方を選択できている（10件） ・職場での育休延長や育短などの対応、託児所の利用など（6件） ・子連れ出勤できる（3件） ・職場で理解をしてもらっている（2件） ・育休が取れたこと ・温かく見守ってもらえている。育休も十分に取れる ・有給休暇が取りやすい ・働けるのがとても助かります 【経済的支援】 ・助成金、給付金等（9件） ・児童手当など（7件） ・医療費免除（2件） ・予防接種など（2件） ・出産祝い金をもらえたこと ・ひとり親なので金銭的に助かっている ・お金が他の地域よりもらえる ・マイレールチケットの発行 【地域活動・支援】 ・地域全体で子どもを見守ってくれている（4件） ・登下校で見守ってくださる地域の方々 ・子どもが楽しめる地域の行事が行われている ・電車を譲っていただけ 【その他】 ・子どもに対して親身になってくれる（11件） ・子育ての悩みを聞いてもらって一緒に改善策を考えてもらえたこと（2件） ・子どもの食事について ・偏食が少しずつ治ってきた ・療育施設では助かっています ・子どもの様子を気にかけてくれる ・子育ての相談に乗ってくれる ・子どもについて色々教えてもらえる ・融通を聞かせてもらっている ・友達との交流
---	---

第10 子育ての状況

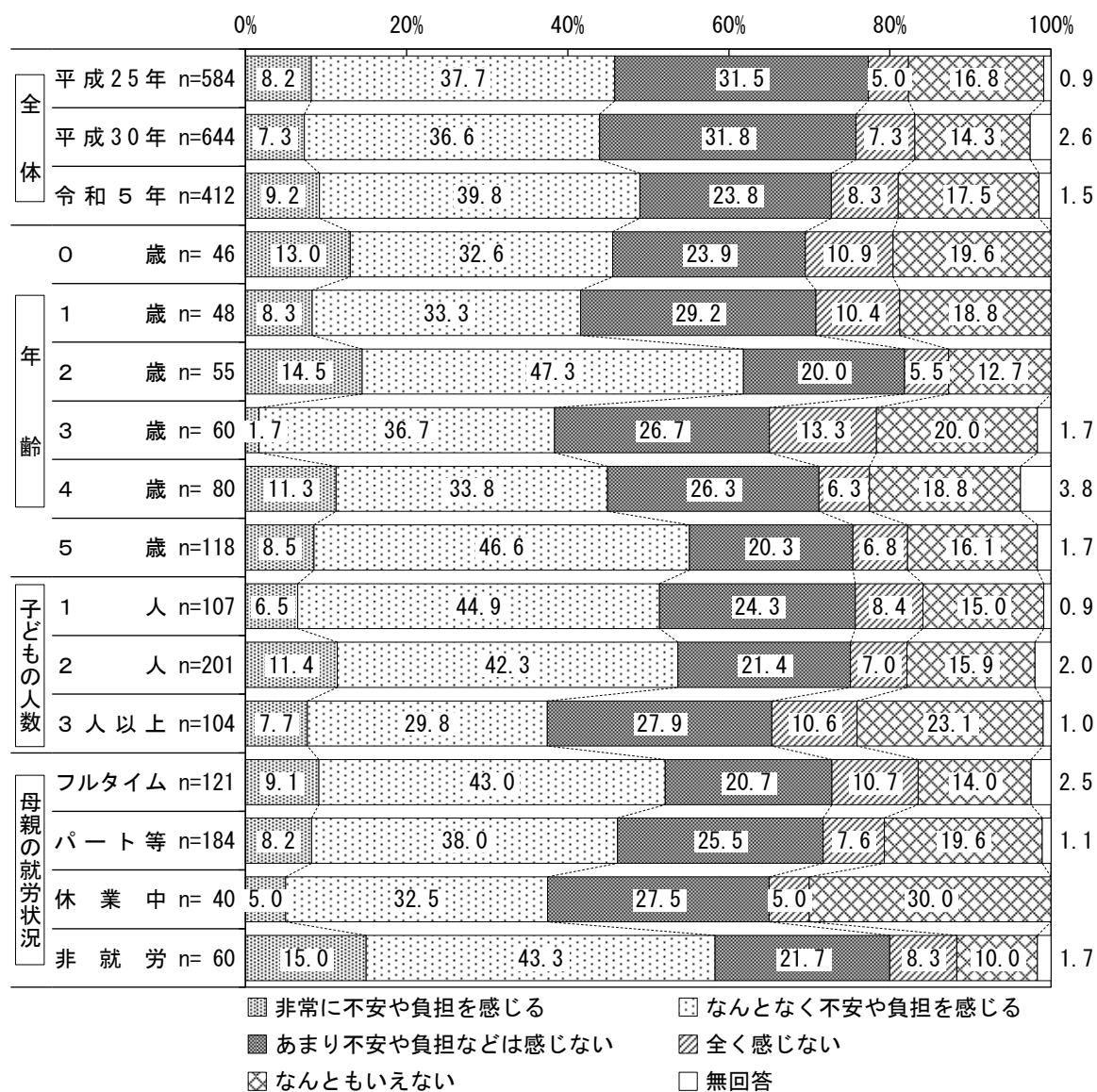
1 子育てに関する不安感や負担感

子育てに関する不安感や負担感については、「非常に不安や負担を感じる」(9.2%)と「なんとなく不安や負担を感じる」(39.8%)を合計した＜不安や負担を感じる＞が49.0%となっています。＜不安や負担を感じる＞は、平成25年から平成30年にかけては低下した一方、今回の調査と平成30年を比べると5.1ポイント上昇しています。

子どもの年齢別にみると、2歳は＜不安や負担を感じる＞が61.8%と高くなっています。

子どもの人数別に見ると、3人以上は＜不安や負担を感じる＞が37.5%と比較的低くなっています。

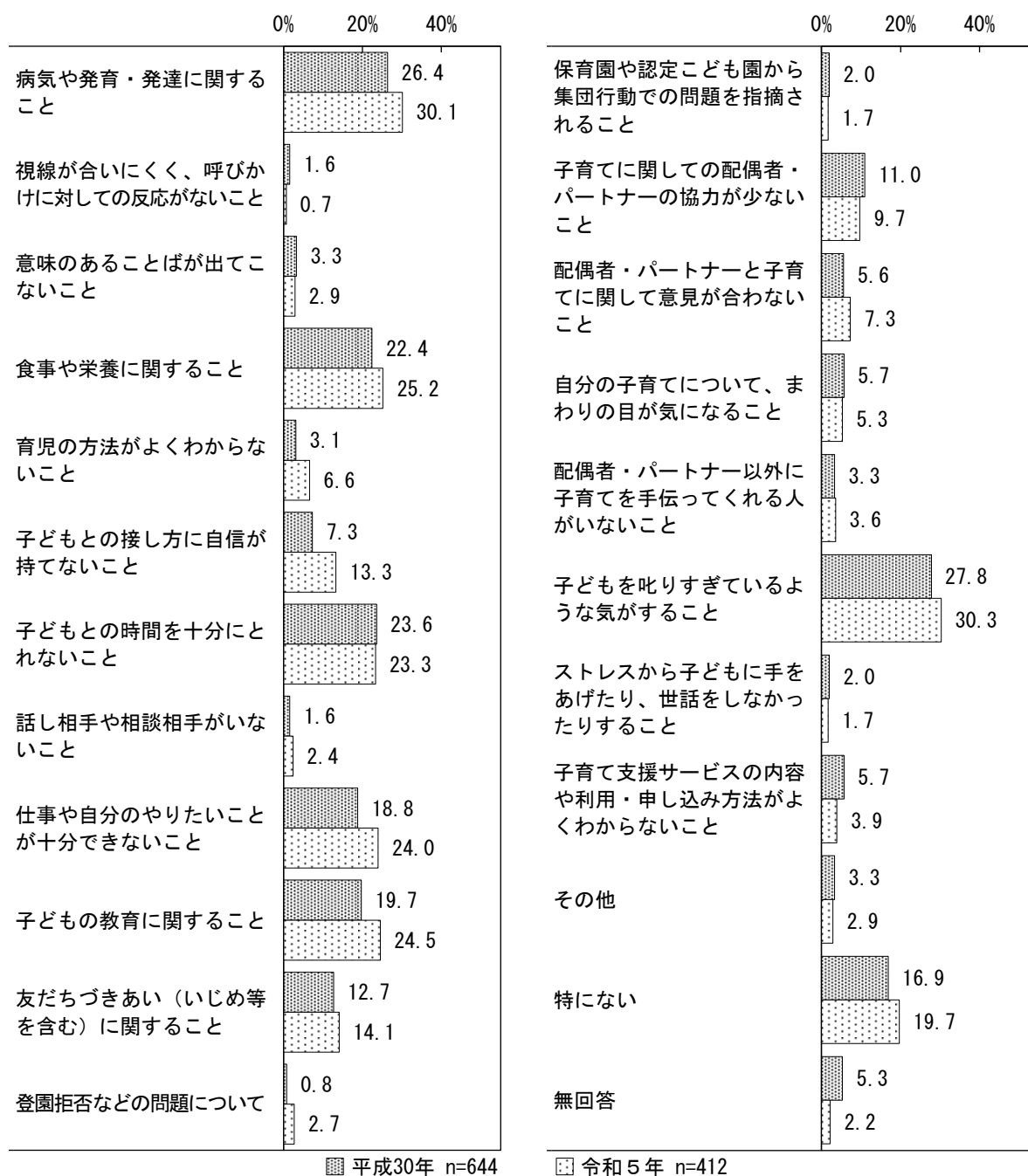
図表1-81 子育てに関する不安感や負担感



2 子育てに関して悩んでいること

子育てや子どもの成長に関して、日常悩んでいること、または気になることをたずねたところ、「子どもを叱りすぎているような気がする」と30.3%と最も高く、次いで「病気や発育・発達に関する」と30.1%、「食事や栄養に関する」と25.2%などとなっています。平成30年と比べると、「子どもとの接し方に自信が持てないこと」および「仕事や自分のやりたいことが十分できないこと」が5ポイント以上上昇しています。

図表 1-82 子育てに関して悩んでいること（複数回答）



子どもの成長に関して、日頃悩んでいることまたは気になることの「その他」として、図表1－83の内容が記載されていました。

図表1－83 子育てに関して悩んでいること（その他）

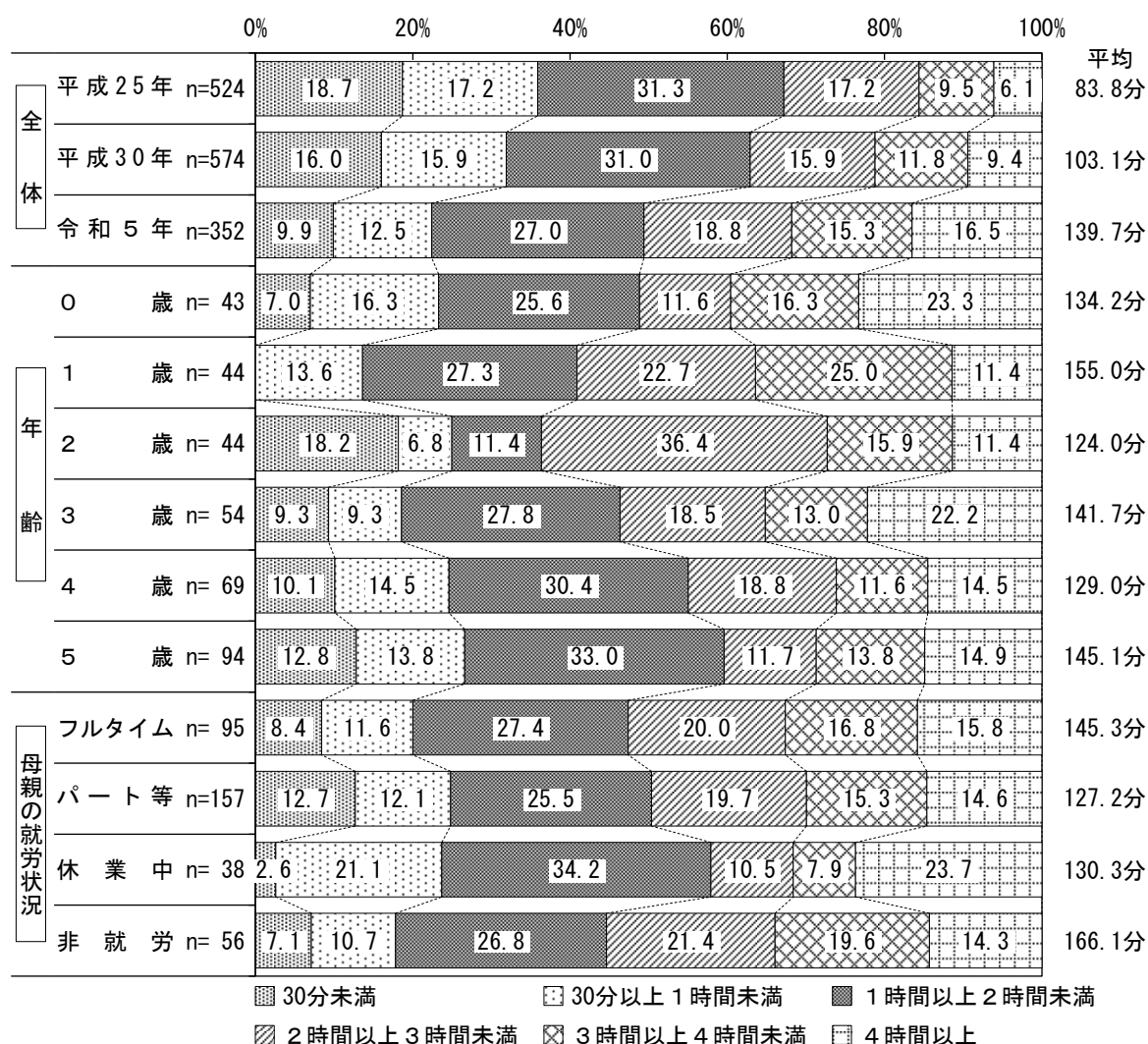
・教育資金について、将来が不透明で不安（2件） ・生活資金 ・YouTubeやゲームをやった過ぎて子どもが泣く ・言葉づかい ・園に行きたがらない ・一時預かりなど気軽に子どもを預けられるサービスがあるものの機能していないこと	・仕事と子育ての両立の難しさ ・ひとり親で子どもが娘のため、歳が上がるにつれての対応 ・母の寝不足が続くこと ・子育てではなく町全体の変化が見られず、養老町の未来に期待をもてない
--	--

3 父親の1日の子育てや家事の時間

父親は子育てや家事を1日どれくらい分担しているかたずねたところ、「1時間以上2時間未満」が27.0%と最も高く、平均時間は139.7分です。平成25年および平成30年に比べて平均時間は長くなり続けており、平成25年に比べて55.9分、平成30年と比べて36.6分長くなっています。

平均時間が長いのは、子どもの年齢別では1歳、母親の就労状況別では非就労です。

図表1－84 父親の1日の子育てや家事の時間



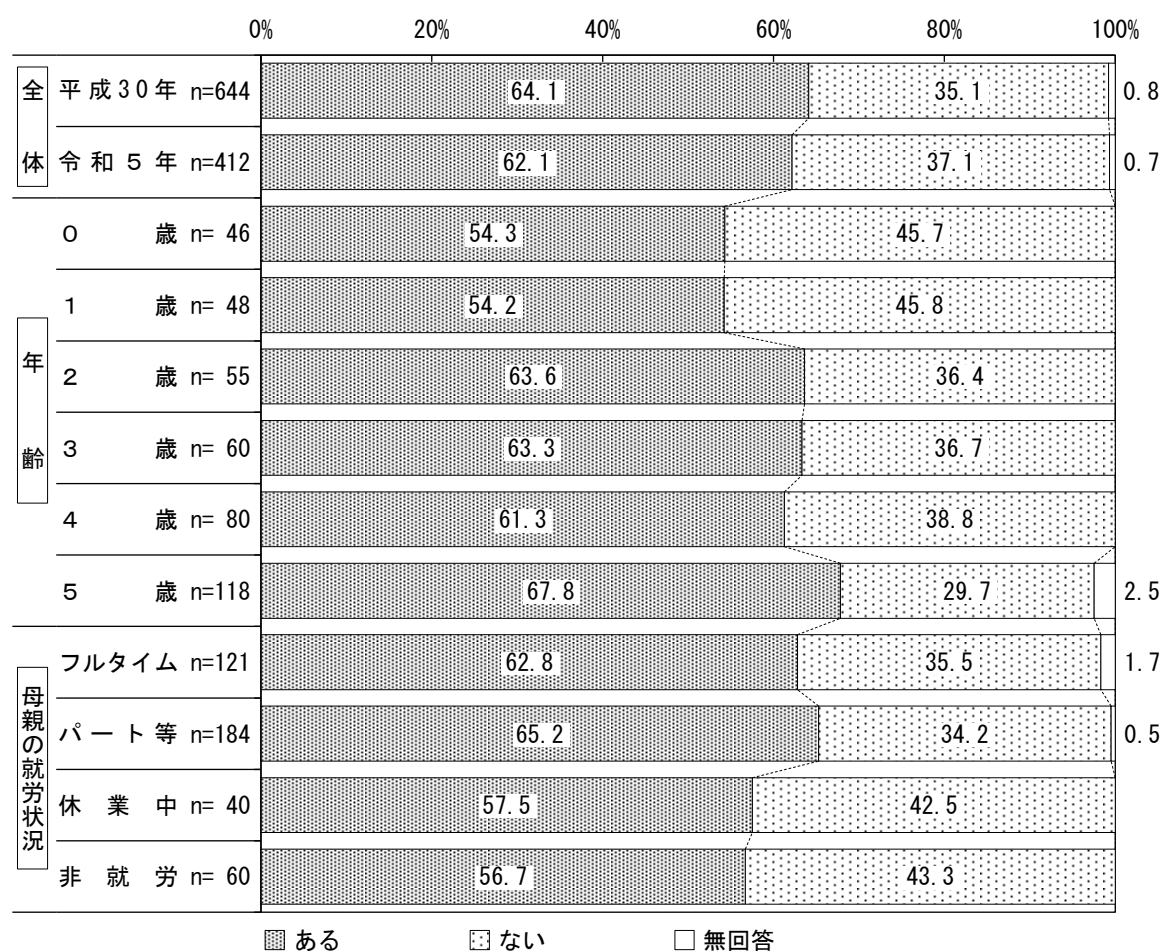
4 子どもへの暴力

(1) 子どもに暴力をふるったことがあるか

子育てをしている中で、ストレスを感じ、感情的にたたいたり、怒鳴ったりしたことがあるかを聞いたところ、「ある」が62.1%、「ない」が37.1%となっています。平成30年と比べて、「ある」が2ポイント低下しています。

「ある」は、子どもの年齢別では5歳、母親の就労状況別ではパート・アルバイト等が高くなっています。

図表1－85 子どもに手をあげてしまう、あるいは手をあげそうになったこと

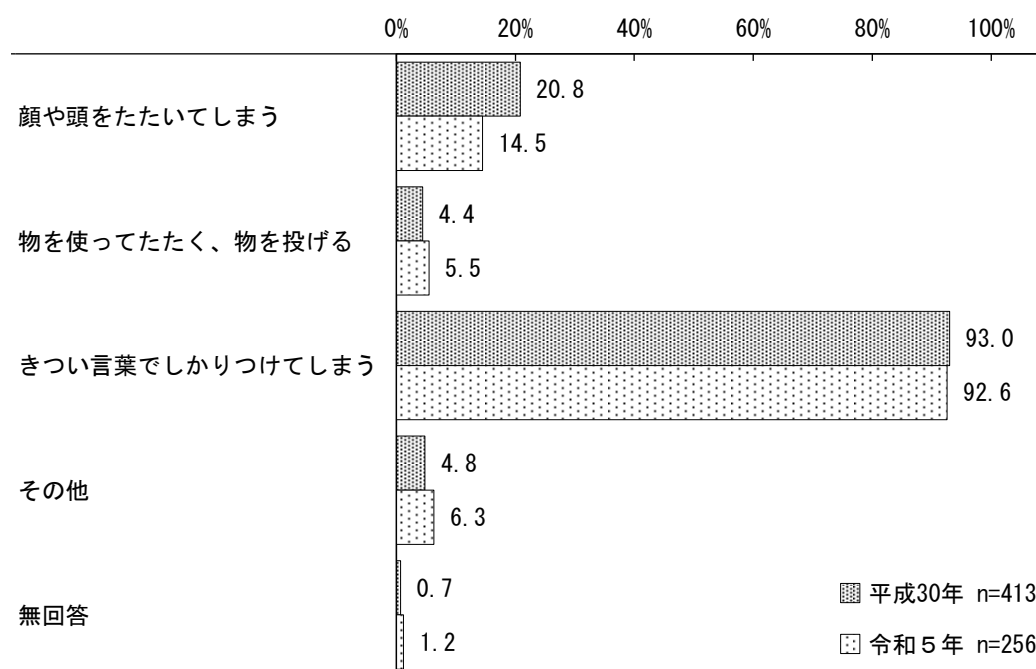


(2) 子どもへの暴力の内容

図表 1－86は、図表 1－85で「ある」と答えた人に、具体的な暴力の内容をたずねた結果です。「きつい言葉でしかりつけてしまう」を92.6%の人があげており、次いで「顔や頭をたたいてしまう」が14.5%となっています。平成30年と比べると、「顔や頭をたたいてしまう」が6.3ポイント低下しています。

「その他」として、図表 1－87の内容が記載されていました。

図表 1－86 子どもへの暴力の内容（複数回答）



図表 1－87 子どもへの暴力の内容（その他）

・食べ物や物を投げ捨てるため、手を叩いてしまった ・デコピン ・ドアを強く閉めて威嚇してしまう ・せかしてしまう	・怒ってしまう ・泣いてしまう ・怖い顔をしてしまう ・そうさせないように遠ざける
---	--

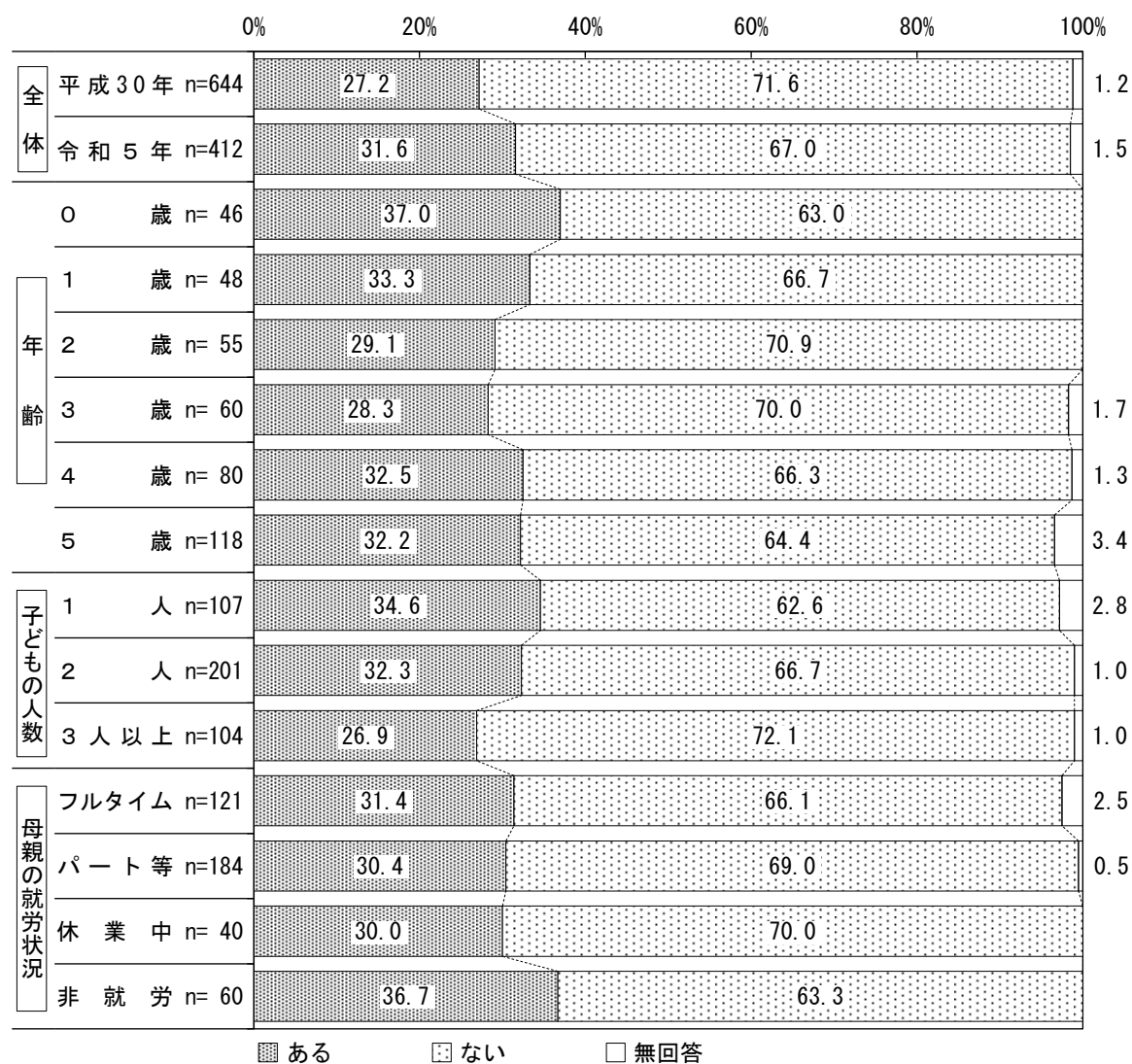
5 産後うつ

(1) 産後うつを感じたことがあるか

産後うつを感じたことが「ある」と回答した人は31.6%となっており、平成30年と比べて4.4ポイント上昇しています。

産後うつを感じたことが「ある」と回答した人について、子どもの年齢別にみると、0歳が37.0%と最も高く、次いで1歳が33.3%などとなっています。子どもの人数別にみると、1人が34.6%と高く、人数が多くなるほど低くなる傾向があります。母親の就労状況別では非就労が高くなっています。

図表 1-88 産後うつを感じたことがあるか

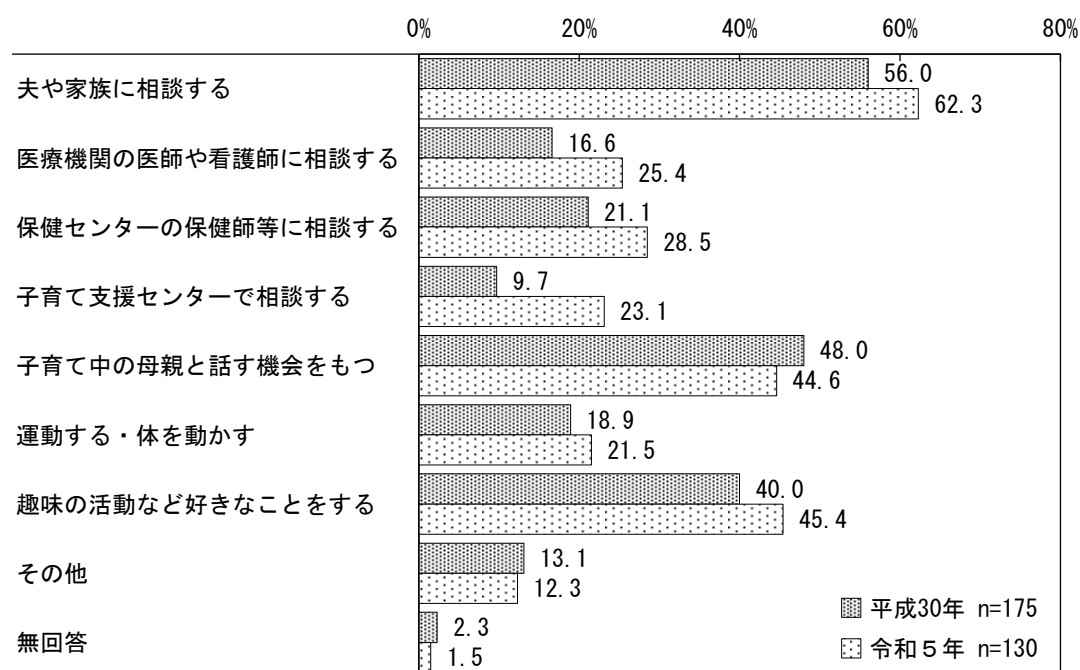


(2) 産後うつの対処法

図表 1－88で産後うつを感じたことが「ある」と回答した人に、どのような対処法がよいのか、または利用したサービス、あるとよいと思ったサービスなどについてたずねたところ、「夫や家族に相談する」が62.3%と最も高く、次いで「趣味の活動など好きなことをする」が45.4%、「子育て中の母親と話す機会をもつ」が44.6%などの順となっています。平成30年と比べて「子育て中の母親と話す機会をもつ」以外の項目は上昇しており、特に「子育て支援センターで相談する」は13.4ポイントと大幅に上昇しています。

「その他」として、図表 1－90の内容が記載されていました。

図表 1－89 産後うつの対処法（複数回答）



図表 1－90 産後うつの対処法（その他）

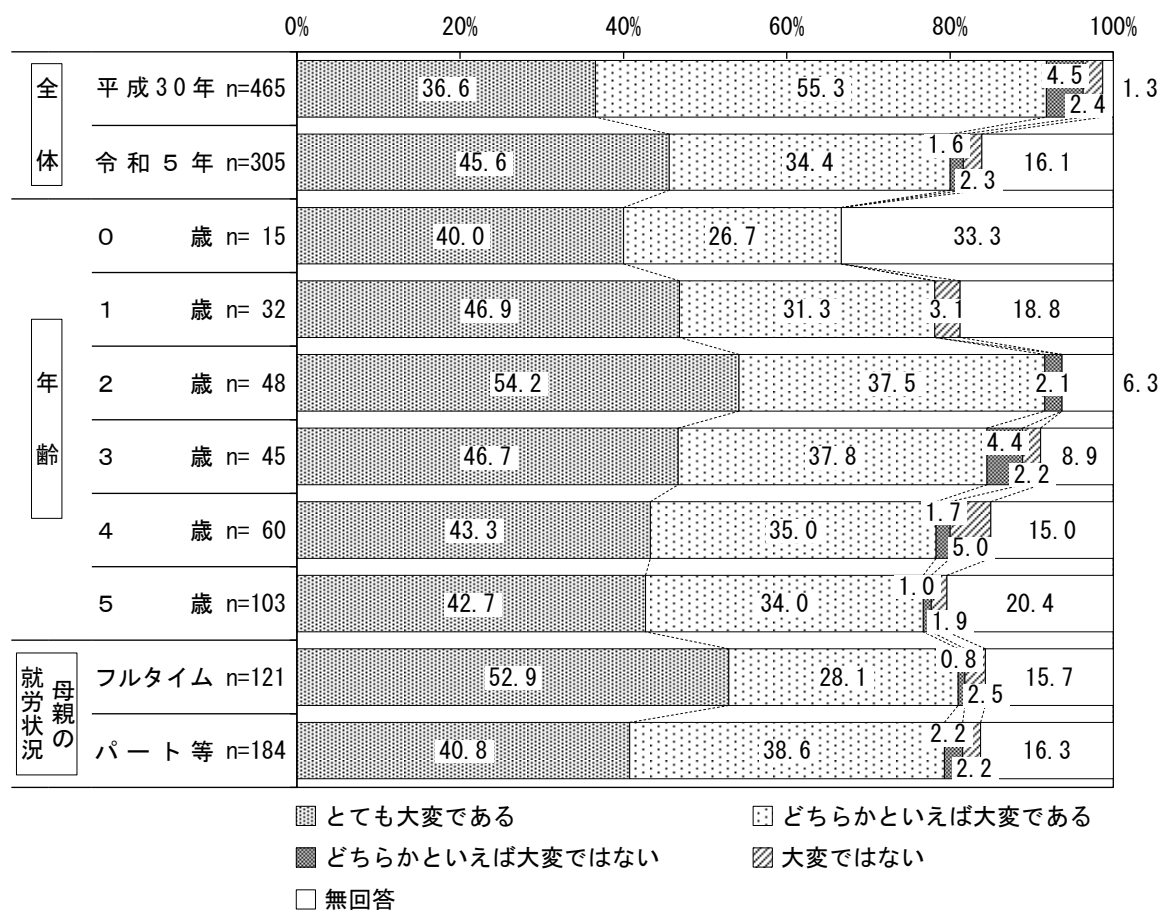
・一人の時間を持つ（2件） ・子どもを預けている ・実母に来てもらうなど、信頼して会話できる人にそばにいてもらう ・産後ケアの利用。宿泊型、訪問型、通所型	・リフレッシュのために一時預かりのサービスを利用 ・復職 ・買い物 ・たくさん寝る ・すべて諦めてダラダラする
--	---

6 仕事と子育ての両立

子育てをしながら就労している人に、仕事と子育ての両立が大変と感じているかたずねたところ、「とても大変である」が45.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば大変である」が34.4%などとなっており、合計した＜大変である＞が80.0%を占めています。平成30年に比べて＜大変である＞が11.9ポイント低下していますが、これは無回答が多くなっていることが影響していると考えられます。また、「とても大変である」が9ポイント上昇しています。

「とても大変である」は、子どもの年齢別では、0～2歳は年齢が上がるにしたがい高くなりますが、2歳をピークにその後は低下に転じます。母親の就労状況別では、フルタイムがパート・アルバイト等より高くなっています。

図表1-91 仕事と子育ての両立



第11 育児休業制度等

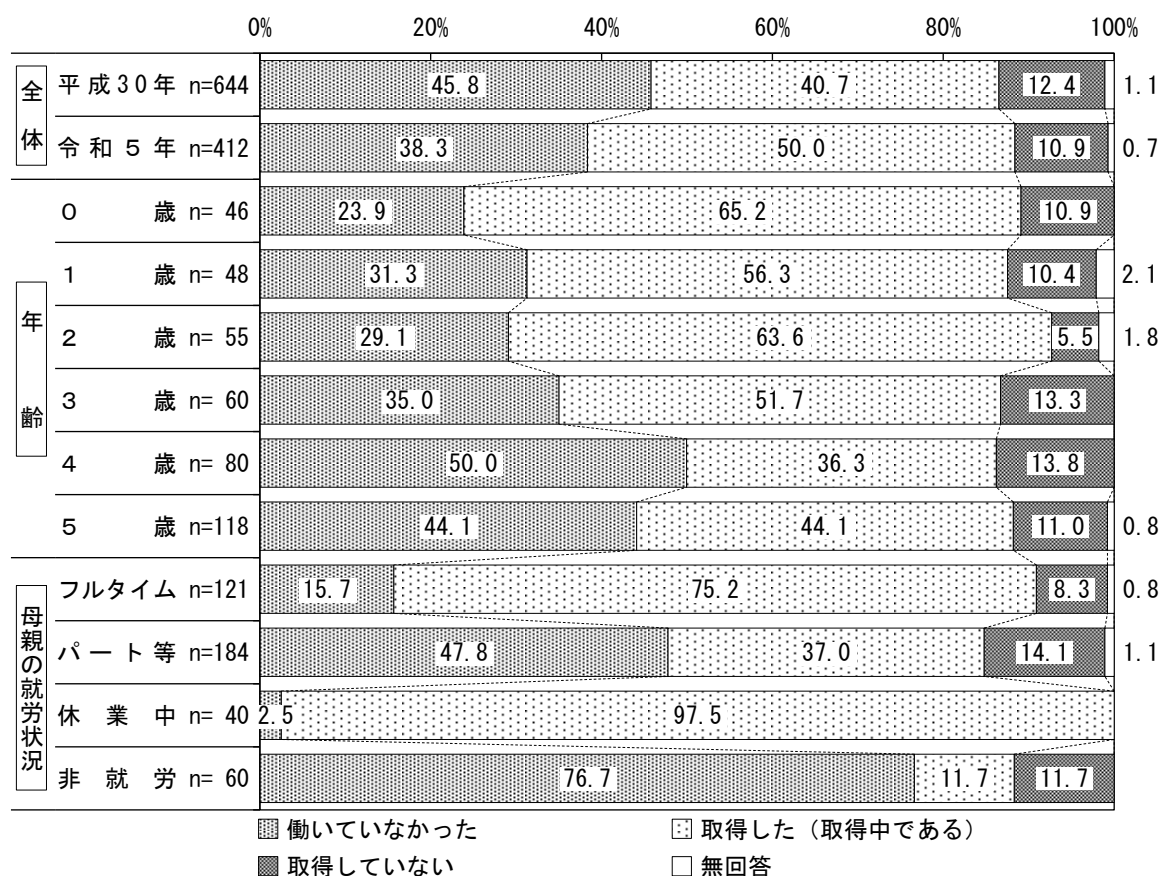
1 育児休業の取得

育児休業を「取得した（取得中である）」母親は50.0%を占めていますが、子どもの出生時に「働いていなかった」母親が38.3%います。平成30年と比べて「取得した（取得中である）」が9.3ポイント上昇しています。

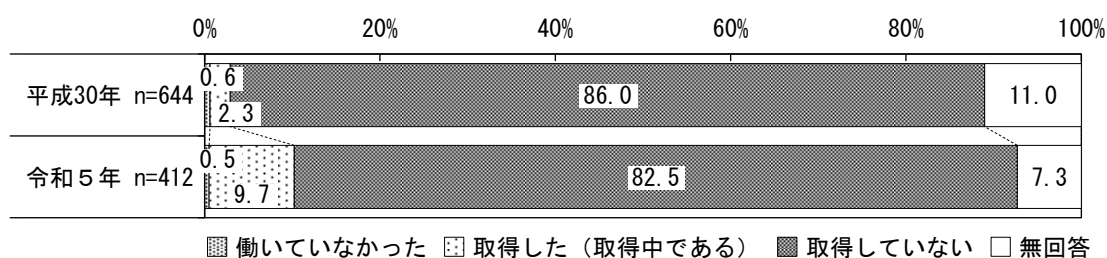
子どもの年齢別にみると、子どもの年齢が低いほど「取得した（取得中である）」が高くなる傾向がみられます。また、母親の就労状況別にみると、フルタイムでは「取得した（取得中である）」は75.2%を占めています（図表1－92）。

育児休業を「取得した（取得中である）」と答えた父親は9.7%で、平成30年に比べて7.4ポイント上昇しています（図表1－93）。

図表1－92 母親の育児休業の取得



図表1－93 父親の育児休業の取得

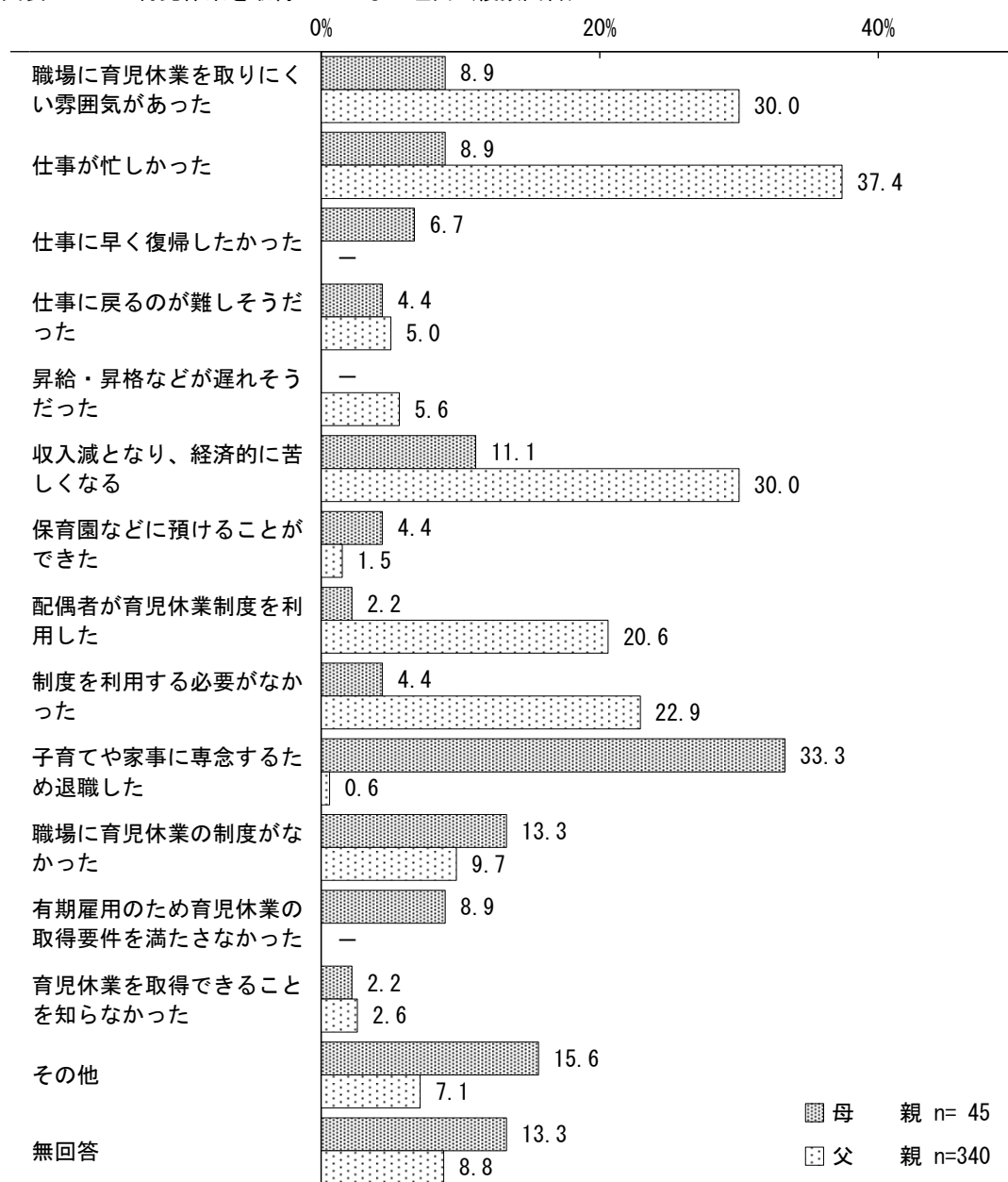


2 育児休業を取得していない理由

図表 1－92、図表 1－93で「取得していない」と答えた人の育児休業を取得しない理由については、母親は「子育てや家事に専念するため退職した」が33.3%と突出して高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった」が13.3%などとなっています。父親は「仕事が忙しかった」が37.4%と最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」および「収入減となり、経済的に苦しくなる」が30.0%などとなっています（図表 1－94）。

「その他」として、図表 1－95の内容が記載されていました。

図表 1－94 育児休業を取得していない理由（複数回答）



（注）「産前産後の休暇を取得できることを知らず、退職した」という選択肢には該当がなかった。

図表 1－95 育児休業を取得していない理由（その他）

【母 親】

・ 自営業のため（４件） ・ 個人のところだったので、育休がなかった ・ 正社員だったが、取得要件を満たさなかったため	・ マタハラを受け解雇された ・ 産むときまで仕事をしていた
---	---

【父 親】

・ 自営業のため（８件） ・ 母親がいるため（２件） ・ 上の子が退園になるため（２件） ・ 転職したばかりで、制度を利用しづらかった ・ 取得してもよいが、戻った時に自分のデスクがあるかはわからないと言われた ・ 出世に響くため ・ 職場が通える距離でなくなったため	・ コロナ禍で休業していた ・ 母親が仕事をしていないので ・ 里帰りしていたため ・ 必要ないと思われていた ・ 取得せずとも都合がつく ・ 取得する気がなかった ・ 知りません ・ 特に理由はありません
--	--

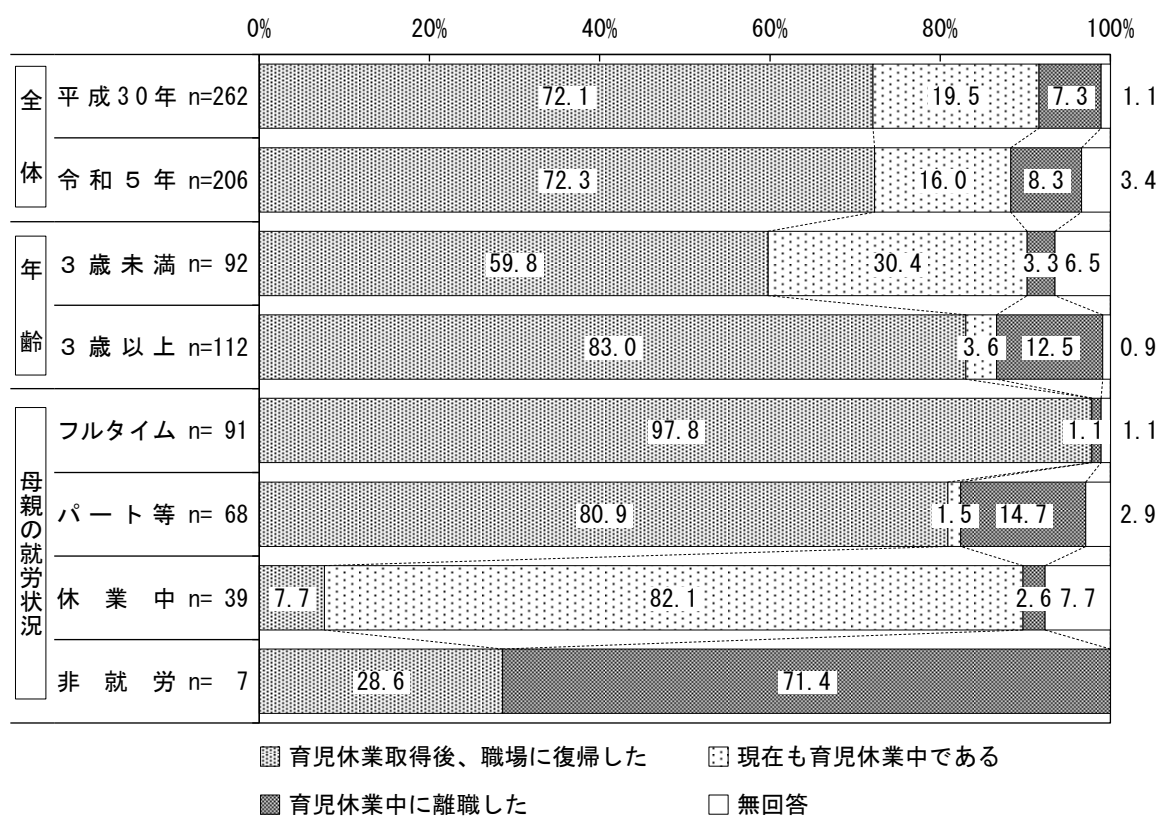
3 育児休業取得後の母親の職場復帰

(1) 育児休業取得後の母親の職場復帰

図表1－92で育児休業を「取得した（取得中である）」と答えた母親のうち、72.3%が「育児休業取得後、職場に復帰した」、16.0%が「現在も育児休業中である」、8.3%が「育児休業中に離職した」と答えています。平成30年と大きな変化はありません。

「育児休業取得後、職場に復帰した」は、子どもの年齢別では3歳以上が83.0%と高く、母親の就労状況別ではフルタイムの97.8%と高くなっています。

図表1－96 育児休業取得後の母親の職場復帰



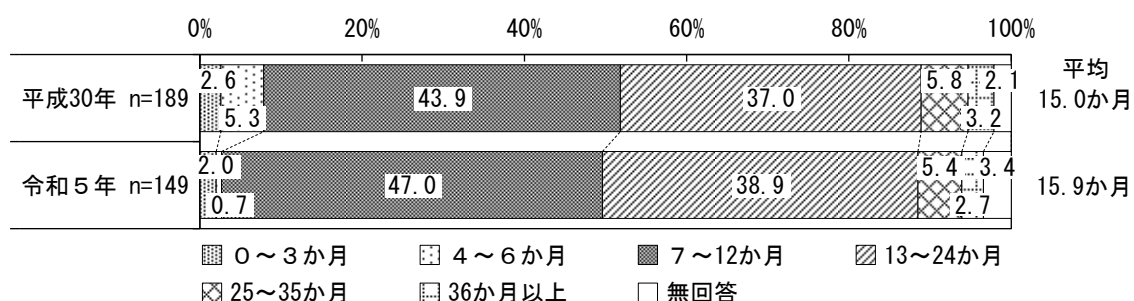
(2) 母親の育児休業取得期間と取得希望期間

図表 1－97は、図表 1－96で「育児休業取得後、職場に復帰した」と答えた母親に、子どもが何歳何か月のときに職場復帰したか、また、何歳何か月のときまで育児休業をとりたかったのかをたずねた結果です。母親の実際の取得期間は「7～12か月」が47.0%、「13～24か月」が38.9%などとなっており、平均は15.9か月です。これに対して、取得希望期間は「36か月以上」が35.6%と最も高く、次いで「13～24か月」が26.8%などとなっており、平均は25.7か月となっています。このことから、子どもが1歳4か月頃に職場復帰をしているが、子どもが2歳を超える頃までは仕事を休んで子育てをしたいという母親が多いことが読み取れます。また、平均取得期間を平成30年と比較すると、実際の取得期間は0.9か月長くなっているのに対して希望の取得期間は2.8か月長くなっており、実際の取得期間は長くなっているものの、その伸び率は希望の伸び率に追いついていないことがわかります。

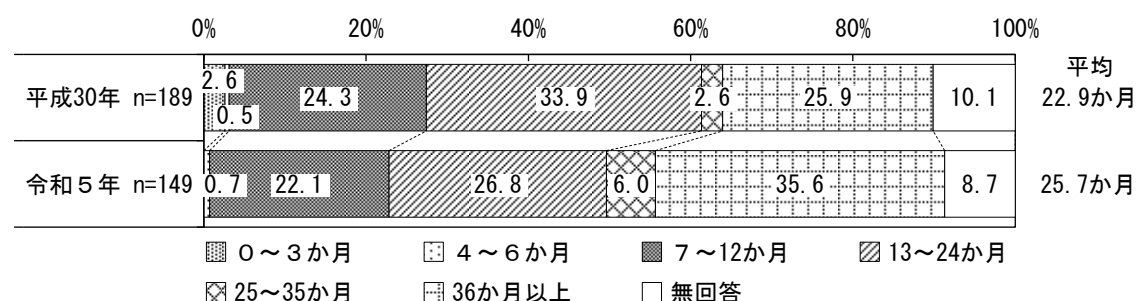
図表 1－98は、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度が勤め先にあれば、子どもが何歳何か月までとりたかったかをたずねた結果です。「36か月以上」が61.7%を占めており、平均は31.0か月で、平成30年に比べて2.5か月長くなっています。

図表 1－97 母親の育児休業取得期間と取得希望期間

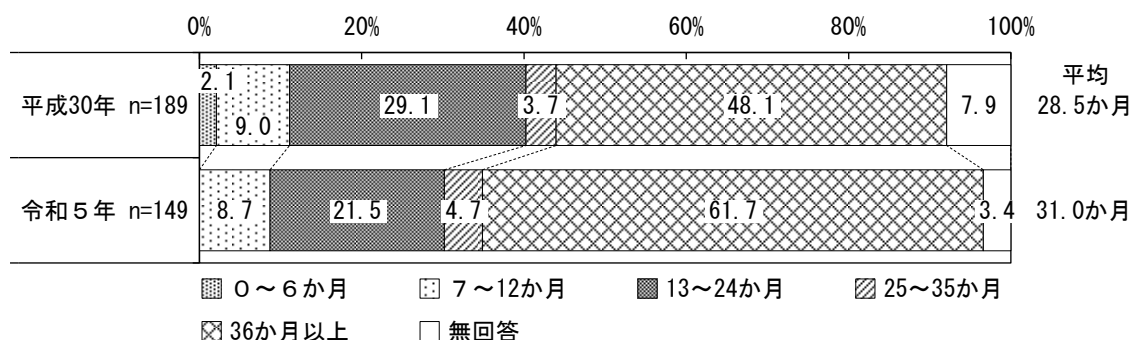
【実際の取得期間】



【希望の取得期間】



図表 1－98 3歳まで休暇を取得できる制度があったら子どもが何か月までとるか（母親）



(3) 母親が希望の時期に職場復帰しなかった理由

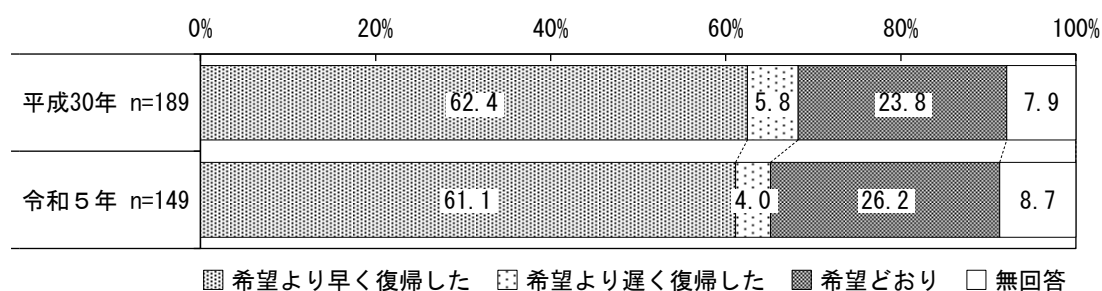
図表 1－99は、育児休業取得期間と取得希望期間の差異を表しています。「希望より早く復帰した」が61.1%、「希望どおり」が26.2%、「希望より遅く復帰した」が4.0%となっています。平成30年と比べて「希望どおり」が2.4ポイント上昇しています。

「希望より早く復帰した」理由は、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が40.7%と最も高く、次いで「希望する保育園・こども園に入るため」(30.8%)などとなっています。平成30年と比べて「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が17ポイントと大幅に上昇しています。(図表 1－100)。

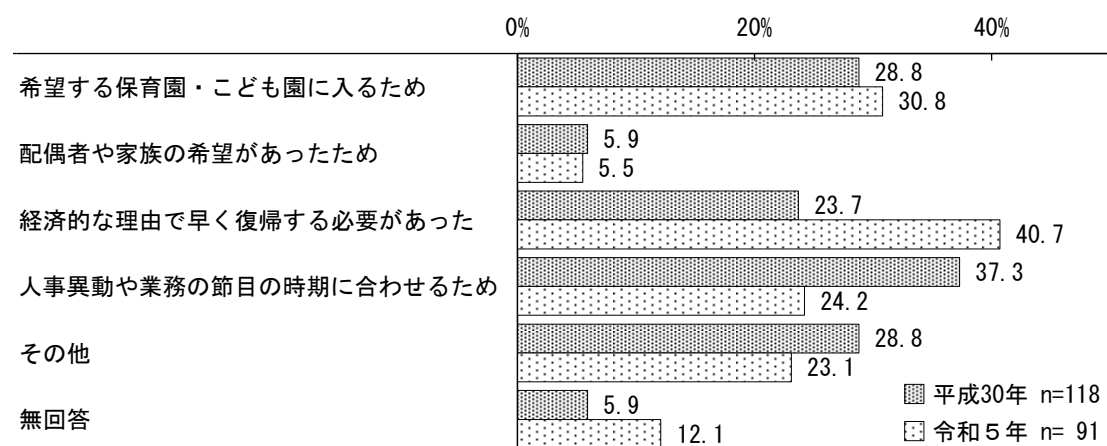
「その他」として、図表 1－101の内容が記載されていました。

「希望より遅く復帰した」6人の遅く復帰した理由は、図表 1－102のとおりです。

図表 1－99 育児休業取得期間と取得希望期間の差異（母親）



図表 1－100 早く復帰した理由（母親、複数回答）



図表 1－101 早く復帰した理由（その他）

・ 1年だけだったため（4件） ・ 2歳までしか育休が取れなかったため（3件） ・ 取りにくい雰囲気があった（2件） ・ 会社の規定が2歳までのため ・ 職場で育児休暇を取った人がおらず、風当たりが強かった。そのため交渉して1年だけは取れたため、延長できる雰囲気ではなかった	・ 他の人も1年しか取得していなかったため ・ 1年で復帰してほしいと会社から言われたため ・ 自営のため ・ ブランクが長くなることへの不安 ・ 子どもを見てくれる人がいたため ・ 入園前までの間、短期なら親に見てもらえたため ・ 保育園に入れたら復帰することになっていたため
---	---

図表 1－102 遅く復帰した理由（母親、複数回答）

単位：人

区 分	希望する保育園・こども園に入れなかったため	子どもをみてくれる人がいなかったため	無 回 答
全 体 (n=6)	4	1	1

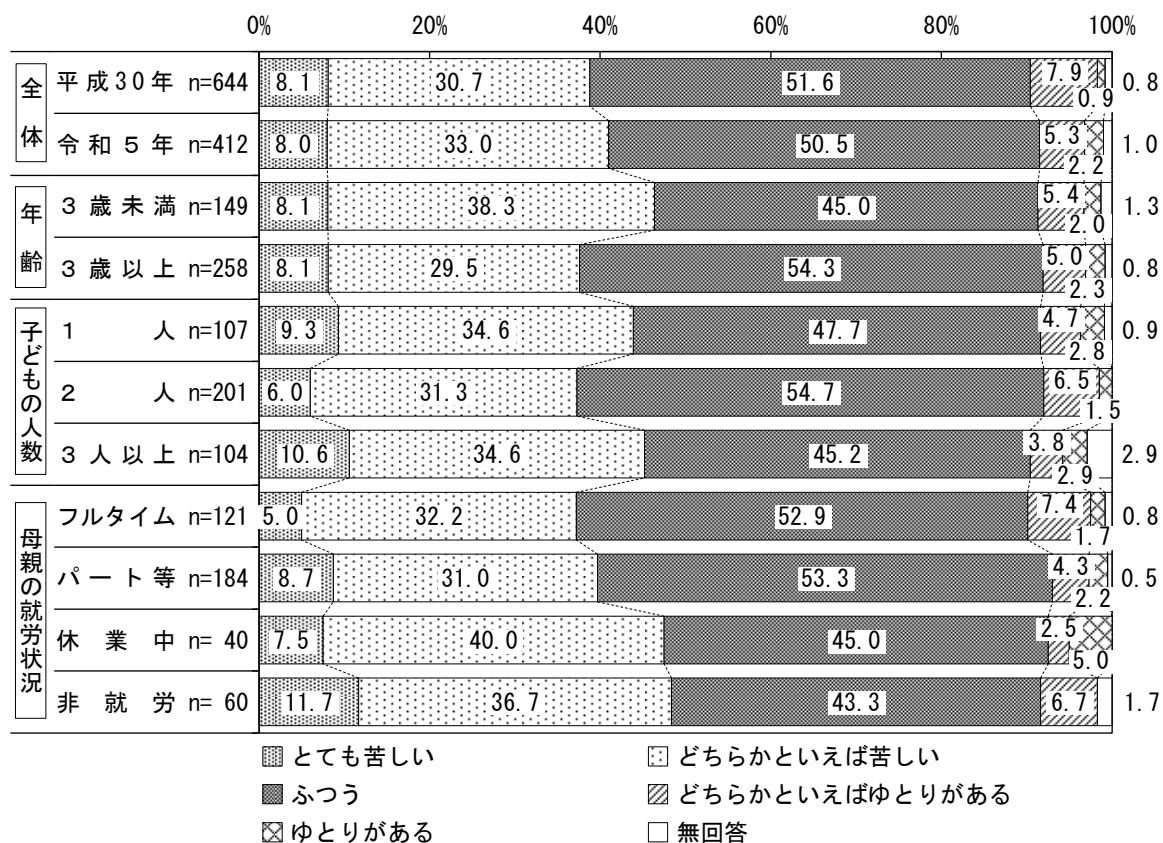
第12 暮らしの状況

1 暮らしの状況

現在の暮らしは経済的にどのように感じているかたずねたところ、「とても苦しい」(8.0%)と「どちらかといえば苦しい」(33.0%)を合計した<苦しい>は41.0%となっています。「どちらかといえばゆとりがある」(5.3%)と「ゆとりがある」(2.2%)を合計した<ゆとりがある>は7.5%です。平成30年と比べて、<苦しい>が2.2ポイント上昇しています。

<苦しい>について、子どもの年齢別にみると3歳未満が、母親の就労状況別にみると休業中および非就労が高くなっています。

図表 1-103 暮らしの状況



2 経済的な理由で断念したこと等があるか

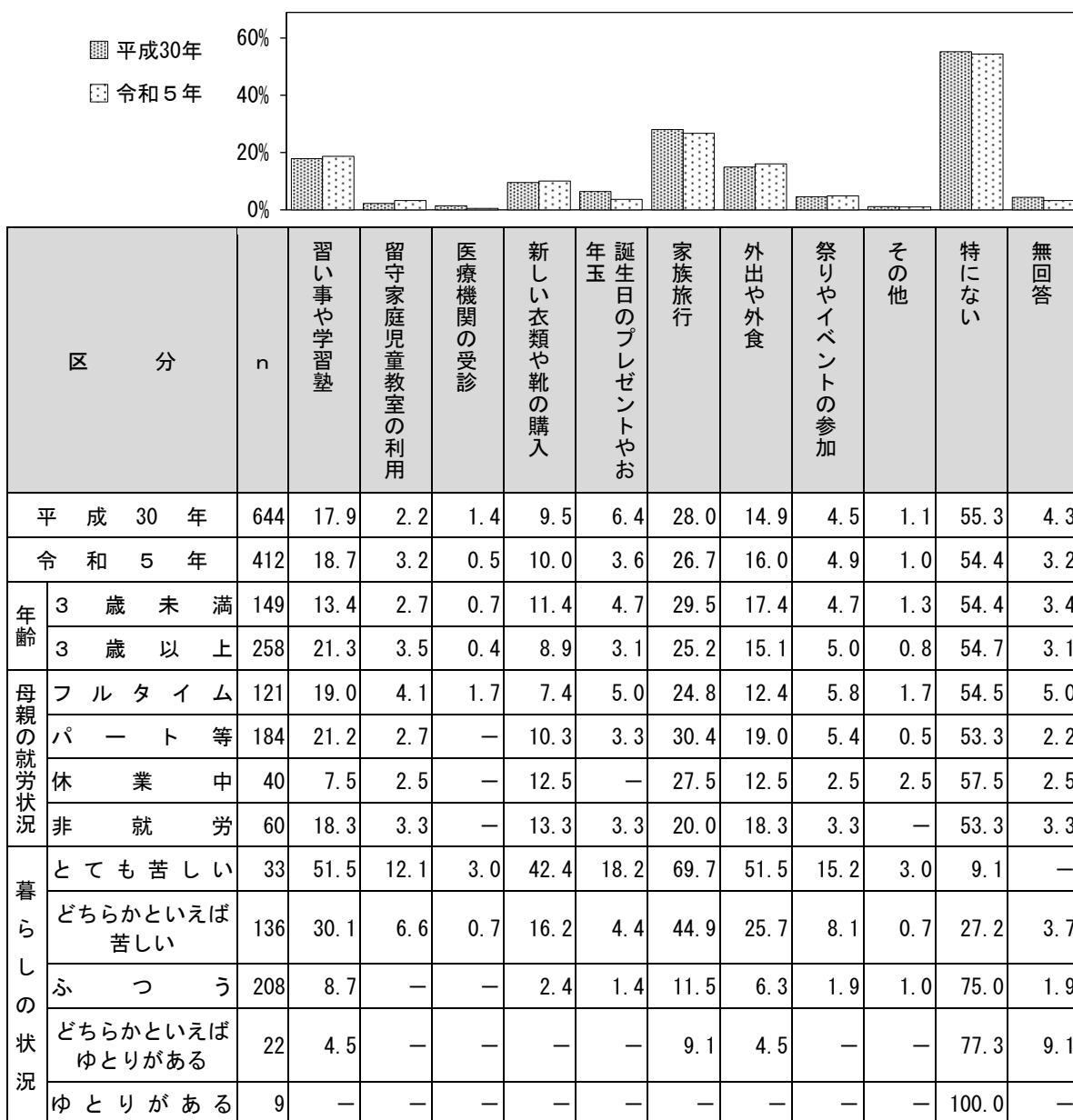
この1年間に、経済的な理由で断念したり、子どもに我慢させたりしたことがあるかたずねたところ、「特にない」が54.4%と最も高くなっています。経済的な理由で断念したこと等の具体的な内容としては、「家族旅行」が26.7%と最も高く、次いで「習い事や学習塾」が18.7%、「外出や外食」が16.0%などとなっています。平成30年と大きな変化はありません。

図表1-103でとても苦しいと回答した人は、「特にない」が9.1%にとどまっており、4項目が40%以上となっています。特に「家族旅行」は約70%の人が選択しています。

「その他」として、「プレゼント以外のおもちゃ」「犬、猫等のペット」という記載がありました。

図表1-104 経済的な理由で断念したこと等があるか（複数回答）

単位：nは人、他は%

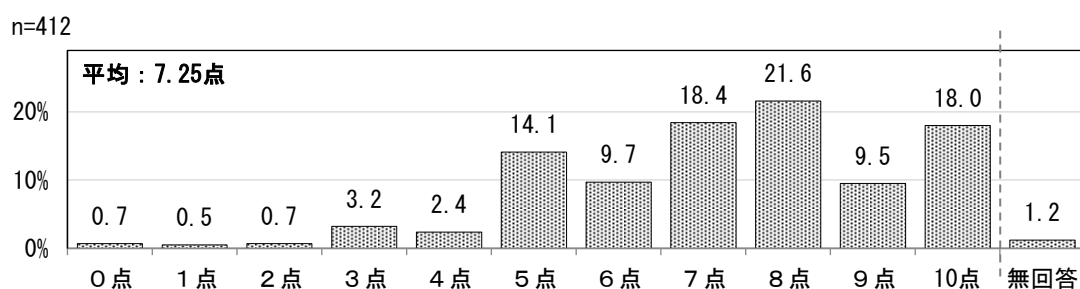


3 幸福感

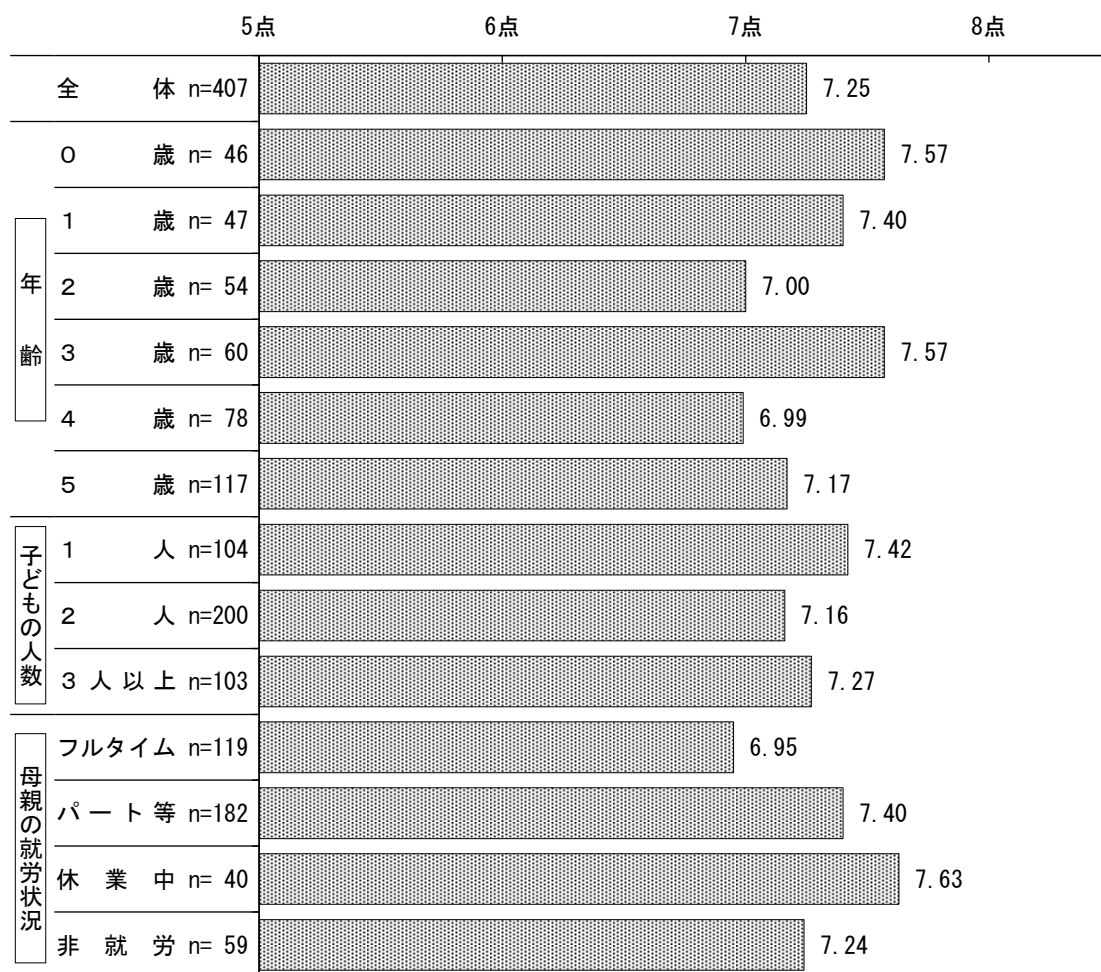
「あなたは、現在どの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください」という設問では、「8点」が21.6%と最も高く、次いで「7点」(18.4%)、「10点」(18.0%) などとなっており、平均は7.25点です(図表1-105)。

属性別にみると、子どもの年齢別では2歳、4歳および5歳、子どもの人数別では2人、母親の就労状況別ではフルタイムおよび非就労が全体の平均点を下回っています(図表1-106)。

図表1-105 幸福感



図表1-106 幸福感(平均)



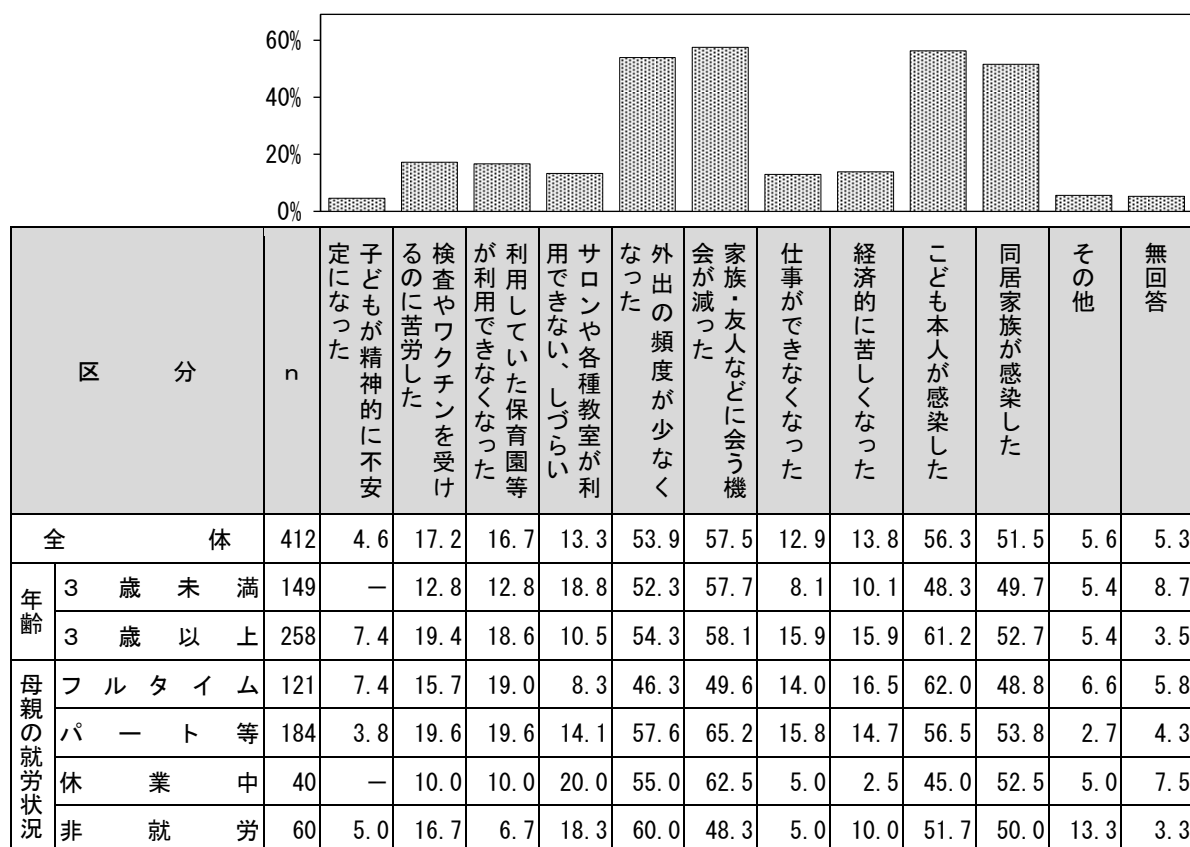
4 新型コロナウイルス感染症の流行の影響

令和2年以降の新型コロナウイルス感染症の流行に関連して、起きたことや困ったことはあるかたずねたところ、「家族・友人などに会う機会が減った」が57.5%と最も高く、さらに「子ども本人が感染した」(56.3%)、「外出の頻度が少なくなった」(53.9%)、「同居家族が感染した」(51.5%)を加えた4項目を半数以上の人が選択しています。

「その他」として、図表1-108の内容が記載されていました。

図表1-107 新型コロナウイルス感染症の流行の影響（複数回答）

単位：nは人、他は%



図表1-108 新型コロナウイルス感染症の流行の影響（その他）

・テレワークになり、子どもを静かにさせたり外出したりするのが大変だった（2件） ・子どもの親が感染した（2件） ・休園等で仕事を休まなければいけない日があった ・3人も子どもがいけると順番にうつるので、仕事を休まなくてはいけない日数が増えた。結果なかなか働こうと思えない ・家族が順番に感染したことで、仕事を休む期間が長くなった ・母が入院して父がコロナになった時の子ども達 ・発熱時自力で子どもを連れて受診するのが困った ・子育てと同居家族の看病で、家に閉じこもるのは精神的にきつかった ・子どもが発熱したのにコロナの可能性があるので、病院でみてもらえなかった。母親が発熱したのに（乳腺炎）長時間待たされ、深夜になった	・4～6月園が休園していた期間、自分の通院ができなくなりつらかった ・発表会や参観の際の人数制限が厳しくなった ・子ども達が楽しみにしていた行事がなくなってしまった。時は戻らないのに。子ども達だけ必要以上の対策では、と思った。パーティーション、マスク強制などおかしくないか ・利用制限がある ・子どもの出産時に夫に立ち会ってもらえなかった。退院まで子どもに会えなかった ・夫と一緒に妊婦健診に行けなかった。エコーなど一緒に見たかった ・消毒、手荒れ ・マスク生活 ・マスク購入費 ・他の母親からの差別的な発言
--	---

5 重点的に取り組んでほしい子ども施策

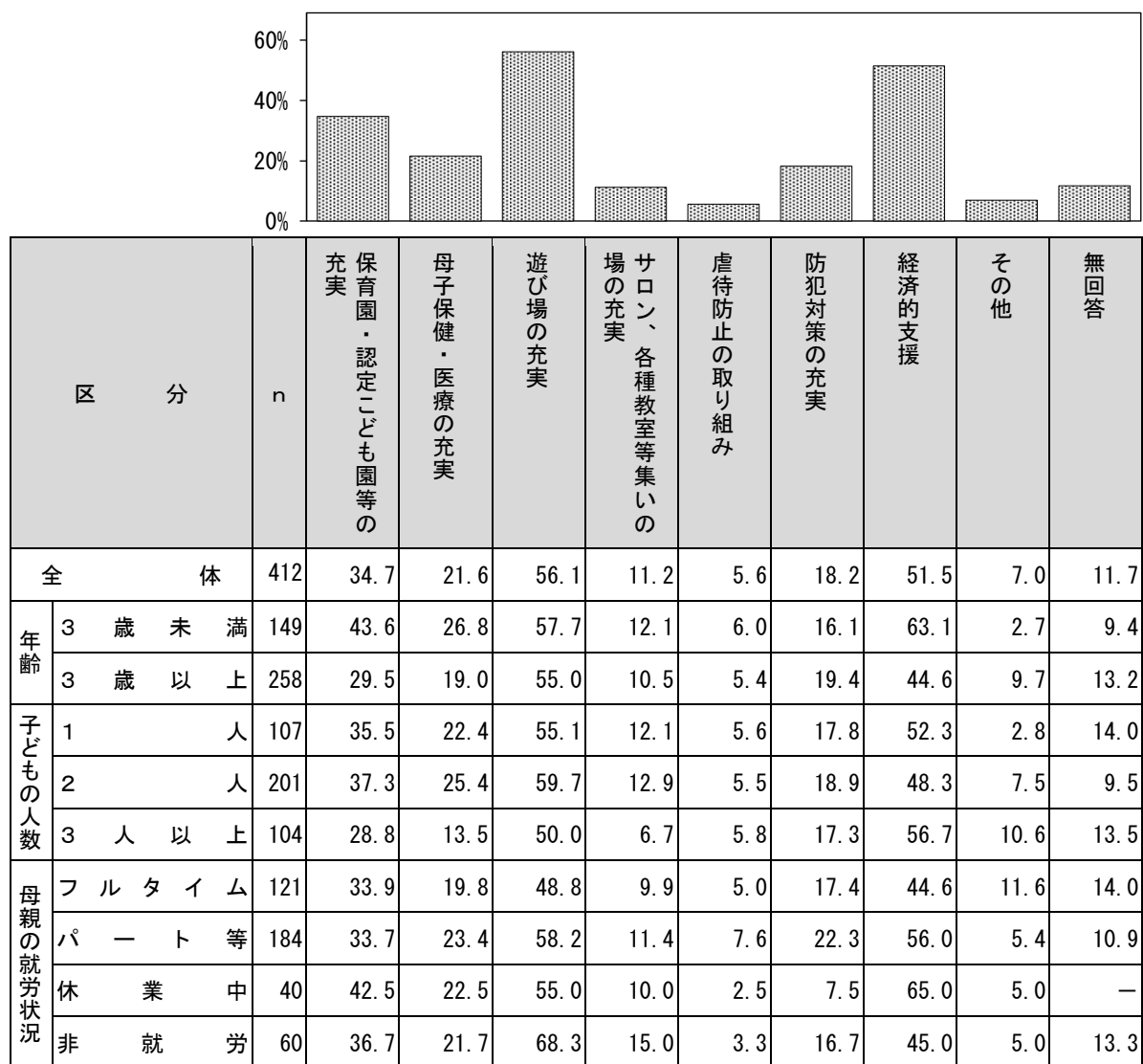
行政に重点的に取り組んでほしいと思う子どもに関する施策は何かたずねたところ、「遊び場の充実」が56.1%と最も高く、次いで「経済的支援」が51.5%、「保育園・認定こども園等の充実」が34.7%などとなっています。

子どもの年齢別にみると、3歳以上に比べて3歳未満は「防犯対策の充実」以外のすべての項目で高くなっており、特に「経済的支援」は18.5ポイント高くなっています。

子どもの人数別にみると、1人および2人は「遊び場の充実」が、3人以上は「経済的支援」が最も高くなっています。

図表 1－109 重点的に取り組んでほしい子ども施策（複数回答）

単位：nは人、他は%



取り組んでほしいと思う施策の具体的な内容は、図表 1－110のとおりです。

図表 1-110 重点的に取り組んでほしい子ども施策の具体的な内容

【子育て支援全般】 ・子育て支援の充実（6件） ・「やりたい」「ほしい」等を叶えてあげたい ・子育てに理解のある町づくりをしてほしい ・他県に比べて本当に子育てに冷たいと感じる。お年寄りもこれから未来のある子たちにお金をかけてほしいと思う ・大垣市では普通にされている施策が養老町では乏しく感じる時がある。また全国的な施策をみると、オムツの無料提供やナプキンの配布、保育園でのオムツの提供、高校の無償化、給食の無料化、ゴミ袋の交付、産後のホテルなどの施策、USEDの子ども服などの提供施設、無料でもらい使用してもらうところが東京にはあるとのこと ・ひとり親世帯への支援 【保育園・こども園】 ・未満児でも通えるこども園（5件） ・土日祝日の預かり（4件） ・保育園などの先生の職場処遇改善をして、ゆとりのある保育の実施（3件） ・園が古い（3件） ・保育施設の増設（2件） ・保育時間の延長（2件） ・きょうだいを同じ園に入園（2件） ・通園バスの拡充（2件） ・民間の施設や企業をもっと増やしてほしい ・保育施設の人数を増やしてほしい ・こども園の空きがない ・未満児の受け入れが少なくなっている ・収入や就労に関わらず保育園や認定こども園に通えるようにしてほしい ・ニーズに合わせた保育園の預け時間、または送迎 ・コロナ前のような行事活動をしてほしい ・行事やイベントを増やしてほしい ・自然の中での遊びプログラム ・異学年交流でのお泊りプログラム ・保育園の環境改善 ・園が使いやすく過ごしやすくなる改修、修繕 ・園の遊具を新しいものに ・園によって教育方針が違うと思うが、ある程度のしつけや教育を同等にしてほしい ・給食にオーガニックの食材を利用するなど、食の安全の確保と食育 ・保育園の給食でスキムミルクが出ることについて。経済的な理由なのか栄養的な理由なのかはわからないが、なぜスキムミルクなんだろうと疑問に思う。自分の子どもにスキムミルクを飲ませますか、と思っています ・こども園の入園児の3人目以降の数え方も早急に見直すべき	【子育て支援サービス】 ・病児保育（3件） ・少しの時間預けやすい場所 ・園以外にも一時預かりの施設をつくってほしい ・託児について、リフレッシュなどでの利用をやすくしてほしい ・各こども園で充実を図ることが難しければ、自治体や町の制度を充実してほしい。もしくは、シッター紹介や費用負担など。祖父母に頼れる環境であれば子育ての負担は減るかもしれないが、そうでなければ勤めながら仕事をしがたい町であると思う。若い子育て世代の定住を図りたければ、もっと制度を充実させるべき。その際の費用負担はやむを得ないと思います。せめて選択肢がほしい ・養老町内に、子育て支援センターがほしい ・子育て支援センターがもっとたくさんあるとよい ・町内で行う、安価もしくは無料で子どもと一緒に参加できるイベント ・毎月リトミックや親子コンサートなど、大垣市のように主に0～2歳の児童を対象にしたイベントを開催してほしい ・療育施設の増設 【障がいのある子ども等への支援】 ・障がい者に対しての取り組み（2件） ・放課後等デイサービスの施設を作してほしい ・現在身体不自由でこども園に通園しているが、小学校になる頃にまだ一人で階段を登れない場合、支援の先生がついてくれるのか心配している。小学校はどのくらいバリアフリーになっているのか 【習い事】 ・習い事（7件） ・各種教室を増やしてほしい 【学校】 ・学校の統合（7件） ・小、中、高校への支援（2件） ・インターナショナルスクールの誘致（2件） ・少なくなってきた学校への早めの対策 ・小学校が古い ・参観で行ったときに校庭にある一輪車がすべてとても年季の入ったもので、これを子どもは使っているのか、使いたいと思うのか、と心配になった ・小学校のトイレ改修工事 ・小学校のバス通学 【留守家庭児童教室】 ・学童を無料にしてほしい（2件） ・利用料が高い ・学童の利用料を考え直してほしい
---	---

・留守家庭児童教室について、金額の見直しを考えてほしい。習い事などで利用できない日もあれば振替などで利用する時など、月によってばらばらなので、日数制にするなど考えてほしい。ここは勉強する場所ではないと言われますが、ほとんどの親はなぜ宿題くらい終わらせることができないのか不満に思っていると思う。高い利用料を払っているし、こっちは働いて家に誰もいないので利用しているのに、宿題すら終わらせず迎えに行くとほぼ毎日遊んでいるのはおかしいと思います。どうか前向きな検討をお願いします ・春休み等の長期休暇の時の利用も検討してほしい ・見守りの職員さんの年齢 【経済的支援】 ・経済的支援（給付金）（21件） ・物価高騰に対する支援（9件） ・児童手当の金額を上げてほしい（7件） ・保育料無償化（5件） ・給食費無償化（5件） ・チャイルドシート購入補助金、オムツ購入補助金など、他自治体にもあるような支援の充実（2件） ・インフルエンザなどの予防接種の助成（2件） ・子育てに関わる所得制限撤廃（2件） ・給付金を定期的にしてほしい ・子どもの人数の条件や所得制限のない経済的支援 ・児童扶養手当が受給できない場合の独自の支援 ・未就園児の保育料を安くしてほしい ・保育料の減額 ・水道料金の助成 ・自転車購入助成金 ・学費を下げてほしい ・親が所有する建物に引っ越すためにリフォームした場合に、補助金や助成がまったくないこと ・クーポンなどがあったら嬉しい ・遊園地の割引クーポンなどの配布 ・子どもが遊ぶところの料金無料化やクーポンなどがあるとよい ・オムツ、ミルクなどの定期的な支援がほしい ・ごみ袋の支給 ・就学援助の制度で、認定してもらえる幅を増やすか、新入学の際は全員援助が受けられるとよい ・母子手当について、同居家族の収入を合算するのではなく、世帯別で出してほしい ・年少扶養控除復活 ・扶養控除 ・減税 ・子育て世代の税金の減額 【子育てと仕事の両立】 ・子育てと仕事の両立がしやすいサポート（2件） ・働くお母さんへのサポート ・新しい働き方と機会の支援	・夫婦間の有休の譲渡。子どもの体調不良時、母親が仕事を休むことが多くなりがち。母親の有休はなくなるが、父親の有休は余っているため、使わない有給は譲るといい。または子の看護休暇の日数を増やす ・父親の土日出勤を減らしてほしい 【病院・医療】 ・小児科（夜間も含む）がほしい（4件） ・皮膚科、耳鼻科がほしい（2件） ・産婦人科がない（2件） ・休日も平日と同様に診療してくれる、医療に手厚い診療体制を整えてほしい（2件） ・子どもに流行りがちな各種ウイルスに感染しているかどうか、検査ができる医療機関が少ない。どこの医院でどんな検査ができるのかわからない ・コロナ対策。ワクチン、来年から有料化されるとのことなので支援、補助とマスクの推奨をお願いしたいです 【産前・産後支援】 ・産後支援（3件） ・産後、退院してから入院できる施設を、都会だけではなく田舎にもつくってほしい ・産後の母のサポートの継続 ・母乳ケア ・助産師を町の職員に配置してほしい 【地域活動・交流】 ・役員（3件） ・昼間にできる体操教室やサロンなどがあったら母親も気分転換できてよいと思う ・同じくらいの月齢の子と会える機会を 【公園・遊び場】 ・子どもが遊ぶ場や学ぶ場が少ない（81件） ・公園などの手入れ（12件） ・遊具のある公園をもう少し増やしてほしい（11件） ・室内でも遊べる施設（4件） ・園庭開放（2件） ・園が休みの時に利用できる支援センターや公園の整備 ・園庭開放の時間帯を増やしてほしい ・小学校のグラウンドを開放してほしい ・広場がない ・池辺などの地区に1つ利用可能なグラウンドがほしい ・児童館をつくってほしい ・天候に左右されない室内遊び場の充実 ・子育て世代が使いやすいスペース ・児童館、支援センターの3歳以上の利用、時間帯の拡充をしてほしい
---	---

【まちづくり】 ・ 町民プールができてほしい（６件） ・ 街灯などを増やしてほしい（５件） ・ 古い施設のリフォーム（２件） ・ 町民プールの再利用（２件） ・ プールなどに改修費を充ててほしい ・ 図書館のトイレが暗いし、古い ・ 用水路を整備してほしい ・ 空き家の管理 ・ ショッピングモールなど集まれる場所 ・ 子ども用品店をつくってほしい ・ 公共交通機関を充実させてほしい。特にバス、電車。本数を増やしてもらわないとすごく不便 ・ バスなどの交通手段の拡充 【少子化対策】 ・ 少子化対策（２件） ・ 養老町の子どもが増える施策 ・ 出産率アップのための取り組み支援 ・ 少子化が進み、学校でも一家庭ごとの負担が増えている 【防犯対策】 ・ 通学路沿いの安全管理（３件） ・ 道路や地区内、園や学校の防犯設備の強化（２件）	・ 集合場所から一人で家まで帰ることになるため、見守りをお願いしたい ・ 交通量が多くて危険 ・ 人通りが少なく怖い ・ 防犯対策 【情報提供・相談・手続き】 ・ 町で行うイベントをSNSで発信して注目してもらう（２件） ・ 保育園以外にも支援センター、児童館の案内もわかるように何かで知らせてほしい ・ いろいろ充実しているとは思いますが。それを自分で探さないと見つけられないのが大変。LINEなどでイベントや施設開放など通知が来るとありがたい。今登録はしているが見たことがない ・ 相談しやすい場所 ・ 各種手続きの簡略化 【その他】 ・ 私の知識不足で特に何をしてくれていて何に力を入れてくれているのかまったくわかりません ・ 隣県と比較した時に十分であると考えての質問か。対等に肩を並べる必要があるのではないのか。対等になった時初めてアンケートを実施すべき
---	--

第 2 部

小学生保護者調査

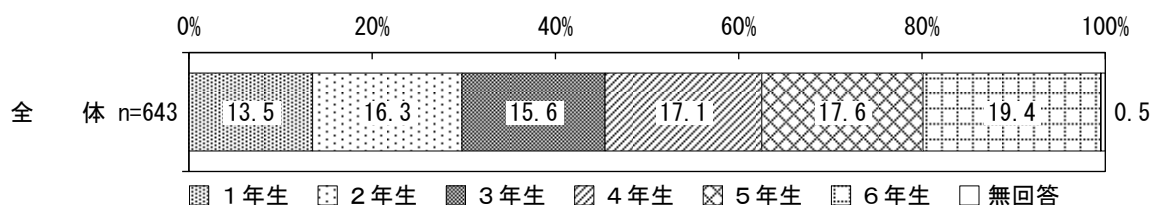
第1 子どもと家族の状況

1 子どもの学年と子どもの人数

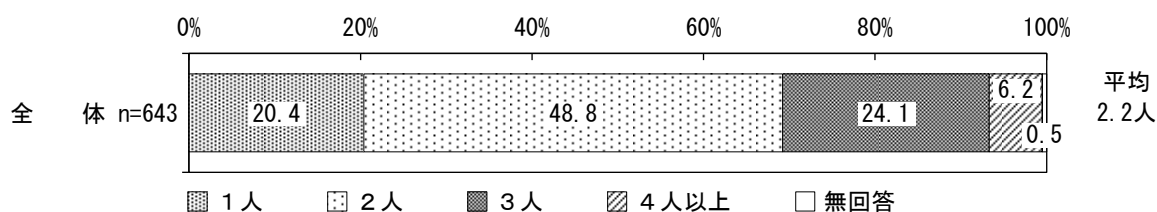
対象となった子どもの学年は、図表2-1のとおりです。

子どもの人数は、「2人」が48.8%を占めており、平均は2.2人です（図表2-2）。

図表2-1 子どもの学年



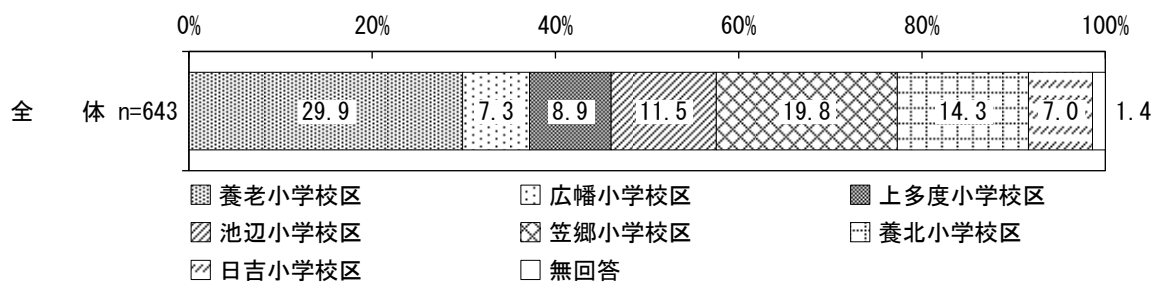
図表2-2 子どもの人数



2 小学校区

小学校区は、「養老小学校区」（29.9%）が多く、「広幡小学校区」（7.3%）が少なくなっています。

図表2-3 小学校区

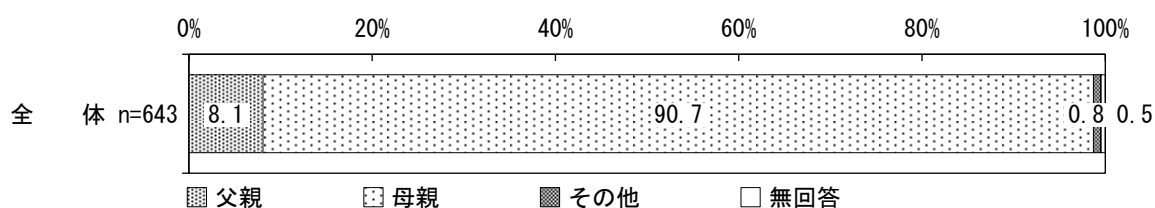


3 調査票の回答者

調査票の回答者は、「母親」が90.7%を占めています。

「その他」として、「祖母」（5件）という記載がありました。

図表2-4 回答者

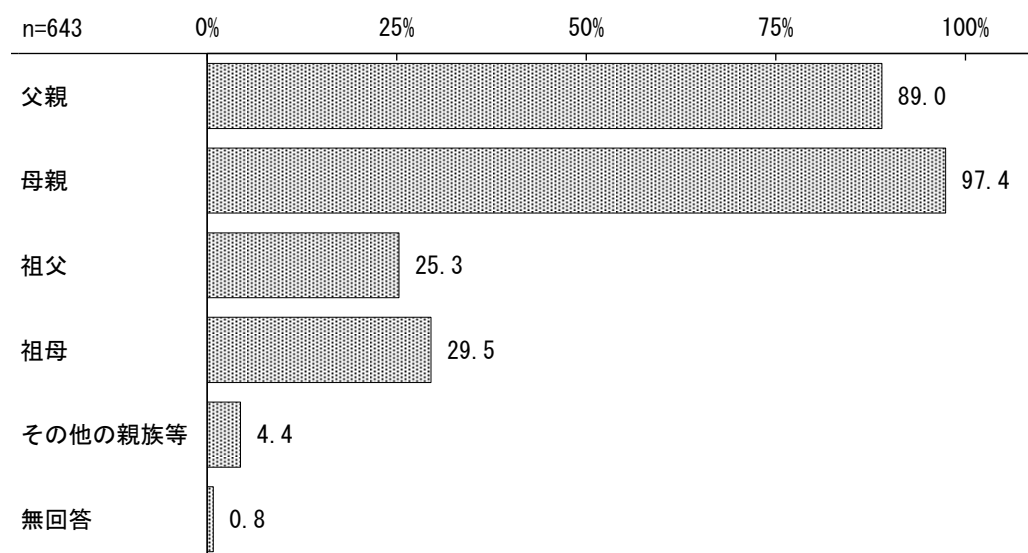


4 同居者

同居者は、「母親」（97.4%）および「父親」（89.0%）が非常に高い率となっています。

「その他」として、「おじ」（13件）、「おば」（7件）、「曾祖母」（6件）、「曾祖父」、「叔母家族」という記載がありました。

図表 2-5 同居者（複数回答）

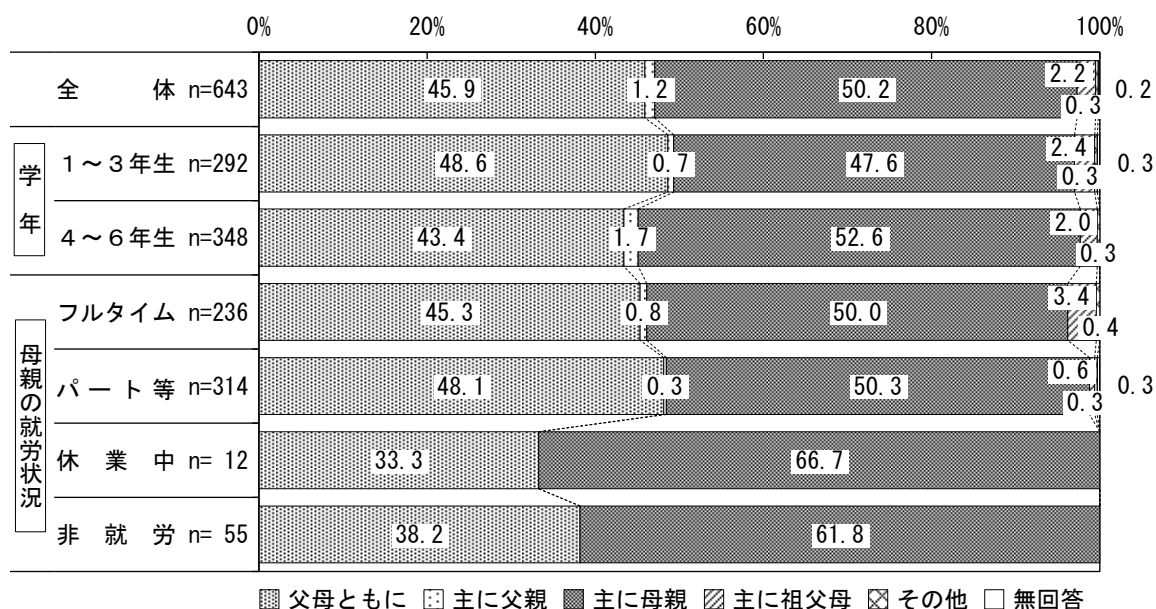


5 子育てを主に行っている人

子育て（教育を含む）を主に行っているのは、「主に母親」（50.2%）と「父母ともに」（45.9%）で96.1%を占めています。子どもの学年別にみると、1～3年生は「父母ともに」が「主に母親」を上回っています。

「その他」として、「家族全員」「兄」という記載がありました。

図表 2-6 子育てを主に行っている人



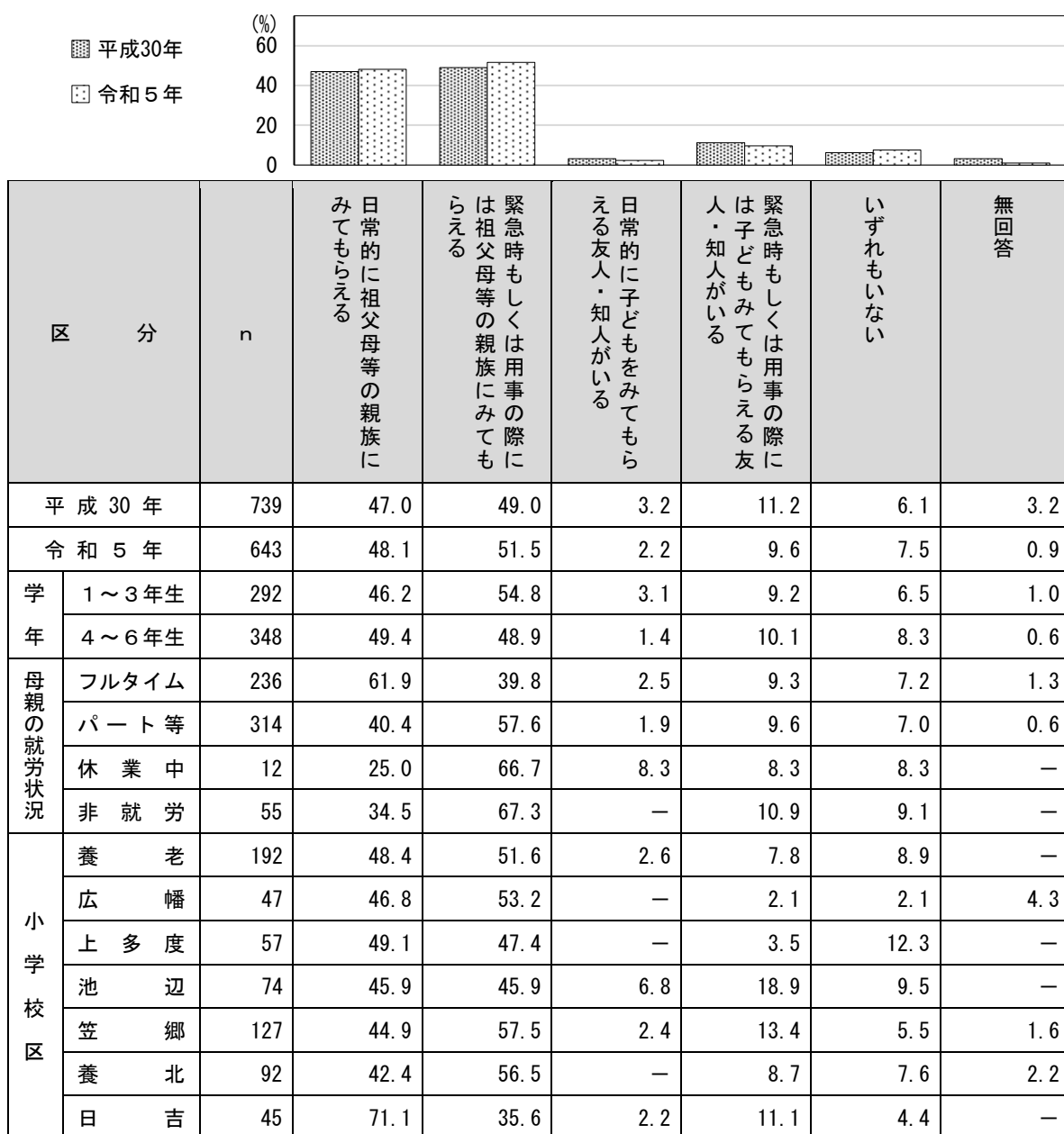
第2 子どもの育ちをめぐる環境

1 子どもをみてくれる人はいるか

日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人がいるかたずねたところ、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が51.5%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が48.1%などとなっています。「いずれもない」は7.5%（48人）です。平成30年と比べると、友人・知人に関する項目がやや低下し、親族に関する項目および「いずれもない」が上昇しています。

図表2-7 子どもをみてくれる人はいるか（複数回答）

単位：nは人、他は%



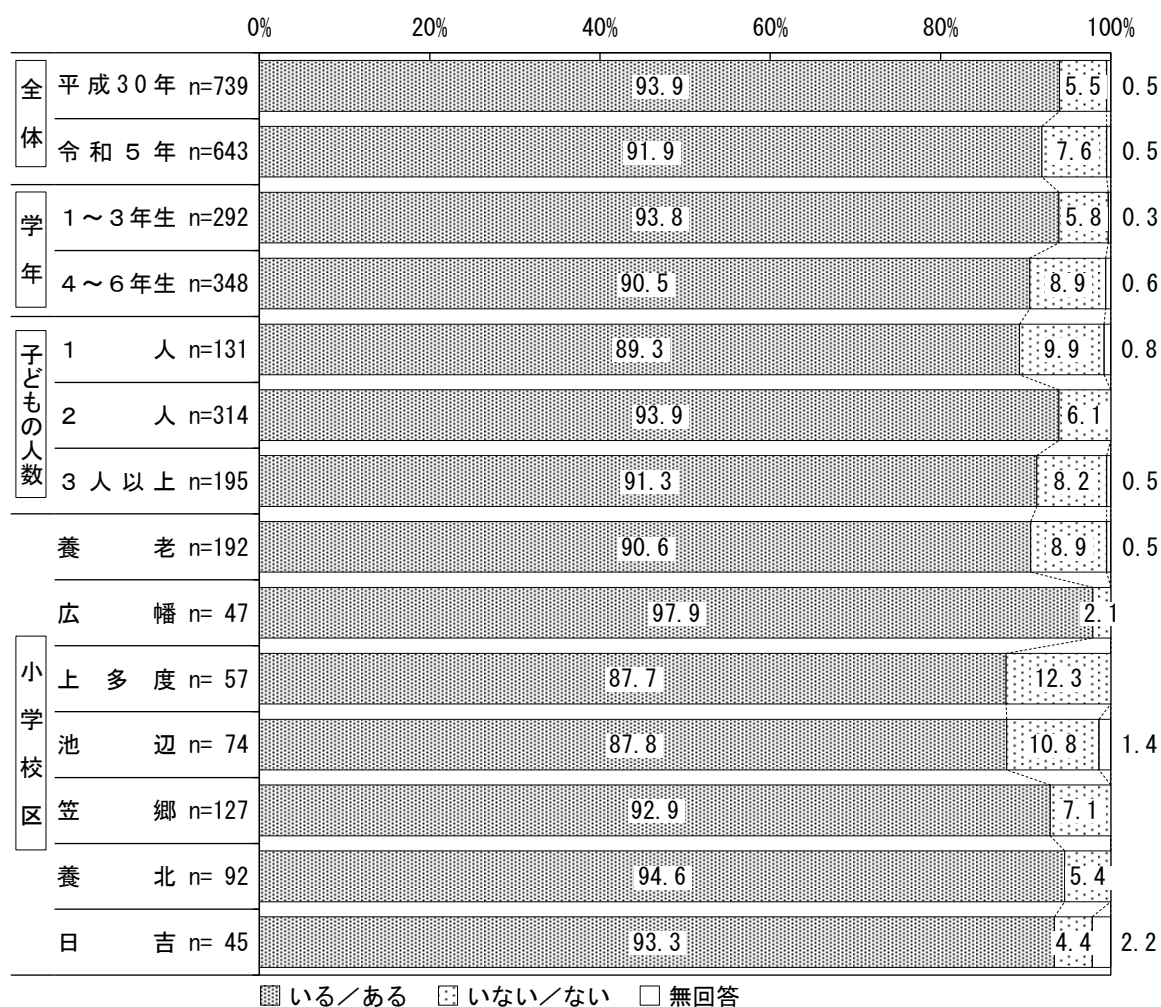
2 相談相手

(1) 子育ての相談相手はいるか

子育ての相談を気軽にできる相手がいるかたずねたところ、「いる／ある」が91.9%を占め、「いない／ない」が7.6%（49人）となっています。平成30年と比べて「いない／ない」が2.1ポイント上昇しています。

「いない／ない」が比較的高いのは、学年別では4～6年生、子どもの人数別では1人、小学校区別では上多度です。

図表2－8 子育ての相談相手の有無

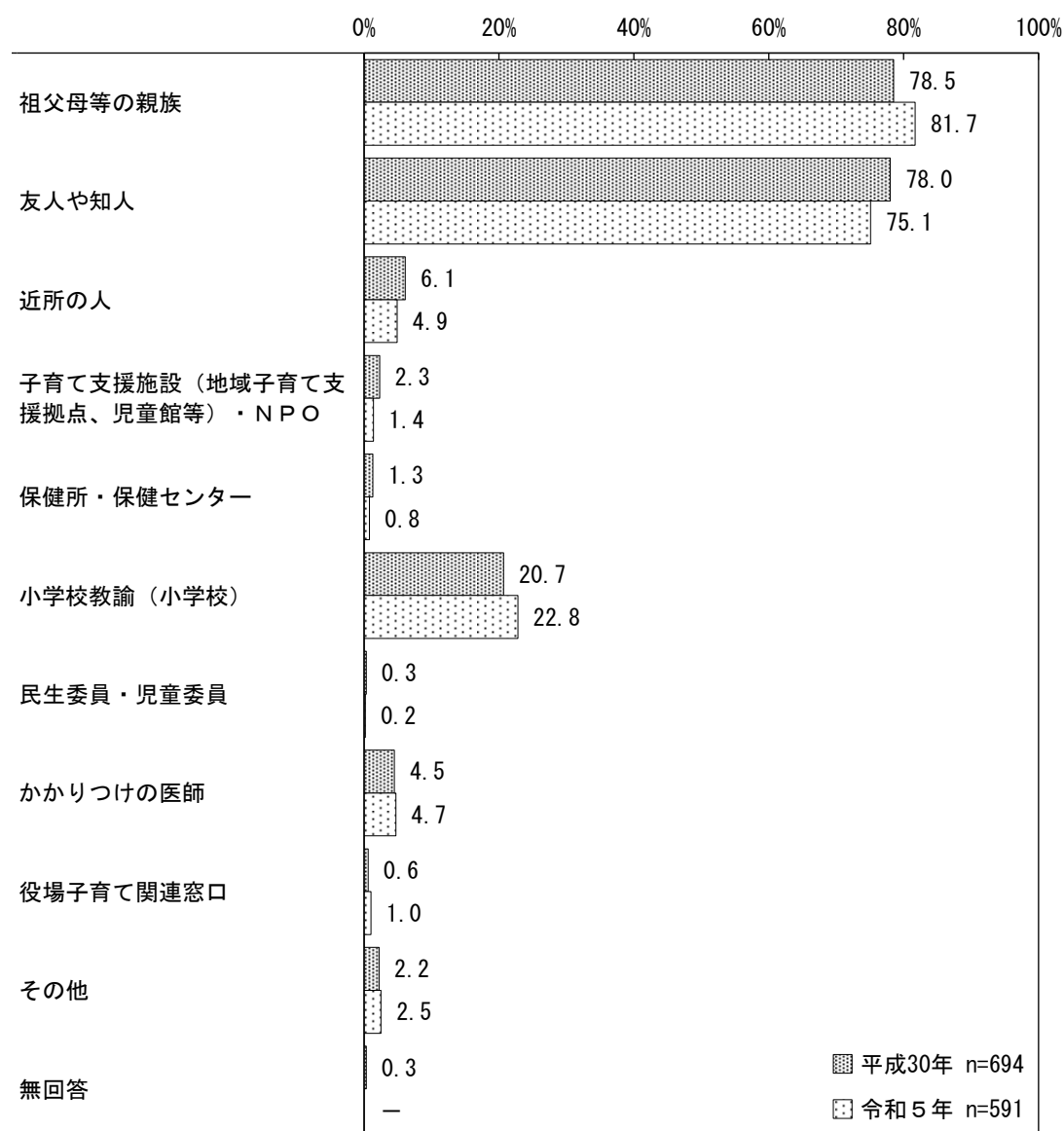


(2) 相談相手

前問で子育てに関する相談相手が「いる／ある」と答えた人の相談相手については、「祖父母等の親族」(81.7%)と「友人や知人」(75.1%)の2項目が高くなっています。平成30年と比べると、「祖父母等の親族」「小学校教諭(小学校)」などが上昇し、「友人や知人」「近所の人」などが低下しています。

「その他」として、図表2-10の内容が記載されていました。

図表2-9 子育てに関する相談相手(複数回答)



図表2-10 子育てに関する相談相手(その他)

・職場の人(7件) ・通級の先生(2件) ・習い事の人(2件) ・学童の指導員	・塾の先生 ・支援学級(大垣市) ・通所している放課後等デイサービス ・障害児支援施設
--	--

第3 保護者の就労状況等

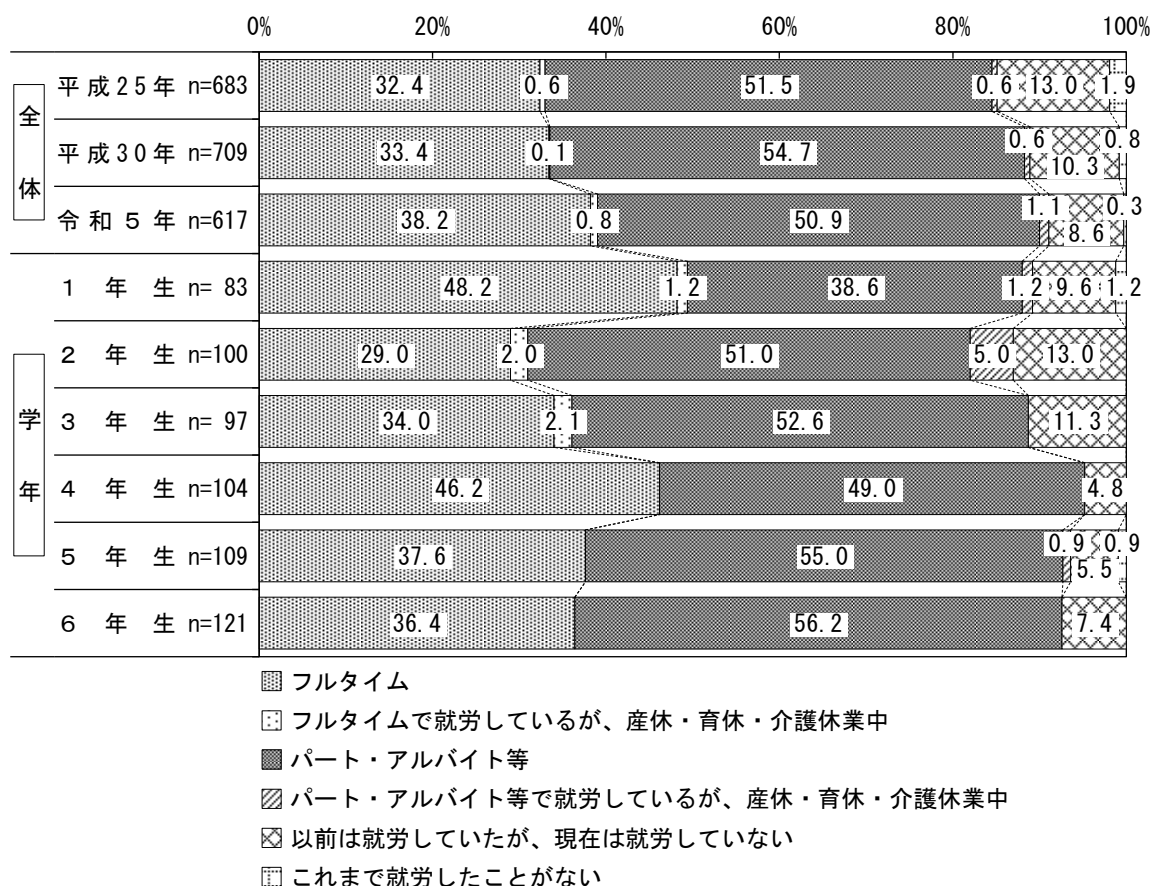
1 母親の就労状況

(1) 母親の就労状況・形態

母親の就労状況は、「パート・アルバイト等」が50.9%と最も高く、次いで「フルタイム」が38.2%などとなっています。産休・育休・介護休業中は、フルタイムとパート・アルバイト等を合わせると1.9%になります。平成25年および平成30年と比べると、「パート・アルバイト等」は低下した一方で、「フルタイム」は高くなっており、働いている母親の割合は上昇を続けています。

子どもの学年別にみると、1年生は「フルタイム」が48.2%と半数程度を占めています。2年生以上では学年が上がるにつれて「フルタイム」が上昇するものの、4年生をピークにその後は低下に転じます。

図表2-11 母親の就労状況・形態



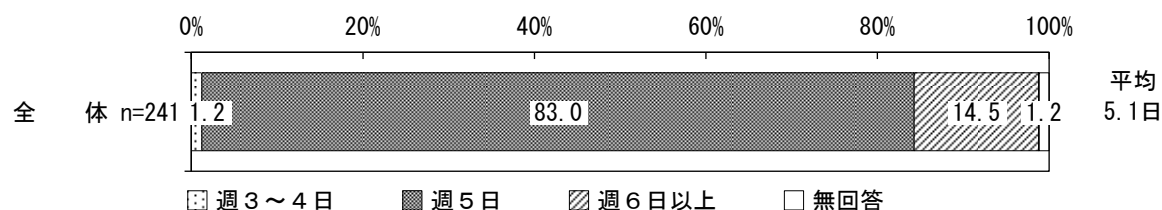
(2) 母親の就労日数と就労時間数

図表 2-12 および図表 2-13 は、前問で就労していると答えた人に、1 週当たりの就労日数および 1 日当たりの就労時間数（産休・育休・介護休業中の人は休業に入る前の状況）をたずねた結果です。フルタイムは、1 週当たりの平均就労日数が 5.1 日、1 日当たりの平均就労時間数が 8.3 時間です。

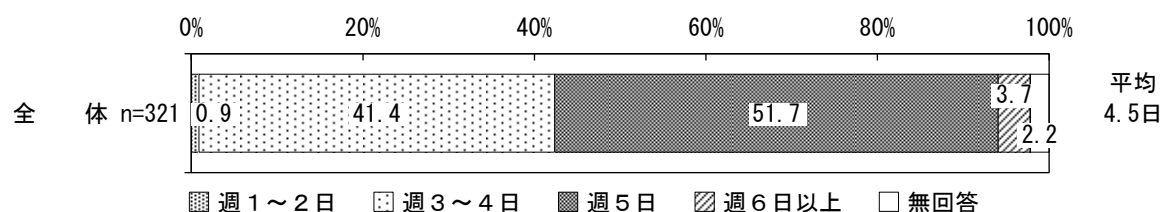
パート・アルバイト等は、1 週当たりの平均就労日数が 4.5 日、1 日当たりの平均就労時間数が 5.4 時間となっています。

図表 2-12 母親の就労日数

【フルタイム（休業中を含む）】

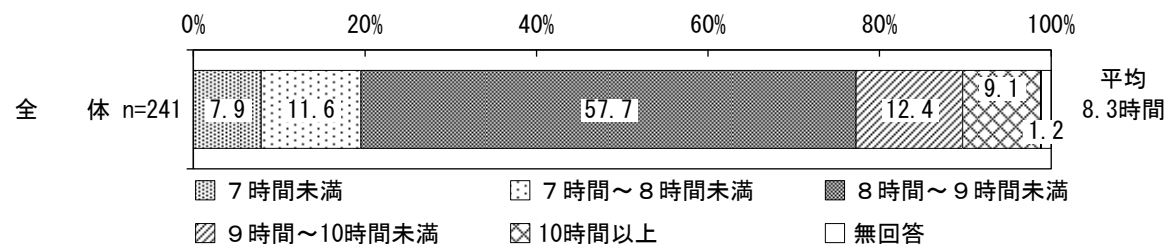


【パート・アルバイト等（休業中を含む）】

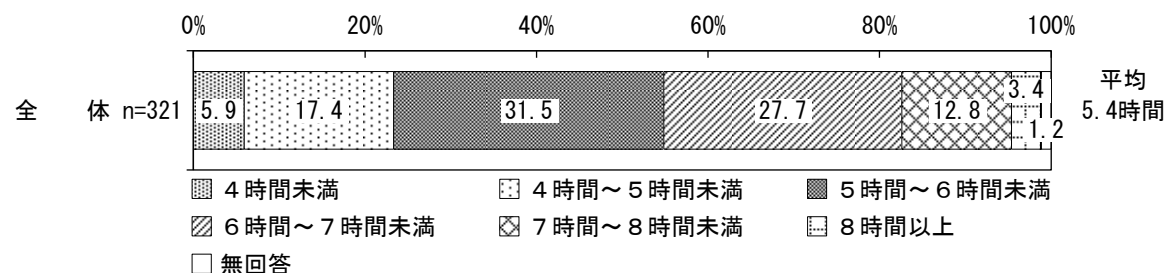


図表 2-13 母親の就労時間数

【フルタイム（休業中を含む）】



【パート・アルバイト等（休業中を含む）】



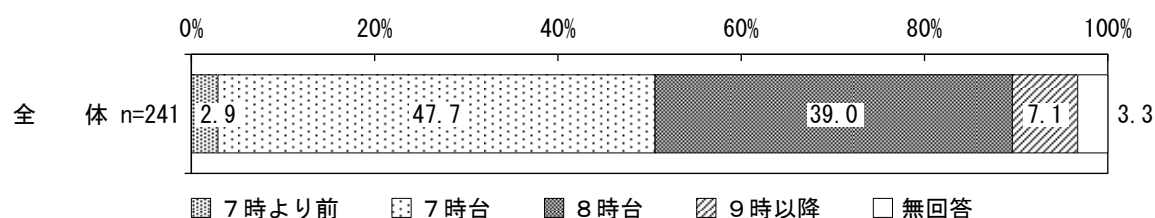
(3) 母親の家を出る時刻と帰宅時刻

図表 2-14、図表 2-15は、図表 2-11で就労していると答えた人に、家を出る時刻と帰宅時刻（産休・育休・介護休業中の人は休業に入る前の状況）をたずねた結果です。フルタイムについて、家を出る時刻は「7時台」（47.7%）と「8時台」（39.0%）で86.7%を占めており、帰宅時刻は「17時台」（31.5%）が最も高いものの、18時以降が53.6%を占めます。

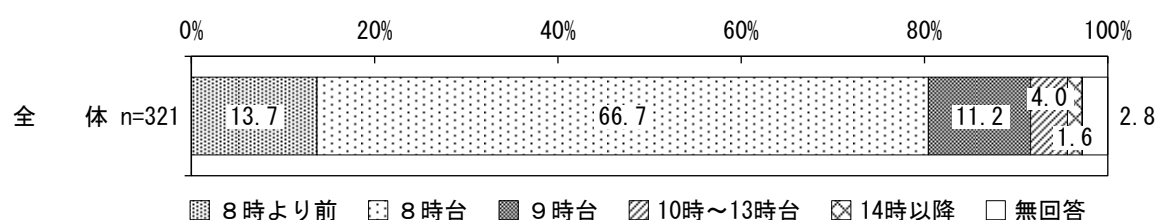
パート・アルバイト等について、家を出る時刻は「8時台」が66.7%を占め、帰宅時刻は「15時台」（29.0%）と「16時台」（24.0%）で53.0%を占めます。

図表 2-14 母親の家を出る時刻

【フルタイム（休業中を含む）】

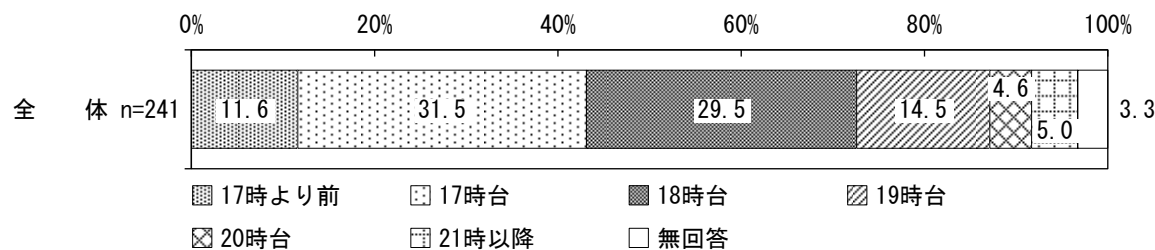


【パート・アルバイト等（休業中を含む）】

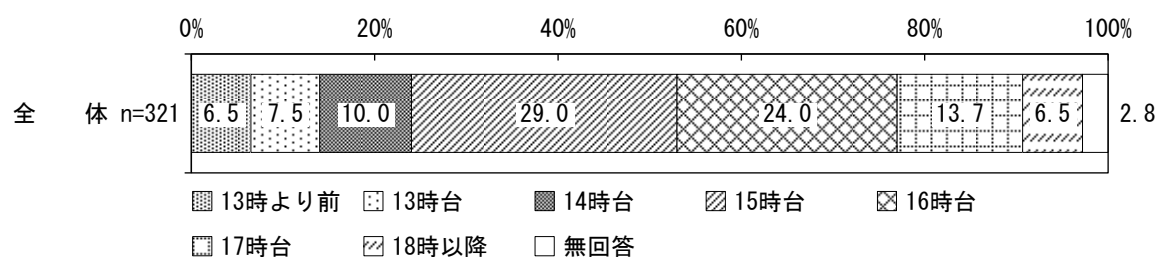


図表 2-15 母親の帰宅時刻

【フルタイム（休業中を含む）】



【パート・アルバイト等（休業中を含む）】

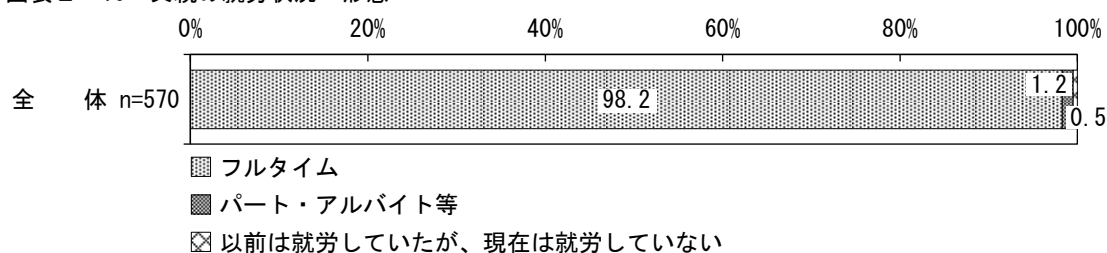


2 父親の就労状況

(1) 父親の就労状況・形態

父親は、「フルタイム」が98.2%を占め、「パート・アルバイト等」が1.2%（7人）、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が0.5%（3人）となっています。

図表 2-16 父親の就労状況・形態



(注)「フルタイムで就労しているが、育休・介護休業中」「パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中」「これまで就労したことがない」という選択肢には該当がなかった。

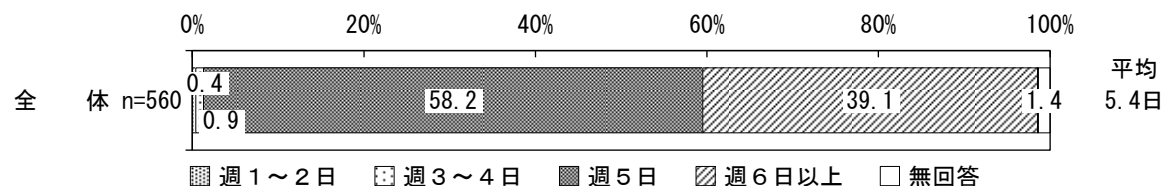
(2) 父親の就労日数と就労時間数

図表 2-17、図表 2-18は、前問で就労していると答えた人に、1週当たりの就労日数および1日当たりの就労時間数をたずねた結果です。フルタイムで働いている父親の1週当たりの平均就労日数は5.4日、1日当たりの平均就労時間数は9.4時間です。

パート、アルバイト等で働いている父親（7人）の就労日数は、「週5日」が3人、「週1～2日」「週3～4日」「週6日以上」および無回答がそれぞれ1人、1週当たりの平均就労日数は4.5日です。就労時間数は、「10時間」が2人、「4時間」「5時間」「6時間」「7時間」「8時間」がそれぞれ1人、1日当たりの平均就労時間数は7.1時間です。

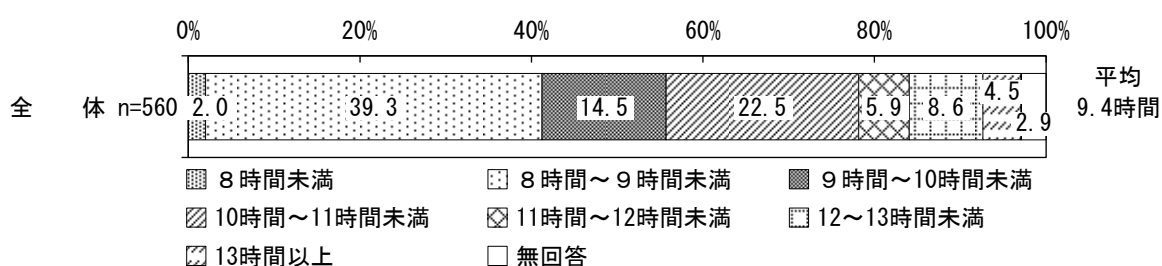
図表 2-17 父親の就労日数

【フルタイム（休業中を含む）】



図表 2-18 父親の就労時間数

【フルタイム（休業中を含む）】



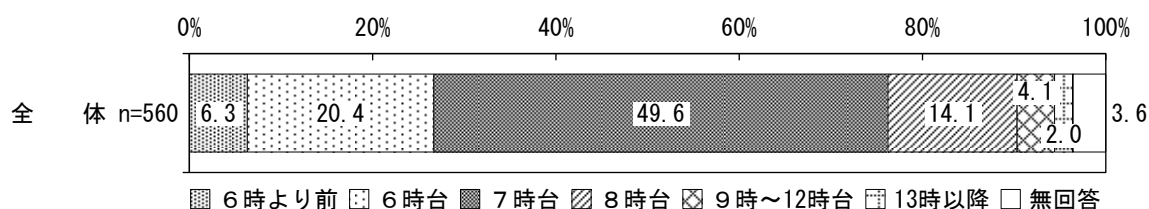
(3) 父親の家を出る時刻と帰宅時刻

図表 2-19、図表 2-20は、図表 2-16で就労していると答えた人に、家を出る時刻と帰宅時刻をたずねた結果です。フルタイムで働いている父親の家を出る時刻は、「7 時台」（49.6%）が最も高く、8 時より前に家を出るのが76.3%となっています。帰宅時刻は「18 時台」（25.0%）が最も高いものの、19 時以降に帰宅する割合が53.6%を占めています。

パート・アルバイト等で働いている父親（7 人）の家を出る時刻は、「6 時～7 時台」が 3 人、「6 時より前」「9～10 時台」がそれぞれ 2 人となっています。帰宅時刻は「14 時～16 時台」が 3 人、「17 時台」が 2 人、「18 時台」「22 時台」がそれぞれ 1 人となっています。

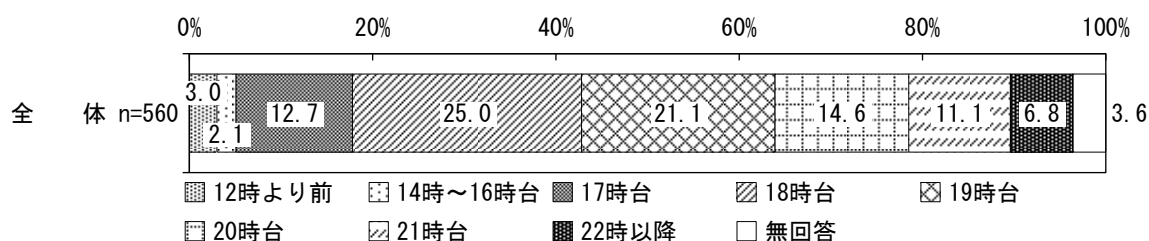
図表 2-19 父親の家を出る時刻

【フルタイム（休業中を含む）】



図表 2-20 父親の帰宅時刻

【フルタイム（休業中を含む）】



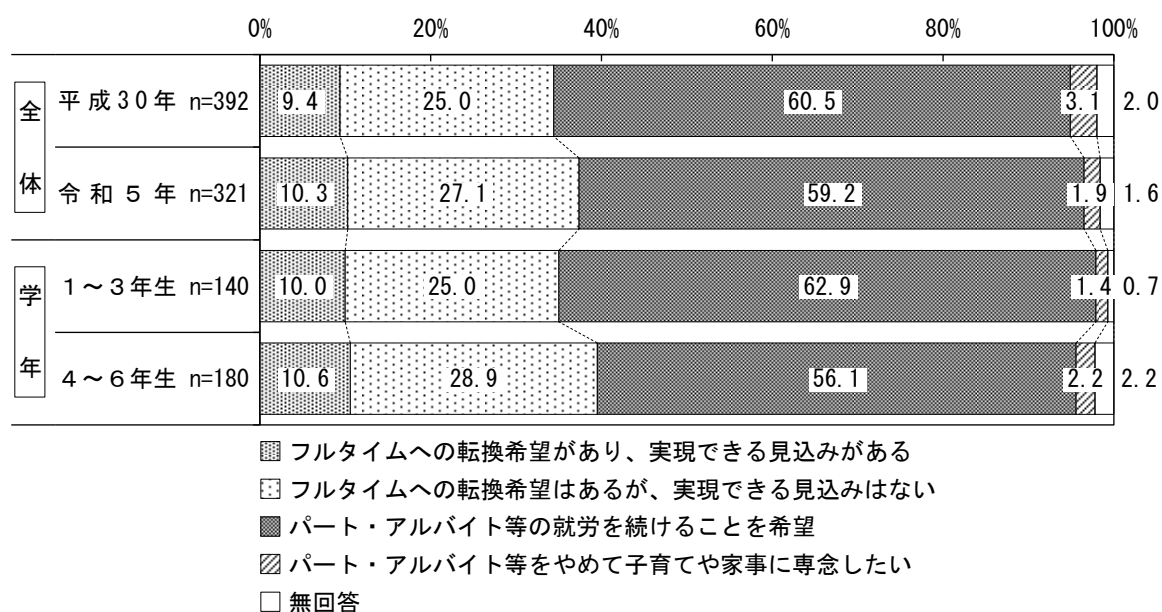
3 フルタイムへの転換希望

(1) 母親のフルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等と答えた母親のフルタイムへの転換希望をたずねたところ、＜転換希望がある＞は37.4%ですが、そのうちの27.1%は「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」としています。平成30年と比べると、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が2.1ポイント高くなっています。

子どもの学年別にみると、4～6年生は1～3年生に比べて＜転換希望がある＞が4.5ポイント高くなっています。

図表2-21 母親のフルタイムへの転換希望



(2) 父親のフルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等と答えた父親のフルタイムへの転換希望をたずねたところ、7人のうち2人が「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」、1人が「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」を選択しており、4人が無回答となっています。

4 働いていない保護者の就労意向

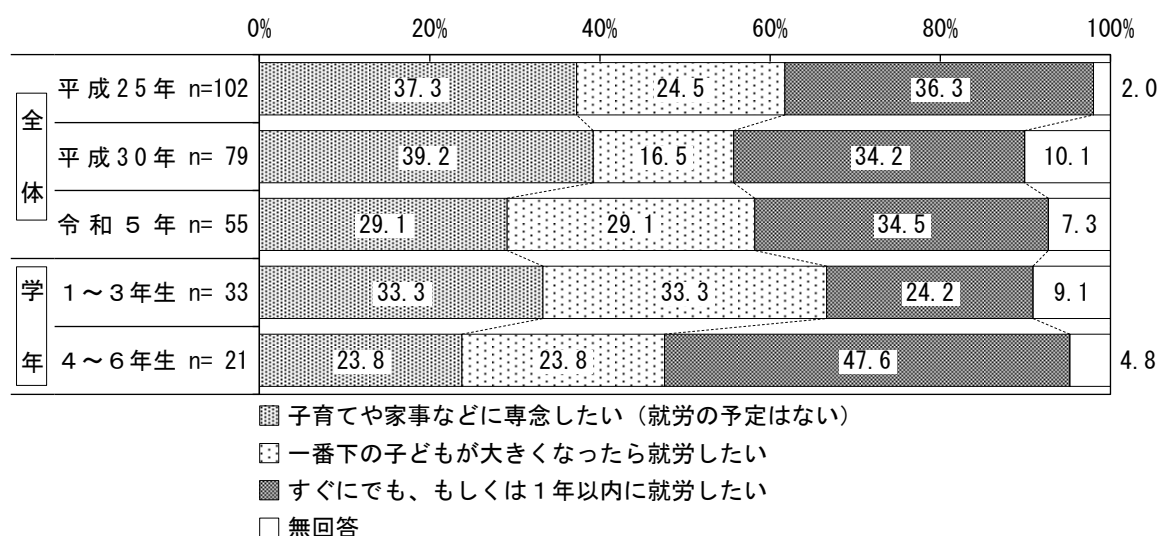
(1) 働いていない保護者の就労意向

現在、仕事をしていない母親の就労意向は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が34.5%と最も高く、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」および「一番下の子どもが大きくなったら就労したい」が29.1%となっています。平成25年および平成30年と比べて「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が大幅に低下し、「一番下の子どもが大きくなったら就労したい」が上昇しています。

子どもの年齢別にみると、4～6年生は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が47.6%と半数程度を占めています。（図表2-22）。

また、働いていない父親（3人）は、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」および無回答がそれぞれ1人となっています。

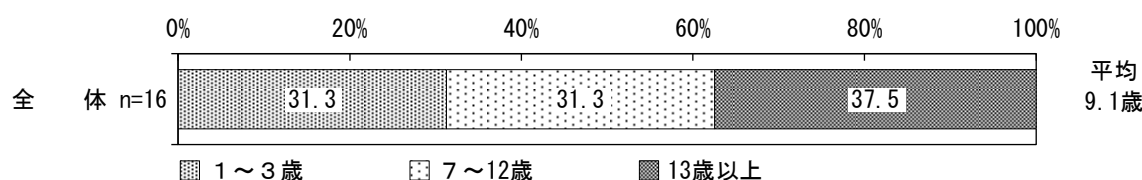
図表2-22 働いていない母親の就労意向



(2) 子どもが何歳になったら就労したいか（母親）

図表2-22で「一番下の子どもが大きくなったら就労したい」と答えた母親に、子どもが何歳になったら就労したいかたずねたところ、「13歳以上」が37.5%（6人）と最も高く、平均年齢は9.1歳となっています。

図表2-23 子どもが何歳になったら就労したいか（母親）

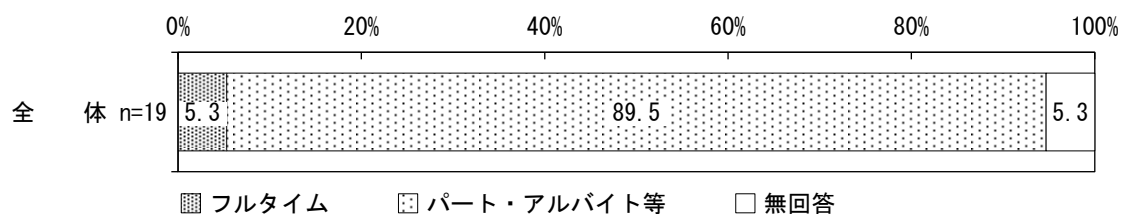


(3) 希望する就労形態・日数・時間

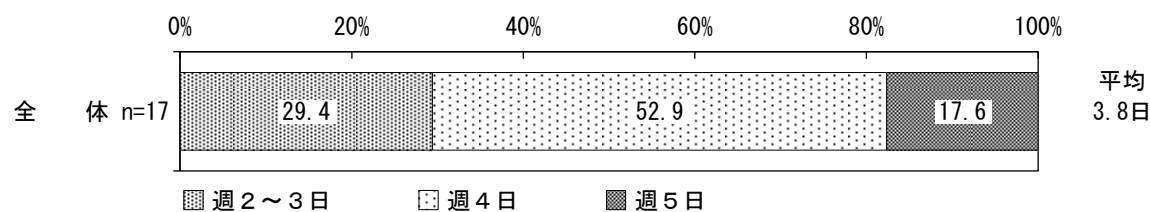
図表 2-22で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えた母親の希望する就労形態は、89.5%が「パート・アルバイト等」です（図表 2-24）。また、パート・アルバイト等と答えた人の1週当たりの就労希望日数は、「週4日」が52.9%と最も高く、1週当たりの平均就労希望日数は3.8日です（図表 2-25）。1日当たりの就労希望時間は、「5時間」が58.8%と最も高く、1日当たりの平均就労希望時間は4.8時間です（図表 2-26）。

また、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えた父親（1人）の希望する就労形態は「パート・アルバイト等」で、1週当たりの就労希望日数は「週5日」、1日当たりの就労希望時間は「5時間」です。

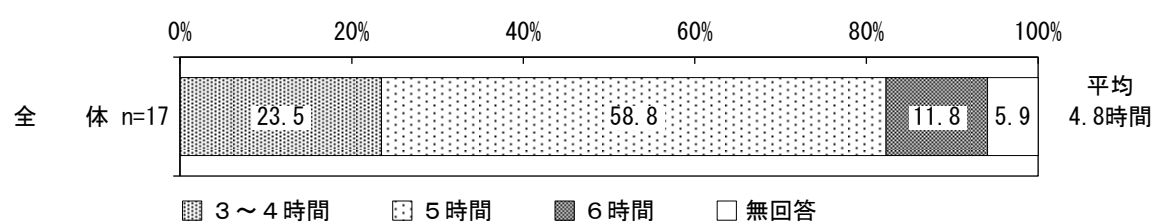
図表 2-24 希望する就労形態



図表 2-25 パート、アルバイト等の就労希望日数



図表 2-26 パート、アルバイト等の就労希望時間



第4 放課後等の子どもの居場所

1 平日の放課後の過ごし方

(1) 1年生から3年生

平日の放課後の過ごし方をみると、14～16時は各学年とも「学校にいた」が、16時以降は「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした」が高くなっています。「留守家庭児童教室」は、1年生の利用が比較的高くなっています。

図表2-27 平日の放課後の過ごし方（1～3年生）

単位：nは人、他は%

学 年	時間帯	学校にいた	留守家庭児童教室で過ごした	保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした	家でようだいなどと子どもたちだけで過ごした	家でひとりで過ごした	友だちの家にいた	公園などで友だちと遊んでいた	児童館などの公共の施設にいた	クラブ活動や地域活動をしていた	学習塾や習いごとに行っていた	その他	無回答
1年生 (n=87)	14～16時	35.6	27.6	29.9	1.1	—	1.1	—	—	—	—	1.1	3.4
	16～18時	1.1	29.9	55.2	—	—	—	4.6	—	—	5.7	1.1	2.3
	18～20時	—	1.1	93.1	—	—	—	—	—	—	1.1	—	4.6
	20時以降	—	1.1	93.1	—	—	—	—	—	—	—	—	5.7
2年生 (n=105)	14～16時	44.8	11.4	27.6	1.9	3.8	—	1.9	—	—	1.9	1.0	5.7
	16～18時	—	15.2	65.7	2.9	1.0	—	4.8	—	—	6.7	—	3.8
	18～20時	—	1.0	87.6	1.9	—	—	—	—	1.0	1.9	—	6.7
	20時以降	—	—	90.5	—	—	—	—	—	1.0	1.0	—	7.6
3年生 (n=100)	14～16時	44.0	9.0	33.0	3.0	2.0	1.0	—	—	—	1.0	1.0	6.0
	16～18時	—	16.0	58.0	4.0	4.0	1.0	1.0	—	—	10.0	3.0	3.0
	18～20時	—	—	77.0	—	1.0	—	—	—	3.0	10.0	—	9.0
	20時以降	—	—	87.0	—	—	—	—	—	2.0	1.0	1.0	9.0

(2) 4年生から6年生

4年生から6年生の放課後の過ごし方をみると、14～16時は「学校にいた」、16時以降は「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした」が最も高くなっています。「家でひとりで過ごした」は、5年生は20時以降まで回答がありました。4年生の18～20時の「学習塾や習いごとに行っていた」、5年生の18～20時の「クラブ活動や地域活動をしていた」が10%を超えています。

図表2-28 平日の放課後の過ごし方（4～6年生）

単位：nは人、他は%

学 年	時間帯	学校にいた	留守家庭児童教室で過ごした	保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした	家でようだいなどと子どもたちだけで過ごした	家でひとりで過ごした	友だちの家にいた	公園などで友だちと遊んでいた	児童館などの公共の施設にいた	クラブ活動や地域活動をしていた	学習塾や習いごとに行っていた	その他	無回答
4年生 (n=110)	14～16時	63.6	7.3	12.7	3.6	4.5	—	—	—	—	—	—	8.2
	16～18時	1.8	15.5	52.7	10.0	3.6	0.9	4.5	1.8	—	4.5	—	4.5
	18～20時	—	1.8	72.7	2.7	0.9	—	—	—	2.7	11.8	—	7.3
	20時以降	—	0.9	89.1	—	—	—	—	—	1.8	0.9	—	7.3
5年生 (n=113)	14～16時	64.6	0.9	19.5	1.8	8.0	—	0.9	—	—	—	—	4.4
	16～18時	0.9	3.5	60.2	15.9	7.1	0.9	2.7	—	0.9	4.4	—	3.5
	18～20時	0.9	—	72.6	1.8	—	—	—	—	10.6	8.0	—	6.2
	20時以降	0.9	—	87.6	0.9	0.9	—	—	—	3.5	—	—	6.2
6年生 (n=125)	14～16時	60.8	—	17.6	8.8	8.8	—	—	—	—	—	0.8	3.2
	16～18時	—	0.8	57.6	20.0	8.8	—	2.4	—	—	7.2	1.6	1.6
	18～20時	—	—	81.6	2.4	—	0.8	—	—	3.2	8.0	0.8	3.2
	20時以降	—	—	90.4	—	—	0.8	—	—	1.6	1.6	0.8	4.8

2 土曜・休日の過ごし方

(1) 1年生から3年生

土曜・休日は、午前・午後・夕方以降を通して、「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした」が最も高くなっていますが、学年が上がるにつれて低下する傾向がみられます。「クラブ活動や地域活動をしていた」および「学習塾や習いごとに行っていた」は午前・午後が高く、学年が上がるにつれて高くなる傾向がみられます。

図表2-29 土曜・休日の過ごし方（1～3年生）

単位：nは人、他は%

学 年	時間帯	学校にいた	留守家庭児童教室で過ごした	保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした	家できょうだいなどと子どもたちだけで過ごした	家でひとりで過ごした	友だちの家にいた	公園などで友だちと遊んでいた	児童館などの公共の施設にいた	クラブ活動や地域活動をしていた	学習塾や習いごとに行っていた	その他	無回答
1年生 (n=87)	午 前	—	4.6	77.0	1.1	—	—	—	1.1	5.7	4.6	1.1	4.6
	午 後	—	4.6	83.9	—	—	1.1	—	—	—	4.6	1.1	4.6
	夕 方 以 降	—	1.1	93.1	—	—	—	—	—	—	—	—	5.7
2年生 (n=105)	午 前	—	1.9	72.4	1.0	1.0	—	1.0	—	8.6	8.6	—	5.7
	午 後	1.0	2.9	81.0	—	—	—	—	—	2.9	5.7	1.0	5.7
	夕 方 以 降	—	—	90.5	—	—	—	—	—	1.0	1.0	—	7.6
3年生 (n=100)	午 前	1.0	2.0	59.0	4.0	1.0	—	—	—	15.0	9.0	2.0	7.0
	午 後	1.0	2.0	69.0	1.0	—	—	2.0	—	5.0	9.0	3.0	8.0
	夕 方 以 降	—	1.0	82.0	—	—	—	—	—	3.0	6.0	—	8.0

(2) 4年生から6年生

4年生から6年生の午前は「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした」と「クラブ活動や地域活動をしていた」が高くなっていますが、遅い時間帯になるにしたがい「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした」が上昇する傾向があるのに対し、「クラブ活動や地域活動をしていた」は低下しています。

図表2-30 土曜・休日の過ごし方（4～6年生）

単位：nは人、他は%

学 年	時間帯	学校にいた	留守家庭児童教室で過ごした	保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした	家でようだいなどと子どもたちだけで過ごした	家でひとりで過ごした	友だちの家にいた	公園などで友だちと遊んでいた	児童館などの公共の施設にいた	クラブ活動や地域活動をしていた	学習塾や習いごとに行っていた	その他	無回答
4年生 (n=110)	午 前	0.9	1.8	70.0	4.5	—	0.9	—	—	10.0	5.5	—	6.4
	午 後	0.9	1.8	70.0	4.5	0.9	—	0.9	—	8.2	6.4	—	6.4
	夕方以降	—	0.9	88.2	1.8	—	—	—	—	0.9	0.9	—	7.3
5年生 (n=113)	午 前	0.9	—	64.6	2.7	—	—	—	0.9	21.2	4.4	—	5.3
	午 後	0.9	—	69.0	0.9	1.8	1.8	0.9	—	12.4	7.1	—	5.3
	夕方以降	0.9	—	85.0	0.9	—	—	—	—	5.3	1.8	—	6.2
6年生 (n=125)	午 前	—	—	61.6	8.0	2.4	1.6	—	0.8	17.6	4.0	1.6	2.4
	午 後	—	—	66.4	7.2	0.8	2.4	2.4	0.8	9.6	6.4	1.6	2.4
	夕方以降	—	—	92.0	—	—	0.8	—	—	—	0.8	0.8	5.6

第5 留守家庭児童教室・放課後子ども教室

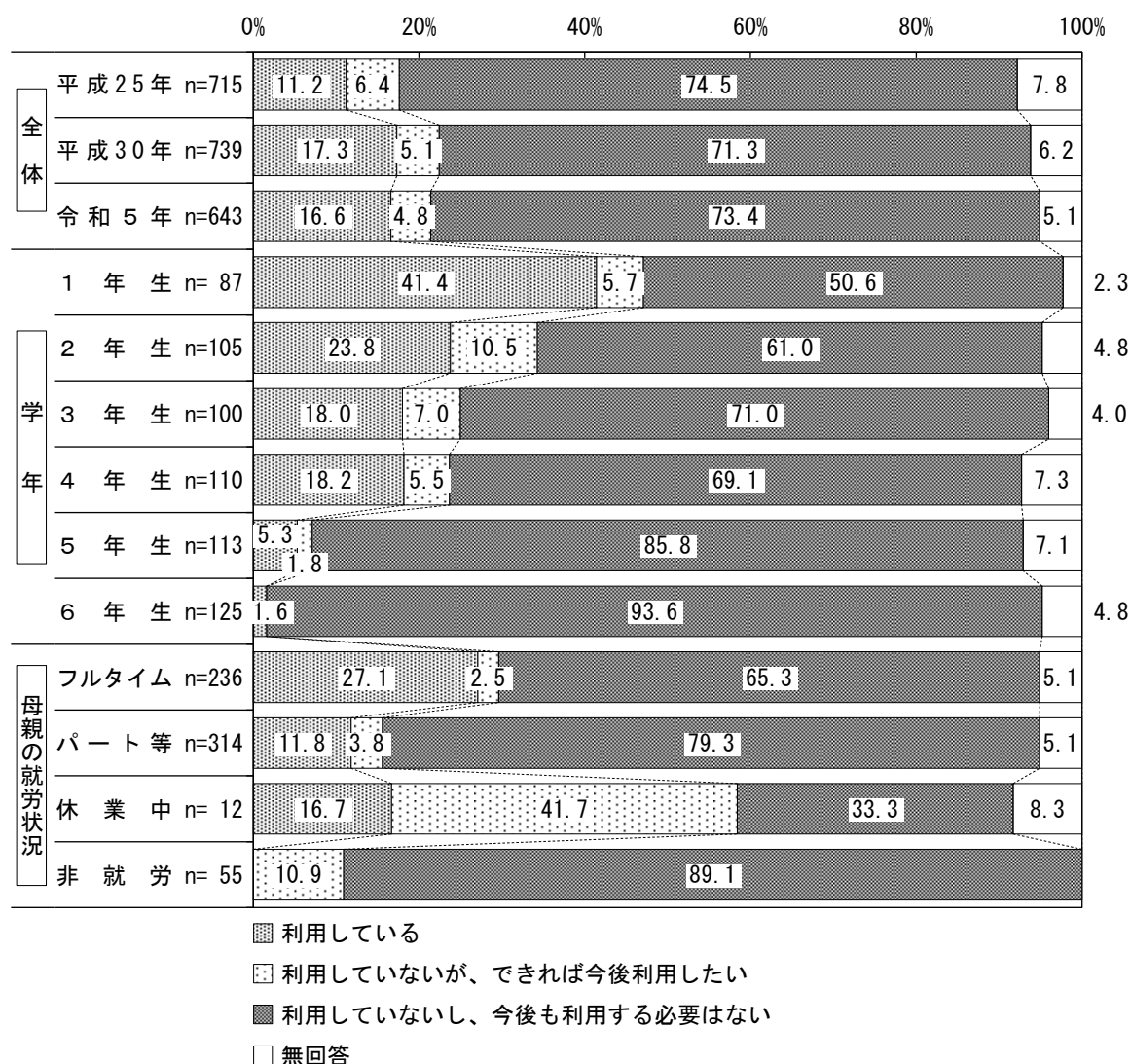
1 留守家庭児童教室の利用状況

(1) 留守家庭児童教室の利用の有無

留守家庭児童教室の利用率は16.6%と、平成25年と比べて高く、平成30年とほぼ同様となっています。子どもの学年別にみると低学年ほど高い傾向があり、1年生では41.4%が利用しています。母親の就労状況別ではフルタイムが高くなっています。

「利用していないが、できれば今後利用したい」を子どもの学年別にみると、2年生が高くなっています。

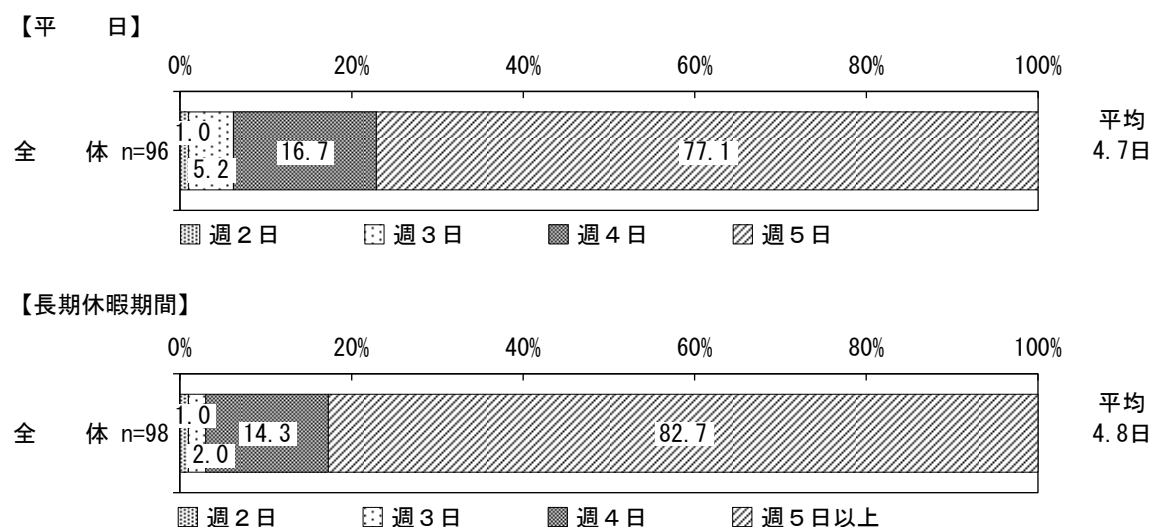
図表2-31 留守家庭児童教室の利用の有無



(2) 留守家庭児童教室の利用日数

留守家庭児童教室を「利用している」と回答した人の平日の利用日数は、「週 5 日」が77.1%を占め、次いで「週 4 日」が16.7%などとなっており、1 週当たりの平均利用日数は4.7日です。夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中は、「週 5 日以上」が82.7%と高くなっています。長期休暇期間中の 1 週当たりの平均利用日数は4.8日です。

図表 2-32 留守家庭児童教室の利用日数

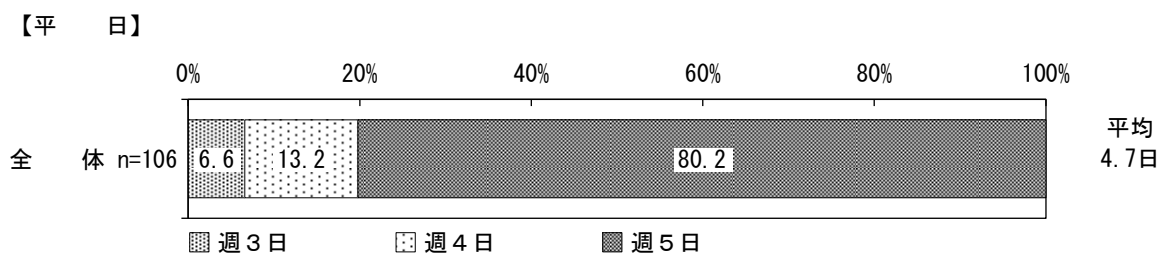


2 留守家庭児童教室の利用希望日数・時間等

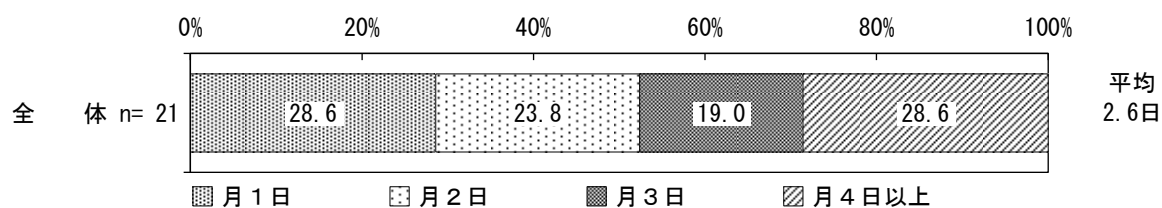
(1) 留守家庭児童教室の利用希望日数

図表 2-31で「利用している」または「利用していないが、できれば今後利用したい」と答えた人の利用希望日数は、図表 2-33のとおりです。平日は「週 5 日」が80.2%を占め、1 週間当たりの利用希望日数は4.7日です。土曜日は「月 1 日」「月 4 日以上」がそれぞれ28.6%（6 人）と最も高く、平均利用希望日数が 1 か月当たり2.6日となっています。日曜・祝日は「月 2 日」「月 3 日」が33.3%（3 人）と最も高く、平均利用希望日数は 1 か月当たり2.4日となっています。長期休暇期間中は「週 5 日以上」が85.6%を占め、平均利用希望日数は週4.9日となっています。

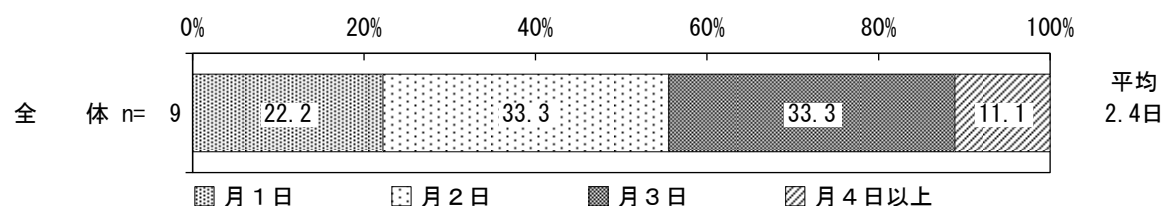
図表 2-33 留守家庭児童教室の利用希望日数



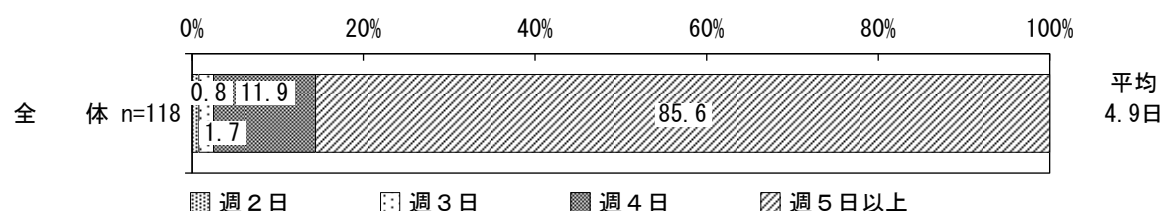
【土 曜 日】



【日曜・祝日】



【長期休暇期間】

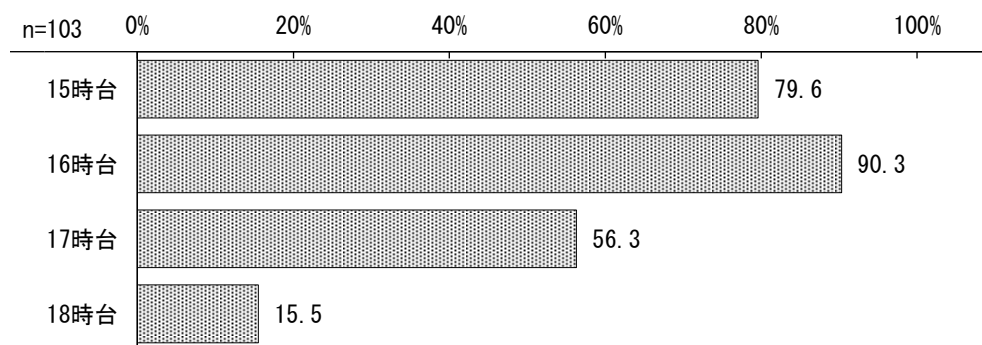


(2) 留守家庭児童教室の利用希望時間帯

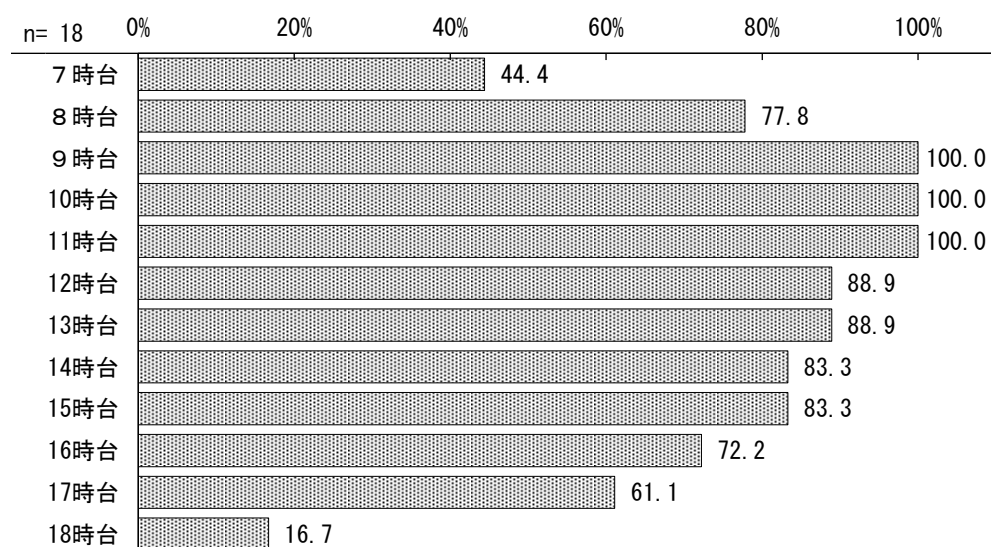
留守家庭児童教室の利用希望時間帯についてみると、平日は「16時台」が90.3%と最も高く、そこから時間とともに低下し、19時以降の希望はありません。土曜日は、9時台から11時台が高く、その後は徐々に低下していきませんが、17時台でも60%を上回っています。日曜・祝日は、9時台から13時台が高くなっています。長期休暇期間中は、8時台が90%程度、9時台から15時台まで100%程度と高くなっています。

図表 2-34 留守家庭児童教室の利用希望時間帯

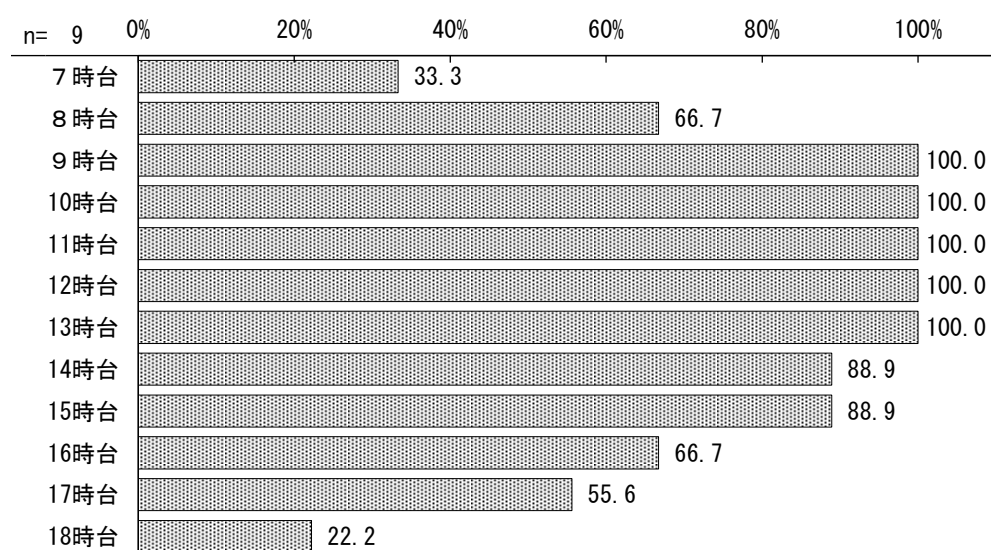
【平 日】



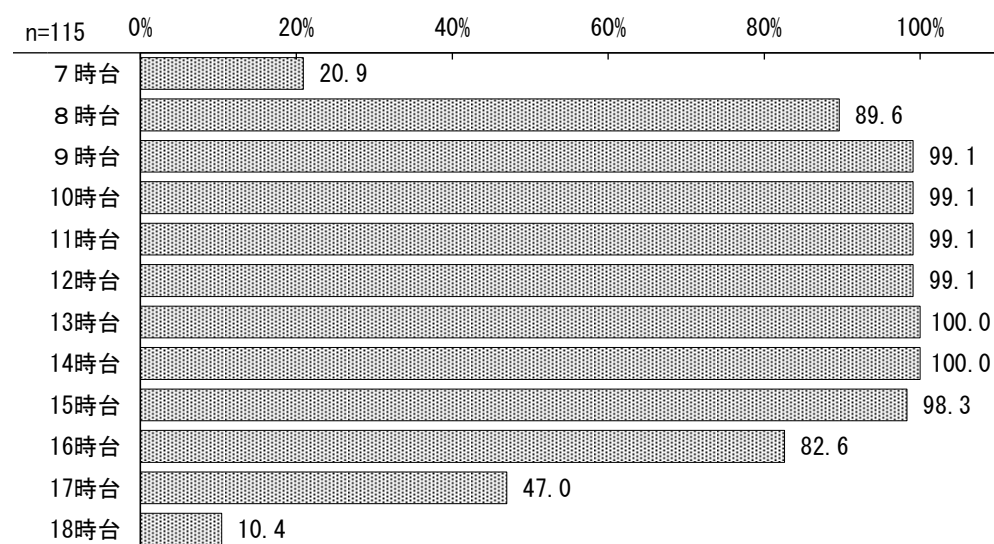
【土 曜 日】



【日曜・祝日】



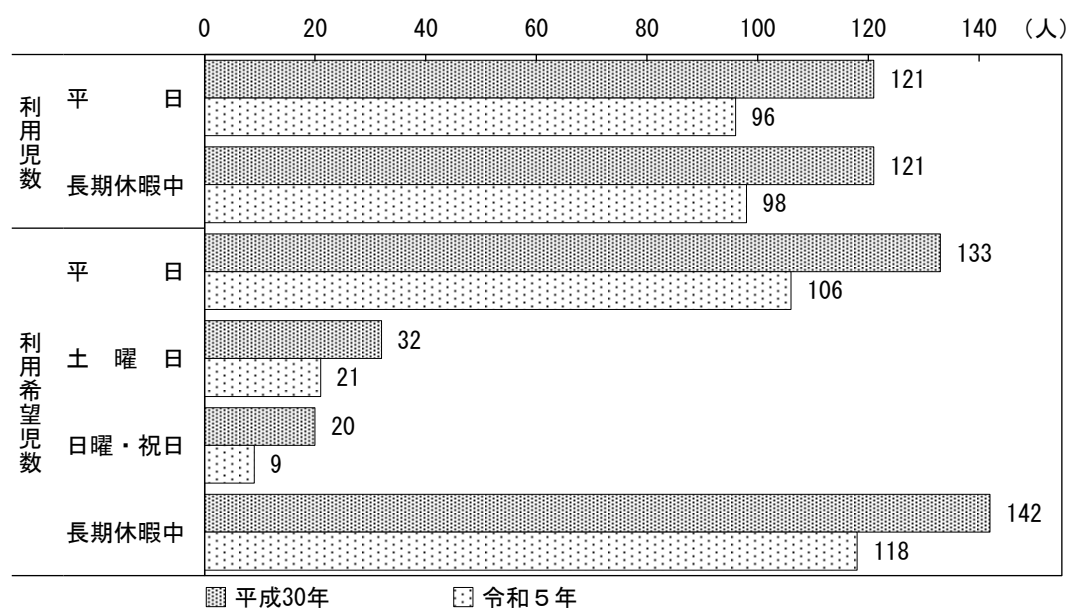
【長期休暇期間】



(3) 留守家庭児童教室の利用児数と利用希望児数

留守家庭児童教室の利用児数と利用希望児数をみると、平日、長期休暇中ともに利用希望児数が実際の利用児数を上回っており、長期休暇中の利用希望が118人と最も多くなっています。平成30年と比べると、児童数の減少もあり、利用児数、利用希望児数ともに減少しています。

図表 2-35 留守家庭児童教室の利用児数と利用希望児数



(4) 留守家庭児童教室の利用希望学年

留守家庭児童教室を「利用している」あるいは「利用していないが、できれば今後利用したい」と答えた人の利用希望学年は、「6年生まで」が61.6%と最も高く、次いで「4年生まで」が17.4%などとなっています。

図表 2-36 留守家庭児童教室の利用希望学年

単位：nは人、他は%

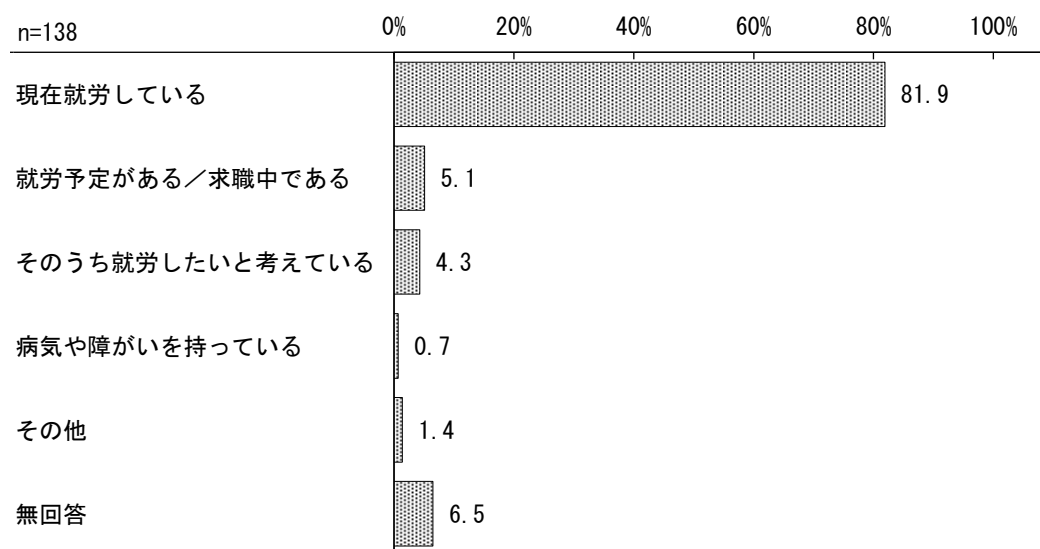
区 分	n	3年生まで	4年生まで	5年生まで	6年生まで	無回答
全 体	138	4.3	17.4	6.5	61.6	10.1
1年生	41	7.3	14.6	9.8	53.7	14.6
2年生	36	2.8	25.0	2.8	63.9	5.6
3年生	25	8.0	24.0	—	60.0	8.0
4年生	26		11.5	15.4	65.4	7.7
5年生	8			—	87.5	12.5
6年生	2				50.0	50.0

(5) 留守家庭児童教室の利用理由

留守家庭児童教室を利用している、または今後利用したい主な理由としては、「現在就労している」が81.9%を占めています。

「その他」として、「持病があり、就労している」などの記載がありました。

図表 2-37 留守家庭児童教室の利用理由



(注)「家族・親族などを介護しなければならない」「学生である／就学したい」「就労していないが、子どもの教育などのために預けたい」という選択肢に該当がなかった。

3 放課後子ども教室

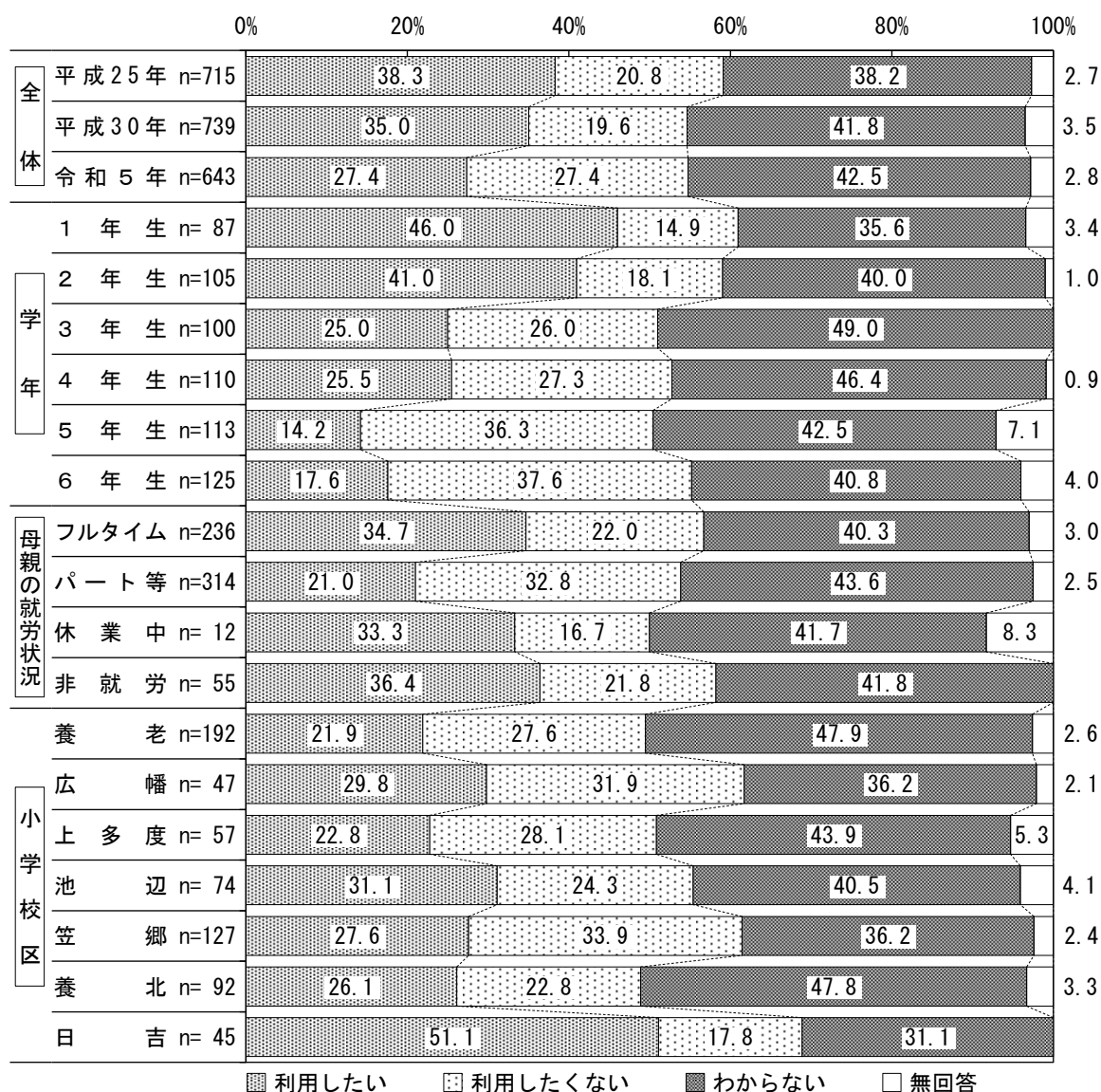
(1) 放課後子ども教室の利用意向

放課後子ども教室は、すべての子どもを対象として、安心・安全な子どもの居場所を提供し、地域住民の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化芸術活動、交流活動等の取組をするものです。現在、養老町では実施していません。

放課後子ども教室を「利用したい」、「利用したくない」ともに27.4%であり、「わからない」が42.5%となっています。平成25年および平成30年と比べると、「利用したい」は低下が続いています。

「利用したい」は、子どもの学年別では低学年ほど高い傾向にあります。また、母親の就労状況別にみると、パート・アルバイト等は低くなっています。小学校区別にみると、日吉は51.1%と他の小学校区と比べて突出して高くなっています。

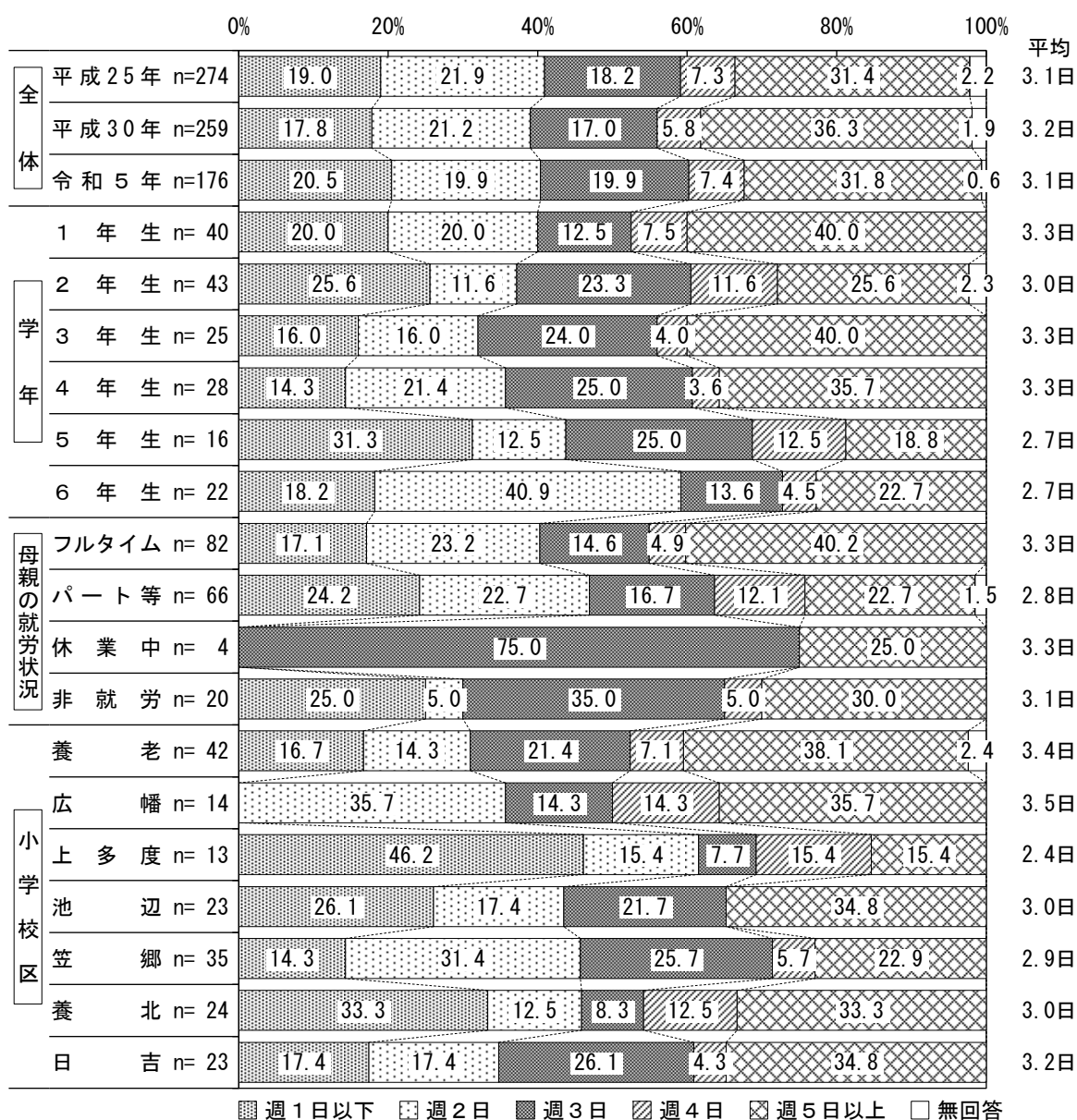
図表 2-38 放課後子ども教室の利用意向



(2) 放課後子ども教室の利用希望日数

放課後子ども教室を「利用したい」と答えた人の利用希望日数は、「週5日以上」が31.8%と最も高く、次いで「週1日以下」が20.5%、「週2日」「週3日」が19.9%などとなっています。1週当たりの平均利用希望日数は3.1日です。

図表2-39 放課後子ども教室の利用希望日数

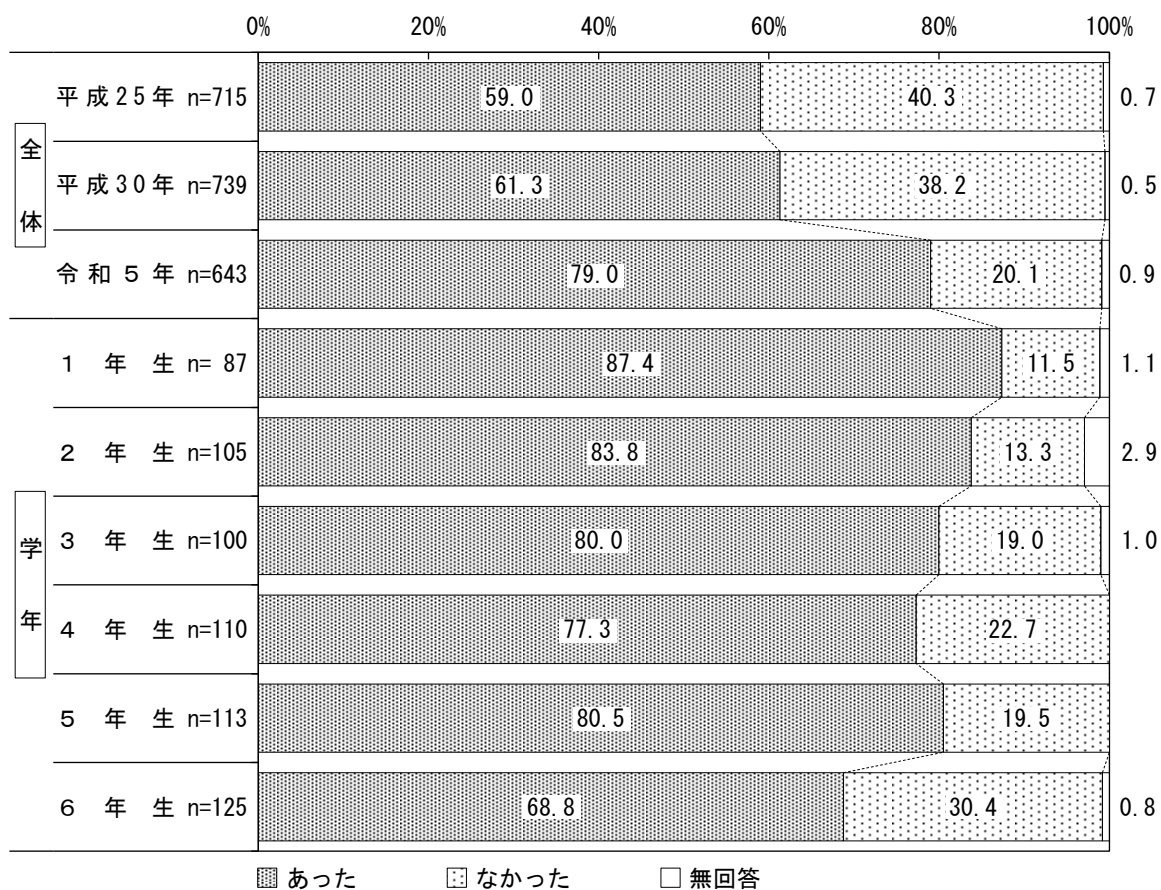


第6 子どもが病気の時の対応

1 子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無

この1年間に、子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無については、「あった」が79.0%、「なかった」が20.1%です。平成25年および平成30年と比べると、「あった」が大きく上昇しています。

図表2-40 子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無



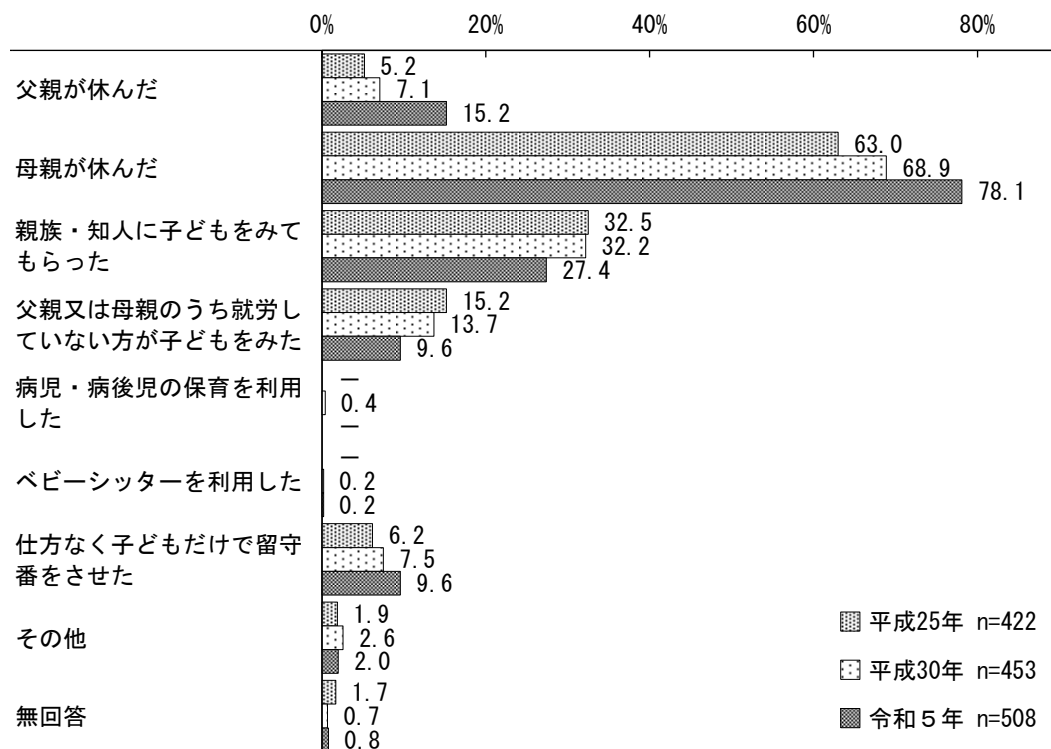
2 子どもが病気等で学校を休んだ場合等の対処方法

子どもが病気等で学校を休んだ場合の対処方法については、「母親が休んだ」が78.1%と最も高く、次いで「親族・知人に子どもをみてもらった」が27.4%、「父親が休んだ」が15.2%などとなっています。平成25年および平成30年と比べると、「父親が休んだ」「母親が休んだ」「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」は高く、「親族・知人に子どもをみてもらった」「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」は低くなっています（図表2-41）。

対処が必要だった年間の日数の平均を対処方法別にみると、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」日数が11.8日と最も多く、平成30年と比べて8.5日増加しています。（図表2-42）。

「その他」として、図表2-43の内容が記載されていました。

図表2-41 子どもが病気等で学校を休んだ場合等の対処方法（複数回答）



（注）「ファミリー・サポート・センターを利用した」という選択肢には該当がなかった。

図表2-42 対処が必要だった年間の日数の平均

単位：日／年

区分	父親が休んだ	母親が休んだ	親族・知人に子どもをみてもらった	父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	病児・病後児の保育を利用した	ベビーシッターを利用した	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	その他
平成30年	3.2	3.4	3.0	3.3	2.5	—	2.3	2.1
令和5年	3.4	6.2	4.0	11.8	—	5.0	2.5	5.0

図表 2-43 子どもが病気等で学校を休んだ場合等の対処方法（その他）

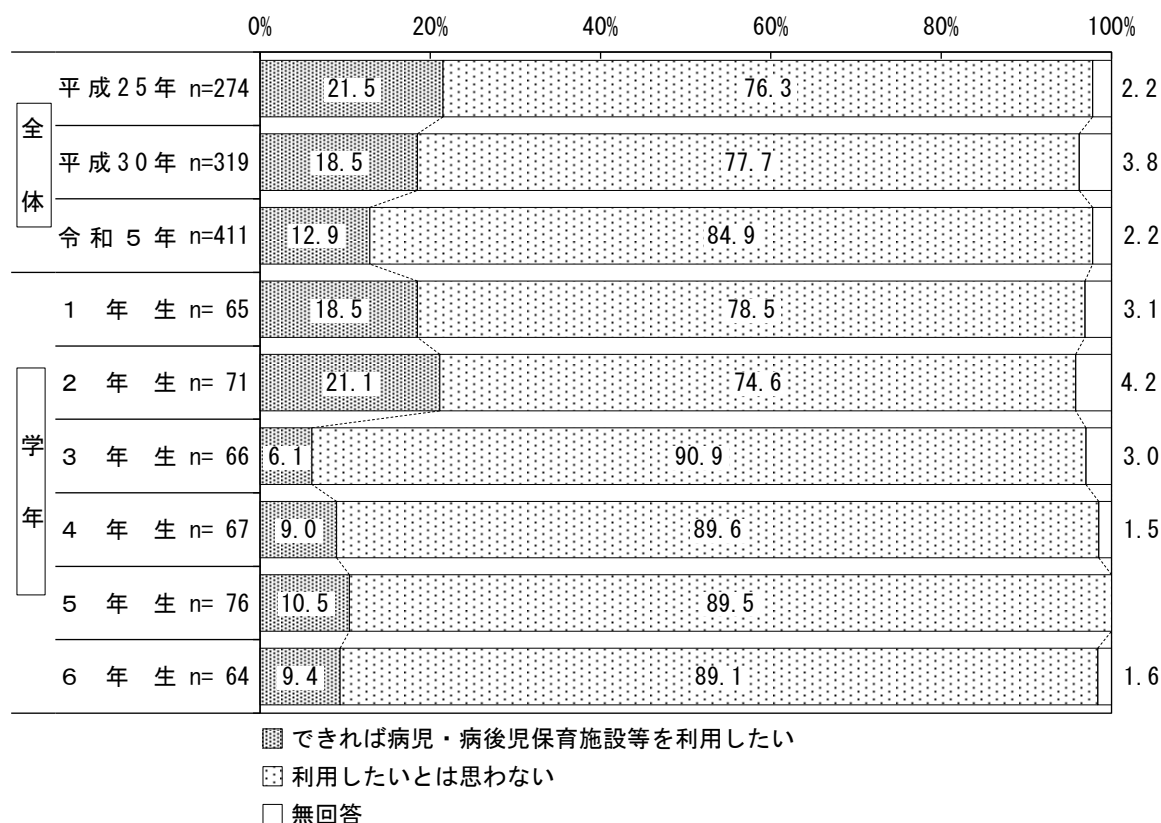
・在宅勤務やテレワークで対応した（5件） ・早退した	・職場へ一緒に行った ・母親が家にいる
-------------------------------	------------------------

3 子どもが病気等で学校を休んだ場合等の施設の利用意向

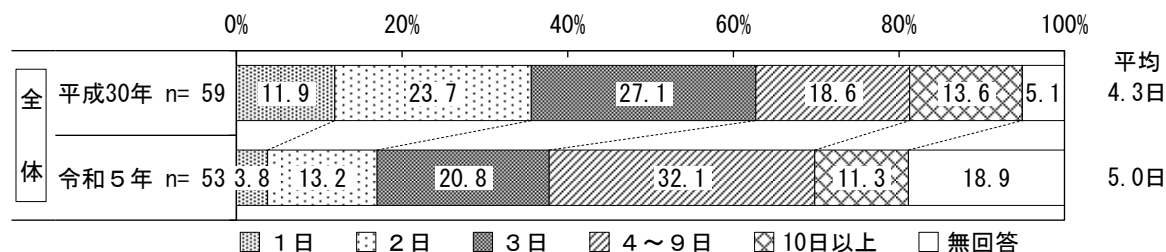
子どもが病気等で学校を休んだ時の対処方法として、親が仕事を休んで対処した人の施設の利用意向は12.9%です。平成25年および平成30年と比べると、利用意向は低下を続けています。学年別にみると、1、2年生の利用意向が高くなっています（図表 2-44）。

1年間に施設に預けたかった日数は「4～9日」が32.1%と最も高く、1年当たりの平均日数は5.0日です。平成30年と比べると、平均日数は0.7日多くなっています（図表 2-45）。

図表 2-44 子どもが病気等で学校を休んだ場合等の施設の利用意向



図表 2-45 施設に預けたかった日数（日／年）



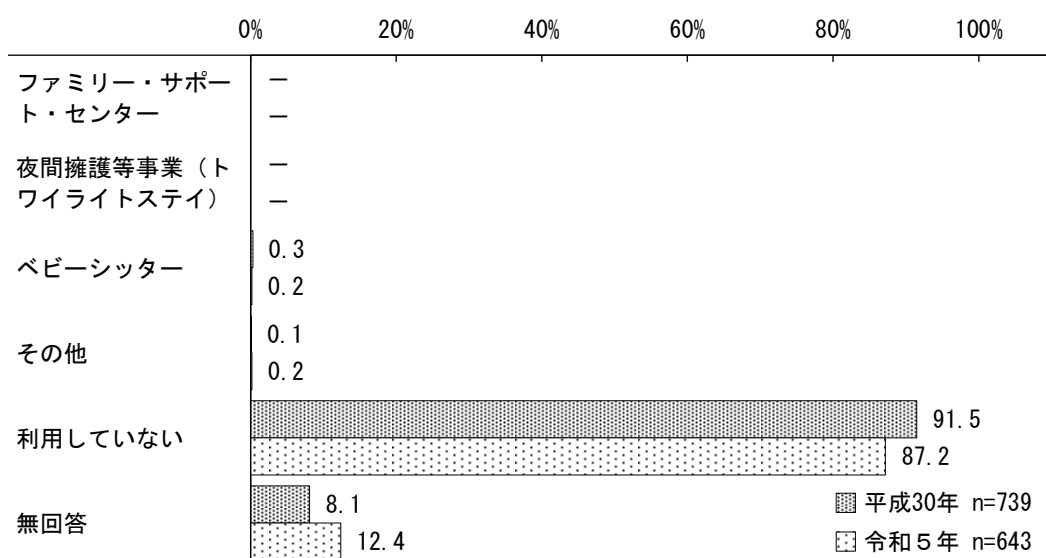
第7 不特定の事業や宿泊を伴う一時預かり

1 不定期的に利用している事業

私用、親の通院、不特定の就労等の目的で、不定期的に利用している事業としては、「ベビーシッター」「その他」がそれぞれ0.2%（1人）となっており、87.2%が「利用していない」と回答しています。また、それぞれの事業の1年間の利用日数については、「ベビーシッター」が「5日」、「その他」が「3日」という回答がありました。

「その他」として、「民間の託児所」という記載がありました。

図表2-46 不定期的に利用している事業（複数回答）



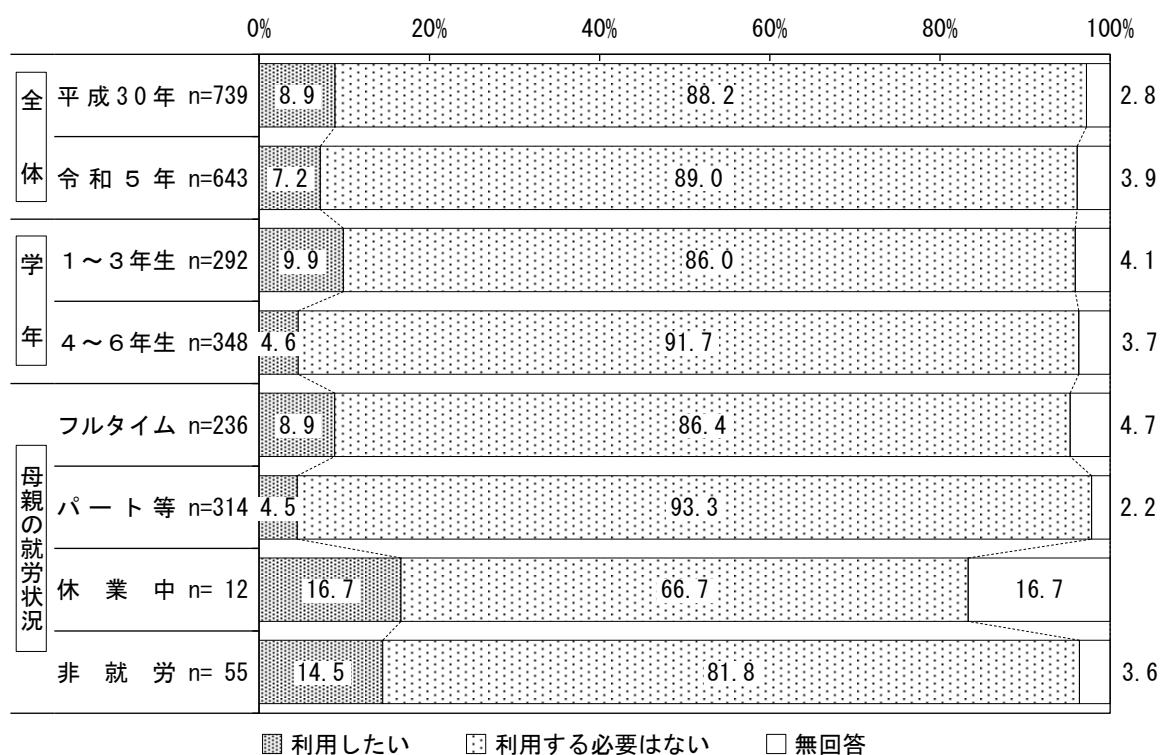
2 不定期の預かり等の事業の利用意向

(1) 不定期の預かり等の事業の利用意向

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、子どもを預かってくれる事業を「利用したい」と答えているのは7.2%となっています。平成30年と比べると、1.7ポイント低下しています。

「利用したい」は、子どもの学年別にみると1～3年生が、母親の就労状況別にみると休業中および非就労が高くなっています。

図表2-47 不定期の預かり等の事業の利用意向



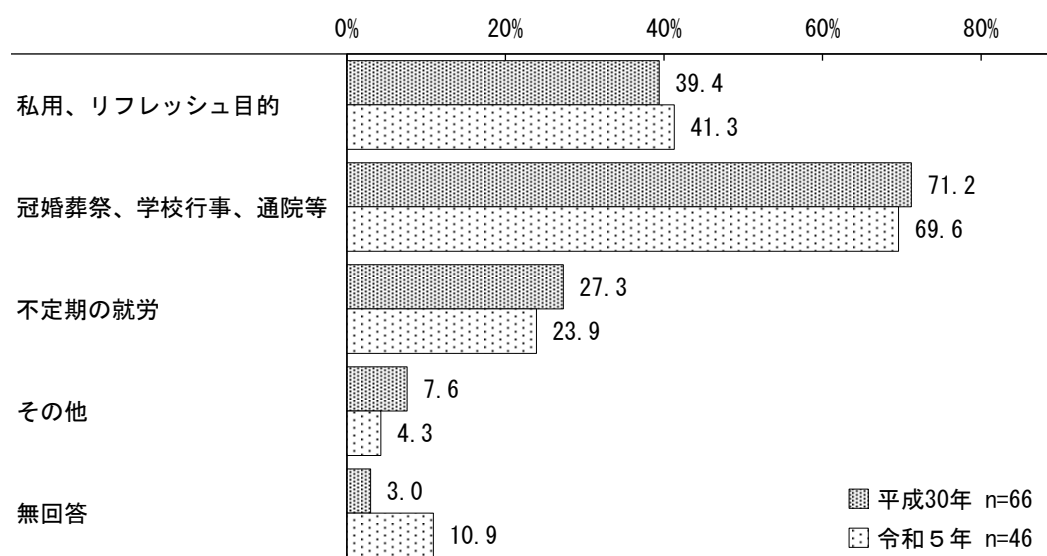
(2) 不定期の預かり等の事業の利用目的

前問で「利用したい」と回答した人の利用目的をたずねたところ、「冠婚葬祭、学校行事、通院等」が69.6%と最も高く、次いで「私用、リフレッシュ目的」が41.3%、「不定期の就労」が23.9%となっています。平成30年と比べて、「私用、リフレッシュ目的」以外の項目で低下しています（図表2-48）。

各目的別の1年間の利用希望日数をみると、「その他」を除いた項目では、「冠婚葬祭、学校行事、通院等」の16.0日が最も多くなっており、平成30年と比べて6.7日増加しています（図表2-49）。

「その他」として、「日曜日の仕事」「自分の病気」という記載がありました。

図表2-48 不定期の預かり等の事業の利用目的（複数回答）



図表2-49 不定期の預かり等の事業の利用希望日数

単位：日／年

区 分	私用、リフレッシュ目的	冠婚葬祭、学校行事、通院等	不定期の就労	その他
平成30年	16.4	9.3	24.9	17.8
令和5年	3.6	16.0	3.2	40.0

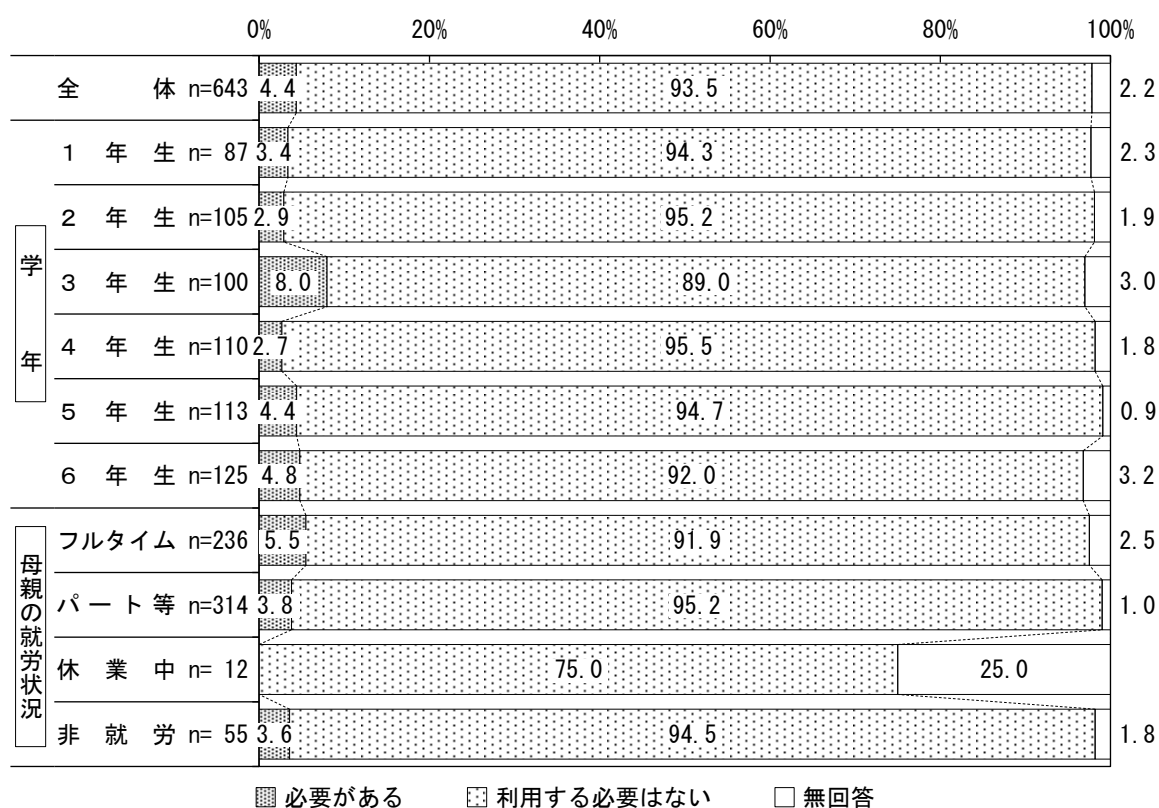
3 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向

(1) 子どもを泊まりがけで家族以外に預ける必要の有無

保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（きょうだい含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、子どもを泊まりがけで家族以外に預ける必要があると思うかたずねたところ、「利用する必要はない」が93.5%を占めており、「必要がある」は4.4%となっています。

「必要がある」は、子どもの学年別では3年生、母親の就労状況別ではフルタイムが比較的高くなっています。

図表2-50 子どもを泊まりがけで家族以外に預ける必要の有無



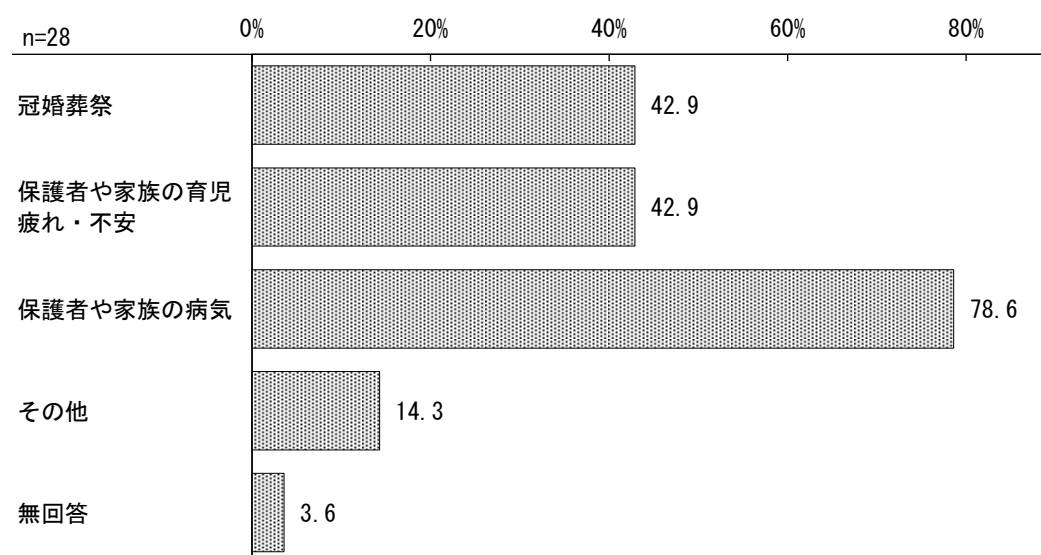
(2) 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用目的

図表 2-50で「必要がある」と回答している人に、短期入所生活援助事業（ショートステイ）（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）の利用目的をたずねたところ、「保護者や家族の病気」が78.6%と最も高く、次いで「冠婚葬祭」「保護者や家族の育児疲れ・不安」がそれぞれ42.9%となっています（図表 2-51）。

図表 2-52で各目的別の1年間の必要泊数をみると、「保護者や家族の育児疲れ・不安」の13.8泊が最も多くなっています。

「その他」として、「選択肢の内容に加え、不安を感じるなら」という記載がありました。

図表 2-51 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用目的（複数回答）



図表 2-52 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の平均必要泊数

単位：泊／年

区 分	冠婚葬祭	保護者や家族の 育児疲れ・不安	保護者や家族の 病気	その他
平均必要泊数	2.1	13.8	5.5	2.0

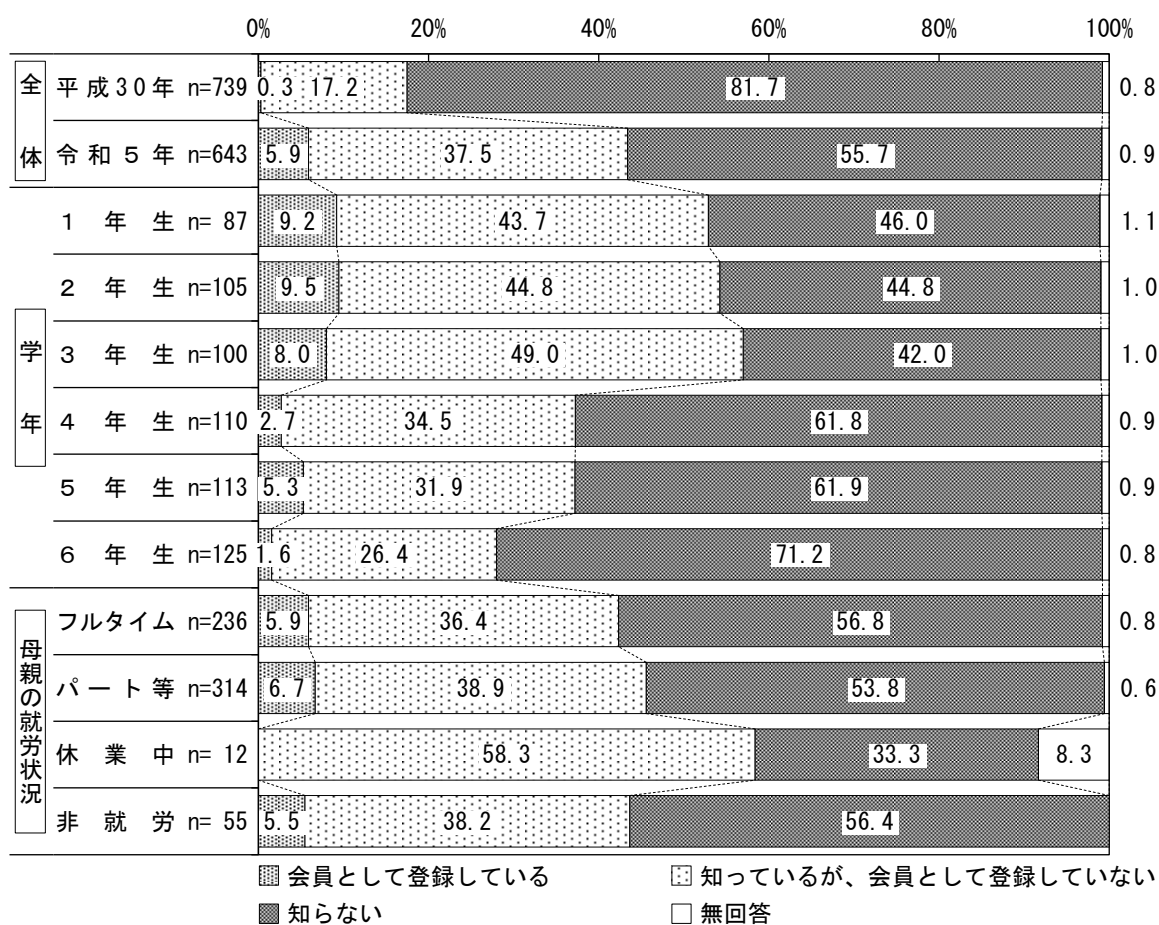
第8 子育て支援事業の評価等

1 ファミリー・サポート・センターの認知度

ファミリー・サポート・センターについては、「会員として登録している」(5.9%)と「知っているが、会員として登録していない」(37.5%)とを合計した43.4%が<知っている>ことになります。平成30年と比べて、<知っている>は25.9ポイントと大幅に上昇しています。

子どもの学年別にみると、<知っている>は1～3年生は過半数を占めていますが、4年生以降は低下し、6年生では30%未満と低くなっています。

図表2-53 ファミリー・サポート・センターの認知度



2 改善してほしいこと・利用してよかったこと

(1) 改善してほしいこと・利用してよかったこと

図表2-54は、「現在通学している学校や、利用している子育て支援事業等について、改善してほしいことや、よかった点があればご記入ください」という設問に記述されていたことをまとめたものです。

図表2-54 改善してほしいこと・利用してよかったこと

【学 校】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
・トイレを洋式にしてほしい（2件） ・雨漏りを直してほしい（2件） ・児童用トイレの改修工事を希望します ・トイレが汚く、入るのに抵抗がある、と子どもが言っている ・トイレが古い ・外のトイレを新しくしてほしい ・中学校のトイレが古い ・体育館の老朽化 ・体育館にエアコンや大型扇風機などの設備がない ・体育館トイレの水漏れ ・ひょうたん山が危ない（蛇も出るしハチもいる） ・子どもがひょうたん山を大好きなのにずっと遊べないでいる。はやく整備してほしい ・グラウンドの草処理 ・紙で配布される学年だよりや行事の案内文書等もスマート連絡してほしい。出欠席連絡以外にも保護者側から学校へ連絡できるようにしてほしい。先生からの連絡が個人にきても返信できない ・スマート連絡帳が使いにくい。先生に直接話したい。聞きたいことがあるが伝えられない。電話もつながらない ・学校から電話がある時、年度初めに提出した連絡先の優先順位が無視されている ・子ども同士であれば仕方ないですが、ケガ、切り傷でも、報告がほしいかな ・学校での様子がわかりにくい ・登下校時の安全管理 ・低学年児童が少ないので低学年下校をする日を少なくしてほしい。一斉下校にしてほしい ・自転車の交通安全教室をやってほしい。車の横を猛スピードで走っていく子がいて危ない ・土曜授業があり、月曜に振替休日が多過ぎる ・教員による指導や見守りのレベルの差 ・保護者が学校へ行かないといけなのに、子どもを帰してしまうこと。懇談の時等。家に誰かいる前提なのはどうかと思う。そういう時に預かってくれるところがほしい ・「父親の手術があり、低学年の子どもだけで帰宅させたくないの、少々、学校のどこかで（図書室や保健室その他）で預かってほしい」とお願いしたら無理だと言われ、「授業を受けずに早退させて病院へ連れて行って」と言われた	・先生方は親切で子どもたちをよく見ていてくれると思います ・先生方が優しい。教育もしっかりして、とてもよいです ・先生とも仲良くできているし、毎日楽しく過ごしています ・先生方が児童思いで安心して通わせられます。給食の先生方もいつもおいしい給食を作ってくださいありがとうございます ・学校の先生が子どもの様子をこまめに連絡してくださること ・規模が小さいので、アットホームな感じがよい ・人数（生徒）が少なく、先生の目が行き届くのはありがたい ・子どもが自発的に考え、のびのびと成長している ・行事が少しずつ戻ってきて、子ども達の活動の幅が広がった ・コロナ過から少しずつ行事も増えてきて、子どもの成長がわかる ・支援が必要な時に親身になっていただけたこと ・通級指導教室について、子どもの苦手に寄り添ってサポートしてもらえる。細かく状況を教えていただける ・通級の先生が子どものできたことをよく見つけてくれる ・教室にクーラーがあること ・防犯カメラの設置 ・集団下校 ・中学校の資源回収は生徒が持つて行くことになったこと

・通級対象者が増え、通級だけでは補えないようになってきているのでは。飛騨市で取り組んでいるように、学校内に作業療法室（士）を置くことで、明らかな対象者だけでなく困り感を持つ子すべてを救えることになるのでは。結局、保護者が支援学校や作業療法士に「（学校で）こうするといひよ」と言われても先生に伝えるのは親になる。お願いする形になってしまう。それが学校内にあれば先生方の意見も取り入れながら、その子にとってのベストが見つかると思う。親からはお願いしづらい。苦痛 ・学校の周りに隙間だらけでどこからでも入れてしまう。大垣市などは柵がきっちりあって入れない ・学習用のタブレットを、コロナ以外の感染症による自宅療養時にも貸出ししてほしい ・宿題の出し方がわかりにくい ・冬の登校時の制服は必要ですか。防寒機能があるのかわかりません。上着は家庭の服の方が調節しやすいと思います ・中学校のヘルメットを先々まで使えるよう、自由化してほしい	
--	--

【留守家庭児童教室】

改善してほしいこと	利用してよかったこと
・夏休みなどの長期休暇のときの開始時間が8時では遅いので、早めてほしい（3件） ・朝の時間が遅い ・19時～19時半くらいまで預かってくれると助かる ・土曜日の8時から利用では出勤に間に合わないのので、7時半からお願いしたい ・先生によって挨拶もできない人がいる。AとBの先生を行ったり来たりさせるのはやめてほしい ・歳をとり過ぎ。子どもと走れない。考え方が古い。力のある人に愛想振り ・テレビの視聴時間を短くしてほしい（必要ない）。学習時間をもう少し長くしてほしい ・長期休暇の学習時間を増やしてほしい。DVDは学びになるものを見させてほしい ・もっと子ども達が行って楽しい場所にしてほしい ・以前利用していた時、いじめ問題が多々あったので指導方法の改善をお願いしたい ・長期休み、土曜保育などについて、夏は冷蔵庫などにお弁当を保管できないので、食中毒が心配 ・発達障がい等の子どもを、もう少し見てくれる先生がほしい（特に夏休みの長期） ・料金の見直し。ほとんどの人は仕事が理由だと思う。全員が利用するわけではないが、利用せざるを得ない人にとっては学校と留守家庭児童教室の二重の負担になるので、補助など場所に関係なくあってほしい ・月額だけでなく1日や2日と単発で預けられるようにしてほしい ・学校の振休など、1日のみでも預けることができるようにしてほしい ・連絡時間の拡大 ・対象児童を小4から小6にしてほしいと伝えて10年かかった。利用に間に合わず残念	・親切で子どもも喜んで通っている（2件） ・楽しんでいてくれるところ ・皆と楽しく過ごせること ・第二の親のように、我が子に愛情をもって関わってくれるところ ・仕事で留守番ができないので、とても助かっています ・低学年の頃お世話になりましたが、安心して預けられました ・先生が優しい ・勉強も見てもらえる。友だちが多くなった。折り紙等の作業をやらせてもらって、手先が器用になった ・仕事の間、子どもを遊ばせてもらったり、勉強も見てもらっている ・友だちと一緒に体を動かして遊ぶ場と時間がある ・夏休みに水遊びを企画していただけたので良かったです ・毎年夏休み中お世話になっています。6年生まで預かっていただけるようになったのでありがたいです ・6年生までの預かりが可能になった ・前期、後期通じて同じ場所をお願いしたい（送迎が遠い）。宅配弁当等お願いしたい

【そ の 他】

サービス名	改善してほしいこと	利用してよかったこと
児童館	・夏休み期間中、午前中でもきょうだいであれば小学生も入館できるようにしてほしい。下の子を遊ばせたいのに、上の子が入れないので行けなかった	
下笠保育園内子育て支援センター		・先生が親しみやすく、子育てのこと以外にも地域の情報なども知ることができる
スマイルゲンちゃん学習会		・経済的に塾に通わせるのは困難なため、学校以外で学びの場があって嬉しい ・サポートが非常にありがたい
そよかぜ教室		・専門の先生に発達の悩みを聞いていただいて、子どもに合わせてリハビリをしてもらって助かる
こども食堂		・安価で弁当や野菜などをいただけるのは助かる
習い事、教室	・子どもが将棋を好んでやりますが、町内に子どもを対象として指導を行ってくれる場がないので、町外の神戸まで通っており、町内にあればと思います ・英語教室をクラス（レベル）を分けてできるといいなと思います。去年受けた内容をまた受けていると聞きました	・伝統文化養老東部いけばな親子教室に通っており、いけばなをする時間が楽しい。会場が笠郷公民館なので近い ・英語教室は子どもが通う場所としてとてもよい。金額も本当にありがたいです
運動場の開放	・地域に子どもたちが集まって遊べる公園がない。道路では遊べないし、学校を開放してほしい（校区によって差がある） ・放課後、学校の運動場で子ども達が遊んではいけないのでしょうか	
町民プール	・廃止され、町外に行かないと泳ぐことができず、大変です	
経済的支援	・きょうだいの年の差があって、保育料は3男でも満額支払った（6年間）。児童手当も3男でも少ない	・医療費無料が高校生まで対象になったこと（1人目は間に合わず）

(2) 改善してほしいこと・利用してよかったことの見解の件数

図表2-55は、子育て支援サービスについて、改善してほしいこと、利用してよかったことについて記述していただいた件数をまとめたものです。留守家庭児童教室に関する意見より学校に関する意見が多くあります。

図表2-55 意見の件数

単位：件

サービス名	改善してほしいこと	利用してよかったこと
学 校	33	17
留守家庭児童教室	19	15
そ の 他	7	8

3 養老町は子育てのしやすいまちか

図表2-56は、「養老町は子育てのしやすいまちだと思いますか。(子育てしやすいと思う点・子育てしづらいと思う点を自由にお書きください)」という設問に記述されていたことをまとめたものです。

図表2-56 子育てしやすい理由と子育てしづらい理由

【子育てしやすい理由（55件）】

【子育て支援全般】 ・子育てしやすい（3件） ・医療費が無料（3件） ・医療費の助成が高校卒業までである（2件） ・子育てに対してのサポートがあるため、ありがたいと思っています ・10年前に比べると子育て支援が充実してきてよいと思います ・ニーズ調査の意見が生かされて、だんだん充実されてきているのでよいことだと思います ・お年寄りが豊かに暮らせる町にしましょう、というのは大切なことですが、子どもについて述べられていないので、そのとおり子育て世代には肩身のせまい町だと思っていましたが、今回様々な点で改善されていることを知り、子育てしやすい町になっていると感じました ・支援等、お金の面や就労している親のことを考えてくれているので、子育てしやすい ・保健師さんが親身に話を聞いてくれてありがたい ・子どもの発達について不安があったが、そよかぜ教室や西美濃厚生病院の小児科のリハビリ、学校での通級などを通して、アドバイスをもらったりして支援をしてもらっている ・私が子どもの頃と比べて療育機関がとても充実していて、様々な支援を受けられるのはありがたい 【学校・留守家庭児童教室・保育施設】 ・小学校では、友達と問題があった場合、割と対応してもらえると感じています ・他の自治体とは比較できないのですが、これまで園や学校では、少人数のため子ども一人ひとりに対して大人の目が行き届いていると感じています。自分の子には合っていると思います ・小学校の人数が少ない。アットホームな雰囲気、子どものことをしっかりみていただけること、学年を越えて仲良くして楽しく過ごさせている ・最初はびっくりしましたが、小学校に毎日体操服で登校するので楽でよいです ・留守家庭児童教室が6年生まで利用できるのがよい ・留守家庭児童教室が改善されて使いやすくなった ・学童については問題無いです ・保育園、学童は落ちたことがないのでありがたい 【子育ての環境】 ・自然が豊かなところ（3件） ・空気がきれい ・自然が多くおだやかな町だと思う ・自然が豊かで生物と深く関わることができる	・自然が豊かなことと、三世代の交流があること ・自然豊かで子どもがのびのびできる。そこに住む人たちが温かい。子どもの手本になる ・子どもが育つ中で安全な地域も多く、自然にも囲まれよい環境だと思う ・犯罪が少なく、自然に囲まれているところ ・急に病気になっても、すぐ行ける病院が近くにあるのでありがたい ・色々と手当もあって、近くに医療機関もありよい ・病院、駅、書店、コンビニが近くにあり、子育てしやすい町だと思います。小中学校も近くにあるので、ありがたいです ・小さい頃に子育て支援いちごに参加したり、こども食堂を利用させていただき、ありがたかったです 【地域の支援・交流】 ・近所の方が優しい（2件） ・地域の方が見守ってくれている（2件） ・地域の絆が強く、顔見知りの人が多い。その点見守りが行き届きよいと思う ・地域の人たちの見守りで危険がないように通学できていること ・近所に子どもが少ないので、まわりの方にかわいがってもらえる ・地域の方たちが温かい目で見てくださるので、安心して子育てできます。自転車が壊れた時、通りすがりの方が声をかけてくださり、チェーンを直そうとしてくださいました ・祖父母と同居の家庭や町の方とのつながりがある古い町が多く、地域の方々からもよく声をかけてもらえるので、子育てしやすいと思う ・区長さんや老人会の方が見守りしてくださったり、ラジオ体操を一緒にしてくださったりするのがとてもありがたく、子育てしやすい町だと思えた ・広々としていてよいと思う。老人が多いので見守ってくれている感じがする ・シルバーさん達の見守りがある ・地域の方のサポートがたくさんある ・子どもが少ない分、友達をつくりやすい（大人も子どもも） ・子どもが少ないためか、素朴で優しい子が多い点では子育てしやすいかも ・他の町で子育てしたことがないためわかりませんが、子どもが小学校に入るまでは支援センターなども利用させていただき、地域の方やお母さん方との交流の機会となりありがたかったです ・子ども会があるので、情報交換をしたりイベントに参加できる。子ども同士も仲良く過ごせている
---	---

【子育てしづらい理由（369件）】

【子育て支援全般】 ・色々な面で子育て支援が少ないと思います ・子どもに対しての保障とか手助けがほしい ・子どもの人口が少ないので、子育ての政策が少ないように感じる ・子育てに行政が注力しているとは、助成金、保育士給料からみてもとても感じ取れません。本アンケートもパフォーマンスに見て取れる ・地域の人口が少ないので、サポートの人手が足りていない（その時々時間にしか人がいない）。企業が入っていないので、留学や援助がまったくない ・サポートが何もない。利用したいものもない ・子育てはしづらいと思います。何が、ではなく子どもを中心に考えていないような気がします ・子育てを養老町とする利点がない ・よいと思ったことが一度もない ・子どもよりも「お年寄りを大切にすまち」と町民憲章で言っていることにすごく違和感があります ・「老人の住みやすいまち」も大切だが、子育て世代には住みにくい ・町民憲章にお年寄りのことがあっても、子ども達のことがないのがいつも疑問に思う。若い世代がいなくなってしまう気がします ・子どもが小学生になり町民憲章というものを知りました。お年寄りのことは言っているのに、なぜ子どものことは言わないのか。新しく子どものことを追加するより、もうやめてほしい ・養老町は高齢者が多い町だからか、老人には優しいが子どもには手厚くないと感じている ・お年寄りばかりに手厚く感じる ・年配の方の考えが優先されていて時代に沿っていない。お年寄りの町すぎる ・古い習慣を見直す。今までのことが正しいとは限らず、今に合わせて変える勇気がほしい ・高齢者への優遇が目立っている。子どもの運動する場が少ない。少年団や中学部活への支援が手薄。今の子どもが運動不足だと将来基礎体力のない大人が増える、ということへの不安はどう解消されますか。子どもへの支援、運動能力をあげるためにも広場や自由さを考えてほしい ・昔の考えのまま習慣や文化が根強い。他のところ（特に県外）からの転入者やその考えを受け入れてくれない。新しく変わろうとしない。養老町出身の養老町在住者が多過ぎて、何も変わらない。給食費をもう少し負担してほしい。先輩者が口を出す ・近隣にしっかり子育てに対して力を入れている市町があるので、そっちの方が魅力的。ローンがなければ絶対に引っ越しする。子どもの人口が減っているのはその証だと思う。何もかも決めたり、給付したりすることがすごく遅い。他の市町村はやってくれていることも、養老町ではやってないことが多い。子どもの数を増やすなら、近隣の市町村よりも素早く魅力的なことをやらないといけないと思う ・他の市町より恵まれてないし、町民にも子どもにも反映されていない	・行政サービスが他の市町村に比べるとあまり充実していないように感じる（予算の関係で困難だとは思っています） ・子育てはしにくい。支援は少ないし、ひとり親ばかりに（低所得など）支援している。両親ともに働いている方が税金や子育てにお金がかかるのに、こっちへの支援はない。部活動の地域移行など教員の負担は減らすのに、その分親に負担がかかっている。送り迎えなどで手一杯。もっと子育てしやすい町の方が魅力的だ ・とてもしにくい、とても遅れている。大垣市を見習ってほしい。これだとこの先老人の町になる ・大垣市、海津市などの近隣の市町村に比べ、子育て世帯への支援等に力を入れている ・多子世帯への支援がない ・3人子どもがいますが、年がそれぞれ離れているため、色々な内容（保育園、学校）が変わり、3人目でも一人っ子的な感じに扱われていること。学習障がい等のサポートの面の悪さもあります ・勤務する場所が少ない。町外へ勤務すると通勤時間に時間がかかるため、働きながら子育てはしづらい ・働いている母親が多いので「働かなければいけない」雰囲気が出てきている気がする。仕事をしていない専業主婦は少なく、「なぜ働かないのか」と聞かれたこともある。働かないという選択肢があってもよいのではと思います ・ICTの活用が皆無 ・子どもへの理解や思いやりがない方が結構いる ・私の実家が県外にあるため、頼れる人が少ない ・養老町は福祉に関して他の市町村よりもすべてにおいて遅い。もっと事業所を増やし、サービスを提供してください。その際、このアンケートもそうですがちゃんと反映してください。もっと子育てしやすい町にしてください ・横の連携がまったくない。相談してもそこだけで次に繋がらない。普通の子を中心にしている養老町は、他より遅れている。子どもも親も支援を必要としているのに、何もない。園や学校の先生方にも、理解してもらえよう教育をしてもらいたい。何も答えられない方が多すぎる ・子どもの数もどんどん減っているのだから思わない。保育園も学童も18時半までと言っているけど、ほとんどが17時くらいで帰ってしまう。自分の子一人を預けるのが申し訳なくて、なんとか都合をつけて（仕事を抜けたり）頑張ったし、一人でお留守番できるようにしたら学童は行かなくなった。保育園の時は病児保育がないので困りました。働いている親にはあまり優しくない ・通学が不便。駅は遠いし、田舎道で街灯もない。子どもに住み続けてほしいとは思えない。近隣に遊べる場所がなく、やはり大垣市へ行くこととなる。タブレットの持ち帰りもいまだにない。いつも大垣市の後追いで、ここで子育てをするメリットは感じられない。養老町民憲章について、「老人が過ごしやすい」と子ども達に言わせるのは怖いです
---	---

・子どもたちの通学路や小学校、こども園付近に基地局がありますが、目に見えない電磁波はとても怖いんです。それがあることにとっても不安を感じています。行政の支出について、イベント等にかかる金額がとても多いように感じます。イベントは集客や周知にはつながるのでひとつのきっかけですが、町民への還元等はあまり感じられないと思います。そのような一時的なものにたくさんのお金をかけるぐらいなら、子どもたちへお金をかけてほしいです。小学校の図書館への予算をもっと増やして、子育て世代へ子育てのしやすい補助をもっと増やしてほしい。ゴミ袋を子育て世代にプレゼントしたり、小学校の遊具を増やしたり、給食の量や品数が他市町村と比べて少なく感じるので、そのようなところにお金をかけていただき、子育て世代が他から来てくれる工夫をして人口を増やしてほしいです ・期待していません。思いません 【学校】 ・給食費、学習教材費未払い家庭への児童手当から天引きのルールをつくり、学校の手間を減らしてあげてほしい（会計監査で保護者が知ることはよくないと思います）。部活動のあり方、保護者負担が増えるばかり。小学校の統廃合など、地域、保護者抜きで話が進むのはいかがかと思えます。小学校の遊具が減る一方。安全に使うことも学びではないのか ・小中学校の設備が悪すぎます。若者、子どもが少なく、早く小中学校の統合をしてほしい ・他都市と比べて育児等の補助が少なかったり、学校等の設備も整っていないと感じる ・養老町は子どもにお金をかけていないと思う。養老町で子育てをするメリットを感じられない。小学校の設備で市町村によって格差があるのは子どもがかわいそう ・学習支援の充実。つまりいたり、わからない問題があるとき解決してくれる教育者がいるとよい ・大垣市よりも子育てしづらい。子どもの学力も心配です、先生も微妙です ・少子化のためか、クラスが1つしかなく、トラブルがある際に解決しにくい。毎年同じ友人関係になるので、いじめ等が見つけにくくなる ・祖父母が近くに住んでいる家庭が多いので、他の都市等に比べて子どもが多くても安心だと思うが、小学校が1クラスしかなく、問題があっても同じクラスでずっと6年間やっていくのはあまりよくないと思う ・土曜授業が多く、月曜日に振替休日という日が多かった。土曜日は両親とも仕事なので、土曜日と月曜日休まないといけないうのが困った ・町内一斉に土曜日に授業参観があり、月曜日に振替休業で親が仕事を休まなければならない ・通学するのが不便で、親の送迎がないと一人で学校から家まで帰ることができない ・登校するのに班で一人だけなので送迎しています。学校からも一人では何かあった時心配だとのことで5年生、6年生の2年間送迎しています。私も心配なのですが、仕事のこともありとても負担です	・学校までが遠い ・子どもが少なく、登校班の人数も少ないので不安。歩いて帰れる日でも一緒に帰る子がいなくて結局お迎えに行かなければならない。老人が多く若い人が少ないので、子どもが増えることは期待できない ・学校までが遠い。バスを出してほしい ・地域によって小学校が遠い場合、高田などはバスが使用されています。我が家は遠いですが登校班の人数が多いので歩くしかなく、今後5年10年先に子どもが少なくなったときに、7時前に家を出る地域などでバスを利用することも考えてほしいです ・小学校までの登下校に距離があるため、片道1時間もかかる。下校においてはお迎えの子どもが多く一人になることもあるので、その場合学校から急に電話があり、お迎えを頼まれる。これから子どもの数も少なくなっていく、毎回のようを送り迎えをすることが難しい。通学バスを作してほしい ・小中一貫校でオンデマンドかバスで通学させたい ・養老小学校以外の校区でスクールバス対応がなく、池辺、上多度方面の子どもたちはとても通学が不便だと思う ・登校時の安心安全が保障されていない。岐阜市の方ではGPSが配布されているそうです ・登下校の見守り ・通学路の安全面への配慮が足りない。特に中学、高校生等の自転車通学が気になる。安全に通学できるようにしてほしい ・登下校中に猿がいたらとても心配、野良猫が多い（子どもが猫アレルギーだから心配） ・小学校の制服がいつまでもある（都会は私服）等、保守的。もっと個人を認める教育にしてほしい。TP0に合わせた服装や振る舞いも教育してほしい（入学式や卒業式にジャージで出席することは他市町村の人から非常に驚かれる） ・給食費が高くなってもいいので、もう少し給食を豪華にしてほしい ・給食についてはもう少し量が増えるといい。お弁当の日を減らしてほしい。各学校の外のトイレを綺麗にしてほしい。スポ少等で行くと汚いところが多い ・夏休みの「愛の詩」はまだ今後も取り組みますか。他の市町村の学校はどんどん宿題が減ってきている中、養老町独自の愛の詩はまだ続けるのかなと思っています。提出したい子のみでもいいような気がします、その分学習プリントを増やしていただけるとありがたいです ・ICT教育等、他市町村に比べて非常に遅れており、子ども達の将来に大変不安を感じる ・他の自治体に比べ、オンライン授業への取り組みが遅れている ・今年から始まったスマート連絡帳が使いにくい（学校に問い合わせたら、町で決まっているから無理と）。スマホを持っていない祖父母ができない。今まではできたけど、学校からメールが届かない。急な迎えなど ・学級閉鎖になった時、タブレットを持って帰ってこないで、学習が遅れる。他の地域では毎日持ち帰っており、学習する機会が多いと感じる
---	---

・地域格差があり、他の地域で実施されていることがなかったりする（学校に通えない（不登校、病欠）時の学習環境の整備、オンラインで授業が受けられる等） ・子どもが大きくなるにつれ、一人で留守番等をしていかなければいけない。コロナ等できょうだい間で学校を休まざるを得ない時のオンライン制度がとても悪い。全体的に遅すぎます。もっと子育て（学校等）も充実してほしい ・中学校に入った途端、先生の熱心さがいないような気がする ・子育てとは少し違いますが、中学校までの距離が遠すぎて、自転車で１時間ほどかかってしまいます。養老町のバスなど、もっとうまく使っていただきたいです ・部活動の地域移行は、経済的にも人的確保等も保護者負担が大きく、保護者移行になっている。もっと親の意見を聞いてもらいたかった ・部活動の種類が少なくて選べない ・交通の便が悪く高校に通うのが大変。祖父母が近所にいて頼れる前提で話が進んでいる。困る ・学校が遠い。今後の高校通学のことなどを考えると、選択肢がない。というか、交通機関がない（遠い） 【留守家庭児童教室】 ・留守家庭児童教室の評判がいまだに悪いので、子どもが行きたいと思える場所にしてくれると安心して利用できます ・学童に入っていますが、先生によって子どもと合う合わないがあるようです。遅くまで学童にいるため、宿題を最後までやらせてもらえない時、その後の習い事もあったりすると時間が取れず、寝る時間も遅くなり悪循環が続くことが多くなり、今回やめることにしました。近くに習い事がなく、どうしても遠くに行かなくてはならないので。入ったところはちゃんと宿題を見てもらっており、すごく助かっていました ・学童で、８時からでは仕事に支障があるため、７時半からにしてほしい。大垣市に比べたら育てにくいと思います ・もう学童は利用しなくなるから関係なくなりますが、夏休みしか預けられないのがおかしいと思いました。夏休みに預けているなら、冬休みも預けられないと不便です。平日は習い事で預けると間に合わないなど、理由がある人もいると思う。もっと利用しやすくしないと子育てしづらい ・現在夏休みだけ利用していますが、本当は一年で入れたいし、子どもも行きたいと言いますが、２人分の利用料を考えると他に回したいので、普段は子どもたちだけでお留守番してもらっています。冬休みと春休みは利用できないので困っています。冬休みは大人も休みがあるので数日ですが、冬はストーブ等を使用するので子どもを残すのは心配ではありません。せめて春休みも単発で預かってもらえると助かります。何回かお願いの電話は役場にかけたことはありました。毎回「検討します」とのことでした。他のサービスを使用するのは子どもも嫌がります	・以前学童に預けており、嫌がらせなどでやめることになったが、本当は預けたい日もあるので、３か月単位ではなく１日から預けられたらよいと思う。年末年始や春休み、懇談の時など、早く帰る日だけでも預けたい ・留守家庭児童教室に子ども２人を預けたら免除（２人目は半額になる）されると聞いたが、実際は所得が多いためならなかった ・留守家庭児童教室を始め、利用料が高いと感じる 【習い事】 ・習い事が少ない、選択肢がない（７件） ・様々な学びの施設が遠い。選択肢が少ない（習い事、進学、文化施設など） ・公共サービスが少ない（習い事、スイミングなど） ・送り迎えしないと行けないような場所にしかない ・習い事が町内になく通わせないと行けない。公共交通機関も少なく子どもが自分で習い事に行けない ・学習塾などの習い事の施設が少ない。自宅から子どもが一人で通うことができないので、送迎が必要になり夕方が慌ただしい。どこに行くにも車が必要なところが不便に感じる ・習い事など、どうしても町外にいかないと行けない。また保護者が休んだりしないと、習い事などの送迎ができない。お年寄りだけでなく、大人も小人も移動できるコミュニティバスや、乗り合いタクシーなどがあると便利だと思う。三重県菰野町のシェアタクシーはとてもよい取り組みなので、そういうことをやってほしい ・町民プールもなくなってしまい、スポーツ少年団はあるものの習い事や塾も少なく、近隣の市町村へ送迎しなくてはならないのは不便だと感じる ・教育やスポーツ教室等の環境が整っていない。選択肢が少ない。子どもが少ないことで学童など、よい教室がない。講師を招致できていない ・子どもの人数が少なく、クラブ（学校）の選択肢が少ないのが残念。賃貸アパートが地区に少なく、小さな子どもの家族が大垣市へ流れているのではないかと思う ・町内での習い事が限定され、種類が少ない（特に運動系） ・プールや体操の習い事がなくなった ・町民プールが閉鎖し、近場でプール教室や体操教室に通えなくなり、習い事を断念した。習い事の送迎も大きな負担となるので再開してほしい ・体験教室、公共であまりやってないので参加しにくい。プール教室が養老町にない（習い事をする場所が少ない） ・屋内プールの改築を早くしてスイミングを再開してほしい ・水泳教室がない ・スポーツ少年団等に参加させたいが、遅い時間までやっているため翌日の学校にひびくので、もう少し早めの時間からのスタートにしてほしい ・垂井町のNP0のような取り組みがなく、少年団では親と子どもの負担が大きいので通いづらい
---	--

【保育園・こども園】 ・子どもが保育園の時、希望する年齢で入園できず他の園へ入園したのですが、実際上の子の時に下の子の学年をみてみると「うちの方が点数高くないか」と思う子が入園していたから ・保育園が少なく、土曜預かりが未満児しかないので働きづらいので、2人目、3人目はもういいと思う ・今は子どもも大きくなってきましたのでそんなに感じることはないですが、前はしづらいいと思っていました。土曜日も仕事なのに、保育園が12時までしかやっていなくて預けることができず、毎週預け先に困っていました ・現在、下が小学校高学年なので、現在は過ぎたことだけど、保育園の制度は外からきた者からするとわかりにくく、子育てとしてはやりにくいと感じた 【病児保育・一時預かり】 ・サポートセンター（病児保育など）、託児が少ない ・子どもが幼いころに限り、病気になった際お世話になれる施設があれば、共働きの家庭には助かる ・子どもが小さいときに病児保育を利用していましたが、養老町にはなく海津市まで連れていっていましたが、病児保育施設があると便利だと思います ・養老町は三世代で住む家庭が多いため、祖父母の力を借りられる家庭は子育てのマンパワーがあり、分担できていると思います。だからファミリー・サポート・センターや病後児保育のニーズは少ないかもしれない。しかし、核家族にとっては、子どもが小さいときほど助けてもらえる機会が少なく、そのニーズは高い。自分は大変だと思うことが多かった ・昔ながらの風習が残っている。よくも悪くも、働く親が預けやすい環境、サービスが必要。利用料がかからず利用できるなら使ってみようかなと思う ・留守宅預かりや病児保育の時間内に送迎できない 【障がいのある子ども等への支援】 ・放課後等デイサービスが町内にほしい。そよかぜ教室は未就学児対象なので、卒園した後も通えるところがあるとよい。大垣市、海津市にはあるが、預かりメインのところが多いと思うので、そよかぜ教室のように一人ひとりの発達に応じて必要な支援をしてくれる施設希望。放デイを利用せず学校内の留守家庭児童教室を利用している子がいるからトラブルが多いのでは。トラブルが多発しているところに預けたいと思わない ・発達障がいがある子どもが他の子に迷惑かけてしまうことが多く、親が安心して仕事できない。海津市等にある放課後等デイサービスのよう専門で預かってもらえる場所がないので、あると助かります ・放課後等デイサービスが養老町にない 【経済的支援】 ・シングルマザー、低所得者の経済的支援を手厚くしてほしい（2件） ・インフルエンザ等の予防接種の助成金を増やしてほしい（2件） ・子育て世代に金銭的援助をしてほしい	・人口を増やすためには手厚い助成金等をつくるべき ・子育てにお金がかかり、食費もかさむ ・大垣市と比べて支援が少ないと感じる（医療無料期間、妊婦の時の病院の無料回数など）。子どもがいる世帯にはゴミ袋が無料配布される市町村もある ・大垣市は乳児期にゴミ袋（当時はシール）が一般家庭より多く配布されていて、うらやましく思いました。オムツなどゴミが多い時も養老町は特に支援がなかった ・大垣市は料金が安い、養老町は子どもも少ないのに料金がかかる ・ひとり親家族、貧困家庭への支援の幅を広げてほしい。不要な学用品、衣類、食品等を提供してもらえる場を設けてほしい ・様々な支援はあるけど、夫と死別していても収入があると、学校の給食費などの免除がまったくない。遺族年金より夫の収入の方が多いと思いますが。町というより国がおかしいのかなと思う ・病後児を利用するにも留守家庭児童教室を利用するにもすべてお金がかかってしまい、母子家庭には金銭的にきつい。いくら収入があるといってもそれだけでみられては一人にかかる負担が大きい ・子どもが多い世帯の補助が少ない。所得が多くても、子どもが多いと習い事をやらせる余裕がないので、補助してほしかった。補助されるのは、ひとり親世帯ばかり ・経済的にお金がかかる中高生への支援を手厚くしてもらいたい。共働きでも、子どもの数が増えれば、負担も増える（高校無償化対象外） ・児童手当が少ない。18歳まで拡大してほしい ・学費が高い（特に給食費）。以前住んでいたところは月々4,000円もしなかった ・他の県だとランドセルの購入サポート、制服の購入サポートがあるが町内にはない ・祖父母の存在を前提として子育てを語られる。医療費無償を高校生までにしてほしい ・中学までではなく、高校まで医療費が無償になるとよい ・子育て世代ならアパートの家賃を低くしてほしい。家を建てる際に子育て世代なら支援してほしい ・税金が高い（名古屋市などの大都市よりも高い）。子育て補助金やプレミアム商品券のプレミアム付与分が他地域よりも少ない ・他の町、市より税金が高いので気になる。子育て世帯へお金をもらえる時はうれしい。助かった ・町民税が高すぎるので、子どもに使えるお金が減っていく。お金が減っていくので、働かないといけなくなる。町民税が子育て支援のどこに使われているのかわからない ・住民税が高い 【少子化】 ・子どもが少なくなり、交流が減っている（3件） ・同年代の子どもが少なく、一緒に遊ぶ子がいない ・子どもが少ない ・子どもが少ない（クラス替えがない）ことで、子どもたちの社会性を身に付ける機会が少ない
--	---

・子どもが減っているの、クラスの人数が少なすぎるのは活動しづらいこともあると思う ・小学校の生徒の数が減っているの、今後考えていく必要があると思います ・校区に子どもが少なく、中学で急に大人数に慣れることができるか心配 ・子どもが小さい時は、自然豊かで養老公園もありよいと思っていました。子どもが大きくなるにつれ、児童の減少（いろいろな子と触れ合ってほしい）に加え、習い事も大垣まで送迎しないといけません。一番下の子は町外の子と触れ合うことが多くなりました。養老町（近く）でのお友達がほしいと言っています ・少子化により、友達の家まで遠かったり、公園が近くなかったりする ・子どもが少ないのが原因だと思うが、病院や習い事や子ども用の買い物など近くにないので不便。子どもと遊ぶ友達が近所にいなくて送迎が必要 ・小学生が放課後友達と遊ぶにも、子どもの数が少ないため家が遠く、車で送迎が必要だったり、広場にある遊具も少なく、集まる子も少ない。様々なタイプの子ども達と学校で学んでほしいと思うが、とにかく子どもが少なくコミュニティが小さいので、人間関係の学びが少ないように思う。逃げ場もない ・子どもの人数が減ってきている。それにともない、子どもを対象としたスポーツ少年団や学校、サービスすべてにおいて活気がない 【病院・医療】 ・耳鼻科がない（2件） ・町内に皮膚科、耳鼻科の病院がないため不便 ・皮膚科や耳鼻科がなく、仕事から帰ってきて子どもを乗せて大垣市に逆戻りということが多く大変 ・夕方受診できる耳鼻咽喉科や皮膚科がなく、大垣市への通院が大変 ・病院が少ない。耳鼻科がない。救急の病院が遠い ・病院が少ない、皮膚科がほしい ・小児科含め、病院が少なく選べない ・小児科が少ない ・西美濃厚生病院があっても、小児科は夜に救急でみてもらえない ・地区に病院や公共施設が少ない。特に急病の時など病院探しに困ることがある 【地域活動・行事】 ・PTA、育成会等負担がある ・消防団に入っていた時、子どもが小さいのに集まりが多くワンオペだった。とてもしんどかった。消防団は必要か。年末の集まりなど迷惑である ・婦人消防や婦人会など、夫婦しかいないのに地域のことやらなければいけない、という風習があり、大変。負担に感じ、養老町を出たいと思う ・子ども会の地域の割り振りが細かすぎる（昔と変わらなさすぎ）。役員等の負担が大きい ・このご時世、習い事をしている子どもや共働き家庭がほとんどなので、子ども会などの保護者の負担になる活動をなくしてほしい	・共働きが多い子育て世代と専業主婦が多かった世代があり、専業主婦時代とは状況は違うのに体制が変わっていないものがある。同年代の子育て世代は帰ってこない。（花壇やPTAなど。花壇は、子どもが学童のため20時に家事を終わらせてから行っていました）。フルタイム勤務を想定してほしい ・子ども会、PTAが古いままの形で残っており、共働きが増えてきた現状に合わない ・子ども会等、正直子どもが減っている中で、活動が続けるのは厳しい。残った者がやらなくてはならない状態を何とかしてほしい。今の親さんは両親共働きの世帯が多いのもあるので ・他県や県内の市町村ではPTA活動や子ども会活動がなくなってきているところもある中、養老町は変わる様子がない。共働きが増え、さらに核家族で他の人に頼るのが難しいのに、何も変わらないのは子育てしづらいと思う。コロナ禍で行事が減ったのに再開する必要があるのか考えてほしい ・働いている親が多い中、地域活動への半強制的参加はよくない。子どものためではなく、地域への奉仕ばかり。親の負担を増やすだけの声が多いが、地域へ伝えても聞き入れてもらえない ・子どもの人数が少なくないのに、学校の役員や子ども会役員は人数関係なく振り分けられて大変。仕事もあり、PTAは任意にしてほしい ・子ども会事業の縮小、昔と比べて働き方が変わってきたのに、子ども会というのに半ば強制参加はおかしいのではないかな。任意にすべきでは ・PTAの加入は任意ですが半ば強制で入らされている。子どもは減っているが子ども会など負担が大きい ・学校におけるPTA活動が任意でなく強制になっている。子ども会活動が強制になっている。任意である説明がされていない。今まで行っていた活動がすべて「よい」とされていて、改善・見通しすることが「悪い」となる雰囲気がある ・子ども会が勝手に行われている（小1～中3）。任意団体のハズなのに強制はやめてほしい。毎年入会退会の確認をしてくれると助かる、というよりはやってほしい ・共働きが多い中、休める土日に不要な行事が多過ぎる。親を休ませてほしい。強制でなく、やりたい人だけでやってもらいたい ・昔からある地区の行事が多い。時代に合っていない。子どもが少ないのに参加させられるのは嫌。昔から皆やってきたと、時代が変わっても母親へ求められるものが多く、子どもが夜一人で留守番、または中学生のきょうだいが下の子の面倒をみるのは安心できない ・子どもの人口、その親の人口がかなり減っているのにも関わらず、子ども会の行事の多さ、地域の町民運動会まであり、婦人会や女性消防など、負担がありすぎて出て行きたい ・子どもが減少していく中で、育成会や町行事など保護者の負担が多いので、現状に合わせて行事を減らす等してほしい。地域ごとの役等も多く、次々に役がまわってきて、気が休まらない
---	--

・子どもの数が減っているのに、大変だと思うことはある（親の負担増し）。「町全体」ではなく「地区」単位でみてもらい、負担減を前向きに考えてほしい ・子どもの数が減っているのに、子ども会行事、町の運動会など親の負担になることは減らして欲しい ・住民の数がどんどん少なくなって、地区や地域の行事の運営も大変だし、参加する人数も少なく、盛り上がりがあったくない ・地域の行事（公民館主催行事、町民運動会、球技大会、綱引き大会）や育成会（町子育行事）の強制が強く、負担がとて大きいです。養老町へ引っ越してきて、とても子育てがしにくく思う。引っ越してきて大変後悔しています。とても融通が利かない地域だと思いました ・親も参加しなければならぬ行事等が少し多い気がする。なかなか仕事の都合がつけづらい ・PTA、子ども会、行事が多すぎる ・少子化が進んでいるので養老町役場の方も考えてもらい、就労している家庭が多いので、子ども会や色々なことを一度考え直してほしい。子どもも住みやすい、子育てしやすくして親にも負担がないようにしてほしい ・子どもが減ってきているのに、子ども会活動、三世代活動、教育委員会主催の行事など、親の負担が多すぎます。子ども会の3月の発表などなくしてほしい。働いている親が多く、昭和の子ども会とは違うので、行事を減らさないと養老町の子ども人口が増えないと思います。行事が多すぎて、役員になると子どもと一緒にいる時間が減ってしまい、子育てしづらさを感じています ・共働きなのに子ども会の行事の負担が大きすぎる。休みの日に行事を入れられてもしんどいだけです。子どもも少なくなってきているし、時代も変わってきているのにいつまでも変化していかないのはおかしいと思う。子ども会は今やめてほしい。やりたくない。学校の方でも役があたるのにどれだけ負担をかけられないといけないのでしょうか ・子ども会が大変すぎる。花壇、壁新聞、記録簿、何でもコンクールし過ぎ。子どもが少ないので、育成会の負担を少なくしてほしいです。小中学校の役もあたるし、どうにかしてください ・子ども会や地域の行事が多すぎるし、おもしろくなさすぎて、子どもが参加したくない。誰のための子ども会なのか考えてほしい ・子ども会事業など、子どもの数が少ないのに参加義務があり、親の負担が多い。地域の方との交流は大きいですが、今の時代に合ったように数を減らすなりしてほしい ・養老町は子育てするには少し考え方が古い町だと思います。子ども会は、都会ではだんだん自由参加になってきていると思いますが、養老町もそのようにすべきだと思います。子どもが本当にやりたいと思っていることに力を入れていきたい。やりたくない子ども会行事が多すぎる。強制的にやっても子ども自身は全く楽しんでいない。喜ばない。親も強制的で苦痛です	・子ども会の行事（ラジオ体操や壁新聞など）が多いのがつらい ・子ども会等親の負担が多い。スポーツ少年団も無駄な行動が多く、団員が少ないのに役員、親の負担が多い。行事を減らしてほしい、子どもにお金を使っしてほしい ・行事が多く、なかなか仕事の都合がつけづらい。PTAなどを減らすか、なくしてほしい。資源活動もいらないと思う。お金を出し合えば備品は買える ・資源回収に行けない時、代わりの家がない負担 ・資源回収などのサポートなど、結局親（保護者）の負担が多い 【地域の役員】 ・子どもの数が少ないため、学校のPTAや役員が大変。負担を減らしてほしい（2件） ・学校、子ども会、地域の役員が当たり、負担が多い ・子ども会等、親がやる役員が多過ぎる、婦人消防も負担が多い。行事（強制）のため、仕事を休まないといけない。今の時代にまったく合っていない。いつまで昭和の時代のようなことをやっているのか意味がわからない。そんなことをしているから子どもとの時間も減る。子どもも子ども会など楽しくないと言っている。やめたくても、やめたいという声をあげられない。声をあげると周りの目が怖い。誰もNoと言えないのはおかしい。子ども会行事にお金を使うくらいなら、もっと子ども手当や給食費に充ててほしい。とても子育てしづらい町です。出て行けるならすぐに出て行きたい ・大変子育てしづらい町である。子どもの数がどんどん減っているのに、学校、地域の役はまったく減らず、統合案すら出ていない。おかしい。子育て世代を重要視するのであれば、もっと母親の役、負担を減らしていくべきである。不要な役職はどんどんなくして、スリム化して、世代の町外への流出を止めるように働くべきである。役職は時間のあるシニア世代に任せてはどうか。無理ならなくせばよい。限界集落であることを自覚しないといけない ・学校や子ども会など何年も連続して役員。仕事と役員の両立がきつい ・子どもが少ないため、地域の役員が何回も当たる。結果的に子どもを放置することが多くなり、無駄な時間と労力を使う。昔からまったく改善しない ・子どもが少なすぎて、学校や地区の役員が常にあたるので、日常生活でやることが多い。女性消防は本来に必要なのでしょうか。講習会などは勉強になりますが、完全リモートでもよいのでは。小学生の子どもがいるのに、夜に役員の仕事で出て行かなければならないのは困る。子どもが大きくなってきたのでまだ大丈夫だが、子どもだけで寝るように言っておいて行くのは心配。夜にサポートセンターの人に頼むのは心理的に嫌です。祖父母がいるとしても、預けたいかどうかは家庭によっては別問題。近くにいればよいものではない ・子ども会も、子どものためとはいえ、結局は親の負担。少子化だからこそ、役員ばかりあたる。一度やったらやりたくない
--	---

・子どもが少ないからといって役員、PTA等の仕事が少ないわけではなく、働く母が増えている現代、非常に子育てがしにくい。地域でも不要な会、団体が多く見直してほしい。また高校へ行く際の手段も少なく選択肢が狭まる。将来住み続けることは難しいと感じるし、子どもも外へ出てほしい ・子どもの数が減っていることに加え、母親が働いている家庭が多いことや核家族が増えているということがあるのに、行事や役員など、いくつもの役回りを抱えなければいけないことが多いため負担が大きい。仕事を休んで出席しなければならない、夜に出なければいけない ・子ども会の役員（育成会長）になると大変だが、親の負担が大きいと訴えても聞き入れてもらえないと聞く。少子化、共働きの中、行事や日曜の夜の会議などなくし、必要最小限にした方がよいと思う ・児童数が少ない学校は保護者が役員や地域の会など掛け持ちをしてやらなければならない、夜の役員会など子どもを預けなければならない日が多い。合併してほしいです ・もっと子育てしやすい町になってほしい。養老町は子どもをみてる祖父母（安心して預けられる親族）が近くに人、一緒に暮らしている人が多いと思うが、そうじゃない人もいますので、学校などの役員会を夕方から長い時間やったりしないでほしい（遅くなるし、小さな子どもを連れて参加しづらい）。一緒に連れて行ける環境があればよい。養老町で昔から住んでいてわかっている方が多いせいかな、説明が簡単なことがある。養老町で育っていない人が住んでも安心して暮らせる町にしたい ・子育てで忙しい時期に地域の役回りなどがある。子ども会はわかるが、子育てに専念したいし、そんな時間はない ・とても子育てしにくい。働き世代に子ども会などの役員が多くあり、休まざるを得ない。休むことにより収入が減り、税金などの支払いが苦痛。学校、地域の連携に力を入れていると言っているが、実感したことはない ・寄合など役員の仕事がありすぎて、子どもをどこに預けて参加すればいいのか頭を抱えることがある。若い世代に仕事を押し付けたりする人もいますので子育てしにくい 【イベント・地域交流】 ・子どものためのワークショップ等が少ない ・子ども向けイベントが少ない。町外に遊びに連れて行くことが多い ・小さな子どもに対する支援活動は色々と計画されましたし、参加もして世話になっていましたが、小学生も高学年になると、そのような物があるのかさえもわかりません。他校の子ども達とも交流ができるように場を設けてもらいたいと思います ・地区のイベントがあっても自治会の人ばかりでイベントに参加しない。子も参加しにくいので皆で楽しめないならやめてほしい ・子育て支援いちごなどのイベントが定員に達し参加できなかった	・大垣市に比べて、地区センター等での子どもの活動が少ない ・養老公園のイベントに誘われても、キッチンカーなど値段が高い ・子どもの数がどんどん減っている。郊外へ転出していく人が多いのが課題。養老町の中でも地区によって子どもの数が違うが、町の方と協力してもっと親子で気軽に集まれる場所をつくる ・小さい子どもがいる親同士のコミュニティや親子で参加するイベントなど、魅力的なものが少ない ・元々のコミュニティができあがっているため、外から来た者にとっては内に入りにくい ・田舎で子どもの人数が少ないためか、よそのお子さんのことまで気にする人が多く、干渉されやすい ・どこの子かすぐわかってしまうので、人の目が気になることがあります 【まちづくり】 ・図書館が遠く、利用しにくい（2件） ・池辺地区から役場等の公共機関が遠く、不便（2件） ・図書館の本が少ない、古い本が多い ・図書館の子ども文庫が充実していない ・プールがない。町民プールはあったほうがよい。あった時は使用料金が町民プールなのに高かった。図書館2階の夏の冷房がほとんど効いていない。夏、勉強ができない（暑すぎ） ・町民プールの復活を希望します。町民税が高いのに町民が使える施設が少ない ・デパートがないから本当に不便 ・スーパー等の店が少なく、車を出さないといけない ・子ども服など、大垣市まで行かないと買えない。緊急時の出前やテイクアウト料理がない ・家族で利用できる商業施設や弁当店、デリバリーが可能な店がなく、急な病気などで利用できず不便 ・ファミレスがない。テイクアウトするお店が少ない ・テイクアウトや配達してくれる飲食店がなさすぎて、病気や妊娠時のつわりの時など不便だなと感じる。お弁当屋さん等があれば便利だと思う。街灯が少ない ・飲食店が少ない。他市町村へ出ないといけない ・街灯が少なすぎて道が暗くて怖い。子どもが自転車で遊びに行くにも心配。 ・街灯が少なく、秋冬など日の短い時期は特に危ない ・通学路の安全性が低い。道がせまいし、車の通りが多いのにガードレールがない。道がせまいせいで子ども達が並んで歩いて車道に出てくる。田に落ちてくる子もいる。街灯が少なすぎる ・歩道が少ない ・歩道の整備がしっかりされていない通学路で怖い ・用水路が多いので、浅い川より深い川にガードをつけてほしいです。子ども達の安全のためです ・田舎の方だと時々川に柵がしてないのを見て、こんなところは危険だなと思うことがあった 【公園・遊び場】 ・近くに公園等遊べる場所がない（24件） ・子どもが気軽に安心して遊べる公園等がない（9件）
--	---

・子ども達が外で自由に遊べる場所がない（４件） ・公園が少なく、あっても遊具が少なく古い（３件） ・公園が少なく、車で移動しないと遊べない（２件） ・子どもを遊ばせる場所や子育て支援が充実していないです ・今後のことを考えると、児童数がどんどん減少しており心配。子どもが集う公園等も少なく、もっと子どもがのびのびと遊べる施設が増えると嬉しい ・公園が少ない気がする（減っている）。改革されることはよいが、説明や理由がわからないまま。「こうしてください」と言われると、納得いかないことがある ・各地域に子どもたちが集まって遊べる公園があるとよい ・子ども達が学校から帰ってきてから遊びに行くこともありますが、ほぼ友達の家でのゲームが主になります。地区ごとに公園など広場があったりするとよいです ・コロナにより放課後友達と外で遊ぶことも少なくなり、そして安全な公園もないので、校区ごとでよいので広めの公園をつくってほしい ・子どもたちが放課後遊べるような広めの公園が地域ごとにあるとよい。ボール遊びをしようにも道路や学校まで行く必要があり、気軽に体を動かして遊ぶ場がない ・もっと外で遊べるような公園的なものが色々なところにあると、外に遊びに行きやすくなるのではないかと思います ・公園がなく、学校から帰ってきてても遊べる場所がない ・学校から帰って友達と遊ぶ時に近所に遊ぶところがなく、学校に遊びに行ったりしているので、もう少し近くに遊ぶところがあるとよいなと思います ・もっと公園など、子どもと一緒に、身近に遊べる場所がほしい ・公園が少ない（遊具含めて）。羽島市、大垣市など公園が多い ・子どもだけで遊べるような公園が近くにないので、帰宅後は家に居る事がほとんど。以前住んでいたところでは、夕方１時間は外で遊んでいたのですが、運動不足ではないかと不安になります ・公園や商業施設もなく、子育て層が住みやすいところではない ・小さい公園や街灯が少ない ・学校で放課後に遊ぶことができず、自由に遊べる公園なども少ない ・公園、広場等子どもが気軽に遊べる場所を増やしてほしい。休日に小学校開放でもよい ・公園がない(少ない)。学校の校庭を開放してほしい ・子どもが遊べる場が少なすぎる。公園、広場をつくらしたり、もしくは小学校、園を自由に使えるようにしてほしい ・子どもたちが元気に走り回れる場所が少ない（公園、校庭開放など） ・子ども達が集まって遊べる場所が少ない。学校を開放してほしい。町民プールは残しておいてほしいです	・子どもがのびのびと遊べる場所がない。休日の学校の運動場を使わせてほしい ・公園がない。暗い道が多い。子育てしづらいです。児童館がない。小さいうちに他の子と何かをしたり、おもちゃ等が置いてあって、普段自由に使用できるスペースがあるとよい。子育てサロンは敷居が高く感じるので、自由に。夕方小学生も行きたい。夕方、学校へ遊びに行っていけないのは、なぜ ・充実した公園が近くにないこと。子どもの集まる場所がない ・近所に遊具がある公園がない ・公園に遊具がない、子どもの集まる場所がない ・近所の公園の遊具をもう少し増やしてほしい ・近くの公園は遊具が使用禁止と書かれてからどうなったかわからないまま、紙ははがれて飛ばされ、フェンスは壊れたままになっている。子ども会に管理を任されている花壇も、やりたがる人はいないが、審査があるとのことでやらざるを得ない感じで無理やりやっており、とにかく管理が行き届かない ・子どもが小さい時に公園や遊べる場所が近くにあってほしいと思いました。グラウンド、テニスコートなど体を使って遊べる場所が少ない ・公園が少なく、気軽にボール遊びや鉄棒の練習などできる場がないのが残念です ・公園がとてもしない。特に小さい子どもが遊べる場所がない。遊具など充実しなくても、ブランコと滑り台ぐらいある公園がたくさんあればよい ・自然が多くゆったり過ごせる公園がないのが残念 ・無料で遊べるプールがない（養老公園は年齢に制限あり）。自転車の練習等をする場所がない ・子どもが遊べる公園が養老公園くらいしかなく、行くには遠いので、身近に遊べる場所が少なく、家でスマホで通話しながらゲームなどになりがちになる。子どもの場所がないと思います ・子どもだけで遊びに行ける公園が近くにない。養老公園まで行かないと遊具がない。安心して遊べる場所が近くにないため、外遊びができず家の中でゲームばかりになってしまう ・養老町は公園が古く、40年前くらい前のままで怖くて遊べない。草も生え放題で整備されていないので、ある意味がないと思う。海津市とかには小規模でも今風な公園がたくさんあり、安全に遊ばせられるのでうらやましい。私は生まれた時から養老町に住んでいるので、養老公園ばかりきれいになっていき、小さい公園に力を入れていないのがわかる。養老公園はよく利用させてもらっているが、正直子どもが小さいうちは、近所の公園に連れて行くことが多い。でも遊べる公園が古く、整備されていないため、他の町に行くことが当たり前だった。このことは親になった頃から声を大にして言いたいと思う。どうかよろしくお願いします ・子どもが遊べる場所をつくってほしい。公園など。養老公園も充実してきているが、子どもだけで遊びに行くには不便 ・養老公園の駐車場は無料にしてほしい ・子どもが放課後や休みの日に、気軽に集まったりできる公園や施設がない
---	--

・児童館がない。皆が集まれるところが遠い、少ない ・休日の雨が降っているときに遊ぶところがない。そのため町外に出かけてしまう。公園（こどもの国以外）も少ないので夕方も行けない。子ども向けのイベントもほしい ・公園や室内で遊べる場所が少なすぎる ・子どもたちで遊べる場所があまりない。公園や室内で遊べる場所がほしいです ・子どもを遊ばせられる場所がもっと多い方がよい。屋外、屋内両方 ・公園で子どもだけで遊んでいたら怒られるので困る。親がついて行かないと遊べない ・外で遊ぶところが昔より減っていて、うるさくすると大人に注意されることが（いやがらせなど）ある ・小さい子どもや小学生が遊べる公園が近所になくて、このようなところに何年も前も何度か書きましたが、公園をつくっていただけなかった 【移動・交通】 ・公共交通機関が少ない（3件） ・交通の便が悪い（2件） ・両親が働きにくい。交通が不便（公共交通機関） ・電車やバスの本数が少ない、高い ・移動手段が自家用車に限られること ・何をしても、どこに行くにも車必須なのは負担ではあると思う。デリバリーやネットスーパーも配送外のところも多く、不便に思う部分はある ・子どもが遊ぶ時や習い事など、すべて親の送迎が必要なので、まちとして発展してほしい ・親子バス利用支援事業など、大垣市と比べるとまだ改善できることはあると思います ・オンデマンドバスは土日を出してほしい 【情報提供】 ・情報の開示が少ない	・子育てに役立つことや援助等がもっと広く周知できるようにしてほしい ・子育てしやすいまちだと役場がアピールしていないのでわからない。町が何の活動をしているのか町民に伝わっていない 【相談・手続き】 ・もっと相談できる場所が増えてほしい。気軽に相談できる場所等 ・ひとり親家庭のため、就学援助を受けさせていただいているのですが、毎年民生委員の方へ所得証明や就学援助を受けさせていただく理由を提出する必要があります。なぜ学校を通じた教育委員会への提出だけでは駄目なのでしょう。民生委員の方へ自分の所得などを提出する必要があるのでしょうか。それも毎年です。簡略化できるものと考えます。他の市町村では、そのようなことはしていないと聞いています。大変手間ですので簡略化していただきたく要望させていただきます ・保育園の入所等、手続きが面倒だが、預かっていただけると安心して仕事に行ける。毎年同じことを記入するのなら、同じ文章を訂正、更新すればよい 【行政について】 ・今さらファミリー・サポート・センターの話をわざわざ出すのは遅すぎる上に、子育てのことを何も知らないのかとびっくりした。上の子に関して、10～15年前は大垣市にいました。町役場に聞きに行ったら色々なことを知らなさ過ぎてびっくりした ・子の行事（学校関係、子ども会）に親が対応することが多く、正直面倒くさいと思う時があるが、不満にまでは思っていない。こういった意見を伺うのも大切だと思うが、伺うわりには対応しきれていないように思える
--	---

【どちらともいえない、その他（13件）】

・どちらでもない（3件） ・実際の生活は町内だが、大垣市の公園や支援センターを利用することが多かった。特に大きな問題はなくて子育てしやすいと思うが、近隣市町村あってこそだと思う ・特に思わない。悪くもないがよいところもないので、支援や援助、サービス等もっとわかりやすい子育てへの取り組みをしてほしい。役場に行かなくてもわからないような支援をされても困る ・小学校、中学校で大切にみていただきたい ・このアンケートのフィードバックがあるのか心配	・他の場所で子育てしたことがないので、子育てしやすいとかはわかりません。でも、子育てしづらいと感じたことはありません ・他の市町村で子育てしたことがないので、比較できない ・他の市町村のサービス内容がわからないので、比較しようがないのでわかりません ・子どもが小さい頃（就学前）、養老町にいなかったのだからわかりません ・特に考えたことはありません ・わかりません
---	---

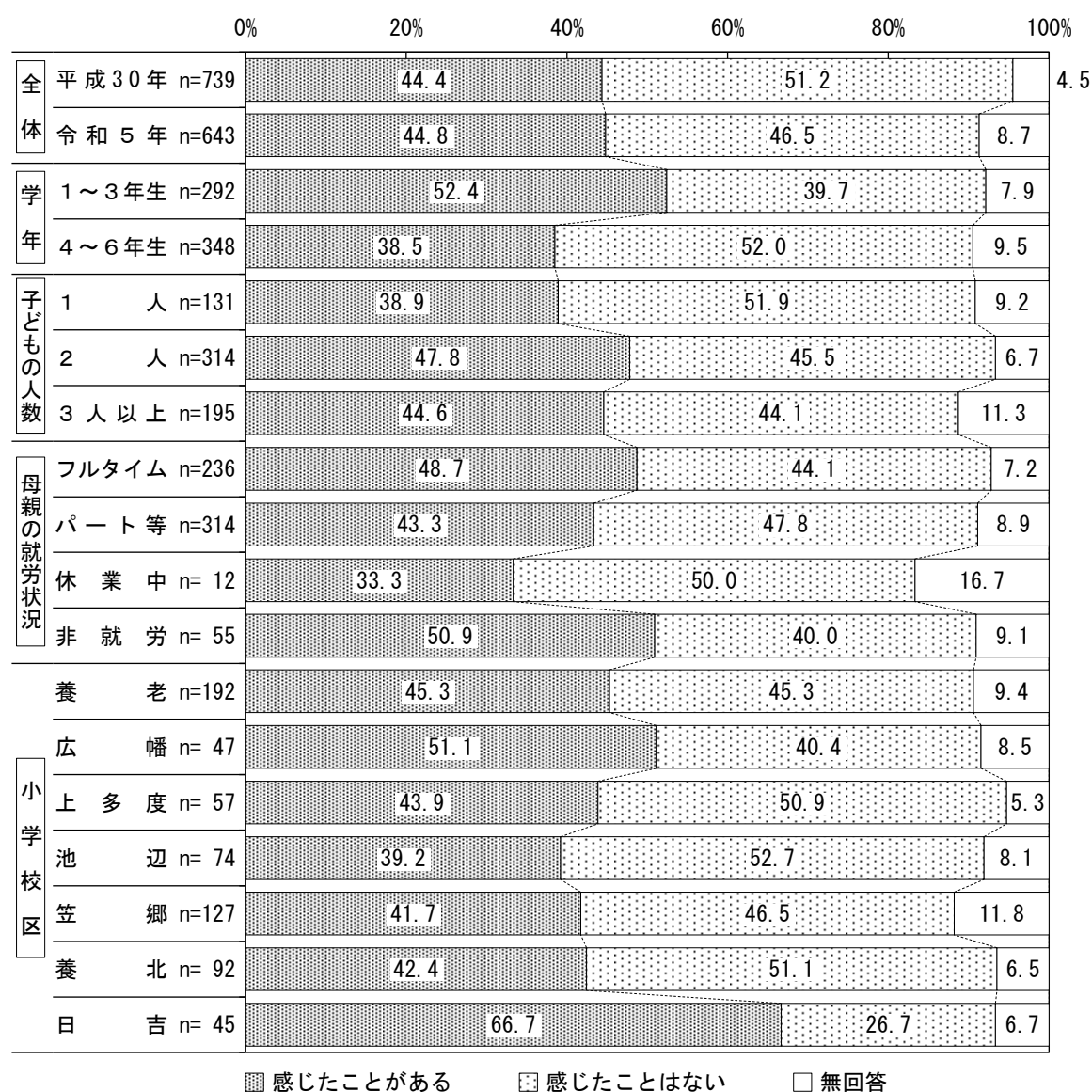
4 子育て支援を感じたことがあるか

図表2-57は、地域、園、学校、職場、行政の関係施設などにおいて、子育て支援をしてもらっていると感じたことがあるかたずねた結果です。「感じたことがある」と答えているのは44.8%で、平成30年と大きな変化はありません。

「感じたことがある」が高いのは、子どもの学年別では1～3年生、子どもの人数別では2人、母親の就労状況別では非就労、小学校区別では日吉です。

「支援してもらっていると感じたこと」の内容は、図表2-58のとおりです。

図表2-57 子育て支援を感じたことがあるか



図表 2-58 支援してもらっていると感じたことの内容

【子育て支援全般】 ・子どもの成長に合わせ、その都度保健センターさんや園、学校の方々に寄り添っていただけてありがたかったです ・毎日子どもが笑顔でいるのは、周りの支援してくれる人達のおかげだと日々思う ・子どもが生活しやすい環境を整えてもらっている ・積極的に子どもと関わってくれる ・それぞれ違うので何とは言えないが、周りに支えてもらえてありがたいです ・よく話を聴いてもらえる ・母子家庭に対する支援 ・母子家庭になった時、支援していただいた ・母子家庭なので、クリスマスなど社会福祉協議会よりプレゼントをもらえるなど ・検診などのサポート 【学校】 ・学校（4件） ・先生が親身になってくれる（3件） ・先生が子どもの様子をよく見て伝えてくれる（2件） ・先生に相談ができる（2件） ・学校行事のサポート（2件） ・学校での通級（2件） ・学校で細やかに支援していただいている ・細かいところまで気にかけてもらってアドバイスしてもらえる先生方がいます ・学校では、先生方に色々と支援やサポートしていただいていると思います ・学校の先生、人にもよるがよい人もいる ・学校の先生や地域の方の見守り ・先生が色々教えてくれる ・先生と子どものことで話ができる ・子育ての不安、教育の相談に応じてくれる ・長女が体調不良で不登校気味なのだが先生等助けられている ・勉強 ・一人ひとりの性格や学力に気を配ってくれます ・学校教育。（当然なことではあるが、家庭ではできない）教育という観点からだと、各教科のみではなく社会一般の知識を身に着ける必要があるが、そういった点では不十分。投資やビジネス等における教育も必要 ・通級にて個別に対応してもらっている。子どもが学校を休んで授業がわからなくなっていた時、担任の先生が個別に教えてくださり、ありがたかった ・下校に間に合わない時、学校で待たせてくれた 【留守家庭児童教室】 ・留守家庭児童教室が利用できること（13件） ・学童を6年生まで預かってもらえるようになったこと（5件） ・低学年の時、留守家庭児童教室を利用できた（2件）	・小学校1年生から4年生の間、平日や長期休暇の時に毎日留守家庭児童教室を利用できたこと ・4年生まで学童でみてもらっていた ・留守家庭児童教室があるおかげで働けるのでありがたいです ・学童が楽しいと通っていたのでありがたかった ・学童が大変親切でありがたい ・留守家庭児童教室で毎日子どもの様子を知らせてくださったとき ・学童への迎えの時間が遅くても「あわてず気をつけて来てね」と言ってもらえるから、とてもありがたいです ・18時半までの利用だが、それより遅くなってしまったときに快く子どものことをみてくれた ・遅くまで子どもを預かってもらっている時 ・土曜の学童は助かっています 【保育園・こども園】 ・園を利用できる点（2件） ・保育園の時はすごく支援していただきました ・保育園の先生が親身になって関わってくれたこと ・園で手厚くサポートしていただいている ・こども園は朝早くから遅くまで預かってもらえてとても助かりました。急な残業でも、こども園にいるから安心感がありました。それに比べて小学校は、やはり働きづらいです ・保育園に通っていた時は、急な早朝出勤や残業で遅くなってしまったときによくお世話になっていたなと思います ・保育園在園時に夜18時半過ぎまで保育してもらえた ・延長保育等 ・子が2歳頃の、月1持ち回りでの保育園開放 ・保育園の先生が相談に乗ってくれる 【子育て支援センター】 ・子育て支援センターなどお世話になりました（2件） ・子育て支援センターが利用しやすい ・未就園児の頃、支援センターを利用した ・子どもが赤ちゃんの頃、支援センターに毎日通っていました。二人きりでつらい時もあるので、色々な大人と話せてとても助かりました ・乳幼児期、子育て支援センターでお世話になった ・下の子がいつも支援センターでお世話になっている。皆さんとても親切 ・子育て支援センター（下笠保育園）でお世話になりました ・下笠保育園の支援センターがよかったです ・下笠の子育て支援センター。色々な相談を聴いてもらえました 【その他の子育て支援サービス】 ・長期休みの際、託児所を設けてくれている ・入園前に一時保育を利用できたこと
---	---

・病児保育を子が小さい頃に利用させてもらい、大変助かった ・未就園の頃は町の子育て支援行事や施設を利用させてもらっていた ・子どもを対象とした催し物があること ・イベントに参加したとき ・それぞれの行事 ・未就園児へのサロンやイベントをしている ・子育てサロンがあったこと ・小さい頃に子育て支援いちごに参加したり、子ども食堂を利用させていただき、ありがたかったです ・ひよこハウス、子育て支援いちごに参加してママ友や友達が増えたから ・スマイル学習会、ことばの教室、こども食堂 ・迎えが遅れて図書館でみてもらえたこと 【発達・療育支援】 ・ことばの教室通級時、ことばの教室の先生方には大変お世話になりました ・子どもの発達に関して相談ができて支援もある点 ・発達の相談 ・子どもの発達について赤ちゃんの頃からアドバイスや病院、施設などの情報をいただいたり、紹介していただいたり助けられています ・発音の悪さを気にして、施設の通所を勧めてくださった。子どもに合わせた支援をしてもらっている ・発達支援等の個別支援をしていただける ・発達支援への理解。学習会があること ・療育など ・下の子は障がいを持っていますが、その子に応じて、対応していただいています ・特別に支援が必要な子の対応、密な保護者との連携 【経済的支援】 ・給付金（11件） ・医療費の助成（5件） ・児童手当（4件） ・給付金、医療費無料（2件） ・ひとり親に対して援助があること（2件） ・金銭面 ・足りないが、金銭 ・補助金 ・低所得のため、何度か給付をいただき助かりました ・補助金など、その都度対応してもらっているため ・養老町は手当をこまめにいただける ・子ども手当、医療費負担ゼロなど金銭面の支援がありがたい ・医療費、保育料の助成はありがたいです ・高校生まで医療費が無料になったこと ・第3子を出産した時、町からお祝い金をもらえた。保育園の保育料の免除があった ・ことばの教室利用料金の助成 ・インフルエンザワクチンの補助 ・子どもをインフルエンザワクチンの補助金の対象にしてほしい	・支援金がもらえると助かる 【職場】 ・急な子どもの体調不良でも休みやすい（8件） ・職場が理解してくれており、休みやすい（5件） ・勤務の調整がしやすい（2件） ・子どものための休みをもらえること（2件） ・子どもが病欠のときに、在宅で仕事ができるようにしてもらっている（2件） ・職場が協力的 ・職場では感じます ・すぐ休みがもらえる、子育ての親の気持ちに寄り添ってくれる ・子どもにあわせて帰ったり休んだりできる ・職場は子育てのために休みやすい ・仕事が忙しい時でも早く休みを取らせてくれる ・急な休みに対応してくれる ・子どもが病気で休む時や子どもの休みに合わせて休みが取れる ・子どもの体調不良時に、休暇が取りやすかった ・子どものことで休んでも、文句を言われたりしない ・子どもが病気で休んだ時、早く有休を使って休ませてくれる ・学校行事や体調不良に柔軟に対応してもらっている ・職場に園があるので、必要であれば研修会時、学級閉鎖等預かってもらえる ・長期休み時の託児利用 ・特別休暇の取得 ・短時間勤務の制度があり、利用しやすいこと ・会社で子どもの入学時にお金がもらえること 【地域の支援・活動】 ・学校の登下校の見守り（17件） ・子ども会行事（2件） ・学校の行き帰り、地域の方に付き添いしていただいています（シルバーさん）。子ども達だけの通学にならずにすんでいて、本当にありがたいことと感じています ・下校の見送りをしていただいている。校長、区長、前区長等 ・シルバーさんが下校に付き添ってくれる（毎日ではないが） ・地域のシルバーさんたちに通学路を一緒に歩いてもらっている ・シルバーの方が横断歩道で見守ってくれるところ ・登下校の見守りや地域のイベント ・登下校の見守りを地域の方が行ってくれる。子どもの参加、子どもとともに参加する行事がある ・地域の行事など。祭り、運動会 【相談】 ・相談に乗ってもらえる（6件） ・子育ての相談を聞いてもらえて、その悩みに合う対処をもらえたことがある ・気にかけて、話を聞いてくださる
---	--

・悩みなど親身になって話を聞いてくれる ・幼い頃は保健センターで育児の相談に乗っていただいていた ・就園前の保健センターでの検診や相談 ・子どもが今より小さい時、保健センターや支援センターで気軽に育児相談ができて、とても安心感があった ・保健センターの育児相談が利用しやすい ・学校や園と連携をとって相談できること	【行政】 ・行政で話を聞いてもらっている ・行政で他の子どもがお世話になっています 【その他】 ・子どもに支援してもらえる ・子ども同士のトラブル ・パフォーマンスに見える
--	---

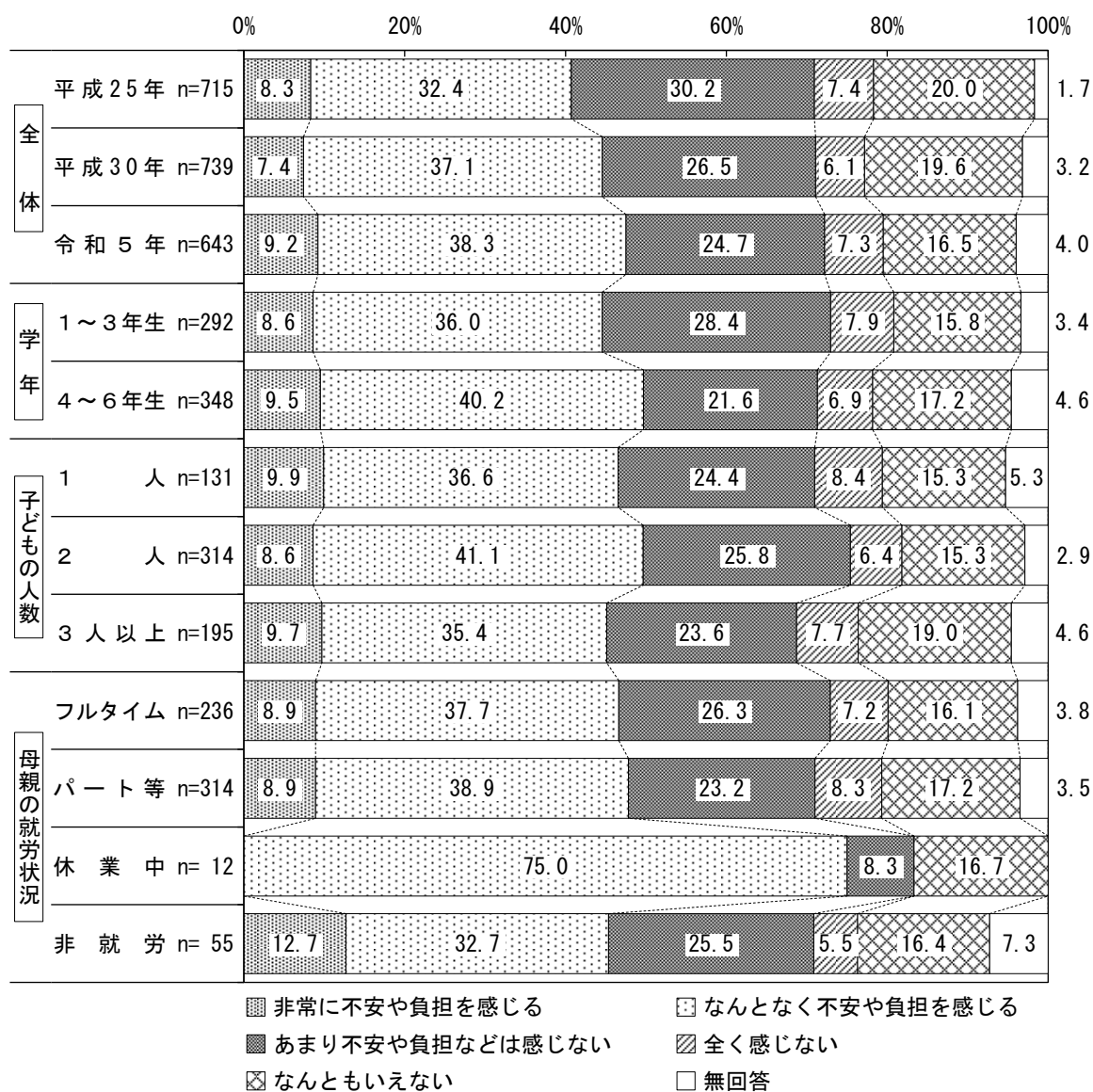
第9 子育ての状況

1 子育てに関する不安感や負担感

子育てに関する不安感や負担感については、「非常に不安や負担を感じる」(9.2%)と「なんとなく不安や負担を感じる」(38.3%)を合計した＜不安や負担を感じる＞は47.5%、「あまり不安や負担を感じない」(24.7%)と「全く感じない」(7.3%)を合計した＜不安や負担を感じない＞は32.0%となっています。平成25年および平成30年と比べて、＜不安や負担を感じる＞は上昇を続けています。

＜不安や負担を感じる＞は、子どもの学年別では4～6年生、子どもの人数別では2人、母親の就労状況別では基数の少ない休業中を除くとパート・アルバイト等が高くなっています。

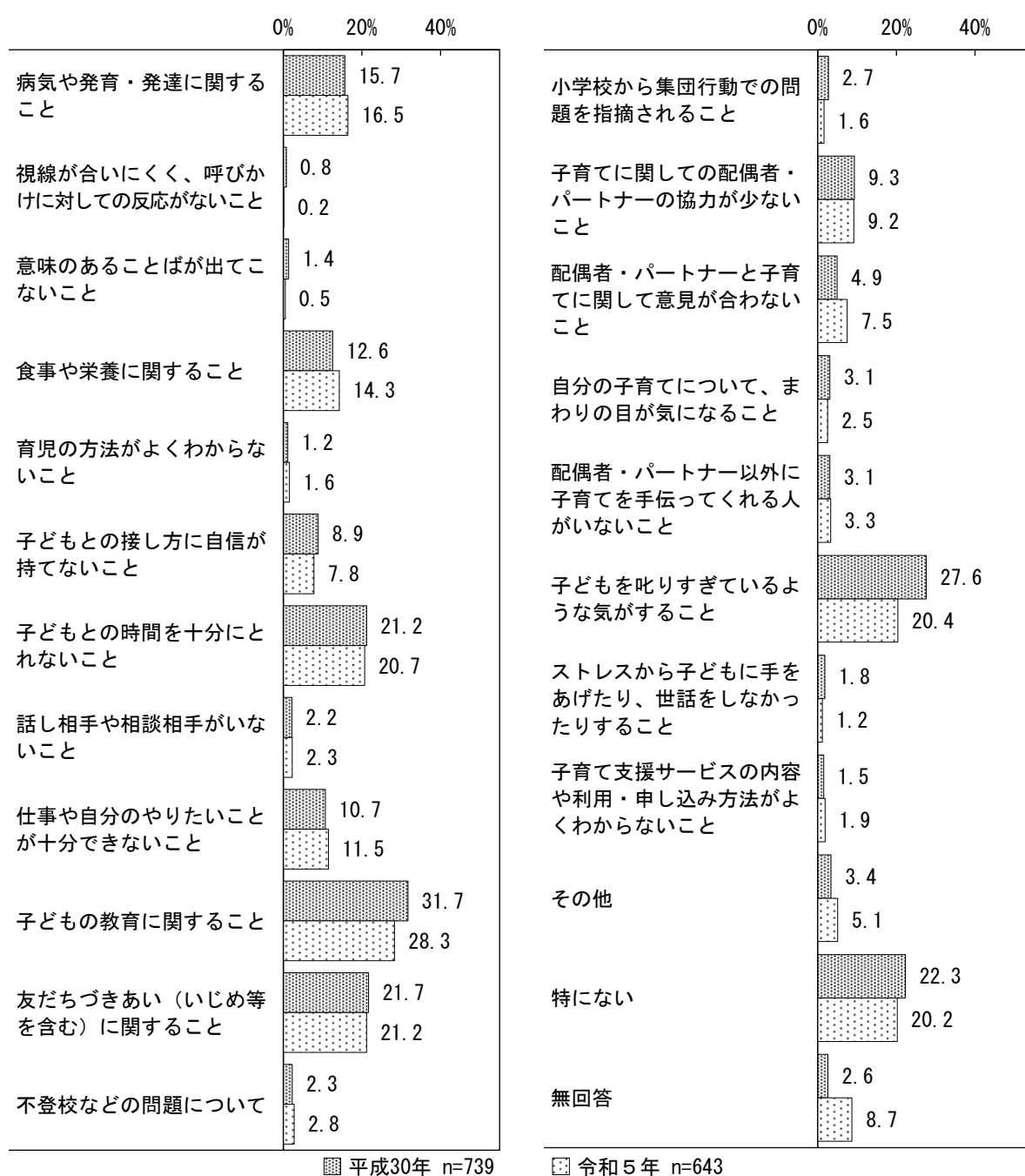
図表2-59 子育てに関する不安感や負担感



2 子育てに関して悩んでいること

子育てや子どもの成長に関して、日常悩んでいること、または気になることをたずねたところ、「子どもの教育に関すること」が28.3%と最も高く、「友だちづきあい（いじめ等を含む）に関すること」「子どもとの時間を十分にとれないこと」「子どもを叱りすぎているような気がする」「特にない」も20%以上となっています。平成30年と比べると、「子どもを叱りすぎているような気がする」が7.2ポイント低下しています。また「特にない」は2.1ポイント低下しています。

図表2-60 子育てに関して悩んでいること（複数回答）



子どもの成長に関して、日頃悩んでいること、または気になることの「その他」として、図表 2-61 の内容が記載されていました。

図表 2-61 子育てに関して悩んでいること（その他）

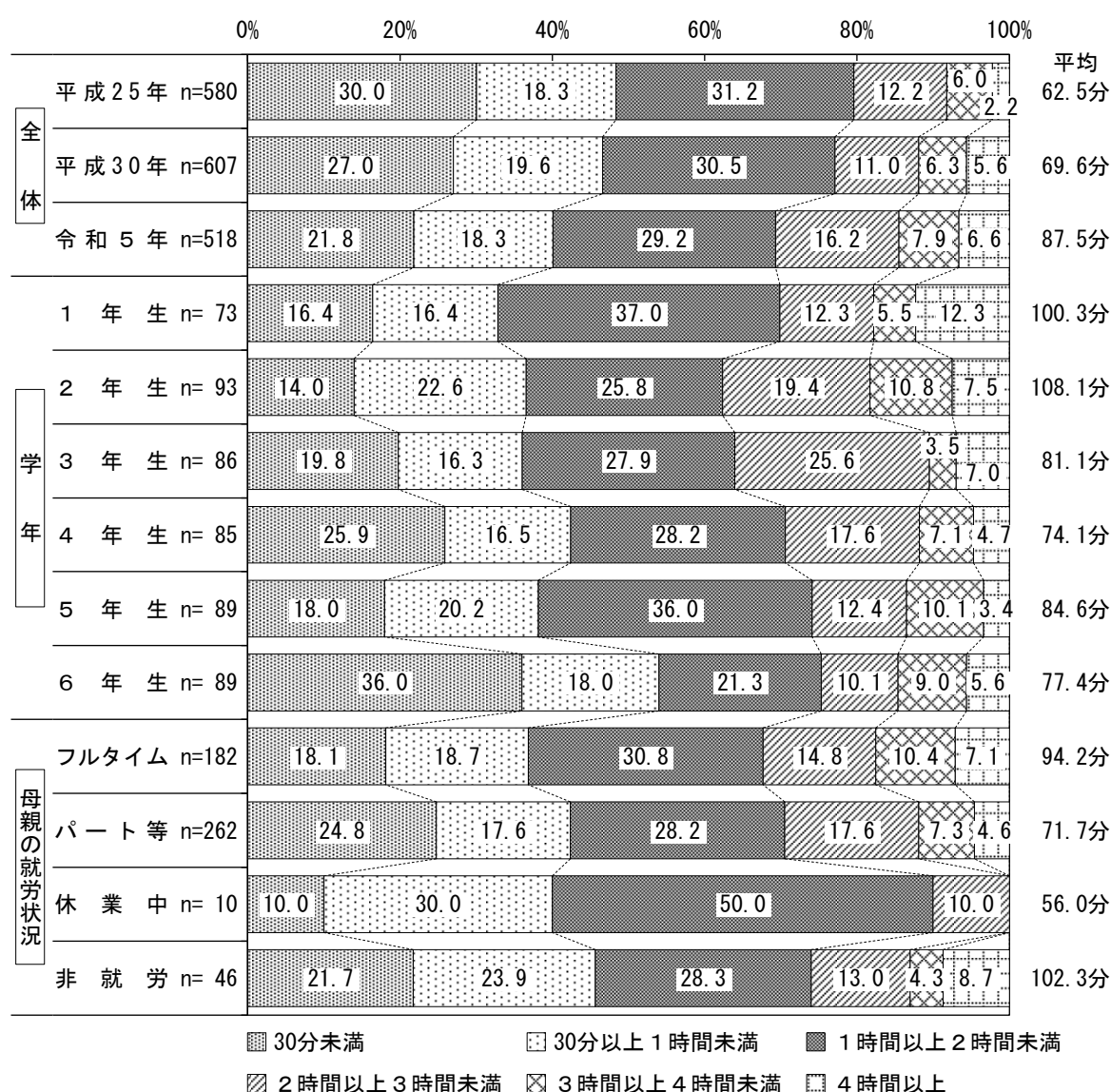
・高校、大学の学費（4 件） ・お金がかかる（2 件） ・ゲーム、スマホを使い過ぎている（2 件） ・税金や支払いは山ほどあるのに、所得制限とかで子ども手当も補助金もなく悩む ・将来かかるお金の額 ・子どもを育てていく学習費や大学の学費、今後払っていきけるのか不安 ・教育費に関する将来の不安あり ・教育資金等、先が不透明で不安。祖父母も働いており頼りづらい ・育児など教育にかかる費用に日々悩む ・学校のこと、学校外の習い事、お金がかかる ・金銭的なこと。塾に行かせてあげる余裕がない ・進路について ・学習面、将来の就職のこと。生活のこと ・勉強が苦手で、宿題などがなかなかできないこと ・大人が管理しやすい子どもを育てる、日本人としてのアイデンティティを削がれるような教育がされていること。偏った教育がされていること ・投資、ビジネス、プログラミング等、時代の変化で必要なことの習得方法 ・虫歯 ・学校へ行く前、必ずお腹が痛くなる	・コロナになり、行事やイベントがなくなり、友達とも遊ぶ（過ごす）時間が短かった期間があるので、今後が少し心配している ・養老町の子どもが少ないため、登下校が少ない人数で心配 ・子どもが少ない ・育成会長が順番に回ってきた時、不安が大きいこと ・学校の役員、子ども会などの役員 ・子ども進学時に制服を譲っていただいて、進学先（中学）の情報ももらえる。親族以外の親しい、頼れる人がいない ・サポートがなさすぎるので移住したい ・妻が死亡し、情報がなくなりどうしてよいかわからない ・夫の言葉遣いが気になる ・子どもたちを取り巻く社会毒が多すぎるのが不安。食の大切さや子どもたちにとっての農業被害、電磁波有害問題や LGBTQ 法によって女性や子どもたちの安全が守られる保証がないため、子どもたちが安心安全で暮らせるために行政の人たちは考えていないこと、町民一人ひとりに意識があまりなくて不安を感じている
---	--

3 父親の1日の子育てや家事の時間

「父親は子育てや家事を1日どれくらい分担していますか」という設問に対しては、「1時間以上2時間未満」が29.2%と最も高く、次いで「30分未満」が21.8%などとなっており、1日当たりの平均時間は87.5分です。平成25年および平成30年と比べると、1日当たりの平均時間は長くなり続けています。

子どもの学年別の1年生および2年生、母親の就業状況別の非就労は平均時間が100分を超えています。

図表2-62 父親の1日の子育てや家事の時間



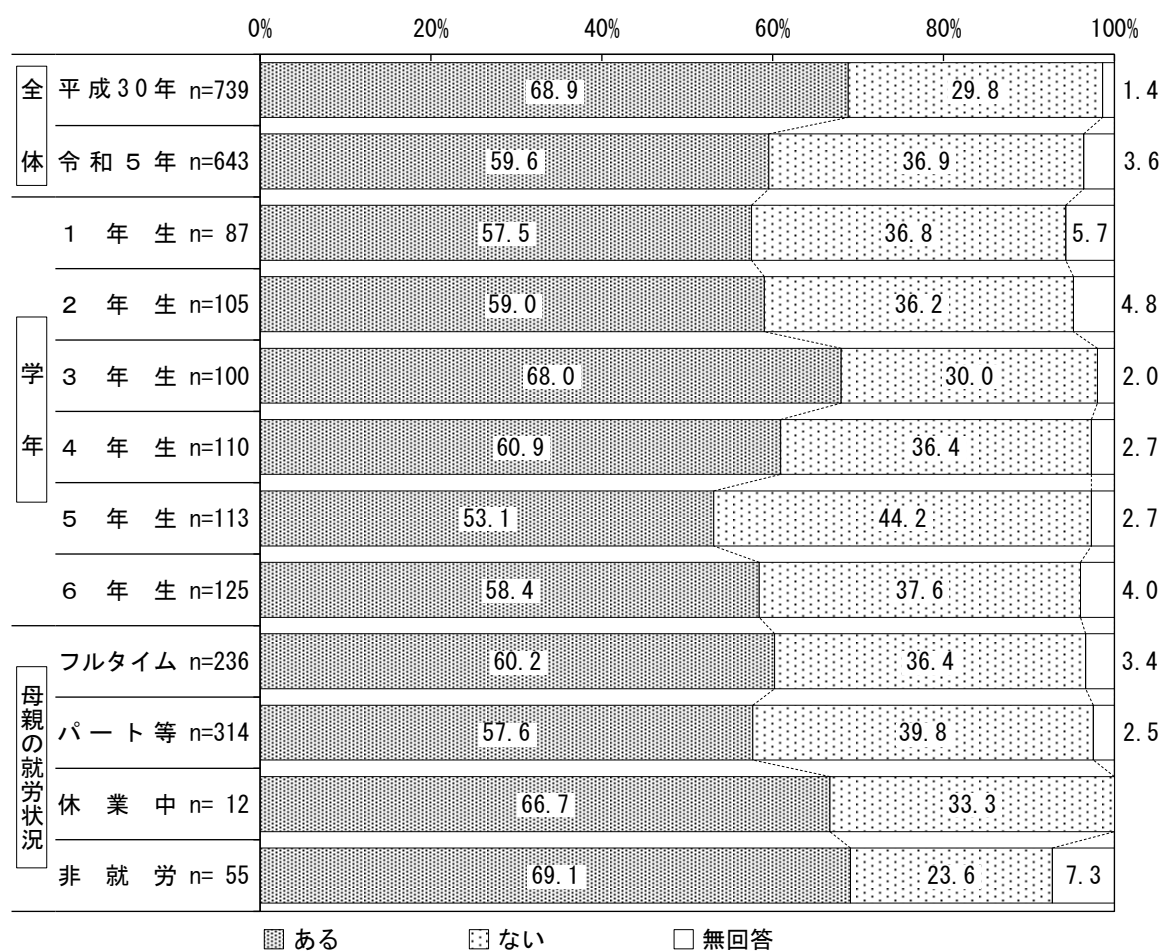
4 子どもへの暴力

(1) 子どもに暴力をふるったことがあるか

子育てをしている中で、ストレスを感じ、感情的にたたいたり、怒鳴ったりしたことがあるかを聞いたところ、「ある」が59.6%、「ない」が36.9%です。平成30年と比べると、「ある」は9.3ポイント低くなっています。

子どもの学年別の3年生、母親の就労状況別の休業中および非就労の「ある」が高くなっています。

図表2-63 子どもに手をあげてしまう、あるいは手をあげそうになったこと

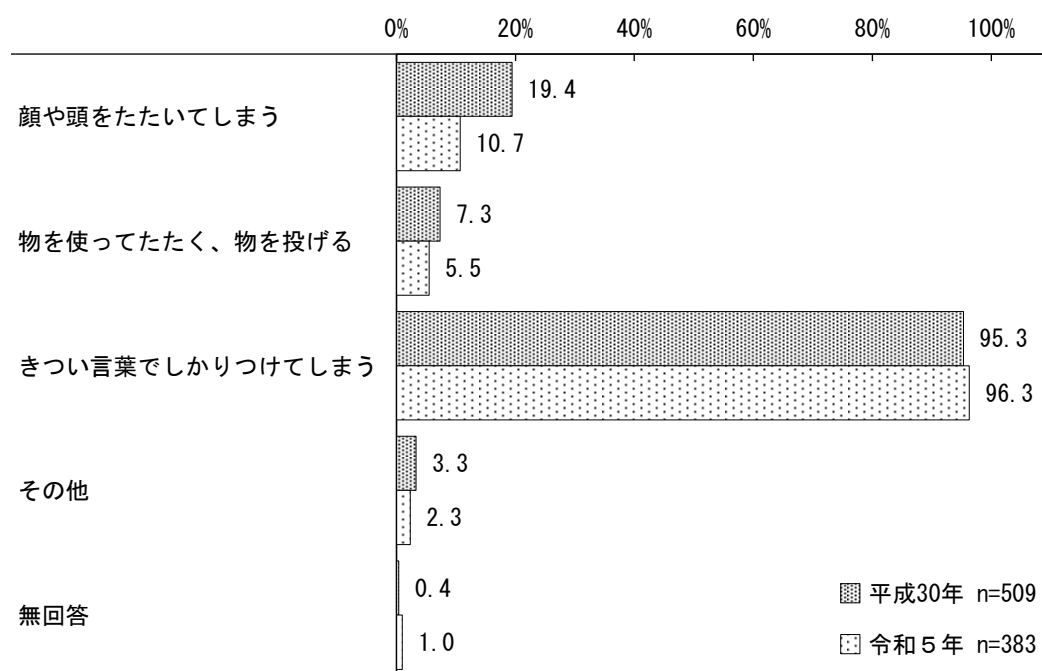


(2) 子どもへの暴力の内容

図表 2-64は、図表 2-63で「ある」と答えた人に、具体的な暴力の内容をたずねた結果です。「きつい言葉でしかりつけてしまう」を96.3%の人があげており、次いで「顔や頭をたたいてしまう」が10.7%、「物を使ってたたく、物を投げる」が5.5%です。平成30年と比べると、「顔や頭をたたいてしまう」が8.7ポイント低くなっています。

「その他」として、図表 2-65の内容が記載されていました。

図表 2-64 子どもへの暴力の内容（複数回答）



図表 2-65 子どもへの暴力の内容（その他）

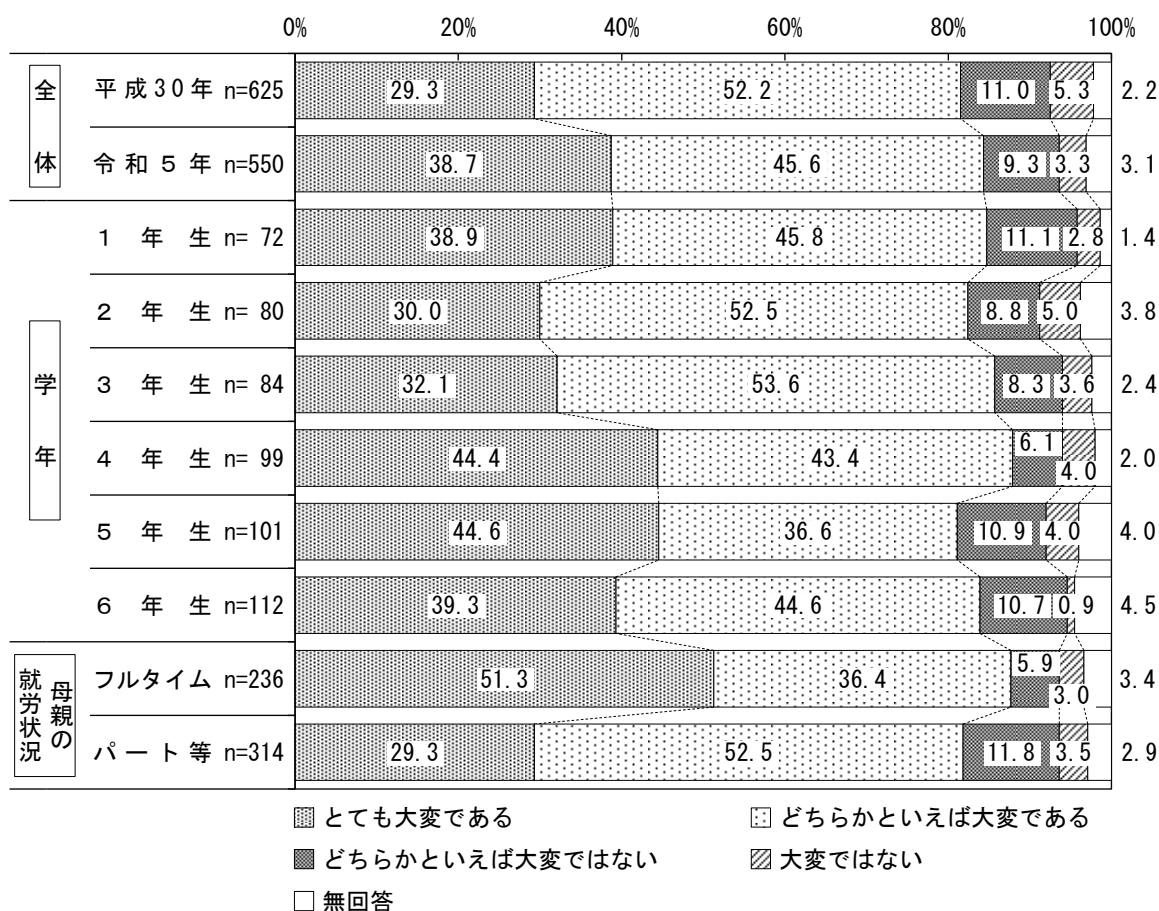
・大きな声で怒ってしまう（4件） ・不機嫌な態度 ・手を叩く	・払いのける ・家事を優先してしまう ・言うことをきかない。やってくれない
--	---

5 仕事と子育ての両立

子育てをしながら就労している人に、仕事と子育ての両立が大変だと感じているかたずねたところ、「どちらかといえば大変である」が45.6%を占めており、次いで「とても大変である」が38.7%となっています。平成30年と比べて「とても大変である」が9.4ポイント高くなっています。

「とても大変である」は、子どもの学年別では4年生および5年生が比較的高くなっています。母親の就労状況別ではパート・アルバイト等に比べてフルタイムが高く、過半数を占めています。

図表2-66 仕事と子育ての両立



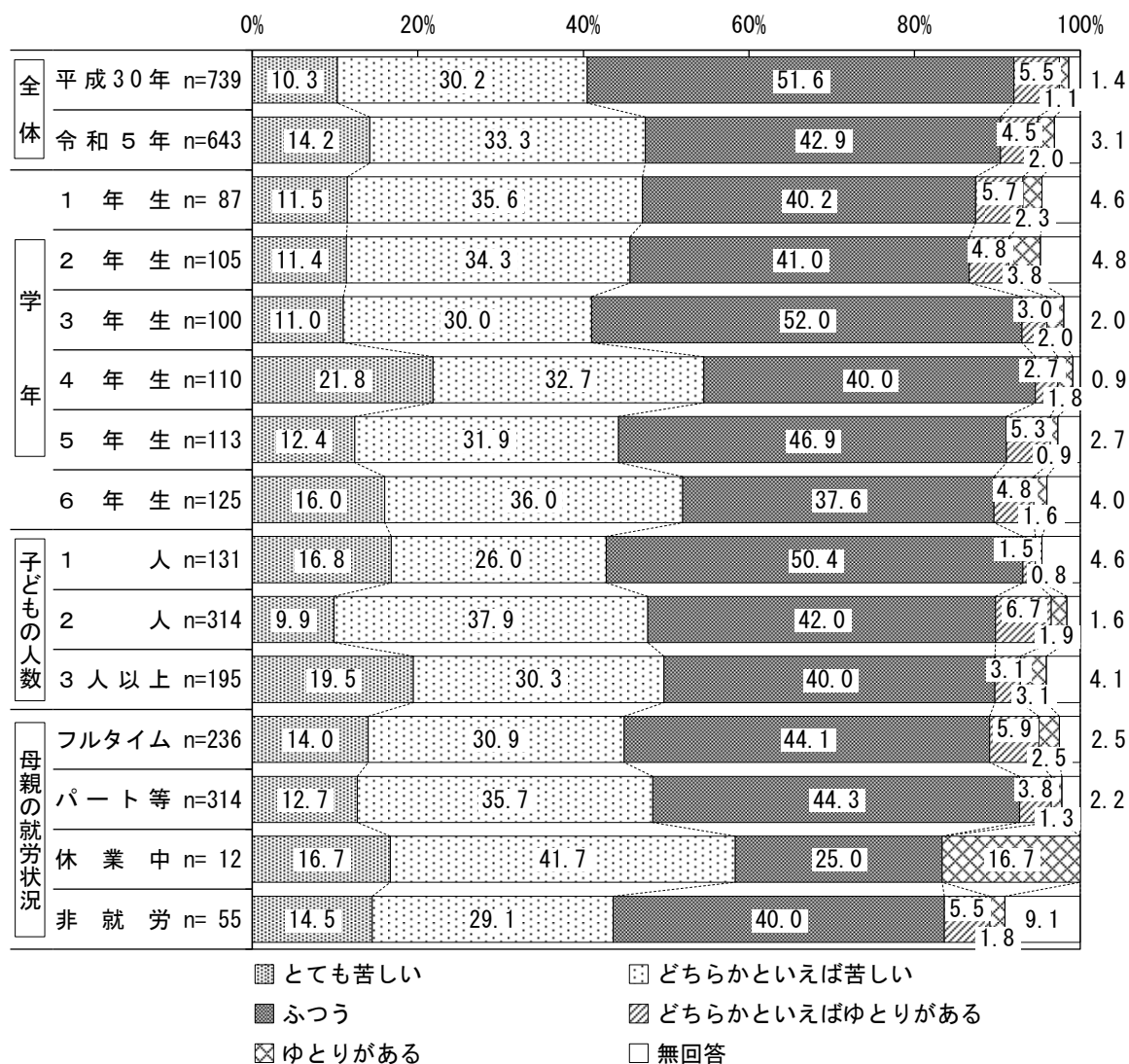
第10 暮らしの状況

1 暮らしの状況

現在の暮らしは経済的にどのように感じているかたずねたところ、「とても苦しい」(14.2%)と「どちらかといえば苦しい」(33.3%)を合計した<苦しい>は47.5%となっています。「どちらかといえばゆとりがある」(4.5%)と「ゆとりがある」(2.0%)を合計した<ゆとりがある>は6.5%です。平成30年と比べて、<苦しい>が7ポイント高くなっています。

<苦しい>は、子どもの学年別にみると4年生および6年生、子どもの人数別では3人以上、母親の就労状況別では基数の少ない休業中を除くとパート・アルバイト等が高くなっています。

図表2-67 暮らしの状況



2 経済的な理由で断念したこと等があるか

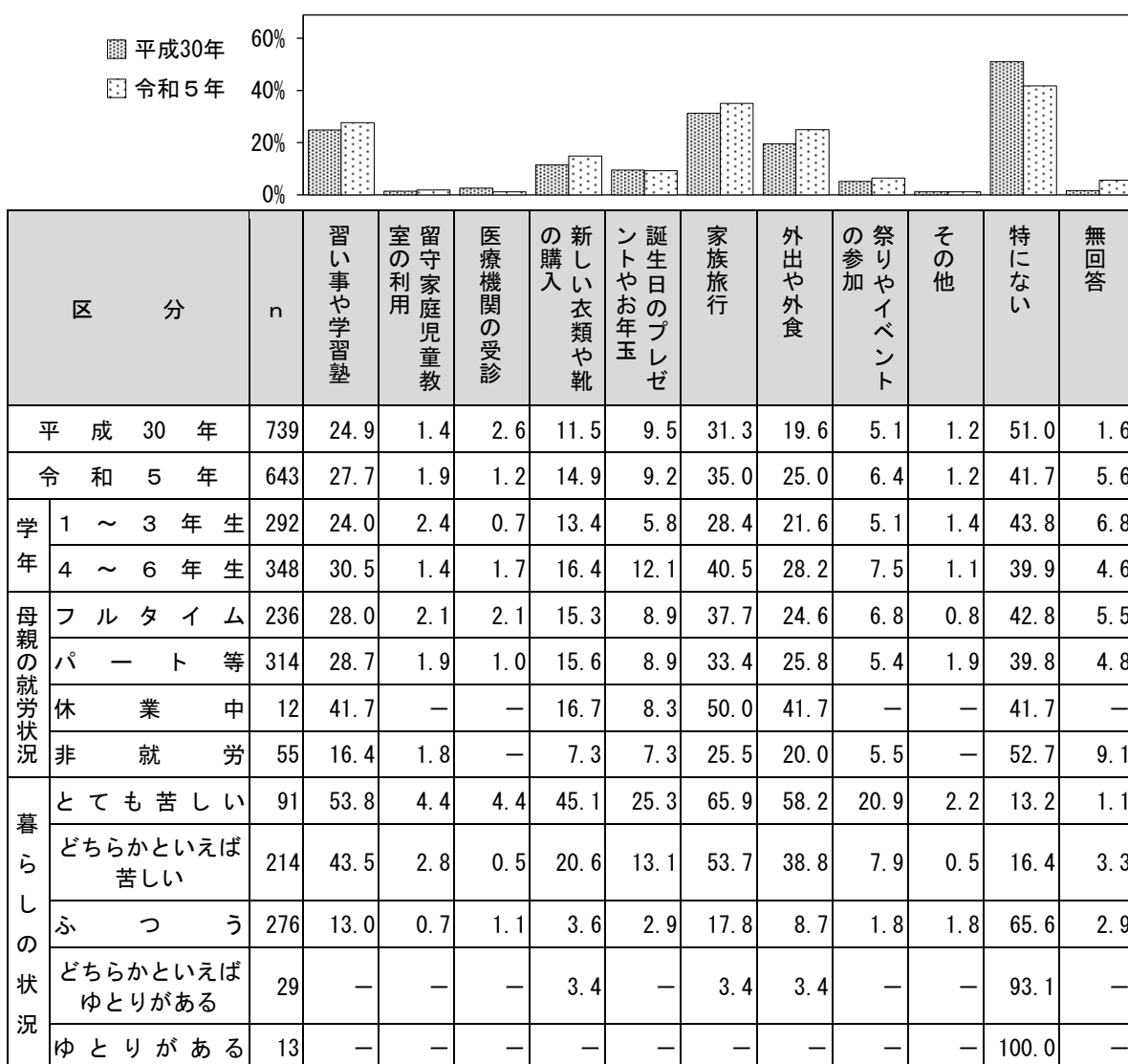
図表2-68は、この1年間に、経済的な理由で断念したり、子どもに我慢させたりしたことがあるかたずねた結果です。41.7%が「特にない」と回答しています。経済的な理由で断念したこと等の具体的な内容としては、「家族旅行」が35.0%と最も高く、次いで「習い事や学習塾」が27.7%、「外出や外食」が25.0%などの順となっています。平成30年と比べて、「医療機関の受診」「誕生日のプレゼントやお年玉」以外の項目で上昇している一方、「特にない」は9.3ポイント低下しています。

図表2-67で「とても苦しい」と回答した人は、「特にない」が13.2%にとどまっており、4項目が40%以上となっています。特に「家族旅行」は65.9%、「外出や外食」は58.2%、「習い事や学習塾」は53.8%と半数以上の人を選択しています。

「その他」として、図表2-69の内容が記載されていました。

図表2-68 経済的な理由で断念したこと等があるか（複数回答）

単位：nは人、他は%



図表 2-69 経済的な理由で断念したこと等があるか（その他）

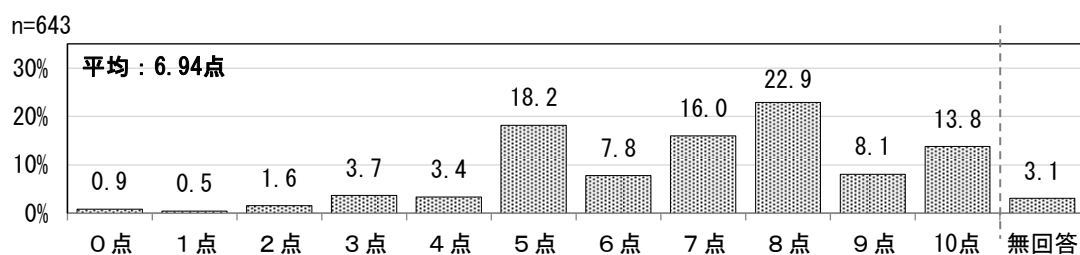
・進学先 ・留学（短期） ・経済的にゆとりがあれば旅行、物品の購入などワンランク上にして回数を増やしたい。今でも基本的には子どもに我慢はさせていないと思っている	・可能なら年間に何度も旅行や、海外旅行や、色々な体験をさせたい。希望を上げればきりが無いが、十分なことはできていると考える ・おもちゃ ・おこづかい
--	--

3 幸福感

「あなたは、現在どの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください」という設問では、「8点」が22.9%と最も高く、次いで「5点」（18.2%）、「7点」（16.0%）などとなっており、平均は6.94点です（図表 2-70）。

属性別にみると、子どもの学年別では1年生および4～6年生、子どもの人数別では1人、母親の就労状況別ではフルタイムが全体の平均点を下回っています（図表 2-71）。

図表 2-70 幸福感



図表 2-71 幸福感（平均）

	5点	6点	7点	8点
全 体 n=623			6.94	
1 年 生 n= 83			6.92	
2 年 生 n=102			7.53	
3 年 生 n= 99			7.01	
4 年 生 n=106			6.86	
5 年 生 n=108			6.71	
6 年 生 n=122			6.69	
1 人 n=125			6.84	
2 人 n=306			6.98	
3 人 以上 n=190			6.95	
フルタイム n=231			6.88	
パート等 n=303			6.95	
休 業 中 n= 12			7.83	
非 就 労 n= 53			7.02	

4 新型コロナウイルス感染症の流行の影響

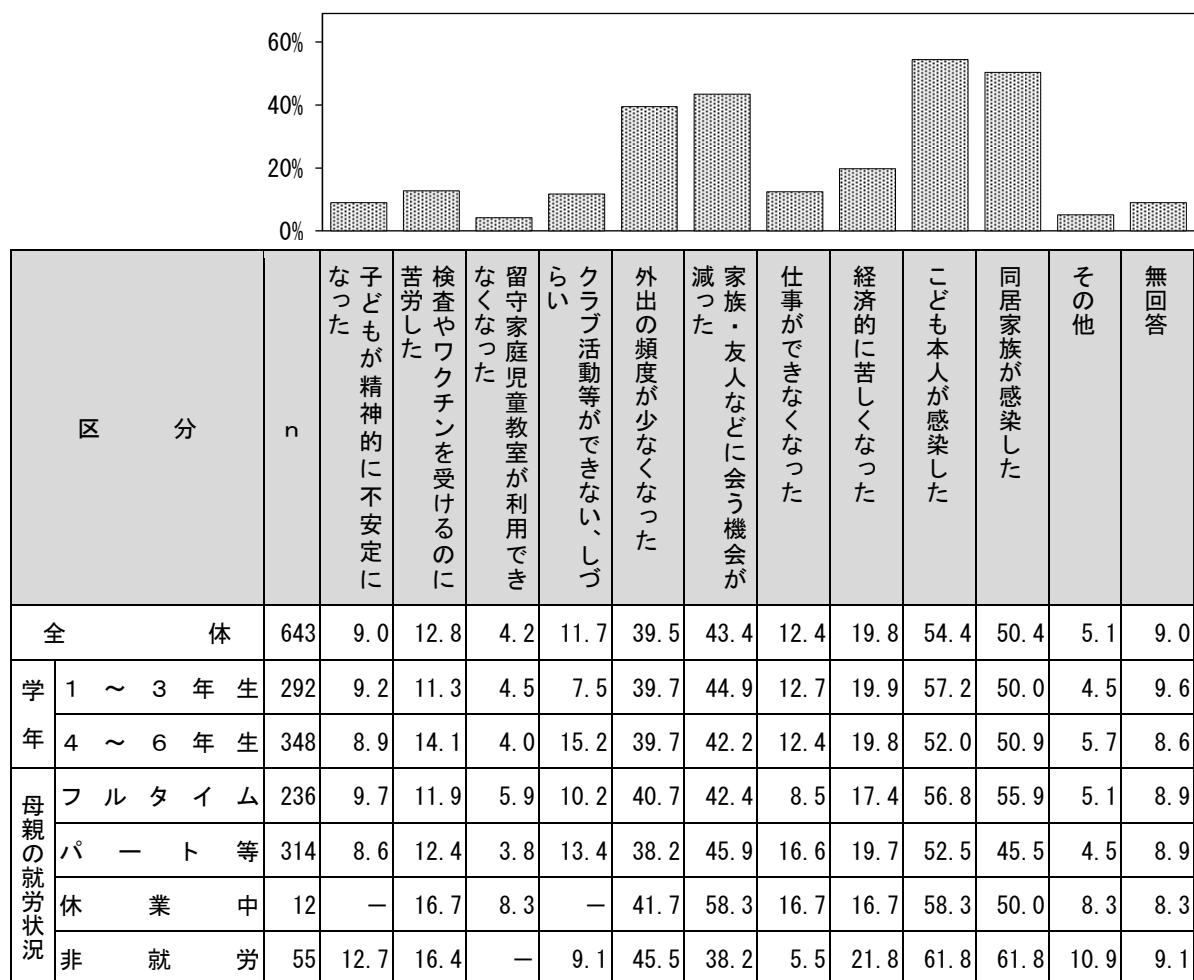
令和2年以降の新型コロナウイルス感染症の流行に関連して、起きたことや困ったことはあるかたずねたところ、「こども本人が感染した」が54.4%と最も高く、次いで「同居家族が感染した」が50.4%、「家族・友人などに会う機会が減った」が43.4%、「外出の頻度が少なくなった」が39.5%などとなっています。

子どもの学年別にみると、1～3年生は4～6年生と比べて「こども本人が感染した」が、4～6年生は1～3年生に比べて「クラブ活動等ができない、しづらい」がそれぞれ5ポイント以上高くなっています。

「その他」として、図表2-73の内容が記載されていました。

図表2-72 新型コロナウイルス感染症の流行の影響（複数回答）

単位：nは人、他は%



図表 2-73 新型コロナウイルス感染症の流行の影響（その他）

・濃厚接触者になって学校を休み、開けて登校してすぐに同級生の子が遠くからにらみつけてきて、距離を置かれた ・一人が感染した時、同居家族の居場所がなくなったこと ・家族が感染して学校に行けなくなったことがショックで、勉強や友だちと会えなかったことが今でも嫌な思い出として残っていて、時々思い出しては「学校に行きたかった」と話します ・休校中のオンライン授業をしてほしかった ・最初の2か月休校になり、小学校1年生で入学したばかりだったため、不登校気味になり、立て直すのに1年かかった ・ステイホームで休園明けに子どもが登園しなかった。精神的不安定になる ・子どもがマスクを外したがる。常に着用している（外してよい場合もあると伝えていても） ・マスクを外すのを嫌がる、恥ずかしがる。外出を嫌がるようになりました ・家遊びに慣れてしまったので、子どもが外出しない ・鼻水の処理が自分でできないのに、コロナでなくても周りの子に感染させるといけないので、マスクをつけること。鼻水だけで休ませなければならないから、欠席ばかりになってしまう。でも先生も鼻水の処理はしたくないだろうな、とも思う。休ませる（欠席）基準がわからなくなった ・必要以上の感染対策で、消毒のしすぎなどで子どもたちの手荒れがひどくなり、マスクのせいで熱中症や酸欠で頭痛や吐き気、肩こりなど不調になった。子どもたちの行事もたくさん奪われとても残念でした	・運動不足になった ・体重が増えた ・体調不良 ・子ども会行事や祭り等、子どもの楽しむ場が制限された。現在も以前より簡素化されたように思う ・制限がかかりすぎて行事もすべてなくなり、だいぶストレスになっていた ・習い事の大会が減った ・家族全員がかかって、自分の身体がつらくても食事の用意をするのがとても大変だった ・自分が感染したが、家事など代わってくれる人がおらず困った ・自分自身がコロナになり大変だった ・母親が感染した ・祖父母に感染の可能性が出たりした ・ひとり親なので、子どもが感染すると仕事を休まなければならない。休むと収入が減る。生活困難で大変です ・仕事が自宅待機になり、何か月も家で過ごすことで、自分が精神的につらくなった ・仕事がとても大変すぎた ・医療関係の仕事のため、給料は上がらないが仕事は忙しくなった ・感染すると色々なところに支障が出るため、外出を我慢することが多くストレスがたまった ・コロナに感染してしまうのではないかという緊張感がストレスだった ・ワクチン接種への同調圧力 ・世の中のこと、暮らし方、生き方いろんな角度から見直し、学び、考え、とてもよい経験となった。ぶれない軸のようなものを私も夫も、そして子どもたちも確立したように思います
--	--

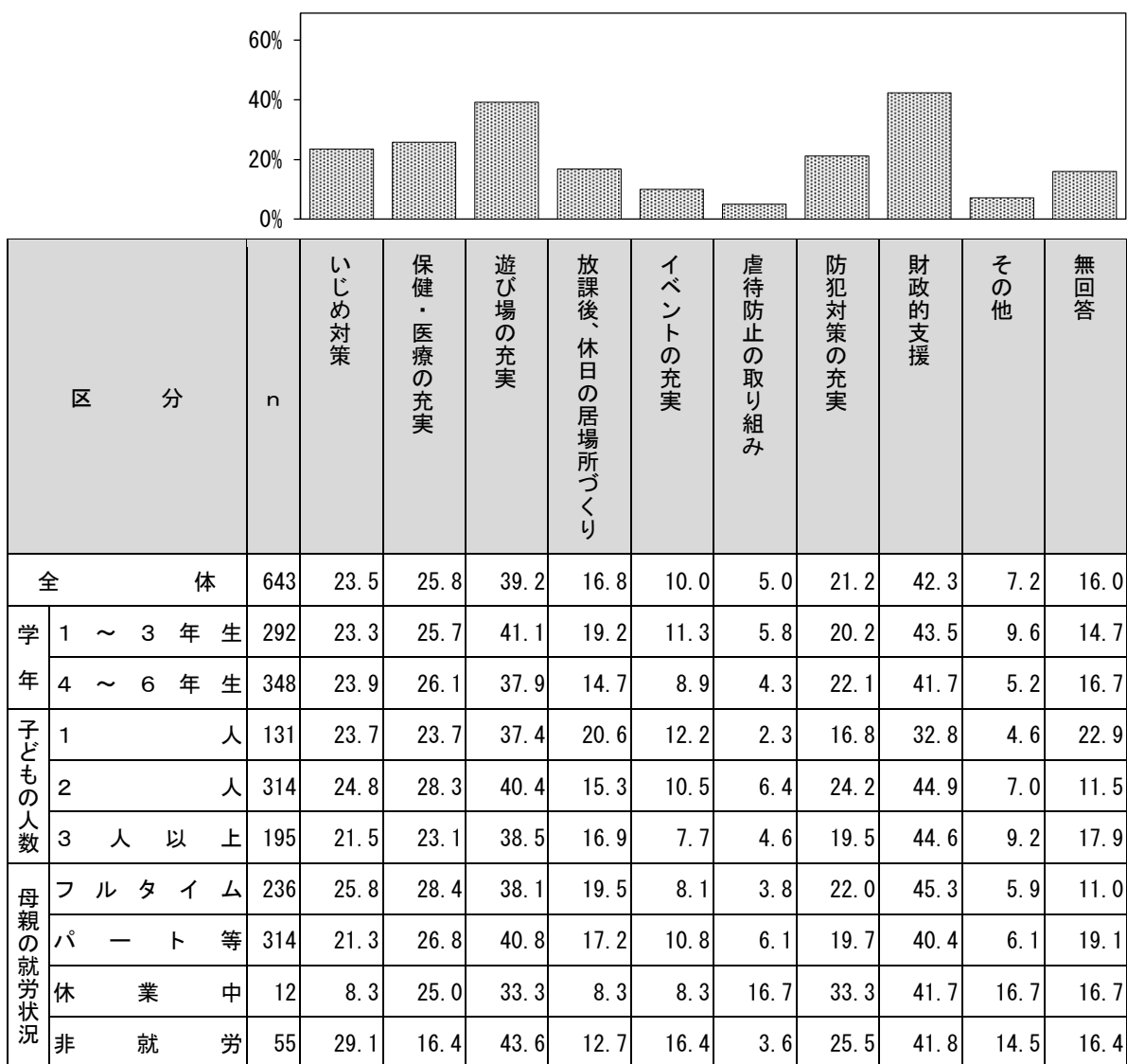
5 重点的に取り組んでほしい子ども施策

行政に重点的に取り組んでほしいと思う子どもに関する施策は何かたずねたところ、「財政的支援」が42.3%と最も高く、次いで「遊び場の充実」が39.2%、「保健・医療の充実」が25.8%などとなっています。

子どもの人数別にみると、1人は「遊び場の充実」が、2人および3人以上は「経済的支援」が最も高くなっています。

図表2-74 重点的に取り組んでほしい子ども施策（複数回答）

単位：nは人、他は%



取り組んでほしいと思う施策の具体的な内容は、図表2-75のとおりです。

図表 2-75 重点的に取り組んでほしい子ども施策の具体的な内容

【子育て支援全般】 ・安心安全に暮らせるよう、一人ひとりに寄り添った支援を期待しています ・安心して子育てできるように ・本人もそうですが、周りから相談を受ける子どもも負担は大きい、色々な面でサポートしていただきたい。子どもで許容量を超えると助けられない ・子どもが考えて決める力を伸ばしてほしい。受動的なことが多い ・養老町は子どもを宝だと思っていますか。人口を減らさずに町の運営を長続きさせようと思うなら、所得制限をかけず、すべての子どもを大人全員で育てる気持ちで平等にしてください。子育てに力を入れないとどんどん減り、働けない人ばかりの町になりますよ。自然環境や交通網の広がり、本当は子どもを育てるのによいところなのだから、受け入れることで活発にしていきたいと思います ・他の市町村の取り組みを色々とお知っていただきたいです ・若い子が移住してきてくれる支援や、子ども達がすくすく育つ支援。住宅支援など ・SNSなどのメディアコントロール教育。情報リテラシー等 ・子ども向けの携帯や情報リテラシー ・子育ての色々な支援を高校生までにしてほしい ・子どもと関わるができる時間（特に父親）の充実。家と子どもは母親が守るものという年配者の考え、世間体を気にすることをなくす施策 ・子どもに虐待してしまうのは、母親が追い詰められているのだと思います。そうなる前に防げる方法があるとよいと思う ・子どもがたくさんいる家族への配慮 ・ひとり親のため、大学まで行かせてあげられるか不安 ・親への教育をした方がよい。「あの子と遊ばない方がよい」と言う方が時々いる。気持ちはわかるが、子どもの教育にはよくないと思う。親が介入し過ぎ ・小学校のランドセルは高額なのに重くて使いづらい。行政でもう少し対策してほしい ・町内や県内の住民のための休み、その日は子どもも休校になる（他の県では行っているもの） ・企業誘致。子どもに直接的に関係しないが、働く場が増え、子育て世代が増え、税収入が増え、子ども達にできることが増えると思う。垂井町は進んでいる ・学校でも役場でも、専門的な知識だけでなく経験を有する人を配置してほしい。知識もなく人生経験もなく対応されるのは不快に思う ・国の耐震が不安。洪水で2階まで浸水予想されているのに守られていない。新しい防災の見直しを	・今の行政に何も期待していません。むだなことにお金を使いすぎです ・役場の職員の対応が気になる。愛想がない。反応が乏しい。人材育成の研修をしたほうがいい ・時給アップ ・基地局アンテナからの電磁波は身体にとっても有害です。便利な社会にするためなのかもしれませんが、目に見えない電磁波はとても怖いです。子どもたちの生活する範囲から撤退していただきたいと思っている ・期待していないので、特にないです 【学校】 ・子どもの道徳教室 ・保護者への教育、授業参観の様子、その他のトラブル対応などで、モラルのない人が多い。スマホと子どもの付き合いの指導が不十分。子どもの学力が低い。性に対しての興味を持つ年齢が低くなっているため早めの対応。実際にトラブルが起きているため ・クラスで馴染めるよう先生達が協力してほしい。少しでも話せる子と班を同じにする。人には見えないいやな態度をとる子に注意してほしい ・子どもの体力づくりに役立つような取り組みをしてほしい。少子化で中学校の部活も廃止になると聞き、子どもの将来が不安。中学生までは身体をつくる大変な時期でもあるので。クラブ活動の指導者への待遇など ・子どもが少なく、集団下校でも一人で歩く時間が長いと心配 ・登下校、田舎道で低学年少人数では危ない ・通学に不便。小学校が遠い。駅が遠い ・下校時、家まで1時間ほどかかる。子どもは帰宅するまでにかなりの少人数になるので、不審者や事故対策として、バスによる下校だとありがたい ・スクールバスを導入してほしい ・給食について。アレルギーへの対応をもっと柔軟にしてほしいです ・学校給食 ・制服自由化 ・学校の先生の判断で宿泊研修が中止になるところもあれば、実行できたところもある。同じ町内であれば統一してほしい。コロナ禍に特に感じた ・小学校、中学校の施設設備 ・公共施設(学校、こども園)を整備してほしい。どこも老朽化が激しい。トイレも洋式にしてほしい ・学校のトイレをすべて洋式にほしい ・小学校のトイレや時計を修繕してあげてほしい ・学校のネット環境の整備 ・学校行事への手伝い(資源回収、グラウンド整備、草刈り、クリーン活動など)
---	--

・学校敷地内に簡単に部外者が入ってしまうと思う ・クラスの子どもの数が少なくなっている。合併等今後どうするつもりか、養老町の考えを出してほしい ・学校の統廃合 ・小学校の統合を早急に進める。子どもの減少や複式学級になることでの子ども、学校へのデメリットは大変大きい。もしくは、中学校区単位での町内2つの義務教育学校にしてください ・少子化がますます進み、学校などでも各保護者への負担が増えている。もっと簡素化できないのか ・中学校の自転車通学をバスにしてもらいたいです。帰りが心配です ・中学校の行事等で使用する駐車場の確保（すべての人が駐車できるように） ・今後について、高校を近いところに行かせてほしい。親一人では非常に厳しい。仕事もあるので 【いじめ・子ども同士のトラブル】 ・学年が上がるたびに、いじわるなことやふざけた行動が、いつしか「いじめ」につながるのではないかと心配になる ・学校でいじめがあるか否か、学校がいじめを隠したりしないか、とても心配 ・子ども同士で比較しあって、相手をいじめる子がいる。嫉妬して相手を攻撃する子がいる ・いじめられている子の立場や親に対しての配慮が足りない。どこか他人事なので同じことが繰り返される ・表向きだけの対応はしないでほしい。いじめられた側のサポートが甘い。フォローしてくれているのか目に見えない ・LINE等によるいじめに対して、不安はある ・SNSでの仲間外れ等の対策 ・被害者だけでなく、加害者のフォローもできるシステム ・いじめ加害者に対して、海外のように出席停止や別教室利用等、具体的対応を示してほしい ・子ども同士のトラブル対策 ・トラブルが起こった時、本人同士での解決はもちろんだが、先生のサポートも必要 ・先生が見ていない時などにいじわるな行動や言葉があるように思います。その時の対策や先生と親の連携はどうすればよいか ・いじめに対して、子どもたちに教育してほしい ・学校での子どもに向けてのいじめ防止の講演 ・低学年のうちに、いじめにつながるようないじめの芽は徹底的に摘んでほしい ・定期的にいじめに対してのアンケートやヒヤリングを積極的にしてほしい。日頃からいじめを起こさない環境や状況をつくってほしい 【不登校児童生徒】 ・不登校児童の居場所づくり。校内、校外。不登校きみ児童、生徒への給食費の補助（例えば、月の3/4日以上給食を食べてない時に、町が補助して保護者の負担軽減など）。学校にも納め、自宅でも昼食用意だけでもストレス増加です	・不登校の対策の情報がいまいち家庭にこない。担任の先生だけでは解決しきれない ・不登校の子どもたちが利用できるフリースクールがあるといいなと思う 【留守家庭児童教室】 ・児童保育の職員の給料を上げ、質のよい教育をしてほしい ・児童の質の向上。場所があるだけでもありがたいはありますが、せっかくならもっとためになる遊びや学習を取り入れてほしい。DVDも学びになるものを見せてほしい ・「児童が嫌」という声を時々聞きます。それで家に一人で留守番というのは、やはり親としては苦しいので、とにかく「楽しく安全に」という時間にしていただけるよう、人員や人選に取り組んでほしいです ・留守家庭児童教室の利用額を世帯収入で決めないで。一律の利用額にしてください 【放課後や休日の過ごし方】 ・子どもが人と関わる機会がもっとあるとよい。学校や少年団、塾以外で。色々学習できる場所（遊び含め）があるとよい ・子どもが主体的、自主的に考え活動できる場所の提供 ・平日昼だけではなく、子どもも親もいられる場所。見守りながら、親同士が交流できる場所 ・各地区に誰もが子どもの年齢関係なく出入りできる遊べる場所をつくってほしい ・一人っ子なので自宅にいと、相手が大人だけになってしまう。大きくなってくると、親だけと遊ぶのでは物足りなく面白くない様子がある、小さな子だけでなく色々な年代の子が遊んだり、学べたりするところがあると嬉しい、有料でも内容によっては参加したい ・異年齢との交流 ・友人と放課後遊べる場の提供 ・帰った後、友だちみんなで宿題をできる場所があるとよいと思う ・地域に放課後や休日に集まって遊べる場所をつくってほしい ・放課後学校に残って地域の人に遊んでもらったり、休日に公民館に集まって遊んでもらう等できるとよいと思います ・休日に町内で楽しく過ごせるようにしたい ・子ども達がもっと交流できる場が月1回でも土曜日にあるとよいと思います ・放課後や休日に小学校の校庭で遊べるようにしてほしい。町内に遊べる広い場所がない。または町民プールの跡地を開放してほしい ・子どもたちが学校で放課後遊んだりできるとよい ・17時までは、学校のグラウンドを使用できるようにする ・教育、スポーツ活動が低価格で利用できる行政サービスがあったらよかった ・習い事の増加
--	--

・子どもが多い世帯への習い事のサポート ・放課後子ども教室がほしいです ・放課後子ども教室があれば利用したい。留守家庭児童教室は利用料が高い 【その他の子育て支援サービス】 ・夜勤もある仕事をしているので、24 時間対応の預け先の選択肢があるとよいと思う ・親が休憩できる時間がほしい。祖父母に預けて出かけることもほほないため、学校が休みの時は常に子どもと一緒に、平日はほほ仕事 ・子どもが大きくなったので今は思わないが、病児保育がほしかった。岐阜市とも連携してほしかった。職場がそっちだったので職場近くのところに預けたかったが、養老町は連携していないからと断られたことがあった ・病児保育施設（今はもう必要ないが） ・大垣市の子育てサロンのように、誰でも自由に入れる場所をつくってほしいし、福祉センターや児童センターのイベントを増やすとよいと思う ・もっと気軽に遊べる場所（公園等）があればよい。養老公園は広すぎて、ハードルが高い（子どもが小さいうちは）。子育て支援センターの存在をもっと大きく広めてみては。うちの地域だと下笠保育園内にあるが、娘が生まれた直後は存在も知らなかった ・こども食堂 【障がいのある子ども等への支援】 ・発達障がい（グレーゾーン）の子どもに対する理解や対応を改めてほしい ・オンラインの充実。発達障がいの特性を活かした居場所 ・発達支援に困っているの、専門のところがほしい時がある ・子どもの放課後等デイサービスが養老町には一つもない ・児童発達支援について、未就学児はそよかぜ教室に通えるが、小学校からは放課後等デイサービスが大垣市、海津、垂井等にしかないため、送迎時間もかかる。養老町にはできないのでしょうか ・発達障がい、またはグレーゾーンの子ども・家庭に対しての放課後等デイサービス ・発達ゆっくりさんママは少数派で、なかなか情報交換や悩みを話せず、孤独を感じやすい。子どもたちの交流会があるのはよいこと。できたら親子遠足みたいに、親同士も交流できるとありがたい ・療育支援の充実。こども園で月 1～2 回でもよいので、個別 or 小集団での指導が受けられたり、発達支援担当の配備があるとうれしいです 【経済的支援】 ・給食費の無償化（9 件）	・インフルエンザ等の任意ワクチン無償化（7 件） ・子ども手当を増やしてほしい（5 件） ・子育て支援金の充実（3 件） ・入学準備金が増やしてほしい（3 件） ・一時的な支援ではなく、継続した支援（2 件） ・物価高騰のため、支援を増やしてほしい（2 件） ・私立高校、大学などの学費が高い（2 件） ・特に中学校についてだが、入園、入学時に支援してほしい（2 件） ・学校で必要な体操服などの補助（2 件） ・医療費助成の充実（2 件） ・高校までの医療費無償化（2 件） ・児童扶養手当の所得制限を上げてほしい（2 件） ・子どもにかかるお金の負担が大きい ・コロナの影響で、主人が働いていた会社が不景気になった。そのため、大幅に収入が減った。生活ができないので、母親の私が最近正社員になった。生活が苦しくても、大人だけなら色々な我慢もできるが、子どもは着る服、靴等がどんどんサイズアウトし、購入しないといけない。しかし生活が苦しいため、買ってあげることができない ・支援が少しでもあれば、遊びにも連れて行ける ・子育て支援として子どもに対する支援金などを出してくれると、もう少し子どもに色々使えるのに ・やはり今はなんといってもお金。継続的かつ充実感のある財政的な支援が必要 ・やはり他の県の財政支援と比べてしまうと、養老町の支援はレベルが低すぎる ・給食費無償化、通学補助など近隣の市町村と同レベル以上の子育て支援策はしてほしいです ・物価高。収入は増えず、支出が増える現状 ・物価高騰で経済的に苦しい。定期的に給付金、またはオムツやミルクなどの支援があると嬉しい ・子どもが 4 人いるので、食費がすごくかかる。多子とかの支援をしてほしい ・子どもが多いのにいろいろな出費（公共料金、食品の値上がりなど）で、子どもに十分に物が買えないし習い事もやりたいのにやらせてあげられない。もっと支援してほしい ・子どもが多い家庭に対しての金銭的支援。子どもを育てるのにお金がかかってしかたがない。住民税もすごく高い。税金ばかり払っている ・子どもの人数が多いため、物価高等で衣類にかかる費用や食費がかさみ大変。保育の 3 人目無償化があるものの、3 人同時に在籍していないと適用されないので無意味 ・ひとり親への支援を拡充してほしい。何とか自分で収入を得ようと思うが、頑張っても働くほどすべて対象外になってしまう。こんなに何の助成も受けられないとは思わなかった ・医療が必要な子もいればあまり必要でない子もいる。イベント好きの子もいればあまり好きでない子もいる。財政的支援をみんなに平等に
---	---

・高校の無償化、所得制限なし。子ども3人目からではなく、一人ひとり平等にしてほしい。給付も非課税ばかりじゃなく、平等に。所得があっても、引かれる税金等を考えたら、年収 500～600 万円あったとしても余裕を感じないと思う。全ての物価も上がっているの、本当に考えてほしい ・児童手当を 18 歳まで拡大してほしい ・高校などで授業料が無償化といっても、人数（4 人）がいるのでまとまるとそれなりに家計が苦しい。食品の値上がりや電気代の高騰もあるので、子育て世帯に何かしらの支援がほしい（児童手当を 18 歳まで支給など） ・毎月子ども 1 人当たり 5,000 円でいいので、支援金がほしい（体操服は学校指定で高いです） ・財政的支援をもっとしてほしい。1 人 15,000 円なんてすぐになくなってしまう ・子どもの学費や医療費無償を継続してほしい。今後子どもに不足なく学んだらさせたい ・教育費の無償化 ・教育にかかる費用の負担の軽減 ・東京都は高校の学費が無償になります。町独自で高校、大学等財政的支援があればよいと思う ・大学の奨学金を返済免除にする、独自の支援等があるとよいと思います ・高校学費無償化 ・大学の無料化 ・高校、大学にかかる大金の補助 ・子どもが大きくなればなるほどお金がかかる。学校内でお弁当を食べるのであればお弁当を作る意味がわからない ・中学で自転車通学になるのですが、購入用品を一部負担してもらえたりすると嬉しいです。制服など含め、入学時の負担が大きいと思います ・中学入学時の制服等購入にとってもお金がかかった ・制服を買うと、とても高いので補助してもらえるとありがたいです ・入学準備に対する支援、ひとり親家庭なので入学準備に対する費用がかかり負担です。卒業する人などから不要になった制服や体操服のカバンを回収して回してほしい。子どもが現在小5なので、中学入学までに取り組んでもらえると助かる ・学校指定用品（ジャージ、制服など）の無料支給 ・ランドセル購入サポート、留学サポート ・高校になると電車を利用する場合、定期代がかかるため、少しでも安く購入できるといい。遠くなるため。近くでも自転車で 40 分かかる ・通学定期券の助成（揖斐川町、池田町、神戸町のような） ・習い事支援、子ども 1 人につき月 10,000 円ほど、ほぼこの金額はかかります ・習い事に関する補助があると助かります ・旅行に行ったりする時に支援金がほしい。卒業旅行等。小 6、中 3、高 3 の子がいる世帯等	・医療費の助成は成人になるまで希望。子育てしながら働くため、子育て世代に支援があるとよい ・医療費無料は高校生までではなく、学生のうちは対象にしてほしい。他の県や市などのように補助金や助成金があるとうれしいし、助かる ・医療費負担の助成を高校生まで上げてもらえたのはとても助かるので、このまま継続するとよい ・子どもの歯の矯正の補助金を出してほしい。中学校の制服代を補助してほしい ・インフルエンザの予防接種も高齢者同様 1,700 円にしてほしい ・任意で打つワクチンの補助 1,000 円は少ない。半額くらいにしてほしい ・財政支援はありがたいが、入金日を具体的にしてほしい ・税金ばかりで、生活にお金が回らない ・税金の軽減 ・給付ではなく減税などで、収入に関係なく子育て世帯への負担を減らしてほしい 【病院・医療】 ・就労時間が遅いため、夜間（18 時以降）みてもらえる病院があるとよいと思います ・夜間の病院 ・土、日、祝や時間外に安心してかかる医療機関を確保してほしい ・休日診療を整えてほしい ・病院が少ない ・西美濃厚生病院の医療機能の縮小で不安を感じる ・西美濃厚生病院がなくなったので不安です。小児科はずっと残りつづけてほしいです ・小児科が少ないので、（内科はもちろん、歯科、耳鼻科など）大垣市の方まで行かなくてはならない ・小児科を増やしてほしい ・耳鼻科があるとよい ・ワクチン接種を日曜日にできる場がほしいです 【地域の支援】 ・子どもが安心して遊べない。登下校の見守り ・学校の登下校の見守りサポーター。シルバーのみなさんががんばってくださっていますが、いざという時のために若い方も ・防犯対策について、ボランティアだけでは少ないと思う 【地域活動】 ・PTA、地域の役割など負担が大きい ・子ども会問題。子育て支援 ・地域の子どもが減っているので、子ども会活動について、考えを見直してほしい。役員など親負担が多い（親の公民館活動等） ・子ども会の廃止。PTA 役員の行事削減（会長、子ども会会長の出席するものが多すぎる）
---	---

・子ども会の廃止。お金もかかるし、時間も必要になるので子ども会をなくしてほしいです。もっと家族との時間を大切にしたい ・子ども会の廃止。町民運動会の廃止。婦人消防の廃止 ・地域での話し合いをもってほしいです 【イベント】 ・親子で気軽に楽しめるイベントがあれば、遠くまで行かず楽しめてよいと思う ・子どもが参加して楽しいと思えるイベントを、町内でより多く企画してもらいたい ・無料イベントがあれば子ども同士でも参加できる ・町内外の人が参加できるアトラクション的なイベント ・みんなで楽しめるイベント ・イベントをもっと増やしてほしい。田舎なのでもっと楽しめるイベントがあるとより楽しそう ・催し物を増やしてほしい ・体験できるイベントがあるとよい(工芸、手芸など) ・PTA、子ども会を必要としない子どもイベント、外部委託可。全国規模のイベント(スポーツ、文化)の開催を町で行い、子どもが参加できるようにしてほしい。宿泊体験等のイベント ・芸術鑑賞、音楽やアートに触れるようなイベント等を。数年前の Made in YORO はとてもよいイベントだったと思います ・子ども向けイベント。スポーツ、プログラミング、物づくり体験、マルシェなど ・「養老フェスタ」がコロナ禍でなくなってしまった。毎年楽しみにしていたのに。肉まつりフェスは他県の人が喜ぶだけ。養老町民は養老フェスタのほうがいい。他の市町村でやっている朝市(個人主が野菜等を売るイベント)をやってほしい。海津市でいう軽トラ市みたいなもの。大垣市でいう月一の駅前イベント ・地域のお祭りや行事など、コロナも大分落ち着いた今、復活してほしい ・昔から毎年同じ行事の繰り返しで発展がない ・逆にイベントをなくしてほしい(親の負担を減らしてほしい) ・イベントをするためにまた役員として参加しないといけなくなるので、余計なことはしないでください。お願いします ・イベントを減らしてほしい。増やさないでほしい 【まちづくり】 ・街灯を増やしてほしい(6件) ・暗くなるのが早いので街灯をつけてほしい ・花火等をする場所がない。街灯が少なく、冬場は特に危ない ・交通安全、細い道路が多い ・田んぼの横の水路にフタをしてほしい	・通学路の安全確保(雑草対策や川沿いにフェンスをつける等) ・通学路の安全管理。現在、交通量の多い道路を渡っている、横断歩道を付けてほしいが、役場からダメと言われた。横断歩道以外の何かをしてほしい。区長が看板を付けてくれたが、小さくて見えない。県道 213 号線のパン屋さんの前 ・交通標識が足りていない。大通りを通らなければいけないので押しボタン式の信号機があるとよい ・通学路看板がめくれてなくなっているのを何度も伝えていますが直してくれない。通学路の表示にお金を使ってほしい ・図音館の本。子ども向けの文庫等、新しいものを充実させてほしい ・公立図書館と学校図書館の連携(学校図書館の地域開放など) ・町民プールのあった施設に、1階に服屋、2階に子どもの遊び場と図書館ができると嬉しいです ・プールなどの公共施設 ・町のプールの再開、整備 ・体力維持ができるような施設がほしいです 【公園・遊び場】 ・近所にみんなが集まって遊べる公園や広場が少ない、ほしい(30件) ・地区ごとに公園や広場の整備(5件) ・近くに安全に遊べる場所があるとよい(4件) ・歩きや自転車で行ける公園がほしい(4件) ・子どもが自由に遊べる場所がほしい(4件) ・公園の遊具の充実(2件) ・公園が少なすぎる。以前から意見が届いているのにまったく進展がない。今ある公園の修繕、点検は当たり前。もっと数を増やしてほしい(遊べる場所)。遊具の数じゃなくて ・外で子どもたちが遊べる場所がないと思います。公園等が減ったのではないですか ・子どもが自由に遊べる場所が少ない(都会の方が整備されている) ・公園をつくる(遊具は少なくてもよいので) ・公園を増やす(ブランコ、滑り台) ・公園が少ない。自転車等練習できる広い場所や、ボール、バドミントン等遊べるところがほしい ・公園が少ないので増やしてもらえると嬉しいです。近所の広場はゲートボール場としても使用されており、ボール遊び等はできません ・子どもが優先で遊べる公園や広場 ・自由に子どもが遊べる公園が近くにないので困る。子どもだけで遊びに行かせることがなかなかできない世の中になってきていることが心配 ・公園が近くにないので、家の前の道路で遊ぶしかない。もっと思い切りボールを投げたりしたいと言うが、平日は仕事があり、家事もあるので、自転車で行けるところに遊び場があると嬉しい
--	--

・近所に公園がないため、子どもたちが思いきり遊べません。一人で行動できるまでは他の公園に行けないので、近くにあったらいいなと思います ・子どもだけで行けるような公園があるとよい ・公園管理に関する費用の助成を実施しているとあるが、実際に子どもだけで遊びに行かせられるような場所に公園はありません（通りから少し入ったところに古い公園があるなど） ・子ども達がのびのびと身体を使って遊べる場所が近くに（学区内）あるとよいのになあとと思います ・過去にもこのようなアンケートで記載しましたが、高田地区に公園（子どもが遊べる）をつくってほしい。放課後遊べる場所がない ・子どもたちが安全に楽しく遊べるような公園を池辺地区にもつくってほしい ・多芸東部に公園をつくってほしいです。例えば、旧多芸小の跡地など ・鳥江地区に住んでいるが、子どもが外で思い切り遊べるような場所や公園がない ・公園が少ない。養老公園のアップダウンが激しい ・養老公園はキャンプ場等ができてトイレもキレイになり、明るくてとてもよい。ありがたい ・近くに遊べる公園がない。あっても遊具が少ないため長居できない ・根古地公園の壊れた遊具が何年も放置されている。危ないため、誰も遊びに行っていない ・せっかく公園らしき場所があるのに整備されておらず、遊べる場所になっていない ・子ども達の遊び場が少なく、子ども達も遊びに来ない。遊具があれば、親子のコミュニケーションも取れると思う ・公園など近くにない。子どもが外で遊んでいると近所の老人に「うるさい」と怒鳴られ、子どもが怖がっていた。1人だけでなく子どもに「外で遊ぶな」「うるさい」などと言ってくる老人が何人もいる。子どもの遊ぶ場所がなく困っている	・子どもが遊んでいると「うるさい」と苦情が入る。どこで遊べと言うのか。もう少し自由に遊べる場所を増やしてほしい ・子どもたちが遊んでも「うるさい」と苦情が入らない場所がもう少しほしい ・子どもの足で行ける範囲に遊べる場が何もない ・小学生が集まれるような遊び場がもっとあればと思います ・お金がかからない場所 ・子どもと遊べるところがほしい ・遊具はなくてもいいので、子ども達が体を動かして遊ぶことができる広い場所がほしいです。いつも道路で遊ぶことになり、危ないです ・小牧市みたいに子どもが遊べる場所をつくってほしい ・閉園した園を子どもの遊び場として再利用できたら嬉しいです ・雨の日でも集まって遊べるようにしてほしい。公民館は中で遊べない ・雨でも遊べるように、屋内のスペース ・雨降りの遊び場（町内で遊びたい） ・屋内で遊べる施設がほしい ・子どもの遊び場がない。「養老公園」と言われるが、親が連れていかないと行けない。学校や公民館を開放してくれたら、子ども達も交流ができると思います ・小学校、園などの開放。子どもへの支援を手厚く ・広場や公園の設備、休日に学校（グラウンド）開放、子ども達が集まれる場所をつくる ・ボール遊びができる運動公園がない。時間指定でもいいから、学校のグラウンドを開放してほしい ・小さい子どもがいると家にいてもママは孤独だし、子どもは疲れないから寝てくれないし、ストレスが半端なかったです。安心して遊べて、ママさん達も自然と交流ができるような遊び場があればよいと思います
---	---

第 3 部

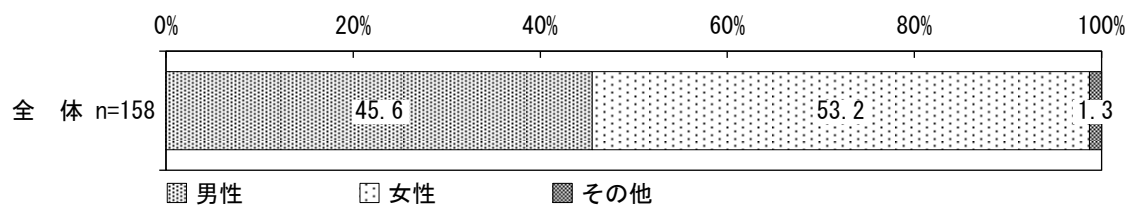
若者（17・18 歳）調査

第1 回答者と家族の状況

1 性別

回答者の性別は、「男性」が45.6%、「女性」が53.2%です。

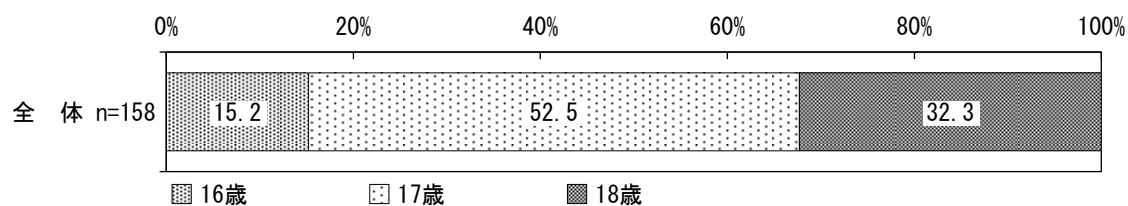
図表3-1 性別



2 年齢

回答者の年齢は、「17歳」が52.5%、「18歳」が32.3%、「16歳」が15.2%です。

図表3-2 年齢



3 結婚の有無

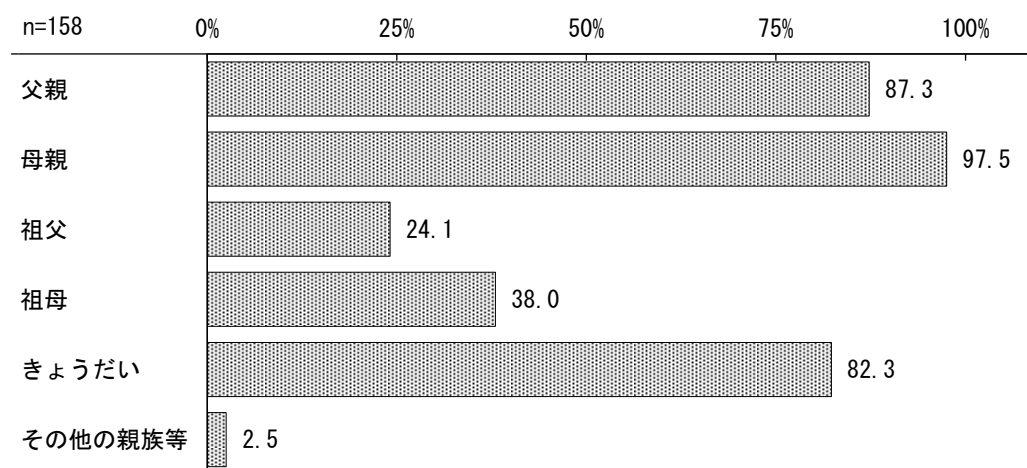
回答者の結婚の有無については、回答のあった158人全員が「結婚していない」を選択しています。

4 同居家族

同居家族は、「母親」（97.5%）、「父親」（87.3%）、「きょうだい」（82.3%）の3項目が80%を超えています。

「その他」として、「おば」（2件）、「姪」「甥」という記載がありました。

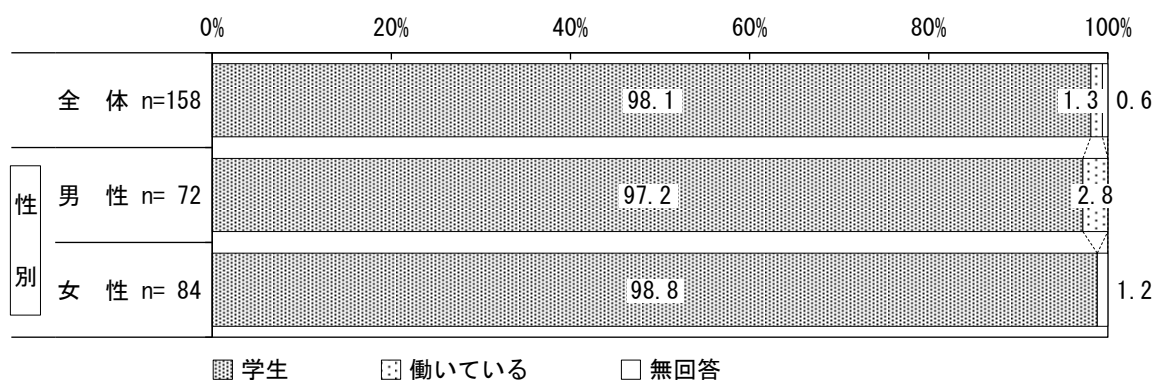
図表3-3 同居家族（複数回答）



5 就労・就学状況

就労・就学状況は、「学生」が98.1%を占めています。「働いている」は1.3%（2人）です。

図表3-4 就労・就学状況



第2 結婚や子どもをもつこと

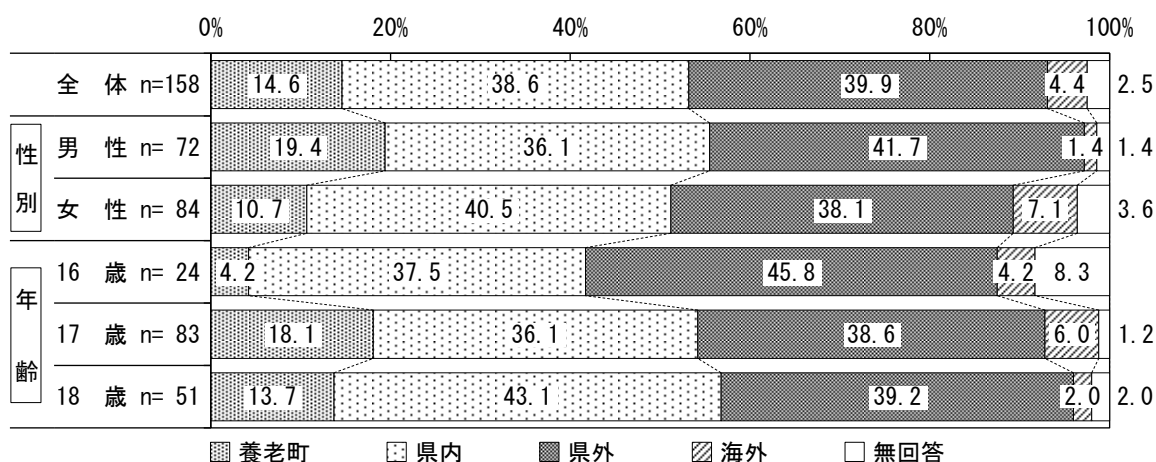
1 将来希望する居住地

将来どこで暮らしたいかたずねたところ、「県外」が39.9%と最も高く、次いで「県内」が38.6%となっており、「養老町」は14.6%です。

性別にみると、男性は女性と比べて「養老町」が高くなっています。

年齢別にみると、16歳は「養老町」が低く、「県外」が高くなっています。

図表3-5 将来希望する居住地



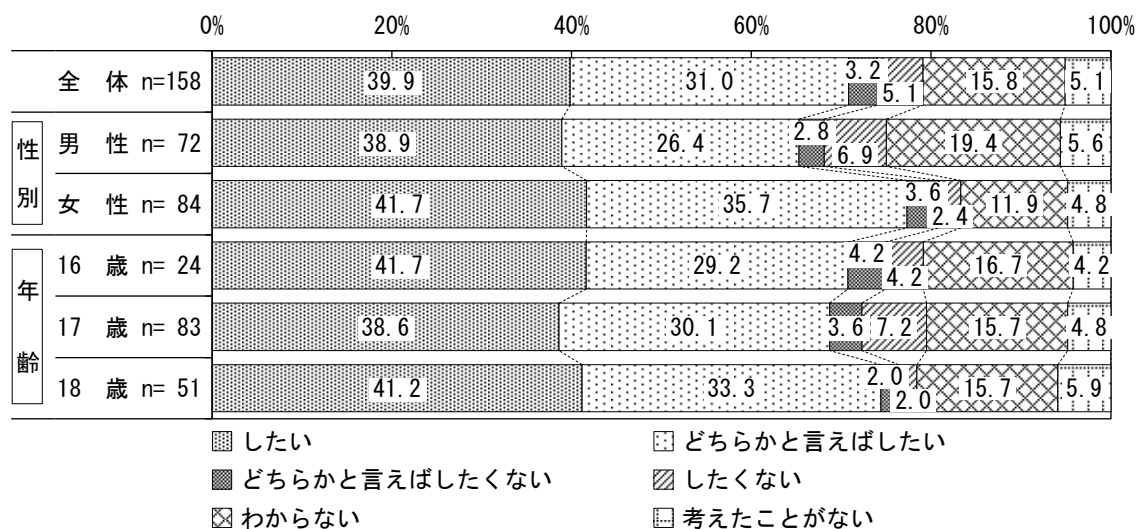
2 結婚願望

(1) 結婚願望

将来結婚したいかについては、「したい」(39.9%)と「どちらかと言えほしい」(31.0%)の合計<結婚したい>が70.9%を占めています。「どちらかと言えほしくない」(3.2%)と「したくない」(5.1%)の合計<結婚したくない>は8.3%(13人)です。

<結婚したい>は、性別では女性、年齢別では18歳が高くなっています。

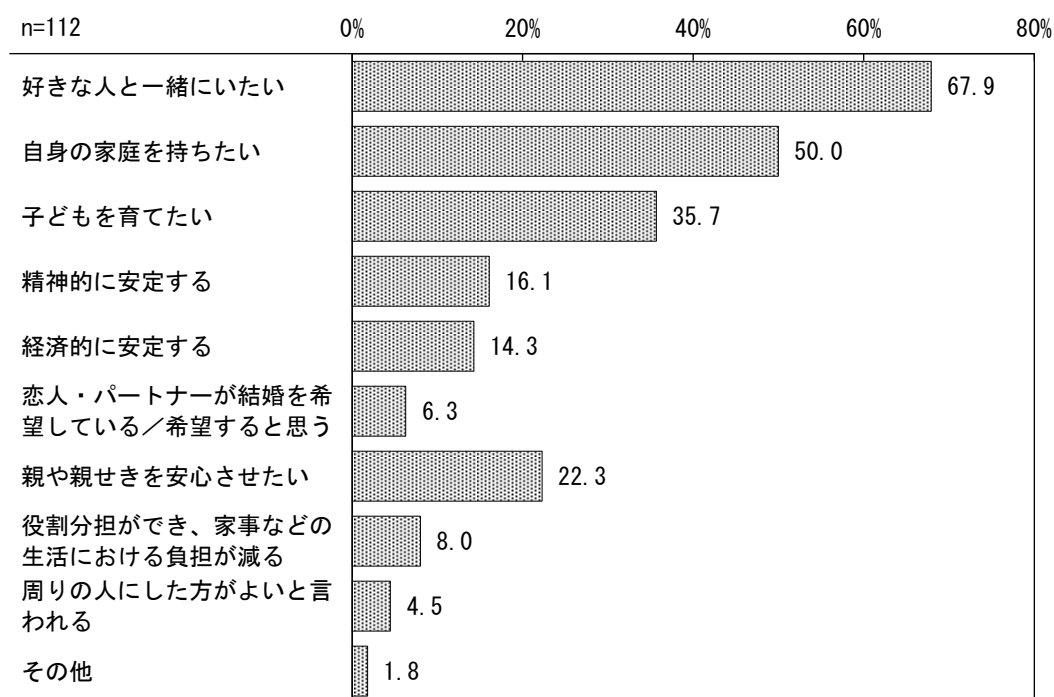
図表3-6 結婚願望



(2) 結婚する理由

図表 3－6 で＜結婚したい＞と答えた人の自分が将来結婚すると思う理由は、「好きな人と一緒にいたい」が67.9%と最も高く、次いで「自身の家庭を持ちたい」が50.0%、「子どもを育てたい」が35.7%などとなっています。

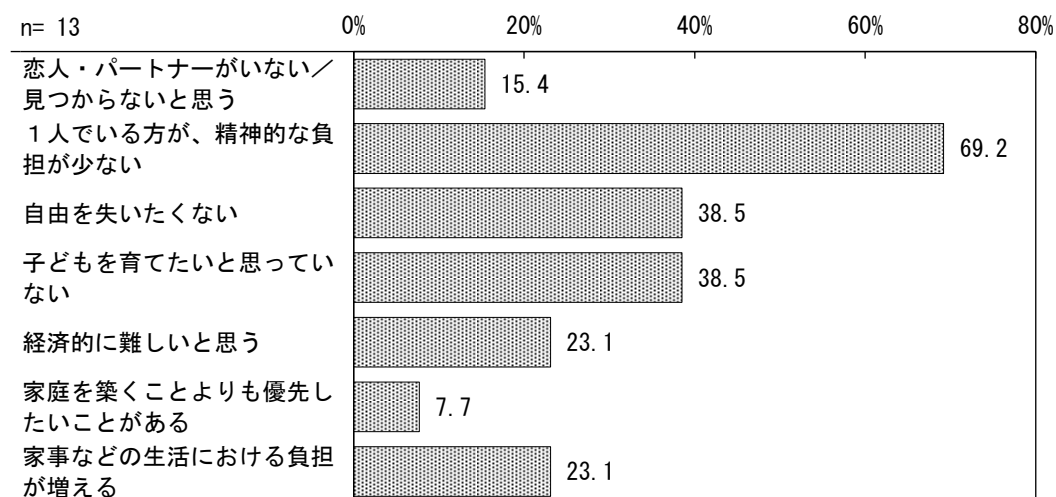
図表 3－7 結婚する理由（複数回答）



(3) 結婚しない理由

図表 3－6 で＜結婚したくない＞と答えた人の自分が将来結婚しないと思う理由は、「1人でいる方が、精神的な負担が少ない」が69.2%（9人）と突出して高く、次いで「自由を失いたくない」「子どもを育てたいと思っていない」が38.5%（5人）となっています。

図表 3－8 結婚しない理由（複数回答）



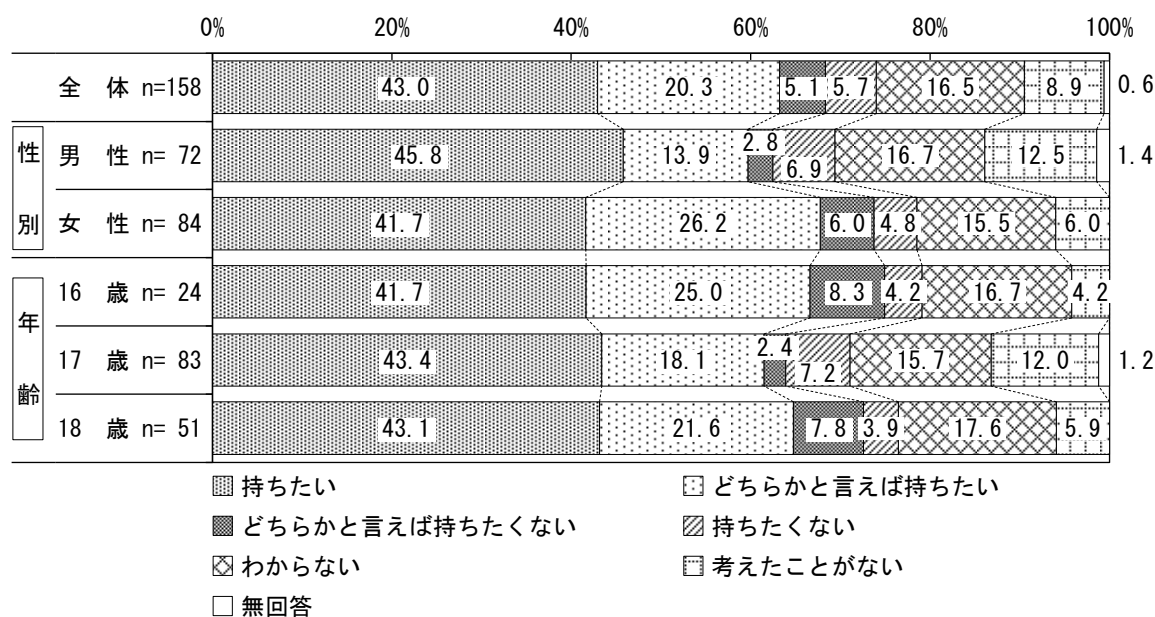
3 子どもを持ちたいか

(1) 子どもを持ちたいか

将来子どもを持ちたいと思うかについては、「持ちたい」が43.0%と最も高く、「どちらかと言えは持ちたい」(20.3%)との合計<持ちたい>が63.3%となっています。「どちらかと言えは持ちたくない」(5.1%)と「持ちたくない」(5.7%)の合計<持ちたくない>は10.8%です。

性別にみると、女性は男性と比べて<持ちたい>が高くなっています。

図表3-9 子どもを持ちたいか



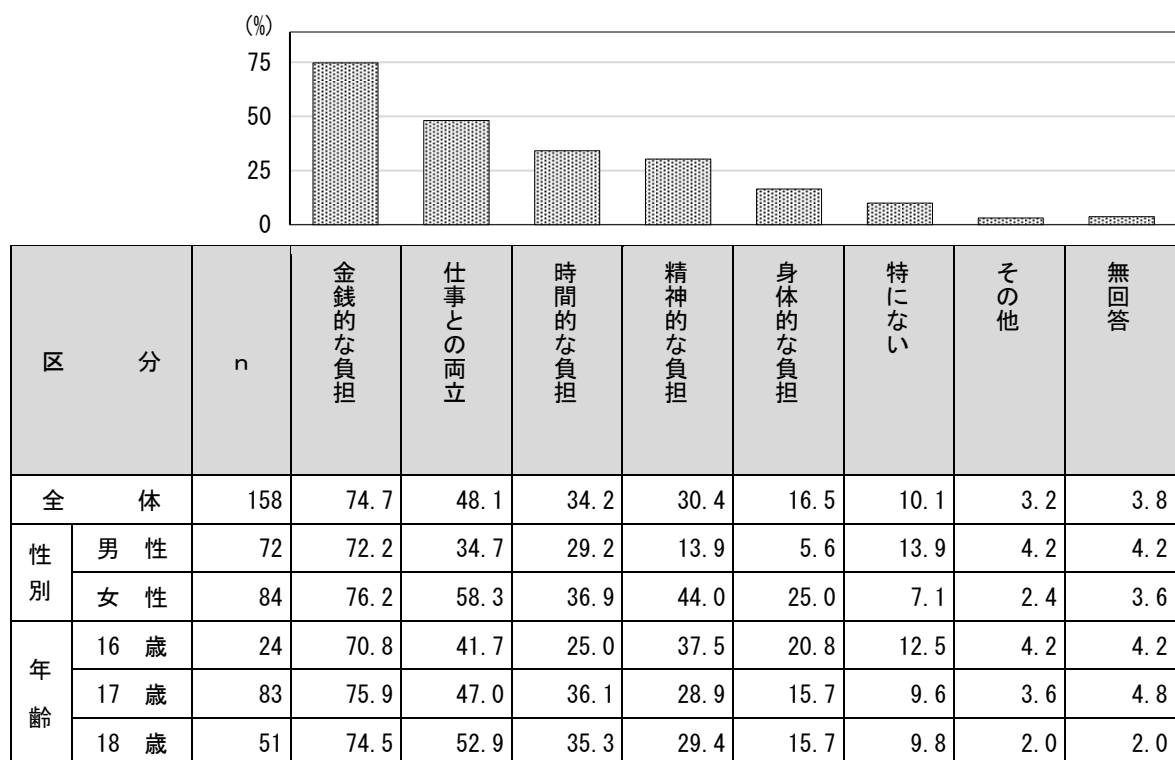
(2) 子どもを持つことの負担

将来、子どもを持つ（持ちたくない）と思う理由として、負担（障壁）となると思うものをたずねたところ、「金銭的な負担」が74.7%と突出して高く、次いで「仕事との両立」が48.1%、「時間的な負担」が34.2%などとなっています。

性別にみると、女性は男性と比べて具体的な項目すべてで高くなっており、特に「精神的な負担」および「仕事との両立」は20ポイント以上高くなっています。

図表3-10 子どもを持つことの負担（複数回答）

単位：nは人、他は%



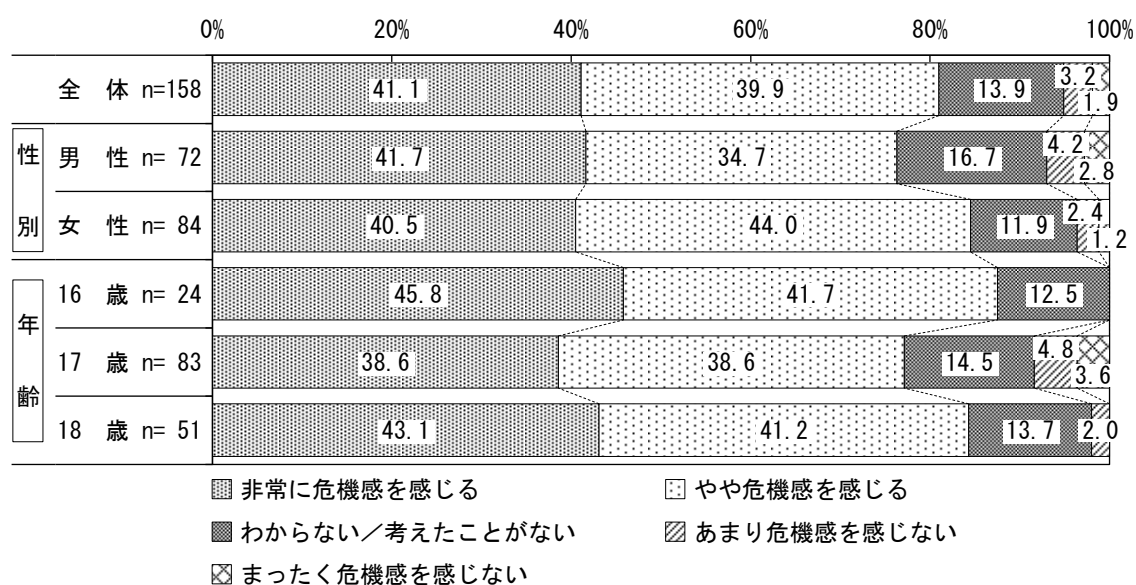
4 少子高齢化についての危機感

日本における出生数は2022年に77万人となり過去最少を記録する一方、65歳以上人口は2022年に29%であり、増加傾向にあります。

こうした状況を踏まえて、少子高齢化についてどう感じるかたずねたところ、「非常に危機感を感じる」(41.1%)と「やや危機感を感じる」(39.9%)の合計<危機感を感じる>が81.0%を占めています。

<危機感を感じる>は、性別では女性、年齢別では16歳が高くなっています。

図表 3-11 少子高齢化についての危機感



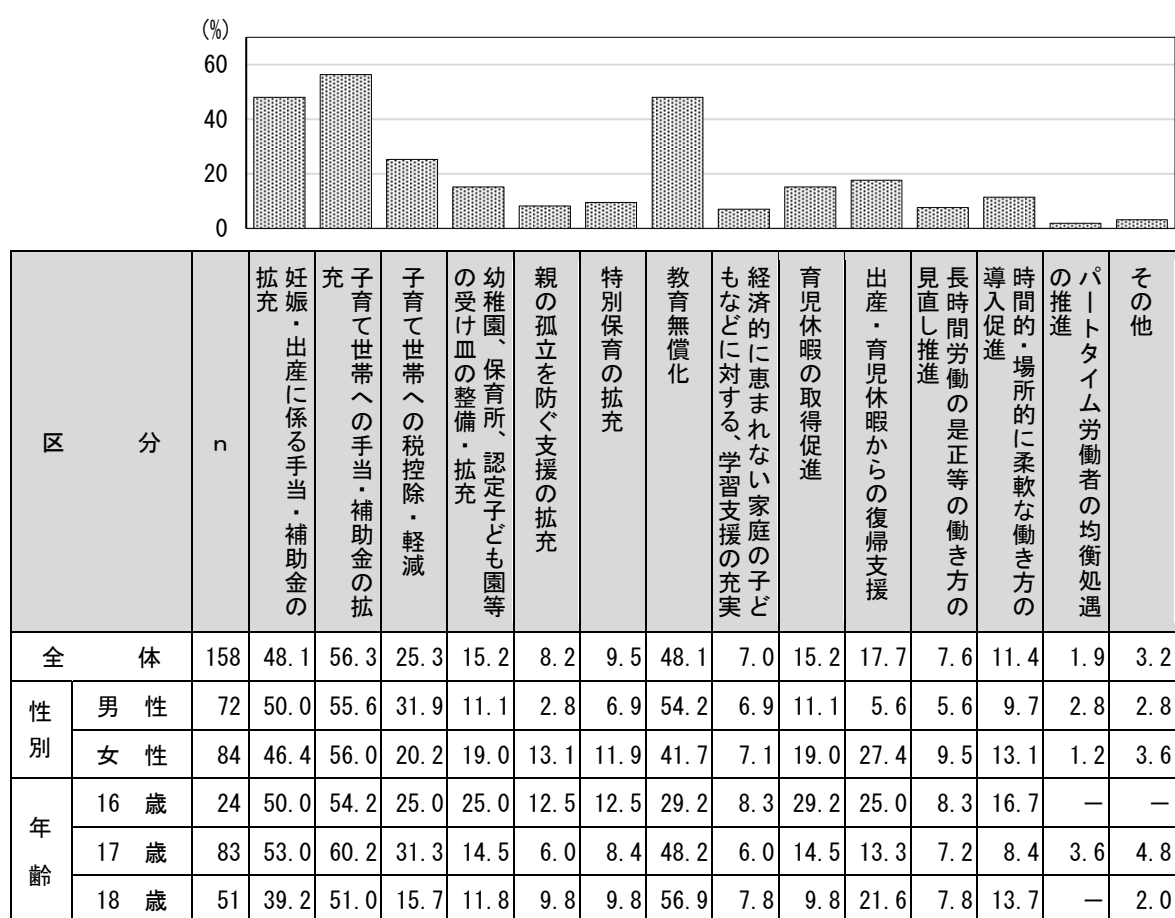
5 少子化への対応として実施してほしい政策

少子化への対応として、妊娠・出産・子育てをしやすい社会になるために国・県・町に実施してほしい政策については、「子育て世帯への手当・補助金の拡充」が56.3%と最も高く、次いで「妊娠・出産に係る手当・補助金の拡充」「教育無償化」がそれぞれ48.1%、「子育て世帯への税控除・軽減」が25.3%などとなっており、経済的な政策に関する項目が高くなっています。

性別にみると、女性は男性と比べて「育児休暇の取得促進」や「出産・育児休暇からの復帰支援」などといった、子育てと就労の両立支援に関する項目が高くなっています。

図表3-12 少子化への対応として実施してほしい政策（3つまで）

単位：nは人、他は%



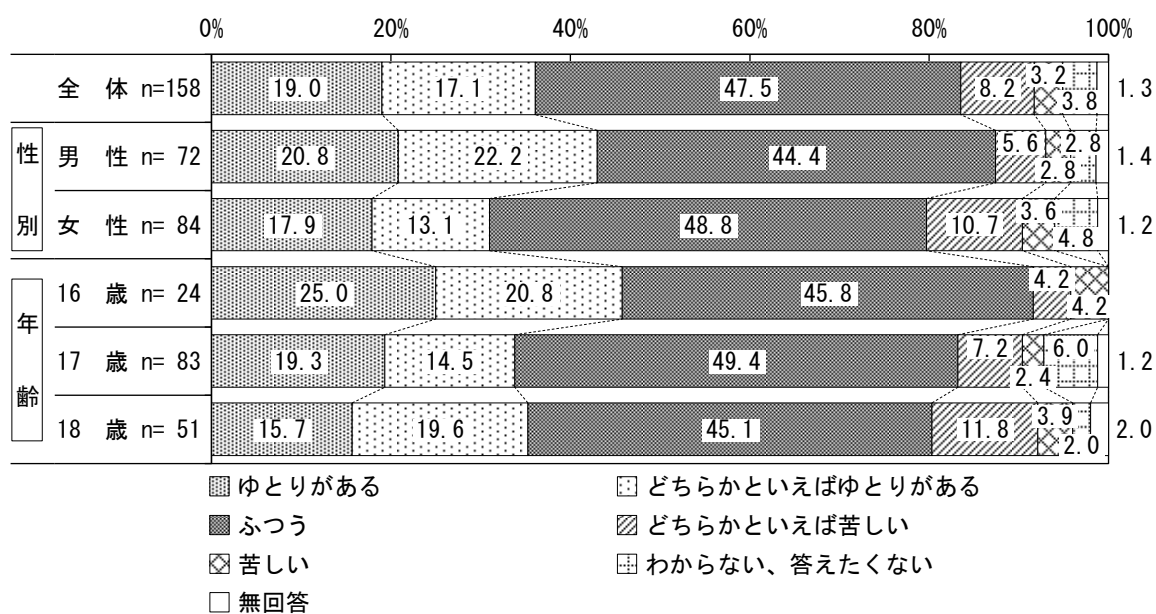
第3 困りごと

1 暮らし向き

回答者の暮らし向き（衣・食・住・遊びなどの物質的な生活レベル）については、「ゆとりがある」（19.0%）と「どちらかといえばゆとりがある」（17.1%）の合計＜ゆとりがある＞が36.1%、「どちらかといえば苦しい」（8.2%）と「苦しい」（3.2%）の合計＜苦しい＞が11.4%となっています。

性別の女性、年齢別の18歳は＜苦しい＞が15%程度と比較的高くなっています。

図表3-13 暮らし向き



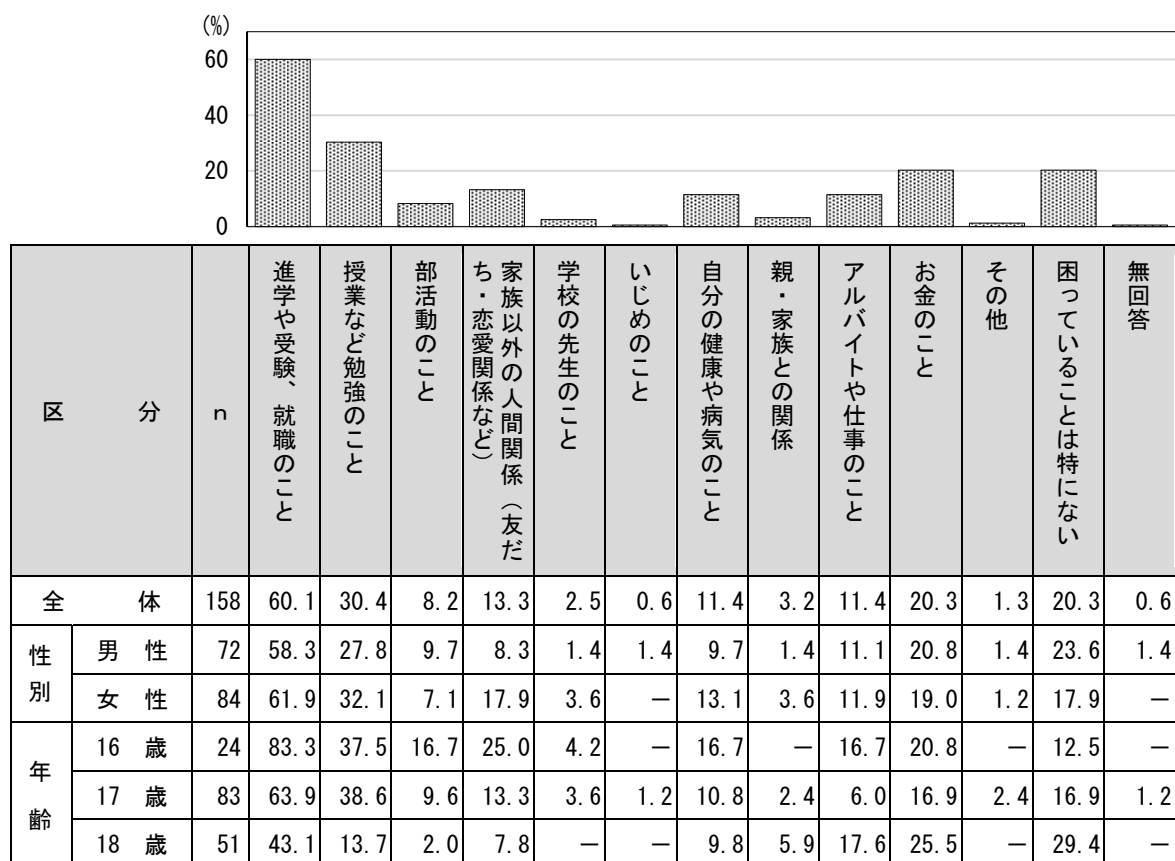
2 身近で困っていること

身近なことで困っていること、心配なことについてたずねたところ、「進学や受験、就職のこと」が60.1%と突出して高く、次いで「授業など勉強のこと」が30.4%、「お金のこと」および「困っていることは特にない」が20.3%などの順となっています。

年齢別にみると、18歳は「困っていることは特にない」が比較的高くなっています。

図表3-14 身近で困っていること（複数回答）

単位：nは人、他は%



（注）「虐待・暴力」「親やきょうだいの介護や世話、家事」という選択肢には該当がなかった。

3 相談相手

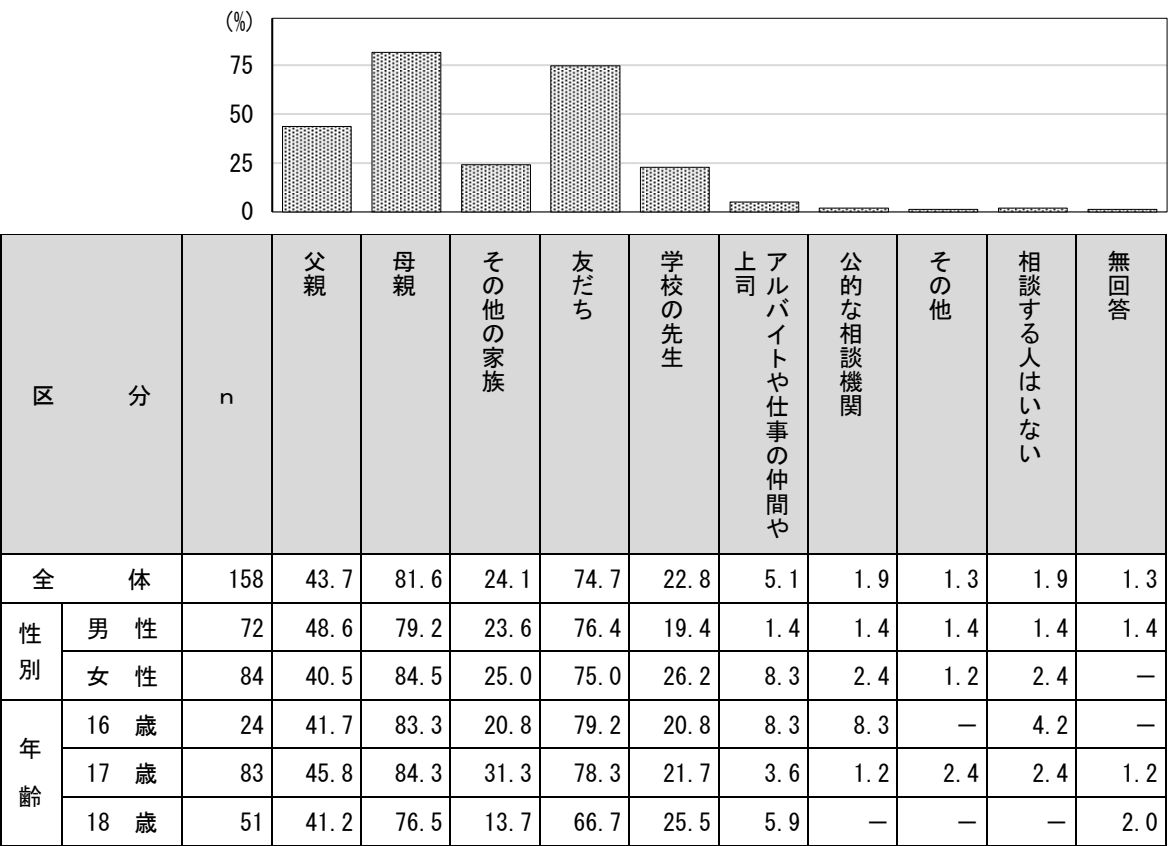
困っていることや心配なことがあるときの相談相手は、「母親」（81.6％）および「友だち」（74.7％）が突出して高くなっています。「相談する人はいない」は1.9％（3人）です。

性別により5ポイント以上の差があるのは、男性が高い「父親」と、女性が高い「母親」「学校の先生」「アルバイトや仕事の仲間や上司」です。

「その他」として、「インターネット」などの記載がありました。

図表3-15 相談相手（複数回答）

単位：nは人、他は％



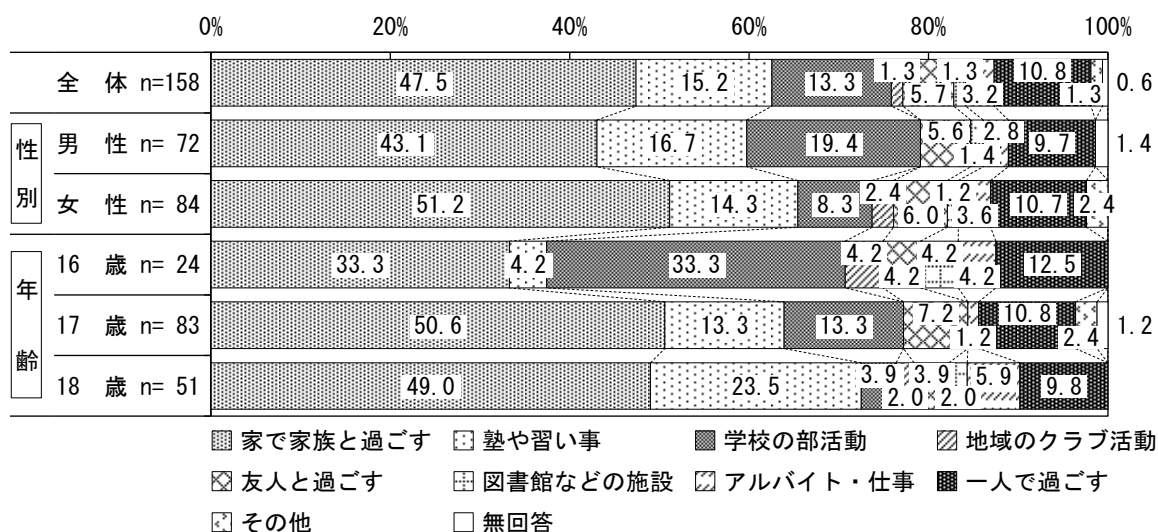
第4 日常の過ごし方

1 放課後の過ごし方

平日の夕方から夜（放課後）の過ごし方は、「家で家族と過ごす」が47.5%と最も高く、次いで「塾や習い事」（15.2%）、「学校の部活動」（13.3%）などとなっており、「一人で過ごす」は10.8%です。年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「一人で過ごす」が低下します。

「その他」として、「勉強」「寝る」という記載がありました。

図表3-16 放課後の過ごし方

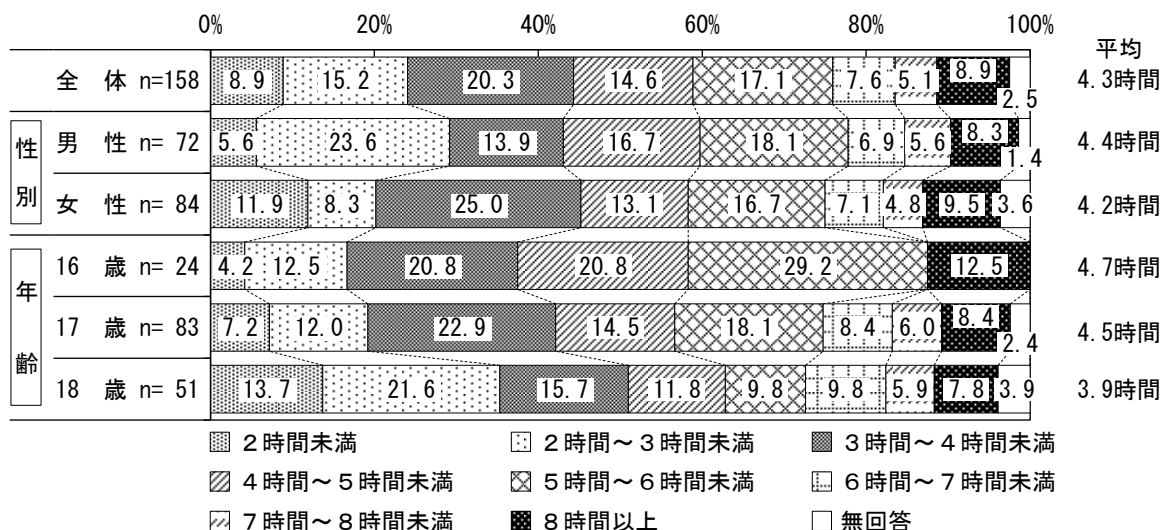


2 情報通信機器の利用時間

「スマートフォン、パソコン、タブレット端末などを合計して直近1週間で1日およそ何時間ぐらい利用しましたか(学校の授業や宿題、仕事に関する利用を除く)」という設問では、「3～4時間未満」が20.3%と最も高く、平均は4.3時間です。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど平均利用時間は短くなっています。

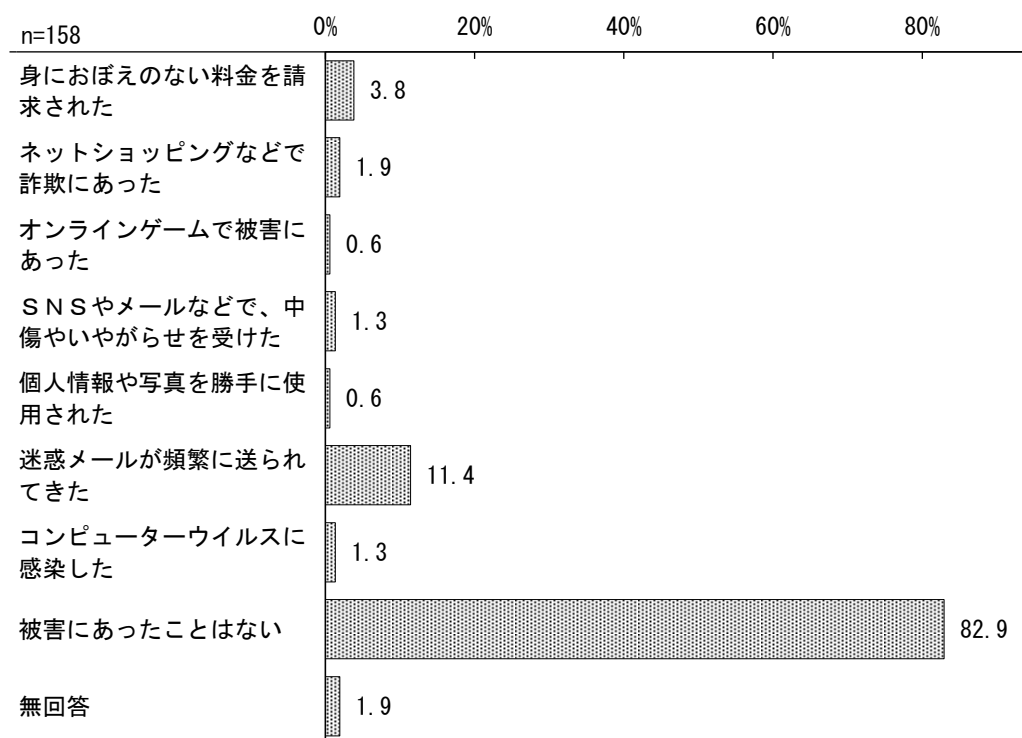
図表3-17 情報通信機器の利用時間



3 インターネットの利用によるトラブル

インターネットの利用によって、直近1年以内にトラブルにあったことがあるかたずねところ、82.9%が「被害にあったことはない」と回答しています。具体的なトラブルの中では、「迷惑メールが頻繁に送られてきた」が11.4%（18人）と最も高く、次いで「身におぼえのない料金を請求された」が3.8%（6人）などとなっています。

図表3-18 インターネットの利用によるトラブル（複数回答）



（注）「知らないうちに会員登録や契約をしてしまった」「現実の犯罪やトラブルに巻き込まれた」「その他」という選択肢には該当がなかった。

第 4 部

意見・要望

第1 就学前児童保護者調査

1 子育て全般

- 養老町で子育てしていてよかったと思えるような場所、支援があると嬉しく思います。(広幡 0歳)
- ぜひ子どもがのびのびできる養老町にしていだきたいし、働く意欲のある母親が何にも制限されずに働けるようにしてほしい(池辺 5歳)
- 町民憲章を「子どもが豊かに暮らせる町にしましょう」にするくらいの支援と改革をしてもらえたらと思います。(養老 1歳)
- 町民憲章「おとしよりが豊かに暮らせる町にしましょう」と子どもを育てる世代に対して否定的な感じがしてさみしい。行事ごとにいうのがちょっといや。子育てを支援している感じがしない。(養北 3歳)
- 近くの市町村と比べても子育て、福祉について養老町は「いいな」と思えたことが今までない。可能であれば引っ越したい。(池辺 2歳)
- 大垣市が子育てしやすい市をうたっており、若い子育て世代は大垣市に流れてしまいます。養老町の人口減少を食い止めるためにも、子育てしやすい町にすることは最優先であると考えます。よろしくお願いします。(上多度 1歳)
- 三重県で始まる孫支援に関して興味があります。おじいちゃん、おばあちゃんに孫をみてもらう時でも金銭面やサービスなどの支援があると嬉しいと思います。(日吉 4歳)
- 隣が大垣市ということでなかなか養老町の魅力を引き出すのは難しいと思いますが、独自の支援や魅力的な施設をつくって若い方に養老町に住んでももらいたいです。子どもの数がどんどん減ってきているのを身近に感じます。(養老 5歳)
- 少子化のこの時代、養老町も子育てのしやすい町づくりをもう少し考えてもらえるといいかと思います。物価高等もあるのでいろいろ支援があると助かります。(池辺 3歳)
- 養老町は子どもの数がすごく少なくなっているし、子育てがしやすいと思えない。子育て世帯もとても少ないのに、高齢者のやりたいことに振り回されるのはもう嫌。(養老 4歳)
- 大人にとっても魅力的な町だと、若い人も残ってくれるのかなと思います。私は経済的な事情で養老町の実家暮らしですが、そうなる前は他の市町にいました。子どもが生まれてからは養老町いいなと思っています。ただ独身の間はあまりそれに気付けなかったのも、もっと外の人にも知ってもらえれば。たぶん今小さい子がいる家庭は町内にいる子どもの同級生の少なさに不安を感じている人が多いと思います。人口が増えればいいのにな。(日吉 2歳)

○この先、学校統合をしなくても済む程度に、子どもの数をキープできる対策を早急にしてほしい。(日吉 4歳)

○3人以上の多子世帯は年齢が離れて当然なので、国の数え方がどうと言わずに、せめて小学生ぐらいまで1人目と数えるべき。子ども手当の3人目の要件も見直しの流れが出ていると思うが、その間にも子どもは成長し負担がかかり続けるので、ぜひ議題にあげてほしい。子どもが少ない分、養老町なら3人目を産もうと思える支援をわかりやすく出していけば、人口減少にも影響が出ると思う。子育てをしながら働きたいと思っている人はたくさんいるので、職探しも含め相談できるところがあると嬉しい。(養老 1歳)

○ひとり親家庭ばかりに支援が充実していて、両親揃っていてもひとり親家庭のように大変な家庭はいっぱいあると思う。もっと幅広くどんな家庭にも目を向けてもらいたい。養老町独自の支援を増やしてもらい子育てしやすい町にしてもらいたい。生きやすい町にしてほしい。(養老 ー)

○病気になった時に、病児保育が養老町にあってほしい。地域の活動に参加することも大切だが、朝早くの資源ごみの当番や地区の集まり、夜の会合は核家族で共働き世帯にはかなりきつい。朝は子どもの準備し、夜は子どもを連れての会合は厳しい。同居ばかりではないということを地域で考えてほしい。リモートでできるならそちらに変えていく、なくすことはなくしていく。(笠郷 2歳)

○日吉小学校のプールのところにある時計ですが、私の知る限り2年以上は動いていません。機能していないのであれば撤去しては。また、放置している理由があるのですか。保育士は大勢いるが、加配の園児にしかつかないのは決まっているのか。もっと周りを見た方がいい。他のこの動きや様子、言葉を。もっと加配のない子どもの多い環境で育てたい。色々な子に関わらせたい。となると引っ越した方がいいのか。(日吉 4歳)

○習い事(プール)ができるところがなくなったのでまたやってほしい。大きい公園では人多すぎて小さい子がなかなか遊べない。病院が少ない。特に耳鼻科。バスなどが少ないし不便。(養老 0歳)

○手続きなどのオンライン化。検診、予防接種の土日実施希望。気軽に利用できるファミリー・サポート・センター。登録までの道のりが長すぎて断念したため。(笠郷 1歳)

○もっと経済的な支援を手厚くしてくれるか、子に対する毎月の物資支援など子を持つ親への支援拡大希望。公園、広場をつくってほしい。休日や夕方、小学校や園の開放をもっとしてほしい。(笠郷 4歳)

○経済的支援。給付金の増額や給食費無料化など。簡単なことではないと思うが、やはり経済的な負担が減ると、3人目も考えたいと思う。子育ての前に出産に対する支援も。子どもが集まるようなイベントの開催。町も盛り上がると思う。子育てしやすい町づくり。子どもが過ごしやすい町づくり。期待しています。よろしくお願いします。(池辺 3歳)

○ワクチン強制の雰囲気によってがんの人が増え、体調不良も増え、身内もがんになり、知人で亡くなる人がたくさん出てきました。子どもへの接種は本当に必要でしたか。何かあった時に進めた方は責任をとってくださるのですか。自分たちが育ってきた環境と変わりすぎて、こんな世の中にしてしまったことを子どもに申し訳ないと思う。消毒しすぎ。パーテーション、マスク強制などおかしくないか。酸欠、口呼吸、熱中症のリスクが高いにも関わらず、ずっと長い間行っていたことは間違いではないか。子ども達が大人よりも標的にされていませんか。子どもは宝。もっと自由にのびのび生活することが必要だと思います。町全体のイベントも大切です。ですがそこへの予算が必要以上に多いと思いませんか。周知で人を呼ぶこともとても大切ですが、まずは町民へお金をかける事が一番ではないのでしょうか。今の世の中は、このまちのこんなところがよいという口コミがSNSですぐ広がります。町民が暮らしやすいと思ったり、他とは違う魅力があればそれを求めてきてくれる人は必ずいます。子どもが増えるよう、子どもへの予算のかけ方をもっと考えていただきたいです。お年寄りの方が住みやすくすることも大事ですが、子どもは未来です。小さな時に育ったところが好きだと、必ずまた子育てしたいと思います。若い方の意見ももっともっと取り入れてほしいです。小、中、高、大学生の意見も大切です。また公共事業にもお金をかけてください。生きる上で絶対人間が必要なものは税を納めている人へ絶対保障されるべきです。ライフライン守ってくださいね。(日吉 5歳)

○土曜日の午後や日曜日祝日も受診できる小児科があるとよいです。アプリの活用。カレンダー機能や、病院との連携、子育て支援センター情報など。紙おむつの持ち帰りがなくなったことはとてもありがたいです。(笠郷 0歳)

2 保育園・幼稚園・こども園

○上の子がこども園に通っていますが、就労など、よほどのことがないと預けられない雰囲気があります。特に延長時や土曜保育など。もう少し融通が利くと嬉しいです。中には理解して優しく受け入れてくださる先生もいるので、とてもありがたいです。(養北 2歳)

○外遊びの充実。主体性、非認知能力が高められる遊びや関わりの教育。(広幡 3歳)

-
- 田舎では広い土地がいっぱいあるので、もっと園の遊具の充実や、敷地面積も広くして子どもにのびのび遊んで走り回れるような場所を提供してほしい。(上多度 0歳)
- 子どものクラスにいる加害児や発達グレーの子への対策をもっとしてほしい。取り返しのつかない事件が起こる前に早めに取り組んでほしいと強く思います。実際すでにぎりぎりの事件は起きています。(池辺 5歳)
- 保育園に通っていて、年長になったら小学校に通う地区の保育園に入園しなくてはならない制度を見直してほしい。子どもが行きたい園を自由に決められるようになるよう改善してほしい。養老町くらいで、他の地域は自由に通うことができている。古い制度を見直して、子どもを育てやすくなるよう、どの園にでも入れるよう考えてほしい。(日吉 0歳)
- 子が電車好きなのもあるが、親と一緒に電車に乗るきっかけが作れるマイレールチケットは嬉しいです。下の子が1歳半まで育休をとった時、3月生まれのためか上の子が保育園を途中退園し、下の子が1歳から1歳半までの半年、安定して保育園に通えなかった。就労など預ける理由はあると思うが、慣れたところを退園させるのはつらく、働かないなら家で見れるでしょ、というマイナスな印象を受けた。育休を延長させたいか聞くなら、その際の保育はどうするのかなど聞いた方がよいと思った。(上多度 1歳)
- こども園の行事をなるべく固めないでほしい。行事の前日に早くお迎えもやめてほしい。でもこども園の様子は知りたい。勝手ですいません。(養老 5歳)
- こども園の役員に対する負担を減らす。人間関係が悪くならないように、保護者への仕事を減らす。なくしてもよいのではないかと思います。(日吉 4歳)
- 園の保護者会の負担を減らしてほしい。むしろ、保護者会は必要ですか。毎回押し付け合いです。(養北 3歳)
- 子どもが減っていてクラスの人数が少ない。人間関係をつくっていくためにも統廃合を進め、よりよい子育て環境をつくってほしい。(養北 5歳)

3 預かりサービス

- 一時的に気軽に預けられるところが近くにあってほしい。あっても料金がかかると控えてしまう。(広幡 2歳)
- 長期休暇中の預かり保育の料金がもう少し安くなったら嬉しい。(養老 4歳)

4 学校・教育

- とてものだかな雰囲気の中、子育てができていますと思いますが、その反面クラスの子どもが少なく、習い事も都市部に比べて限定的であり、教育面で後れをとることはないのか心配な面もあります。担任の目が行き届くことはとてもありがたいので、少人数のよさを活かし質の高い教育を望みます。(広幡 4歳)
- 池辺小学校のトイレを直してほしい。息子が学校のトイレを利用したくないと言う。(池辺 4歳)
- 池辺小への登校が遠すぎる。いらないところへの工事より、そういうところへの整備をして登校時間を減らしてあげてほしい。(池辺 5歳)
- 池辺小学校にスクールバスを導入してほしい。(池辺 2歳)
- 町内の祖父母宅からの通学を認めてほしい。学区が自宅と変わるが、共働きで朝晩おらず、祖父母が75歳以上で留守家庭児童教室への迎えが困難な場合など。近隣市町では認められているところの方が多いので。(笠郷 4歳)
- 子どもの数が減ってきているから、今後小学校が統合になったりするの不安です。(上多度 2歳)

5 留守家庭児童教室

- 仕事が8時からのため、留守家庭児童教室を7時半からにしてほしいです。特に長期休暇。土曜日、両親ともに仕事の時は園に預けられるが、片親だけが仕事の時は預かってもらえないため何とかしてほしい。(日吉 4歳)
- 小学校の学童を春休み、冬休みだけでも利用できるようにしてほしい。パートなどで働いている人にとって何か月も学童代を払うことは負担。必要な時だけ使える制度にしてほしい。(養老 4歳)

6 習い事

- 養老町にプールが習えるところを再度つくってほしい。(一 3歳)
- 町内のプールをまた利用できるようにしてほしいです。子どもにプールを習わせたい。(上多度 2歳)
- 子どもに習い事をさせたくても、養老町ではなかなか教室をやっていないくて困ります。(上多度 4歳)

7 障がいのある子ども等への支援

○滑り台とブランコだけある公園や神社は点在するが、遊具がたくさんある公園がまったくない。子どもに障がいがあるとわかった時、保健センターの方から小児慢性の申し込みの仕方のプリントをもらうくらいで、どんな手続きがあり、支援があつて、うちの子はどれが受けられるのか、誰に聞けばわかるのかまったくわからず手探りだった。そういったことがすべてわかる福祉コーディネーターみたいな人がいればいいのと思った。保健センターの人から町役場の福祉課、そこでわからないから病院で、など手続きや支援を知ることさえも一苦労だった。(養北 4歳)

8 経済的支援

○どんどん物価が高くなり、安いものを探すのが困難となっています。ネットでは安く買えるかと思いましたがタイミングが合わず。特にオムツの値上がりが著しく感じます。約1パック500円は値上がりしました。支給されてもそれにほぼ消えてしまう。(笠郷 0歳)

○物価高騰が続く、経済的に厳しくなりつつあるので、子育て世代への支援金などがもっとあるとよいと思う。(笠郷 1歳)

○低所得世帯、片親だけでなく、子育て世帯は全員金銭面で支援してほしい。(笠郷 0歳)

○経済支援に関しては、世帯主に支給されることが多く、自由度が低い。町内で子ども用品に使える金券みたいにするのは難しいのか。(養老 4歳)

○コロナ禍から今に至って、養老町は子育て世帯に対する金銭的支援が他のところと比べるとかなり少ないと思う。子育て世帯に15,000円支給されたが、なぜ高校生が対象外なのかわからない。子どもの年齢が大きくなるにつれて学費、食費など通学費が小さい子より金銭的に負担があるのに、今回対象外なのが不信感を強く抱きました。なぜ対象外なのか理由を提示してほしい。今後、養老町には期待感はない。(池辺 5歳)

○もう少し経済的支援をしてほしい。(日吉 5歳)

○保育園、学校で必要となる制服や体操服を一定数無料にする。または安くしてほしい。給食を中学校まで無料にしてほしい。(笠郷 2歳)

○園服、学生服などを町内で統一し、入園、入学時に一式寄贈してもらえるなど、現物支給での支援も検討していただきたい。(養老 2歳)

○医療費助成制度がとても助かっています。引っ越し前の地域は有料でした。インフルエンザワクチン助成もありがたいですが、所得制限なしの助成を希望します。(池辺 5歳)

○マイホームで子育て環境をよくしたいと思うが、補助金などがなく、他市と比べると悩むことが多い。(養老 2歳)

9 医 療

○町には専門の耳鼻科、皮膚科がない。視力検査は眼科医の先生にしてほしい。弱視の発券が遅れた。クラス担任の能力の差が大きい。子どもを思う気持ちや、やる気に大きな差がある。(笠郷 5歳)

○夜間に救急でみてもらえる病院がない。厚生病院に電話しても、毎回大垣市民病院に行ってくださいと言われる。養老町内で夜間休日にみてもらえる病院がないので困る。厚生病院の当直の先生は内科の先生で、子どもが高熱のためみてほしいと言ったが、小児科担当ではないのでと市民病院を進めてきた。何のための救急外来なのか意味がわからず、結局は厚生病院でみてもらえることがないのなら何のための病院か、と不信感しかない。本当に困った時、今の養老町の病院の体制は小さい子どもを持つ親は不安に思うと思う。安心して住めない。(養老 4歳)

10 地域活動・行事

○コロナ禍でさせてあげられなかったことが多すぎる。仕方ないが参加できる場がなかったのが現状。(池辺 4歳)

○子どもを連れて参加できるイベントを増やしてほしいです。「養老公園」で各務原市の「まーけっと日和」のような毎年楽しみにできるイベントを増やし、他の町からも人を集めて「人」と「お金」を動かしてみてもどうでしょうか。同じく「サクラビマルシェ」という各務原のマルシェも「養老公園」を活かせるヒントになるかと思います。(養老 5歳)

○以前住んでいたところで英語の読み聞かせや小さい子向けの英語サークルがあつてとてもよかったので、図書館や小さい子向けのイベントで取り入れてほしいです。(養老 4歳)

○子育てで大変な時期に役回り等を回さないでほしい。(広幡 0歳)

○未就学児がいる家庭は役員など免除になるとよい。(笠郷 5歳)

○婦人会や女性消防、子ども会、学校のPTA、地区役員など本当に何かしらの役割、役員が多すぎます。子どもが少ないのに今までと同じやり方でやっていくのは無理があるので、町の方から改善して行ってほしいです。仕事と子育てだけでも忙しいのでなるべく負担を減らして、子どもと遊ぶ時間を多く確保できるようにお願いします。(笠郷 1歳)

-
- 地域の子どもの数の多い少ないがあると思うが、子ども会の仕事、内容、町の行事など、もう一度本当に必要なのか考えなおしてほしい。核家族が増えて働いている家庭が多い中、今までのやり方だったり考え方をそのままにせず改善してもらい、もっと子育てしている保護者の声を聞いてほしい。子育てしている保護者から、養老町の未来に不安があり、期待していないという声がたくさん聞こえてくる。フラット、スマートにできるように養老町の組織を変えてほしい。不満ばかりの養老町になってしまうので頑張ってもらいたい。(養北 4歳)
- 消防団へ入団してから家を空けることが多く、入団条件に「未就学児の家庭はなし、小学生以上から」と決めてほしい。晩婚化が進んでいく中で、消防団だけでなく各種団体の入団条件年齢を見直してほしい。(日吉 2歳)

11 公園・遊び場

- 公園など、昔に比べてとても少ないと感じる。(笠郷 4歳)
- 歩いて行ける公園をつくってほしいです。有尾コミュニティセンターの空きスペースに滑り台とジャングルジムなどつくってほしいです。(上多度 3歳)
- 整備されていない小規模の公園が多すぎる。町民プールのあった施設をどうにかきれいにし、子育てしている人の憩いの場になるように整備してほしい。養老公園は坂が多すぎて、小さい子が走り回るのに危険すぎる。ぜひ平らな広い土地に子どもの施設、公園を。(養老 3歳)
- 養老公園の開園時間を無制限にしてほしい。各地区で公園をつくってほしい。遊具がなくても広場でもよいので。(笠郷 0歳)
- 養老公園以外に近所で遊べる公園がない。昔と比較し遊具が撤去されてしまっている。子育て世帯への補助の拡充。(養老 0歳)
- 平成公園がとても汚いので、きれいにしてもらいたい。どこにどのような遊具が設置されているのか、設置されたのか詳しく教えていただきたいです。(一 3歳)
- 公園の広場の遊具が本当に危ない。怪我をしてからだと遅いので早く安全にしてほしい。あと瑞穂市のサンコーパレットパークみたいな大きな公園も新しくほしい。(日吉 0歳)

12 まちづくり

- 本巣市は公園の隣に図書館があり、ついでに図書館に寄れるのがいいなと思った。養老公園にも図書館の分館があると利用が増えるのではないかなと思った。(広幡 2歳)

-
- 総合体育館の設備の見直し。故障個所の修理。備品の見直し。スポ少の試合で他県のチームが来た時に恥ずかしくないようにしてほしい。(養老 5歳)
 - 将来、高校に通うことを考えると電車の駅が遠く不便です。バスを増やすなど何か対策をしてほしいです。いろいろ不便だと一度地元を出た人は戻ってこないと思います。(池辺 5歳)
 - 公園や病院が少ないため、違う市町村に行かないといけないのが困る。遊べる施設や子どもの服など買えるところがほしい。子ども用品店やおもちゃ屋など。(池辺 0歳)
 - 子ども用品のお店を増やしてほしい。子どももかかれる病院を増やしてほしい。(養老 2歳)

13 行政・役場

- 子ども課の職員により対応が異なったことがあり、すごくいやな思いをした経験がある。誰に聞いても同じ対応がしてもらえるようにしてもらいたい。人によっては、すごく偉そうな態度をとってくる人もいる。役場の人ってそんなに偉いのか。町民が安心、安全に暮らせるようにサポートしてくれるのが役場の仕事ではないのか。役場のあり方、質について疑問に思うことが多々ある。(笠郷 2歳)

14 アンケート

- こちらの調査票を小学校と保育園の両方からもらってきました。一番下の子のことを書いてくださいとのことであれば、一家に1セットでよいと思います。紙がもったいないかなと。なんならオンラインアンケートでもよいと思います。(笠郷 1歳)
- このようなアンケートを取得したい場合、デジタルにしてください。紙だと面倒に感じます。以降の参考にとお考えなのかもしれませんが、子どもが1人の場合は、アンケートを名乗る場合強制感がなくなるのではないのでしょうか。(養北 5歳)

第2 小学生保護者調査

1 子育て全般

- 子ども中心で考えて、親も子どもも住みやすい町にしてほしい。(広幡 4年生)
- よりよい町になるように、皆で協力していける町であってほしいです。(養老 2年生)
- 養老町で子育てした方がお得だと子育て世帯に思わせるような施策があれば、他の自治体から若い人が来てくれると思うので（もしくは戻ってくる）、お願いします。(日吉 3年生)
- 住みたくなるまちになってほしい。(池辺 3年生)
- 行政の「支援」が「親の負担」につながってしまうことを理解してほしい。(日吉 5年生)
- 正解のない子育ては難しい。(養老 1年生)
- 子どもが少しでも減らないように、大人になった子達が養老町に戻りたいと思ってもらえるようなまちづくりを望みます。(上多度 4年生)
- 子どもの数が減っており、この僻地にさらに移住して来たり、ということは望めない。子どもが少ないことでデメリットしか感じず、この環境に子どもをおいておくのも疑問です。田舎ながらの凝り固まった考えの方も多く、現代の状況を考えて変えていかなければいけないと思う。自分の子どもがこの地で老後まで過ごすとは考えられないです。(広幡 3年生)
- 人口減少は否めないが、少しでも人口増加、若い世代の町内残留に努力してほしい。子どもの数を増やす努力をしてほしい。(日吉 2年生)
- 人口を増やす対策をしていただきたい。生徒数が減るばかりで子ども同士の刺激がない。企業誘致、建売支援等頑張ってもらいたい。(広幡 3年生)
- 養老町は子育てするうえでの魅力を感じられないです。他の市から転入してきましたが、手厚さや補助等があまり感じられません。このままでは人口の流出が続くだろうと思います。(養老 2年生)
- 大垣市や垂井町のように、もっと子育てに関して早く充実してほしい(給食無償等)。(一 6年生)
- 養老町は子育てに関して、とても手薄だし、古い。隣の大垣市や輪之内町のように、手厚く力を入れている市町村があるので見習ってほしい。学校教育、こども園の体制が特に遅れていて、もっと柔軟な対応をして、新しいシステムを取り入れていくべきだ。(養北 4年生)
- 近隣の市町村に比べて、子育て環境が整っているとは思いません。高齢者福祉に重きを置いている印象です。養老町で子育てしたいと思うような支援を希望します。(養老 1年生)
- 若い人が目標を持って活動、活躍できる地域であることを望みます。(日吉 4年生)

○若い世代が住みたいと思える養老町に向けて、新しい考え方や施策を取り入れてほしいです。(養老 5年生)

○こども家庭センターの設立等子どもに対する支援制度が強化されていると思いますので、妊娠期からの支援体制がどの人に対しても行き届くように期待します。(笠郷 1年生)

○子ども家庭総合支援拠点の設置は、まだまだ足りません。支援を受けている子の親もどこに何を聞けばいいのかわかっていません。園や学校の先生方も理解していません。支援が必要な子のことを見てください。わからないままで、済ませないでください。役場、園、学校が横でつながって「こんな場所があります」等、伝えるようになってほしいです。(養北 6年生)

○消防団の負担が大きい(平日夜や土日に子どもと関わる時間が多く取られる)。課題はあると思いますが、県が投入したラーケーションを取り入れてみるのもよいと思います。(広幡 5年生)

○役場や保育園・幼稚園に相談しても、子育て支援の場所はないと言われるだけです。同じような子どもを持つ親同士の情報交換は、とても大切です。支援の方や先生方との話も必要ですが、現状の自分、これからの不安を解決する方法が、母親同士の話の中にヒントがあると思います。家族の中にも理解できるのは母親だけです。孤独です。常に手探り状態です。(養北 6年生)

○子ども達の食や水について、提供されている食品に含まれる農薬や添加物について考えられたことはありますか。小さな子どもたちは大人と違い、身体や脳へ知らないうちにたくさんの影響を受けています。もっと子どもたちの口にするものが、本当に安心安全であるものになっていくといいなと思っています。子どもが少ない養老町だからこそ、今を生きる子どもたちは本当に宝です。大切な宝を守るため、安心して健康に生活していくために、環境社会毒から守れるように工夫・取り組みに重点を置いてほしいです。また人口増加が見込める取り組みも行なってほしいです。(日吉 2年生)

○子どもにとっても強いアレルギーがあります。とても敏感で、命に関わることなので恐ろしくて外食できません。工場を通ったものや給食も食べられません。お友達のおうちへ遊びに行ったり、食を共にすることもできません。今はアレルギーの子も軽かったり、少ないかもしれないけれど、子どもも大人も増えてきています。アレルギーがあってもなくても安心して暮らせる、過ごせる環境のために、知識と情報の共有、提供。そしてこれ以上、アレルギーの方が増えてしまわないよう、食と環境の改善をしていきたいです。(池辺 1年生)

○学校の図書館の本に、お金や投資、ビジネスに関する本を導入する。お金、投資、ビジネス等のイベントの開催（子ども向け）。PTA、子ども会、自治会等の任意加入の周知および不要な行事の撤廃。自治会における環境整備の撤廃（子どもを留守番させることが当たり前になっている）。（養北 3年生）

○ラジオ体操は夏休み中毎日ではなく、1～2週間くらいにしてほしい。毎朝付き合うのが厳しい。仕事前の忙しいときには難しい。学校で給食を食べるときに、今も窓の方を向いて（一方方向）静かに食べているのを、そろそろ元に戻してもよいのではないかな。給食は先生やお友達と賑やかに食べたほうがおいしく食べられるのではないかな、寂しい。給食費の補助、インフルエンザのワクチン接種の助成は全額にしてほしい。18歳まではみんなOKとか。子どもは町全体で減少しているのに手厚い支援とは思えない。子ども会は強制ではなく任意にしてほしい。仕事が土日もあるのにやたら行事が多く、役員になると大きな負担になる。子ども会の役員の仕事のために仕事を休むことになり、収入が減り生活に支障がある。町民運動会は各小学校の運動会と一緒にやってほしい。10月は部落で秋祭りがあり、町民運動会やペタンク大会、養老カルタ大会など毎週末に行事があり、気候がよいのに家族で旅行もできない。もう少し町の子育て事業、地区子ども会事業を少なくしてほしい。（笠郷 3年生）

○子どもの友だち（両親共働きで、祖父母が夜まで預かっている）の宿題も、自分の子どもと一緒に日常的に見ているが、祖父母は昔の子育てのイメージが強く、面倒をみるといっても友達と遊んでおいでと外に出すだけで、ご飯時にいるかいなか確認するくらいで面倒をみているようには見えない。もちろん、ご飯を食べさせてくださっているだけありがたいと思っているが、学校のことがいろいろやりきれないのを日々感じる。子どもが放課後教室を利用しない場合に宿題を一緒にやるような、ちょっとした一時間くらいのサポートをする人もたくさんいたらよいのではないかなと思う。自分は子育てのために、理解ある職場が仕事量を調整できるようにしてもらっているが、すべての人がそうではないので。女性でちゃんと働きたい場合、子育てとの両立にはみんな悩んでいると思う。子育ての環境も必要ですし、仕事量や人の確保など別の問題もあると思う。私も子どもが生まれる前は、子どもは祖父母に任せて働けばよい、夜に宿題を見て、土日にたっぷり一緒に遊べばよいと思っていたが、子育てはそんな単純なものではなかった。子どもの体力で遅い時間まで宿題なんて無理だし、やはり精神的に安定した健康な子でいるためには、21時までには寝させたいし、子どもが遊んでほしいこと、聞いてほしいことは学校帰ってすぐのことが多い。土日はすべてやろうなんてできない。子育ては予想をはるかに超える。（笠郷 2年生）

○こういったアンケートを何度も書いたと思うのですが、何か改善されていますか。できない理由を考えてばかりなのでは。やってみることが大切だと思います。田舎だから物がない、場所がない、機会がない、というのは間違いです。全国のレベルと同じでないと、町外へ行く人が増える一方です。養老町から他の市町村が真似したいものを発信しないと。子どもが触れることのできる、未来への刺激がなさすぎます。経済的な支援ではなく、すべての子に平等に与えられる環境をつくってください。年に何回か、体験型イベントをすとか、施設をつくとか。たくさんお金を出して体験させるかどうかは家庭によって違うので、町として無料or低価格で。未就学児に対しての対策はわかりました。小学生以上の子に対して、もっと考えてほしい。人数が多いのは小学生以上なので、他の市町村を見習ったらどうですか。垂井町みたいにバスケットボールができる等の広いスペースがほしいと子どもが言っています。(養老 5年生)

○子ども支援というが、子どもに利用する体操服などの値段は上がるばかりで、サポートがない。別に子どもをみてもらおうと思わないが、部活もほぼなく、家でだらだらと過ごさせることになるので、習い事を増やすしかなくなる。(広幡 4年生)

○廃園となった園舎などを利用し、子ども達の習い事(英語教室や習字、体操教室、学習サポートなど)、遊び場を開いてくださるとよいのではと思う。自分たちが通った園舎が廃墟となっているのを見てみると悲しそう。地域の人が集まれる場に変えてほしい。「子ども110番の家」をもっと周知して増やす。猛暑や異常気象時に登下校中にヘルプできる場が増えるとよい。(笠郷 5年生)

○小学校、中学校について、他の市町村から制服、体操服、カバン等使わなくなった場合回収、寄付して、他の家庭へとつながっていくと、ひとり親家庭としては非常に助かる。バス通学で、下校時にはバスを待っているが、3番バスだと1時間以上待つこともあるため、暑い日だけでなく色々な天候に合わせて、常に待合室として一室用意してもらえると子ども達にとってもよいし、親としても安心できる。冬の時期、17時過ぎのバス停着だと外も暗くて心配になる(安全面として懐中電灯を持参している)。子ども会の半強制入会と中学3年生まで退会できないのをやめてほしい。ちゃんと毎年入会、退会の確認をしてほしい。アンケート結果や意見をその後、町政等にちゃんと反映をしてほしい。(養老 5年生)

○本当は家にいて、子どもの帰りを待ってあげたいと思う。経済的にも難しく不可能だが。共働きで子どもが少なく、子ども会などの役も負担が大きい。色々無駄を省いていけたら、子どもとともに過ごす時間が増えるのではないかと思います。(養老 2年生)

-
- PTAや子ども会の負担軽減策を検討してほしい。子どもが少なすぎて子ども重視の学校行事が少ない（運動会、発表会）。子どもが少なすぎて親の負担が多い。（上多度 3年生）
- 子ども会、婦人会、婦人消防、PTA、町民運動会卒業を廃止して親の身体的精神的負担を軽減し、家族の時間がほしい。園や学校指定が多すぎる。自由にしてほしい。物品や体操服等その後の使い道がなく経済的負担。支給やレンタル等SDGsで。（笠郷 ー）
- 公園の件、イベントのことは見直してほしいです。これからも養老町に住みたいので、正直な意見を述べさせてもらいました。養老町にはチェーン店の飲食店がないので、誘致してほしい。（養老 3年生）
- 公園をもっとつくってほしい。財政的支援をもっとしてほしい。オムツやミルクの支援、小学生以上は給付金とする等。テイクアウトできる店、飲食店が増えてほしい。（笠郷 1年生）
- 遊びの場をもっと充実させてください。子育て世帯への物資、経済支援も手厚くしてください。（笠郷 3年生）
- 日々感謝。心から感謝。これからもよろしくお願いします。（日吉 1年生）

2 学校・教育

- 学習において、養老町は大変ゆっくりです。テストなどの平均点が低いのも関係があると思います。今の世の中、塾に行かせたくても十分に行かせてあげられない家庭が多いです。支援があれば少しは負担が減ります。プールも閉まってしまいましたし、運動する機会も減りました。何とか変わってもらえると嬉しいです。（笠郷 6年生）
- 小学校におけるICT環境の整備を早急に進めてほしい。学級閉鎖になったとき、オンライン授業で対応するなど、ICTをもっともっと活用してほしい。（養老 3年生）
- 環境はどうやっても工夫次第。難しいものはなかなか子ども中心に考えていけない。日々生活が優先されるため。不登校等を減らしていきたいが、そのための対応が養老町はすごく弱く遅い。一人ひとりのニーズに合わせられていない。オンラインにしたら過ごせる子どももいるはず。学校がすべてと思う大人だけの考えではいけない。その場にいるだけでもほめてあげてほしい。（池辺 5年生）
- 西濃で音楽会を行っているのは養老町だけです。音楽会を行うことによるメリットももちろんありますが、それ以上に教科の勉強の時間が削られるなどのデメリットと負担の方がはるかに大きいので、廃止にしたほうがよいと思います。子どもの人数が少なく参加が難しい学校もあります。（上多度 3年生）

-
- 養老町で育った子どもが、世間の常識とかけ離れないような環境にしてもらいたい。厳かな入学式や卒業式に、親や教師は正装をしているのに子どもが体操服。どうしても気になってしまいます。養老町で育った大人が、それに疑問を持っていないことを残念に思います。(養老 5年生)
- 学校の先生の働き方改革も必要だとは思いますが、それに伴い保護者の負担は増えていると思う。今のままでは子育て世代はどんどん減っていくと思います。(養北 3年生)
- 学校によっては、休日や放課後にまた学校で遊んでもよいというところがあると聞きました。同じ町なのだから、そういうところは統一してほしいです。学校の給食は栄養も考えられていて、こども園の時よりも色々なメニューを食べられるようで、子どもも喜んで学校へ通っています。給食の先生は少ない人数で大量に作ってみえるので大変だと思いますが、各学校で作った温かい給食を提供してもらえることはありがたいです。今後も自分の学校での調理をお願いしたいです。(笠郷 3年生)
- 給食に関して、実際に給食を見せていただきましたが、とても質素で驚きました。子ども達に聞いても「何をおかずにすればいいのか」と思う日が多いとのこと。値上げしてでも、子ども達には美味しく、満足する楽しい給食時間を送ってほしいと切実に思います。本当は国に働いてほしいのですが、無理そうなら岐阜県、養老町でぜひ支援していただきたいです。(広幡 4年生)
- 夏の登下校の熱中症対策(お迎えの推奨等)。夏はランドセルでなくてもOKなどの機転。重いランドセル、水筒、教科書(計5kg)、置き勉の推奨(片道35分)。始業式、終業式の後すぐ下校の無駄システム(35分かけて行って、1時間で下校)、1時間目始業式、2時間目から通常ではダメなのか。惰性で時代に合わないスタイルを自ら変えていく行動をしてほしい。(笠郷 3年生)
- 池辺小学校にスクールバスの導入を早急に検討していただきたい。片道3kmを毎日往復しており、途中で体調が悪くなったり、低学年で人数が少ない日は迎えの電話がかかってくるので大変です。(池辺 2年生)
- 小学校へバスで通学しています。中学になったら自転車となっていますが、中学生も小学校まで乗車させてもらえたらとても助かるなと思います(自宅が山の中で、自転車を押して歩く時間が30分ほどある)。(養老 4年生)
- 学校のトイレが汚いのできれいにしてほしい。(池辺 3年生)
- 洋式のトイレを増やしてほしい(笠郷小学校)。学校にある本が古すぎる。(笠郷 4年生)

-
- 小学校、中学校のトイレ改修工事（洋式トイレを増やしてほしい）。（養北 5年生）
 - 小学校に入って一番思ったことは、今どき洋式トイレが少なすぎる。特に低学年は汚くなるし（和式）考えた方がいい。高学年になってくると（中学も）我慢して帰る子もいると聞いたのでそろそろ考えてほしい。そういうところに税金を使ってほしい。（池辺 1年生）
 - 養老町の学校を今後どうしていくのか教えてほしい。1クラスの子どもの数が少なすぎる。（広幡 1年生）
 - 小学校も統合してほしい。ドッジボールも大縄もできない。体験せずに大きくしたくない。皆で一緒に何かをやりとげることを学んでほしいから。子どもが当たり前に行えることをできるようにしてほしい。（上多度 5年生）
 - 各小学校の人数が減少しているので、早く統合してもらった方が子どもにも先生にもよいように思う。老朽化が進み修繕していただけることはありがたいが、あと何年使うともわからない中での財源の使い道に少し疑問に思う。（広幡 4年生）
 - 来年の2年生、3年生が複式学級になると新聞で見たが、本当か。保護者に何の説明もないまま、報道で知らされるのは順番がおかしいのではないか。具体的な内容が何も分らず、子どもの学習がどうなるか不安である。しっかり説明してほしい。（日吉 2年生）

3 留守家庭児童教室

- 留守家庭児童教室について、金額の見直しをしてほしいです。習い事などで利用できない日もあれば、振替などで一日預けたい日もあったり、月によってバラバラなので日数制などあればよいと思います。宿題をやる場所ではないとどの人にも言われますが、こちらは働いていて少しでも家での家事育児を減らしていきたいのにやってないと言われる、それも遊んでいて。無料なら文句は言いません。お金を払っています。遊ぶ場所なら必要ないと思います。低収入の方にのみお金を払う制度もおかしい。こちらは毎月頭を抱え込むほど悩んでいるのに。ひとり親、低収入って差別ですか。子どもがやりたいと言うので習い事も頑張っていますが、この先が不安でしかないです。（笠郷 3年生）
- 留守家庭児童教室など、時間外に預けるとなると結局費用がかかるため利用していない。祖父母も年金をもらうまで働ける状況であれば働きたいというような環境になっていて、信頼して頼れる預け先がない。（広幡 2年生）
- 夏休みの留守家庭児童教室（学童）があるように、中々仕事が休めないため、春休みの短期預かりもあると助かります。（笠郷 1年生）

○留守家庭児童教室は、長期休暇だけでなく、春休みや振替休日等、単発で利用できるとうたったです。時間の見直しをしてほしいです。預けに行くために仕事に遅刻してしまいます。それで預けることをやめる方も結構いました。(養北 6年生)

4 保育園・幼稚園・こども園

○公立のこども園、保育園を私立にすることで、町の支出が大きく変わる。その財源を違うところで子育て支援に回す等考えてほしい。こども園の整備も私立がやれば町の負担は1/4でできるのに、なぜ町単独でやるのか。それだけお金があるなら、もっと子どもに使ってほしい。保育料の無償化も、公立なら町が全額負担。私立なら町の負担は1/4。もっと国や県の補助金の使い方を考えてほしい。(養老 5年生)

5 その他の子育て支援事業

○ファミリー・サポート・センターについて (YouTube動画見ました)。サポートする人、してもらう人どちらも利便性がない。事故の補償がないなんて、利用するのも提供する気にもなれない。それより、スーパー等の商業施設や病院、公共の役場や保健センター内に託児スペースがある方が利用しやすいのでは (保育士常駐で)。支援より、親の負担を減らすことを考えてほしい。(養老 5年生)

○子どもや家族の病気や事故等、突発的な出来事、保護者の体制が整うまでの数時間ファミリー・サポート・センターのようなサービスが予約なしでも利用できるサービスがほしい。(日吉 3年生)

○子育て支援センターを利用してみましたが、結局、保育園みたいな感じで相談も悩みも話せませんでした。ただ、自分で子どもと遊ぶだけでした。(養北 6年生)

6 習い事

○放課後教室のような習い事を選択して、学校でできるようになったらありがたい (英語とか、習字とか)。(広幡 3年生)

○スポーツをするところ (少年団等) が少なくなってきた、通うのが遠かったり時間が合わなかったりして、指導者もいないのかな。(養老 6年生)

○学ぶ場が少ない。習い事等選択肢が少なく、遠くまで通うので送迎必須。(上多度 5年生)

○習い事をさせたいけれど送り迎えが難しい。送り迎えをしてくれるサービス。(池辺 2年生)

○習い事、塾の送り迎えの制度があるといい。シフト制のため同じ曜日に休みがないので。(養北 6年生)

○アンケートをするなら、その後の取りまとめをフィードバックしてほしい。アンケートを答える気にならない、本気で考えてくれているのかどうかわからない。英語プログラム、株等子どもの学習熱が少なすぎる。授業だけで大学に行けると思わない。企業を誘致して補助金等で賄ってほしい。留学のサポートもない。(養北 1年生)

7 障がいのある子ども等への支援

○障がい者支援をよろしくお願いします。(日吉 6年生)

○ことばの教室に通っており、子どもの支援はすごくよかったのですが、親同士の交流についての支援がありませんでした。(養北 6年生)

○発達のことと悩んでいる親に、先生や保健師さんたちは「大丈夫」と無責任に言ったら駄目だと思う。安心させようと思つてのことだとは思うけれど、それよりも「心配なら、こんなところがあるよ」など、その先を紹介した方がいい。様子見という言葉が言われたくない。様子見って、気になっているのにいつまでなのかと思う。(池辺 1年生)

8 多子世帯・ひとり親世帯への支援

○生活がとても苦しいです。子ども達のために、毎月の授業料、保険料と余裕がありません。少子化の中、4人育てるのは大変です。多子世帯には養老町は何もしてくれないのでしょうか。中学、高校、大学が一番お金がかかります。(上多度 1年生)

○子ども4人も産まなければよかったかな、と考えてしまうことがあります。最悪ですね…。(養北 2年生)

○多子世帯に手厚い支援をしてほしい。2人目、3人目と産んでもらえると、子どもの数が増えるから。多様な価値観があるので、結婚、出産をしない人ではなく産みたい人へ支援を手厚くしてほしい。(池辺 5年生)

○年齢が上がるほどお金がかかってくると感じます。中学生になると制服や自転車など高額なお金がかかるので経済的に心配です。制服も安八町みたいにセーラーをやめてカーディガンとかにしてほしい。ひとり親なので、これから塾に通わせるためにもお金の面に関しては心配です。ひとり親なので正社員で働いているのに、そうすると年収で児童扶養手当ももらえないし、ひとり親でも一生懸命働いているのだからもう少し考えてほしい。(上多度 5年生)

9 経済的支援

- 子ども手当の支給額を増やしてほしい。(広幡 3年生)
- 世の中物価も上がる中、生活がとても大変です。子どもも成長期で食費もかかるので、もっと子ども手当を上げていただきたい。よろしくお願いします。(広幡 5年生)
- 児童手当について。2024年度より第3子の支給額が変わりますが、第1子が高校卒業の年になります。支給がないことと第3子の数え方が変わるため支給額が変わります。3人子どもがいるのに年が離れたら該当しないのは残念だなと思います。難しいとは思いますが養老町でそういった家庭に何か対策があればうれしいです。(広幡 2年生)
- 児童手当や給付金について、世帯の年収により給付されないことがある。教育費や今後の老後の不安のため共働きで収入を得ているのに、年収により手当金を受け取れないのは不公平だと思います。(上多度 6年生)
- 高校に修学する生徒に一人当たり240,000円を支給する地域があります(奈義町)。子どもの医療費の助成も助かります。学費面でも一部の助成をいただけると安心して学力に向かわせられます。(笠郷 6年生)
- 大学進学すると想定した際、調べたらとても大きな額がかかるため急に経済面が不安になった。2人ともを大学に行かせたいけれど、経済面で断念するようなことがあればふびんだから、行政の力を貸してほしい。(池辺 6年生)
- 「道路の整備状況」危険な場所があるので直してほしいです。就学するときに助成金があるととても助かります。町の行事(町民運動会など)に使うお金があるならもっと支援してほしいです。(笠郷 5年生)
- 中学、高校、特に大学の学費が無料になれば(支援など)、子どもの夢もかなえられるようになると感じます。(笠郷 4年生)
- 制服支援金があってもよいと思います。小1、中1、高1になるタイミングで支援金がほしいです。学校の近くの自転車屋さんで自転車を買うと、パンクしても学校まで来て、直して置いてくれます。中学3年間を思うとそこで買うのですが、70,000円近くするものもあります。長く乗る物なので、皆よい物を買いますが高すぎます。支援があると、見えてこないサービスを受けられない方も受けられるようになるかも知れません。(養北 4年生)
- 学校の制服や体操服など値段が高すぎる。(広幡 2年生)
- 中学の制服や指定カバン等が高く負担がある。例えば体操着の自由化やかばんはリュックなど、自由化している自治体も多いので、自由化してほしい。(養老 6年生)

-
- 子ども会行事は必要ない（アンケートとるべき）。少なくとも、私の周りでは一度も子ども会が楽しい、続けたいという声を聞いたことがない。子ども会行事のお金を子どものヘルメット代など、実用的なことにお金を使うべき。中学生、小学生が自転車に乗るのに、ヘルメット代を負担してほしい。高校生、大学生にも支援をしてほしい。小さい子どもに支援が充実しても、子どもは大きくなったらお金がかかる。高校生も大学生も養老町から大垣市まで定期1か月分くらいでもよいから支援してもらえると、養老町から子どもを大切にしてもらっていると実感できる。（笠郷 6年生）
 - 保育料の3人目無償化があるものの、3人同時に在籍していないと適用されない。（養北 2年生）
 - 「支援」が「親の負担」になっていることを理解してほしい。お金をばらまくくらいなら減税して。（日吉 6年生）

10 地域活動・行事

- 地域によって子どもがいなかったり少ない中で子ども会の仕事をしている。町全体ではなくて、地域毎に子ども会をやったりすればよい。町全体の集まりなども見直してほしい。（養北 3年生）
- PTA、子ども会は、母子家庭は同等扱いで、父子家庭は免除される理由がわかりません。小学生のうちに貯金をしたくても、正社員として働けません。行事、役員会出席のたびに欠勤して、生活が苦しいです。（広幡 5年生）
- 学校のPTA活動に地域の子ども会活動と、強制ではないと言いつつほぼ強制の活動が多く、母親の負担が大きい。義務教育なのに指定の体操服や制服その他、書道道具や絵の具、裁縫道具など別途お金がかかるものも多く、そういう補助もしてほしい。（養北 4年生）
- 学校のPTAもっと簡略化を。子ども会、育成会廃止。いらない。どちらも何年もやった上で書いてます。今の時代に合っていない。（養老 5年生）
- 家族との時間が減るため、子ども会をなくしてほしい。私のいるところでは子ども会は機能していない。（養老 3年生）
- 子ども会活動を見直してほしい。子どもも少なくなっているので、あちこち役員をやったり親も子も負担が多すぎます。そんなに苦労してどんな学びがあったのかまったくわかりません。町にとってよくなった、子どものためによくなったとまったく感じません。もっと他の市町の取り組みをみてほしい。時代を考えてほしい。（養北 6年生）

-
- 子ども会はいらない（土日に行事、平日の夜に会議って母親いつ休むの）。母親の負担でしかない。お金の無駄。夫婦共働きの時代に合っていない。（養老 4年生）
- 子ども会を廃止してほしい。世帯数が少ないので毎年のように役員をしなければならず、子どもが少ないので、行事も何もしないのに壁新聞を作らされたり、発表させられたり、苦痛でしかない。夜に子どもをおいて会議に何度も出なければならなかったり、一体何のため子ども会なのか意味がわからない。（養老 6年生）
- 子どもの学校の地区役やPTA活動は大事なのですが、子ども会の廃止を求めます。それが子ども会も自由にして任意にしてください。脱退します。（笠郷 6年生）
- 昔に比べて、共働きでないと生活できない家庭も多くあります。子ども会やPTA等、必要なこともあるかも知れないが、継続する行事や中止（終了）する行事などを考えてほしい（無駄なことはやめてほしい。負担を感じる）。子ども達に影響が大きいことは継続すべきだし、それに対しては積極的に参加したい。ただ現状として、この行事、取り組みはいるのか、と感じることが多くある。子どもと関わる時間も減ってしまうので、前向きに検討していただきたい。（養北 1年生）
- 行事や運動会の内容が毎年一緒。新しいことにも挑戦できる機会が少ないように感じる。子ども会やPTAは有志でいいのでは。昔からこのやり方だからとそのままで行っているのでは、子どもも減り、難しくなっていく。（笠郷 3年生）
- 子ども会について。子ども会の行事に班で何人出してください、というのはやめてもらいたい。行事に出たい人が出ればよいわけで、強制的に何人出せ、とかはおかしいと思う。強制参加させなければ成り立たない行事であるのならやめればよいと思う、廃止すべき。「喜んで参加した子」が出ればよい。うちの子は以前泣きながら参加させられました。子ども会のあり方を今一度考えなおしていただきたい。コロナで行事ができなかった時、誰か困っていた方はいらっしゃいましたか。そもそも子ども会に強制参加がおかしいです。任意のはずです。そういうところが、よその意見を聞き入れない養老町の悪しきところです。（養老 4年生）
- 昔と違って両親ともに働く人が多い。子ども会行事など減らしてもよいと思う（子どもの減少もある）。行事があるから家族の時間がなくなる。（笠郷 5年生）
- 子ども会行事で参加が必要なものが、子どもの人数に対して多く、押しつけ合いになっている。家族の日などあるが、子ども会行事参加で一緒に過ごせないことも多いです。また、地区でまわってくる役（班長や婦人消防）も子育てしながらだと参加しづらい（夜の集まりが多い）。（笠郷 1年生）

-
- とにかく子ども会の仕事の負担を減らしてほしい。花壇もほぼ親、壁新聞もほぼ親。本部に当たれば行事、会議と休日も負担が大きいと聞く。支援を考えてくださるのは嬉しいが、現状の意見も聞き入れてほしい。(笠郷 6年生)
- 本当にペタンク大会、かるた大会、花壇審査止めてほしいです(子ども会)。子ども会半強制的に入らされて抜け出せない。活動費がもったいないので、違うことに使ってもらいたい。老人の方とかに。(笠郷 2年生)
- 子ども会フェスティバルをなくしてください。負担が多いです。壁新聞も花壇も子育ての負担にしかありません。夏休みの花壇の水やりで、他県の実家に帰ることすらできません。育成会やめたいです。子どものいる世帯のことよりイベントの方が大事ですか。離婚してでも養老町から逃げたいと思ったことも何回もあります。(上多度 5年生)
- 再度記入しますが、子ども会のコンクール、発表などをなくしてほしいです。活動自体はあってもかまいませんが、やること多過ぎです。仕事をして、家事をして、学校の役をこなして、育成会会長もする。子どもの数が減っているのにやることは減らない。負担が大きい。母親達が倒れてしまいます。お願いします。(笠郷 4年生)
- 笠郷地区では「三世代交流」と題して、土日祝日に様々なイベントがある。育成会役員になると半強制的に参加しなければいけないことが負担である。共働きの上、仕事の休みが不定休(平日休みが多い)のため、土日祝日のイベント参加は負担であるし、休日は家族でゆっくり過ごしたい。(笠郷 1年生)
- 婦人消防や婦人会を廃止してほしい。(笠郷 3年生)
- PTAや育成会の役員がかなり負担になってきています。子どもの数が減ってきているので、何回も役をやらなくてはならない方もいます。貴重な休日が講演会に出席しなくてはならなかったり、育成会の行事があつたりで潰れてしまうこともありました。見直す機会があってもよいと思います。(広幡 5年生)
- 現在子ども会役員で、来年はPTA常任役員もあり、かなり仕事を休まないといけない状況です。ひとり親でパートの収入は少なく経済的に厳しい。例年やっているからやるのではなく、本当に必要なこと、子どものためになることに時間を使いたいです。こういったアンケートや学校書類もできるだけスマート連絡帳を活用してペーパーレス化をした方が、コストや時間を削減できると思います。(一 5年生)
- 子どもの人数も少ないため、PTAの役員や地域の役など子育て世代の負担が大きいと思う。新しいお家を増やして、地域の活性化や古い考えを新しく柔軟にしてほしい。(池辺 2年生)

○子ども会や小学校の役員を、仕事をしながらやるのはとても大変です。私が役員等の集まりで夜に家を空けるとき、主人が仕事で遅くなる場合は子どもだけで留守番することになってしまいます。よく地域のイベント（バルシューレの大会やカルタ大会等）で参加要請がかかります。結局役員が犠牲になり、出ないといけません。心から参加したいと思う人が少ないのであれば必要ないのでは。また年1回の町民運動会も不要だと思います。今時丸一日使ってやる地域なんて養老町ぐらいではないでしょうか。出たい人だけならともかく半強制なのが現状です。子ども会にしても町民運動会にしても時代遅れです。婦人消防もまだ残ってますし、時代に合っておらずとても子育てしにくいです。よく養老町は「温故知新」と言っていますが、古いことを大切にしすぎていて新しいものは取り入れていないと思います。（笠郷 6年生）

○共働きで役員等していくのはしんどい。仕事と子どもたちの生活を守ってだけで精一杯。時間に余裕もなく、フルタイムなのでそんなに休みも取れない中、保育園、小学校の役員、町内の参加行事などいろいろ参加していくのが難しいです。（笠郷 1年生）

○仕事をしているので、土日に役員行事（半日）にしてほしい。平日は仕事が休みづらいです。はがきで出席要請止めてほしいです。要請してまで行事参加者がいないのであれば、行事をやめるべきです。その分の費用をもっと子ども達のために使用していただきたいです。（上多度 6年生）

11 公園・遊び場

○近所に公園がなく、あまり外で遊ぶことがないので、公園があるとよかった。（笠郷 4年生）

○養老町も子育て支援をよくやってくれていると感じ、感謝です。高校卒業まで医療費無料は心強いし、地区の公園遊具の費用の助成もありがたいです。養老公園のこどもの国の遊具も新しくなり、駐車場無料でうれしいです。父親になって思うのは、子育てにお金はかかるということでした。でも行政でいろいろやってくれているので助かります。夏場水遊びする場所がなく、あればいいなと思います。こどもの国の噴水も止まっており、こちら辺では大垣市民プールと大垣城のみとなっております。（養北 4年生）

12 まちづくり

○図書館を充実させてほしい。自習できる場所が少ない。ゆっくり本を読む場所が少ない。調べたいことの資料が少ない、または古い。（広幡 4年生）

-
- オンデマンドバスの利用。高校生になった時、駅まで遠くて毎日送迎になり、仕事の時間の調整が必要になるため、それに対応する時間帯がほしい。(池辺 6年生)
 - 養老小までの通学路で服屋跡地の横を通過するが、側溝のふたが割れてガタガタしている。歩いていると引っかかり、転んだり、つまずいたりするので修繕してほしい。(養老 4年生)
 - 小学校、中学校、高校への通学路の安全。大垣養老高校周辺、学校より西側の子どもが自転車で通る道が、暗い時間帯は街灯がなさすぎて危険。何十年と学校があるのになぜ。(日吉 6年生)
 - 若い人が住みやすい町にしてください。建売住宅など増やしたらよいと思います。空き家が多く村の中の道が細い。住みづらいです。(広幡 1年生)

13 情報提供・手続き

- こちらが調べに行かないとわからないことも多い気がするので、特に第1子出産の人や養老町に移り住んできた人へ(私自身が元々は大垣市出身なので)、パンフレットなどをまとめて渡すとよいと思う(遊ぶ場所、子育て支援センター、サポート制度)。(笠郷 1年生)
- 就学援助の申請の仕方について、考えていただきたいです。民生委員の方への書類の提出はプライバシー保護の観点からも不要と考えます。毎年いやな思いをして提出している人がいるということを知ってほしいです。(笠郷 3年生)
- マイナンバーを利用した申請の簡略化。(養老 1年生)

14 行政・役場

- 保健センターを利用したのですが、問題外でした。若い方が担当で何もわからない感じでの外れな回答をされました。私に「この子は、何かおかしい」と30分以上繰り返されました。そして、親が悪いような言い方をされました。(養北 6年生)
- 子育て世代がどうしても近隣の市(大垣市等)に流出してしまいます。財政規模を考えると、どうしても大きな自治体の補助が手厚く、経済的な負担が少なくなるのはわかります。しかし、それ以外にも「対応が冷たい」「子どもが大切にされている感じがしない」という声も聞きます。財政ならまだしも、対応については改善できないでしょうか。養老町役場は行政を担う一員として、町の問題改善に取り組もうとする意識はありますでしょうか。もちろん一部の方だと思いますが、お金以外の部分では、大きな市に負けない子育て対策をお願いします。(養老 5年生)

○数年前は、意見や話があると町役場へ相談に行きましたが、何を話しても物事を知らなさすぎて話にならなかった。人として薄い人、浅い人が窓口では駄目ではないでしょうか。何を言っても返事が「大垣市や他の町もそうなれば養老町も」と言っている人もいるし、逆に「大垣市はこうなっていますよ、養老町はしないのか」と言うと言返事がなくなり、これでは子育て世代や養老町で育った人は逃げるように町外へ行くとすぐわかりました。（日吉 4年生）

15 アンケート

○こういう調査をもっと頻回に行い、町民がどのような状況にあるかをもっと把握するべきだと思います。また、調査の結果を公表し、一つずつでいいから多くの声を実現させてほしい。（笠郷 6年生）

○小規模保育所の新設で0～2歳児の受け入れ拡大と資料にありますが、0～2歳児受け入れ保育園の受け入れ停止の人数を加味した場合、実質受け入れ人数は減少であるにも関わらず、拡大と書かれている時点でいかがかと思います。（日吉 6年生）

第3 若者（17・18歳）調査

1 子ども・若者支援全般

- 少子高齢化が問題として取り上げられるようになったため、町が対策をしてくれるのはありがたいと思う。自分は将来なりたい職業があるため子どもがほしいと思っていないが、「本当は子どもがほしいけれど、金銭的な問題で難しい」という人もいるだろうし、子どもを持つ方で「仕事場で育休などを言い出しづらい」という人も多いと思う。（一）
- 生まれてから18歳になるぐらいまでの継続的な支援をお願いしたい。（男性）
- 子どものいない地域、国は滅びるから、全員が子どもたちを宝として大切（親切）に守っていけば、親も安心して産んで育てられると思う。（女性）
- 若者支援を必要としている方への支援が不十分なのではないかと思った。（女性）
- 年寄りに重点を置きすぎていないか。（女性）
- 消防団はいますぐやめるべき。大学を卒業したら地元に帰りたいが、この制度があるため、県外・町外に住まなければならないと思う。町民憲章を変えるべき。「おとしよりが豊かにくらせる町にしましょう」。若者が住みにくい町になっているのに、年寄りを守るんですか。年寄りを守る若者が住みにくくて、おかしいです。（男性）
- 政府はもっと若者や子どもに目を向けてほしい。（男性）

2 学校・教育

- 小・中学校での体験学習の機会を増やしてほしい。（男性）
- 基礎学力の上昇。（男性）
- 小学校の先生の質を上げてほしい。養老町は軍隊式な教え方なのでいやだった。いじめはないうものとされ、先生の点数稼ぎをさせられ、物を壊されてもケガをしても対応してもらえず、今もケガをしたまま。先生なんて（小学校、中学校）いなくなればいいのに。最低な人しかない。役場はまったく動かず、学校にだまされる人ばかり。（女性）

3 経済的支援

- 教育費を無償化してほしい。（女性）
- 教育無償化をしてほしい。（男性）
- 高校・大学の教育費無償化。（男性）
- 高校・大学の無償化をするとよいと思う。（男性）

○子育て支援は小さい子だけでなく、高校、大学はもっとお金がかかるので、支援があると進路の幅が広がると思う。(女性)

○奨学金返済支援。(女性)

○奨学金の返金が重くのしかかるので不安。大学生に補助をしてほしい。(男性)

○私は今年、大学を受験し無事に合格できました。父母は仕事を掛け持ちして大変な思いをし、兄と私、そして妹の教育資金を稼いでくれています。子ども世帯の町・県民税の軽減や、固定資産税などの免除があればと思います。補助金や支給などに期待できないので、もう少し親世帯の思いを聞いてあげてほしいです。このままだと父母のことが心配です。お願いします。(女性)

○町外の高校へ通う人が多いと思うので、鉄道などの通学定期の助成があったらいいなと思います。(女性)

○お金がほしい。(女性)

4 就 労

○正社員として働く会社が増えたらよい。学歴によって働くところが狭まる。養老町は公共(町営のアパート)が少なすぎる。あっても高い。町外や県外への転居を考える。(女性)

○養老町は企業が少ないから働くところが少ない。将来は町外で住むことは絶対だ。公共交通機関も少ないので困っています。(女性)

5 まちづくり

○若者が行きやすい場所が必要。(男性)

○共有の学習スペースがあったらよかった。(女性)

○子どもが遊ぶ場所が地域ごとにほしい。公園やストリートバスケット場など。(男性)

○道路の整備。(女性)

○車道と歩道(自転車で行く)の間にガードレールなどを設置して、安全に通行できるようにしてほしい。(女性)

○売地の草木の整備をしてほしい(道路にはみ出さない程度)。(男性)

○大きな病院(総合病院)を1つ、検討してほしいです。不可能に近いなら、西濃厚生病院までのバスの本数を1日10本、8時~17時で運行して、行きやすくしてほしいです。(女性)

○図書館を新しくしてほしい。(女性)

○鳥江駅のトイレが古く、汚いので困っています。暗くて汚いので、学生が使用しやすいようにしてほしいです。(男性)

○田代神社の隣の公園のトイレが清潔ではないので定期的に清掃してほしい。(男性)

○コンビニを少し増やしてほしいです。(女性)

○もっとお店やチェーン店などの施設を充実させた方が人口も増えて、他の地域からの人たちが集まると思う。大型の商業施設。(女性)

6 移動・交通

○養老鉄道の電車の本数が少ないため、夜帰る時間が遅くなったりするととても不安です。また、街灯が少ないので、夜遅い時間に自転車で帰る時に危ないし、物騒だと思います。(女性)

○養老鉄道の本数（夕方）を増やしてほしい。(女性)

○オンデマンドバスを予約なしで利用できるようにしてほしい。(男性)

○バスなどの交通機関を充実できたらありがたいです。(女性)

7 情報提供

○支援をもっとわかりやすく伝えてほしい。若者がすべて機械に強いわけではない。(女性)

○若者である僕自身が子育て支援について知らないのも、もっとSNSを活用して発信したらよい。(男性)

8 アンケート

○このアンケートは町民目線になっているか。大学入学共通テストを控えた、12月上旬にこの用紙が届いた。受験生への配慮は。(男性)

○知的障がいのため、親が回答させていただきました。(男性)

9 その他

○昼間に選挙カーで活動しても、若者の目には止まらないと思うので、土日に活動したほうがよいと思う。また、公約とかを掲げたら、もうちょっと何をしたいかわかりやすいと思う。(男性)

○新しい町長になってから、名前がわからないので教えてください。(女性)

第 5 部

ま と め

1 就労している母親の増加

現在就労していない母親は減少を続け、就学前児童の母親では 14.8%、小学生の母親では 8.9%となっています（11、99 頁参照）。働きながら子育てをする母親の割合が高くなる中、就学前児童の平日の定期的な教育・保育事業を利用する割合は高くなっています（19 頁参照）。

サービス利用率の上昇と同時に出生数の減少を考慮し、必要なサービスの確保・見直しを行っていく必要があります。また、土曜日や日曜・祝日の利用希望も高くなっており、利用状況によっては教育・保育事業や留守家庭児童教室を利用できる機会を増やすことを考える必要があります。

2 育児休業

育児休業を取得した、または取得中である就学前児童の母親は 50.0%となっています（77 頁参照）。ただし、育児休業中に仕事を退職したり、実際の取得期間と希望の期間に差があるなど、課題はあります。また、就学前児童の父親の育児休業の取得率は 9.7%と上昇してはいるものの、女性と比べて依然低い水準にとどまっています。

職場の子育て支援は、休暇取得への配慮など理解が進んでいる状況はうかがえますが（68、143 頁参照）、一方で育児休業を取得していない理由として仕事の忙しさや職場の雰囲気などが多く寄せられています（78 頁参照）。育児休業の取得がどの会社や組織でも進められるよう、更なる啓発を行う必要があります。また、仕事への復帰ができるよう子育て支援の充実を図る必要があります。

3 子育て支援の評価

就学前児童保護者の子育て支援を感じたことがある割合は 59.7%と平成 30 年より高くなっています（67 頁参照）。子ども・子育て支援事業の満足度については、調査を行った 16 項目中、「保育園、こども園等の園庭等の開放」「移動児童館」「そよかぜ教室」「子育て支援いちご」「スイミング教室」の 5 項目の「(ほぼ) 満足」が過半数を占める一方、「教育相談センター・教育相談室」は平成 30 年と比べて「(ほぼ) 満足」が大きく低下し、「(やや) 不満」が上昇しています（55 頁～参照）。

小学生保護者の子育て支援を感じたことがある割合は 44.8%と平成 30 年から大きな変化はありません（141 頁参照）が、改善してほしいことや子育てしづらい理由として、学校設備の整備や登下校の安全管理に関する意見が多くあります。

4 留守家庭児童教室・放課後子ども教室

前回の調査の要望等により留守家庭児童教室の利用時は6年生までが対象となり、そのことを評価する意見がみられた一方で、改善点としては休日や長期休暇を含めた利用時間の拡大、学習時間の増加、利用料の見直しなどが寄せられています（89、129、134 頁参照）。今後も利用者のニーズに合わせて、留守家庭児童教室の制度の見直しや質の向上を図る必要があります。

地域の方々の協力のもとに、子どもたちと勉強やスポーツ・文化芸術活動、交流活動等を行う放課後子ども教室については、「わからない」との回答が高く（117 頁参照）、実施の可能性や留守家庭児童教室との関係について検討していく必要があります。

5 公園等の野外の遊び場

重点的に取り組んでほしい子ども施策として「遊び場の充実」が高くなっており（88、157 頁参照）、子育てしづらい理由としても「公園がない・少ない」という意見が数多く寄せられていました（65、138 頁参照）。公園の整備の可能性と併せて、放課後や休日の校庭、園庭の開放など、現在ある施設や活用できる施設も検討して子どもの野外の遊び場の確保に努める必要があります。

6 児童虐待の防止

子育てのストレスなどから、子どもに手をあげてしまう、あるいは手をあげそうになったことがあると回答した人は、就学前児童保護者は 62.1%、小学生保護者は 59.6%と平成 30 年よりは低下しているものの、依然半数以上を占めています（72、149 頁参照）。

また、母親の 31.6%が産後うつを感じていると回答しており、平成 30 年と比べて上昇しています（74 頁参照）。産後うつに関する知識の普及、予防・支援の拡充を進め、妊産婦や乳幼児に対して切れ目のない支援を提供する体制の充実を図る必要があります。

子どもへの虐待に関する痛ましい報告が後を絶たない状況の中、本町においても早期の気づきと対応ができるよう、相談体制の充実とともに、関係機関との連携、情報の共有などを行う必要があります。

7 経済的支援

経済的にみた現在の暮らしの状況を<苦しい>と考えている人は、就学前児童保護者で41.0%、小学生保護者で47.5%を占めており（84、152 頁参照）、重点的に取り組んでほしい子ども施策においても「経済的支援」「財政的支援」が高く（88、157 頁参照）、具体的な要望としては児童手当の増額や保育料、学費、教育費に関する支援について多く寄せられています（65、90、135、160 頁参照）。また、若者（17・18 歳）調査でも、子どもを持つことの負担となるものとして「金銭的な負担」が高くなっています（171 頁参照）。

近年の社会情勢の変化による物価高騰や働き方改革などの影響により、子育て世帯の経済状況の悪化が進んでいると考えられます。子育てには保育、教育、医療など多額の費用がかかるため、子どもの健全な育成ができるよう経済的支援の拡充を検討していく必要があります。

8 子ども会やPTA等の活動

子ども会やPTA等の役員の活動が大変であるという意見が多くあります（66、136、161、186、199 頁参照）。子ども会や地域の行事は伝統的なものもあり、担い手の育成として子どもが参加する機会を提供しています。ただし、共働きの家庭が多くなり、母親に対する負担が大きくなっていることに加え、少子化が進んだことにより同じ人が役員を複数回務めなければならなくなっていることが考えられます。

子ども会や地域の行事は子どもと親、地域の人とのふれあいの機会でもあります。行事や活動、役員数等の見直し、子育て家庭以外の協力のあり方等を検討し、伝統を守りつつ、負担の少ない運営ができるようにする必要があります。

9 広報・情報提供

就学前児童の保護者では、平成30年の調査では認知度が低かった「そよかぜ教室」「子育て応援ガイドブックのホームページ」は上昇し、ファミリー・サポート・センターの<知っている>も大幅に上昇しています。一方で、「家庭教育に関する学級・講座」「教育相談センター・教育相談室」などの認知度は40%以下と低く、また、項目名を変更した「スイミング教室」の認知度は大幅に低下しています（46、58 頁参照）。どれだけ子育て支援を行っても、サービスが必要な人に情報が届いていなければ利用されず、利用意向も正しく把握はできません。各種サービス等の情報提供に努める必要があります。

10 少子化対策

養老町が子育てしづらいと思う理由や重点的に取り組んでほしい子ども施策の具体的な内容として、少子化による子ども同士の交流の減少、保育園や学校等の統合に関する内容が多く寄せられています（64、89、135、159 頁参照）。また、若者（17・18 歳）調査では、将来子どもをく持ちたい>と考えている人が 63.3%を占めているものの、将来希望する居住地として「養老町」を選択している人は 14.6%にとどまっています（168、170 頁参照）。

子ども・子育て支援は、子どもの育ちと、家族の子育てを支援するものには違いありませんが、その根本には子どもを増やしたいというねらいがあります。出産・子育ては個人の自由な選択によるものであることは当然ですが、若者が住み続けたいと思えるまちづくりなど、中長期を含めた少子化施策について検討していく必要があります。

11 子育てのしやすいまち

「養老町は子育てのしやすいまちだと思いますか」という設問に対する回答は、子育てしやすい理由と比べて子育てしづらい理由が圧倒的に多く寄せられています（63、131 頁参照）。

しづらい理由としては、本町には病児・病後児保育がないこと、子どもが少なく同年代との交流や活動がないこと、公園等の遊び場や病院等の施設が少ない環境であること、子ども会等の地域の役員の負担が大きいことなどが多く寄せられています。

子育てに困った時に、企業、親族・知人、地域、ボランティア、子育て支援サービスなど、必要に応じて選ぶことができる重層的なサービス等を整備しつつ、自然が豊かであるという本町の特色を生かした子育てしやすい環境の整備が望まれています。

子ども・子育て支援等に関するニーズ調査報告書

令和6年3月

発行 養老町
編集 養老町 住民福祉部 子ども課
〒503-1392
岐阜県養老郡養老町高田 798 番地
TEL 0584-32-1100 (代表)
0584-32-5078 (直通)